丸亀市男女共同参画に関する
市民(若年層)アンケート調査結果報告書

令和2年 11 月

丸亀市

目　次

調査の概要

1　調査目的・・ 1
2　調査実施の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
3　調査方法・・ 1
4　留意点・・ 2

市民アンケート調査結果

1　あなた自身のことなどについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
F1．あなたの性別は・・ 3
F2．あなたの年代は・・ 3
F3．あなたは結婚（事実婚も含みます）していますか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
F4．あなたとあなたの配偶者の現在の職業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
F5．現在、あなたが同居しているご家族の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
F6．現在、あなたが同居している未成年者について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
F7．日常的に介護を必要とする方について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
2　男女平等について・・ 13
問1．あなたは次の分野で、男女は平等になっていると思いますか・・・・・・・・・・ 13
3　職業、職場環境について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
問2．一般的に女性が職業を持つことについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
問3．育児休業の取得について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
問4．育児休業を取得しなかった理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
問5．介護休業の取得について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
問6．介護休業を取得しなかった理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
問7．職場での性別による差について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
問8．新型コロナウイルス感染症における自粛活動の影響による働き方改革の進行状況・・ 60
問9．男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと・・・ 61
4　家庭生活、地域活動と、仕事とのかかわりについて・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
問 10．「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について・・ 63
問 11．家庭での家事などの役割分担について【コロナ影響前】・・・・・・・・・・・ 65
問 11．家庭での家事などの役割分担について【コロナ影響後】・・・・・・・・・・・ 72

問 11. 家庭での家事などの役割分担について【理想】・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
問 11. 家庭での家事などの役割分担について【理想と現実】・・・・・・・・・・・・ 86
問 12. 新型コロナウイルス感染症対策における自粛活動等の影響前後の生活の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 98
問 13. 地域活動や社会活動について参加しているもの・・・・・・・・・・・・・・・・・ 99
問 14. 地域活動や社会活動に参加していない理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 100
問 15. 防災活動に関して、男女共同参画を推進していくために必要なことについて・・・ 101
5 ドメスティック・バイオレンス(DV)について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 102
問 16. DVを経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか・・・・・・・・・・ 102
問 17. DVを経験、見聞き、相談を受けた時期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104
問 18. DVを受けたことをだれかに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか・ 105
問 19. DVを受けたことを相談しなかったのはなぜですか・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108
問 20. DVの被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、知っているもの・・ 111
6 男女共同参画社会づくりについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 112
問 21. 男女共同参画に関する項目についての認知度・・・・・・・・・・・・・・・・ 112
問 22. 男女共同参画社会を実現していくために、丸亀市が力を入れていくべきこと・・ 126
問 23. 男女共同参画社会づくりについてのご意見等(抜粋)・・・・・・・・・・・・ 128

調査の概要

1 調査目的

このアンケート調査は、次期男女共同参画プランの策定及び今後の施策の実施に向け、市民の意識やニーズ等を把握し、計画づくりの基礎資料とするため実施しました。

次期プラン策定のため、あらゆる世代の現状を把握する必要があります。前回アンケート（平成27 年度）の回答者年齢別割合を見てみると 20 歳代が他の年代の半数以下という結果であったため、今回の市民アンケートでは、若年層（18～29 歳）から別途無作為抽出のうえ、250 人に市民アンケートの依頼をすることとしました。ここでの分析は、3,000 人抽出のうちの 18 歳から 29 歳までの回答と合算し、他の年代との比較を行っています。

2 調査実施の概要

対象者

① 市民アンケートにおいて無作為抽出した 3000 人のうち、18 歳から 29 歳までの方 458 人

② 市民アンケート対象者以外から無作為抽出した、市内に在住する 18 歳以上 29 歳未満の男女 250 人

Ⅱ 実施期間

令和２年８月 12 日～令和２年９月４日

Ⅲ 回収結果

対象者	配布数	回収数	回収率
①	458件	69件	15.1%
②	250件	45件	18.0%
①+②	708件	114件	16.1%

3 調査方法

調査票を郵送により配布後、回答用紙を返信用封筒にて回収。

４ 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下のとおりとなっています。

１．グラフは原則として回答者の比率（百分率）で表現しています。

２．「n」は「number」の略で、比率算出の母数を示しています。

３．百分率による集計では、回答者数を 100.0％として算出し、本文及び図表の数字に関しては、すべて小数点第２位以下を四捨五入し、小数点第１位までを表記します。このため、百分率の合計が 100.0％とならない場合があります。

４．複数回答の場合、百分率の合計が 100.0％を超える場合があります。

５．単数回答の場合も「無回答」を除いているため、100.0％とならない場合があります。

６．参考として、一部の質問において市民調査（全体）との比較を行いました。

調査の概要は次のとおりとなります。

①今回調査（市民アンケート）

「丸亀市男女共同参画に関する市民アンケート調査」〔令和２年８月実施〕

・調 査 対 象：市内在住の 18 歳以上の男女 3,000 人

・抽 出 方 法：無作為抽出による

・調 査 方 法：郵送配布・郵送回収

・有 効 回 収 数：986 件　　有効回収率：32.9％

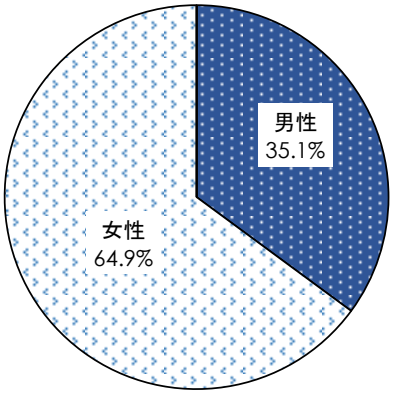
市民（若年層）アンケート調査結果

1 あなた自身のことなどについて

F1. あなたの性別は。（○は1つ）

回答者の性別をみると、「男性」35.1%、「女性」64.9%と「女性」の割合が高くなっています。

【 回答者の性別について 】

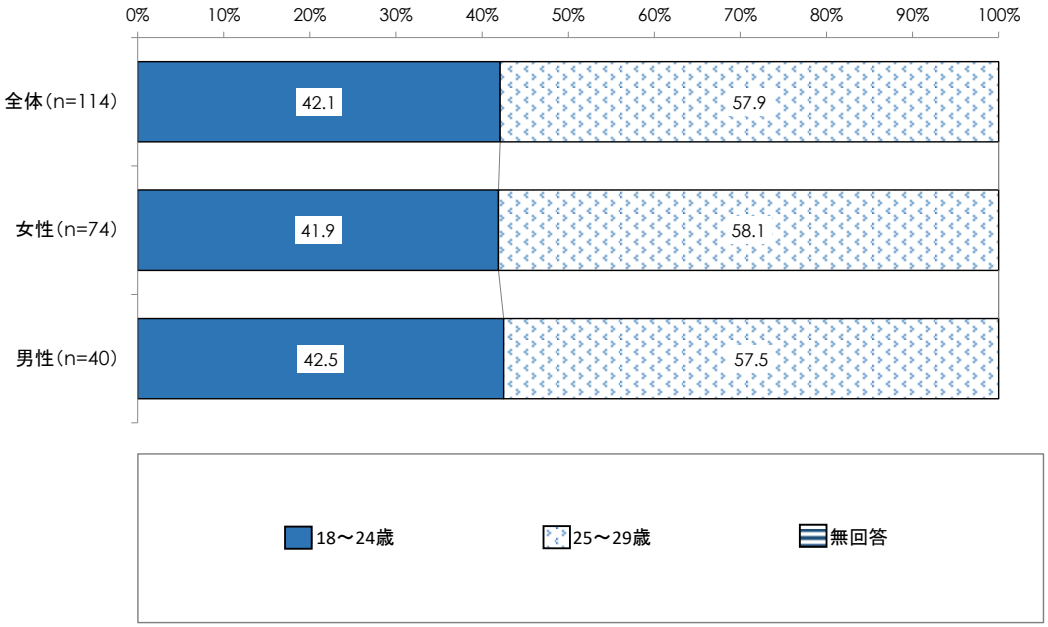


全体（n=114）

F2. あなたの年代は。（記入日の時点で。○は1つ）

回答者の年代をみると、「18～24 歳」42.1%、「25～29 歳」57.9%となっています。
性別にみると、あまり大きな差は見られませんでした。

【 性別にみた回答者の年代について 】

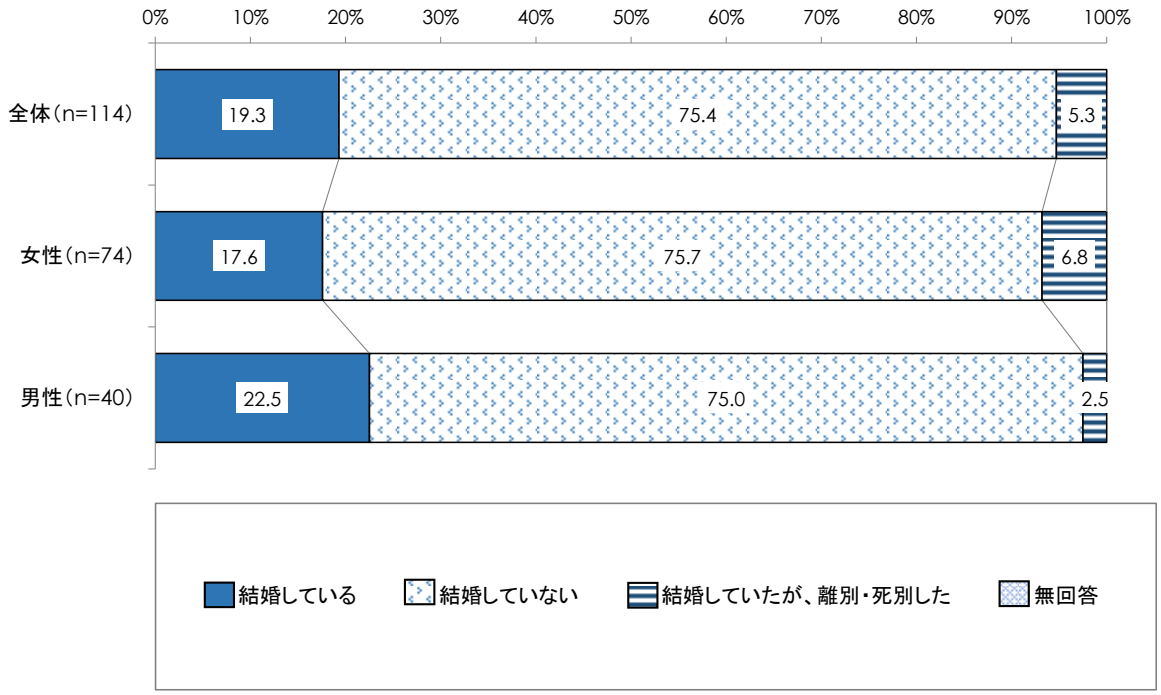


F3. あなたは、結婚(事実婚も含みます)していますか。(○は1つ)

結婚（事実婚を含みます）の状況をみると、「結婚している」19.3%、「結婚していない」75.4%、「結婚していたが、離別・死別した」5.3%となっています。

性別にみると、男性では「結婚している」の割合が２割を超えています。

【 性別にみた結婚の状況について 】



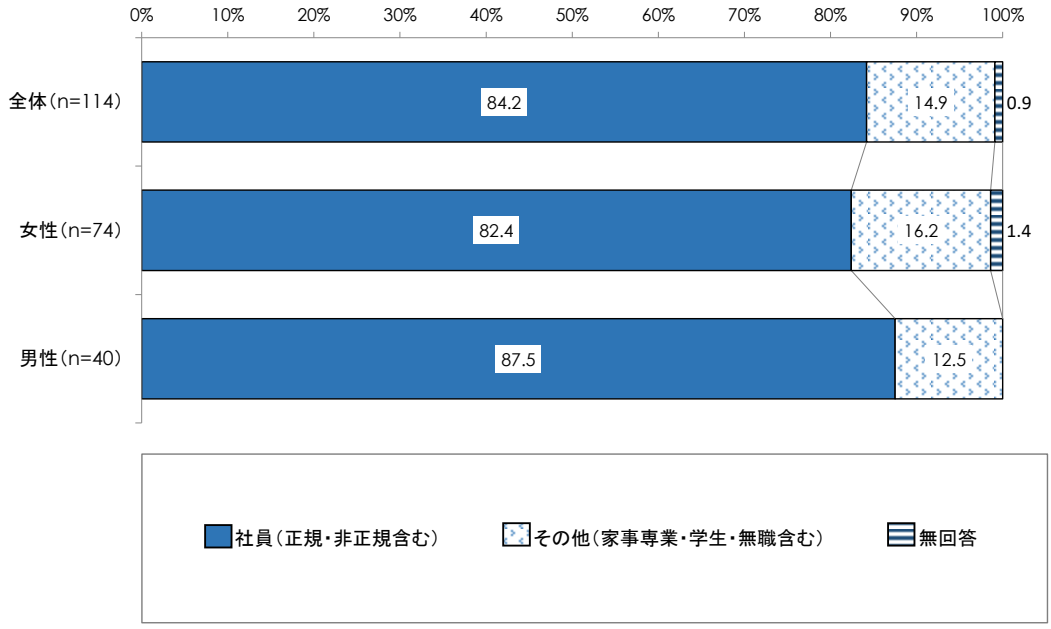
F4. あなたとあなたの配偶者（事実婚のパートナーも含みます）の現在の職業は、次のうちどれですか。配偶者がいない方は、ご自身の欄だけご記入ください。（○はそれぞれ1つずつ）

自身の現在の職業をみると、「社員（正規・非正規含む）」84.2%、「その他（家事専業・学生・無職含む）」14.9%となっています。

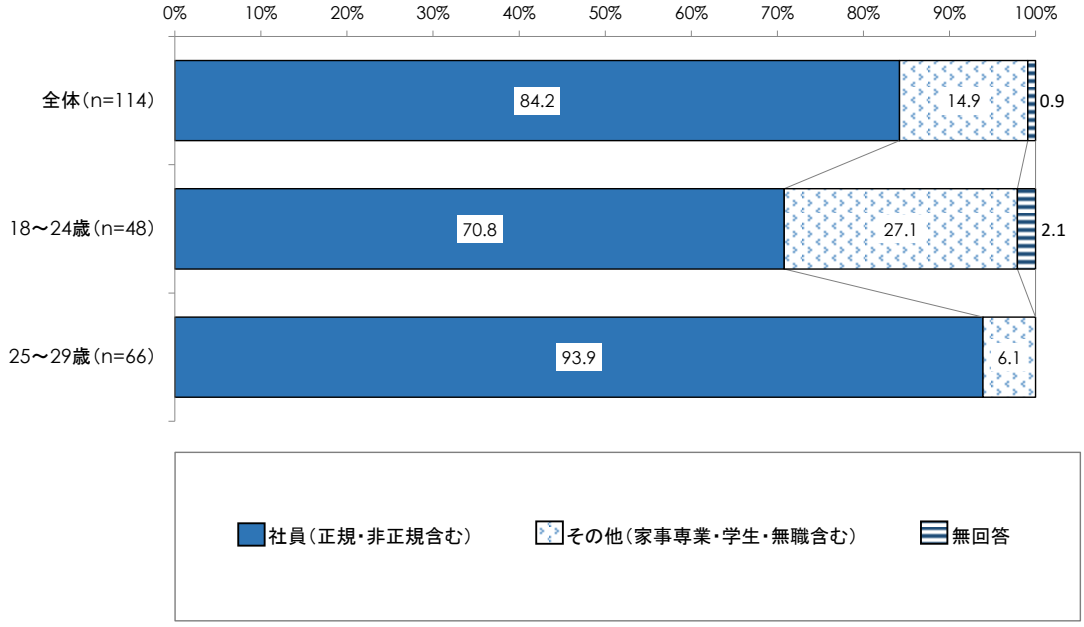
性別にみると、男女ともに「社員（正規・非正規含む）」の割合が高くなっています。

年代別にみると、いずれも「社員（正規・非正規含む）」の割合が高くなっていますが、18～24歳では「その他（家事専業・学生・無職含む）」が２割を超えています。

【 性別にみた自身の現在の職業について 】



【 年代別にみた自身の現在の職業について】

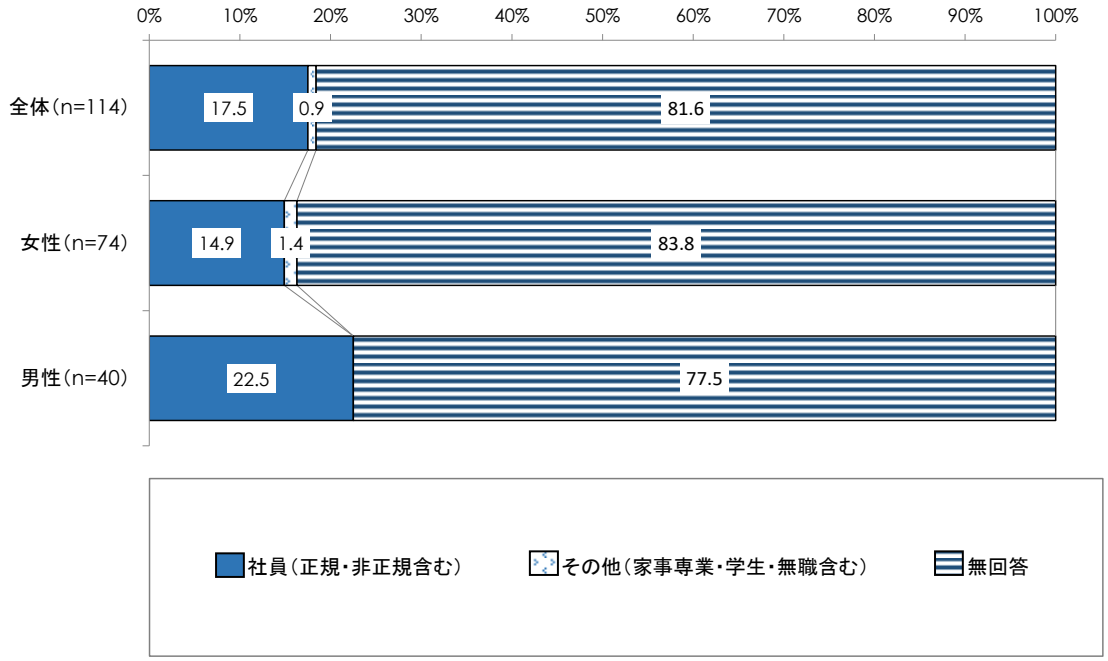


配偶者の現在の職業をみると、「社員（正規・非正規含む）」17.5%、「その他（家事専業・学生・無職含む）」0.9%となっています。

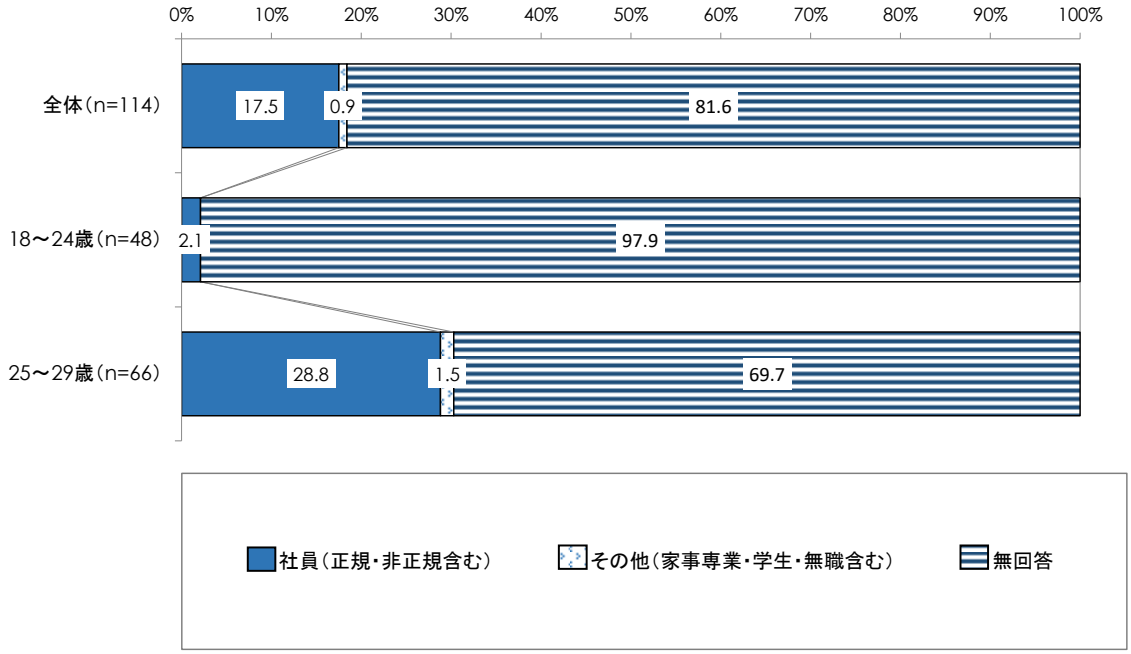
性別にみると、男女ともに「社員（正規・非正規含む）」の割合が高くなっています。

年代別にみると、25～29 歳では「社員（正規・非正規含む）」の割合が２割を超えています。

【 性別にみた配偶者の現在の職業について 】



【 年代別にみた配偶者の現在の職業について 】



F5. 現在、あなたが同居しているご家族の構成は、次のうちのどれですか。（○は1つ）

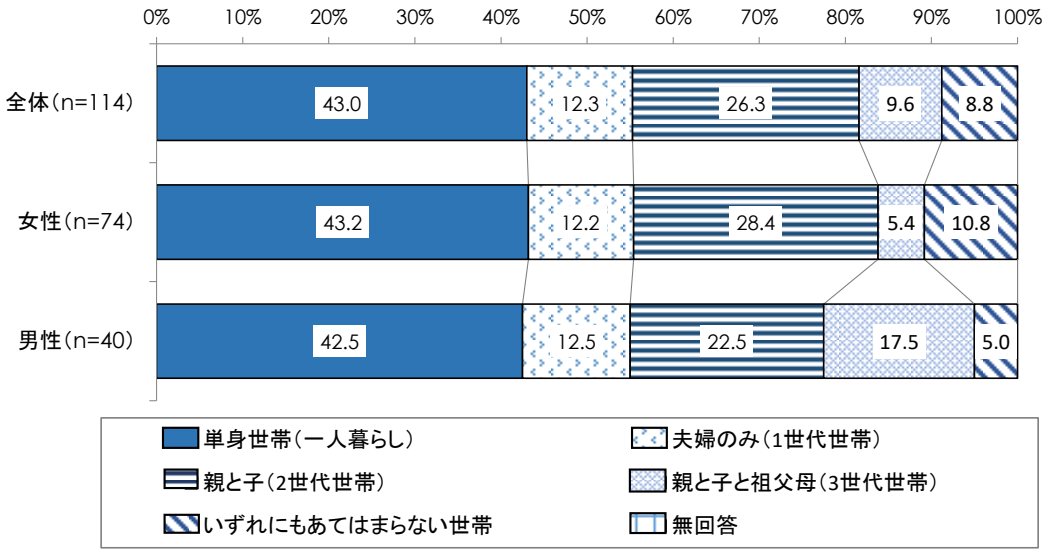
現在、同居している家族の構成をみると、「単身世帯（一人暮らし）」43.0%の割合が最も高く、次いで「親と子（２世代世帯）」26.3%、「夫婦のみ（１世代世帯）」12.3%の順となっています。

性別にみると、男女ともに概ね同様の傾向となっていますが、男性では「親と子と祖父母（３世代世帯）」が１割を超えています。

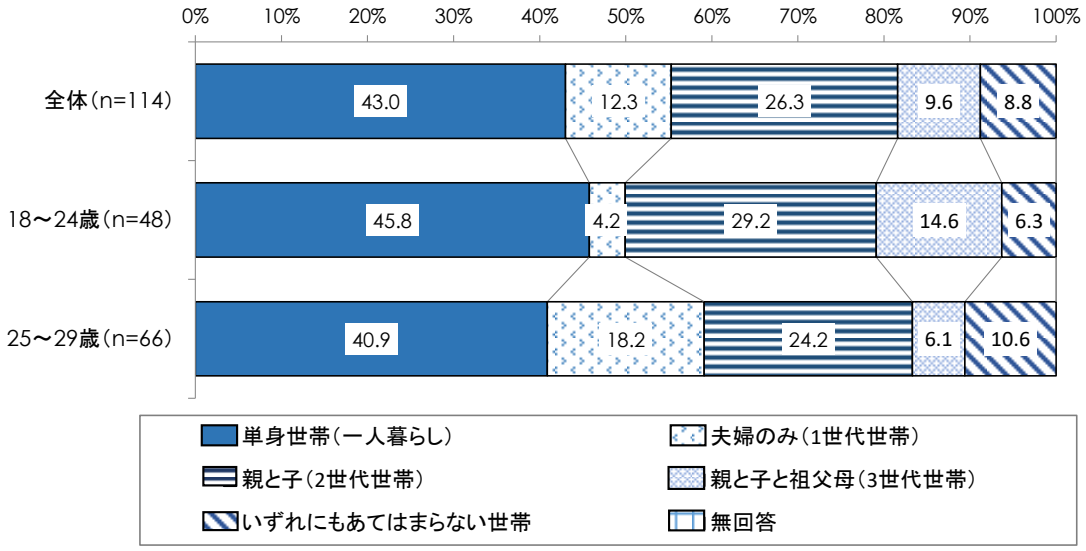
年代別にみると、18～24 歳では「親と子と祖父母（３世代世帯）」、25～29 歳では「夫婦のみ（１世代世帯）」の割合が１割を超えています。

市民調査と比較すると、あまり大きな差は見られませんでした。

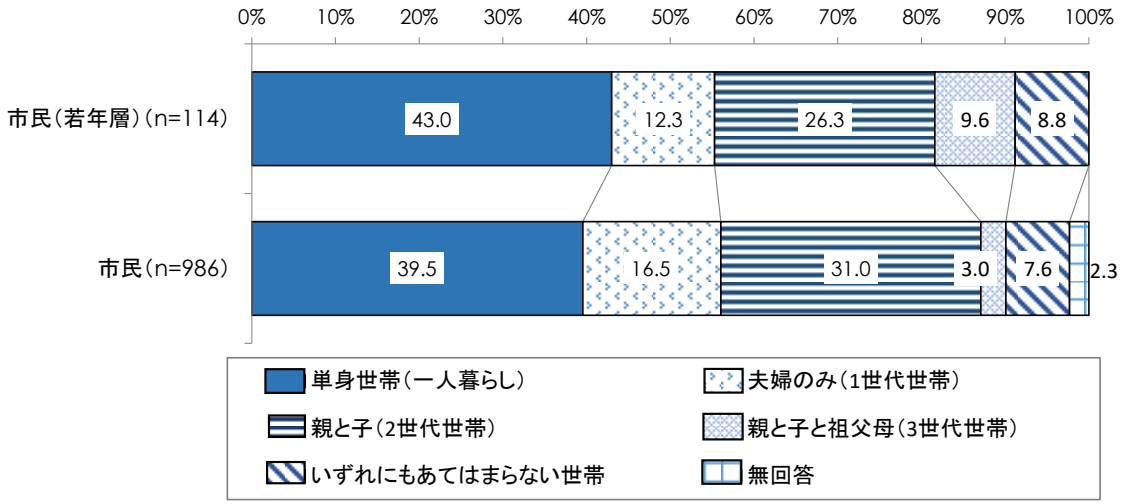
【 性別にみた同居している家族の構成について 】



【 年代別にみた同居している家族の構成について 】



【 市民調査と比較した同居している家族の構成について 】



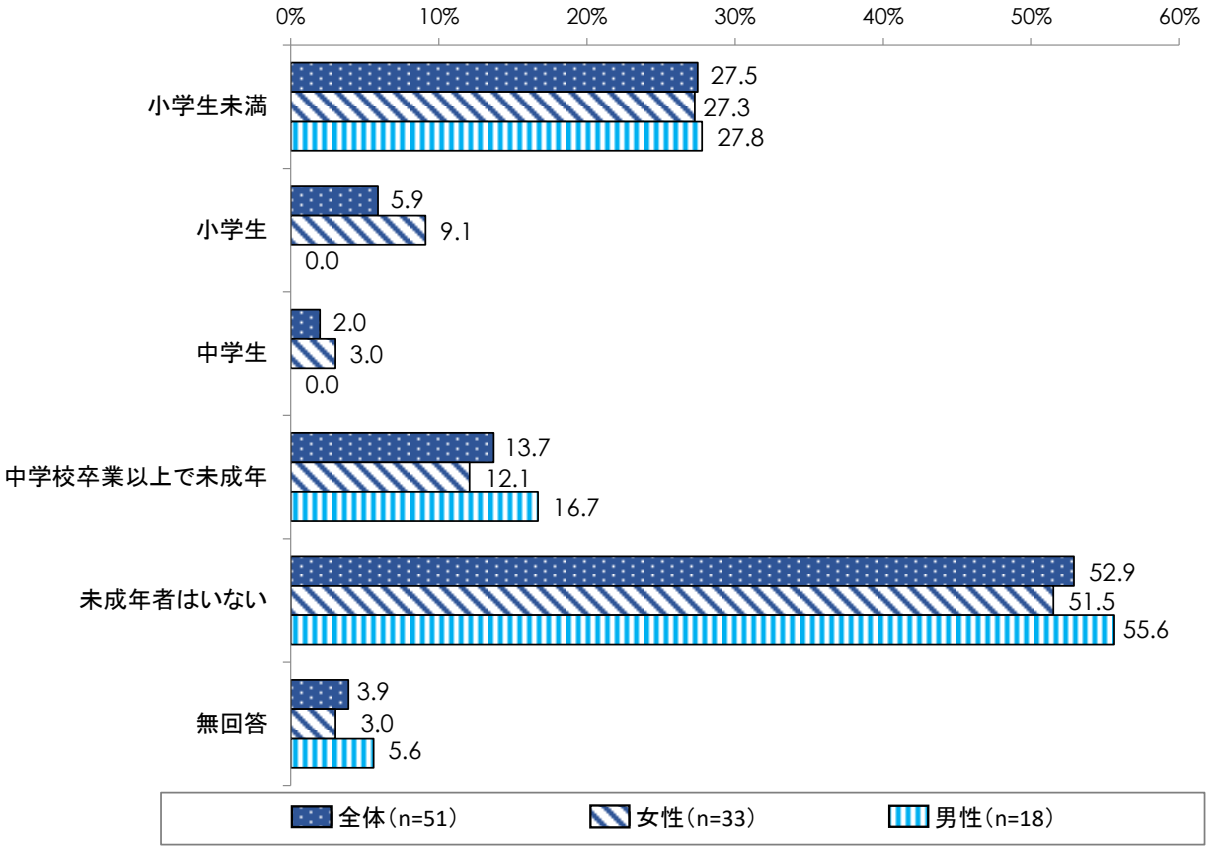
F6. 現在、あなたが同居しているご家族に、次にあてはまる方はいますか。（○はあてはまるものすべて）

現在、同居している未成年の家族についてみると、「未成年者はいない」52.9%が最も割合が高く、次いで「小学生未満」27.5%、「中学校卒業以上で未成年」13.7%の順となっています。

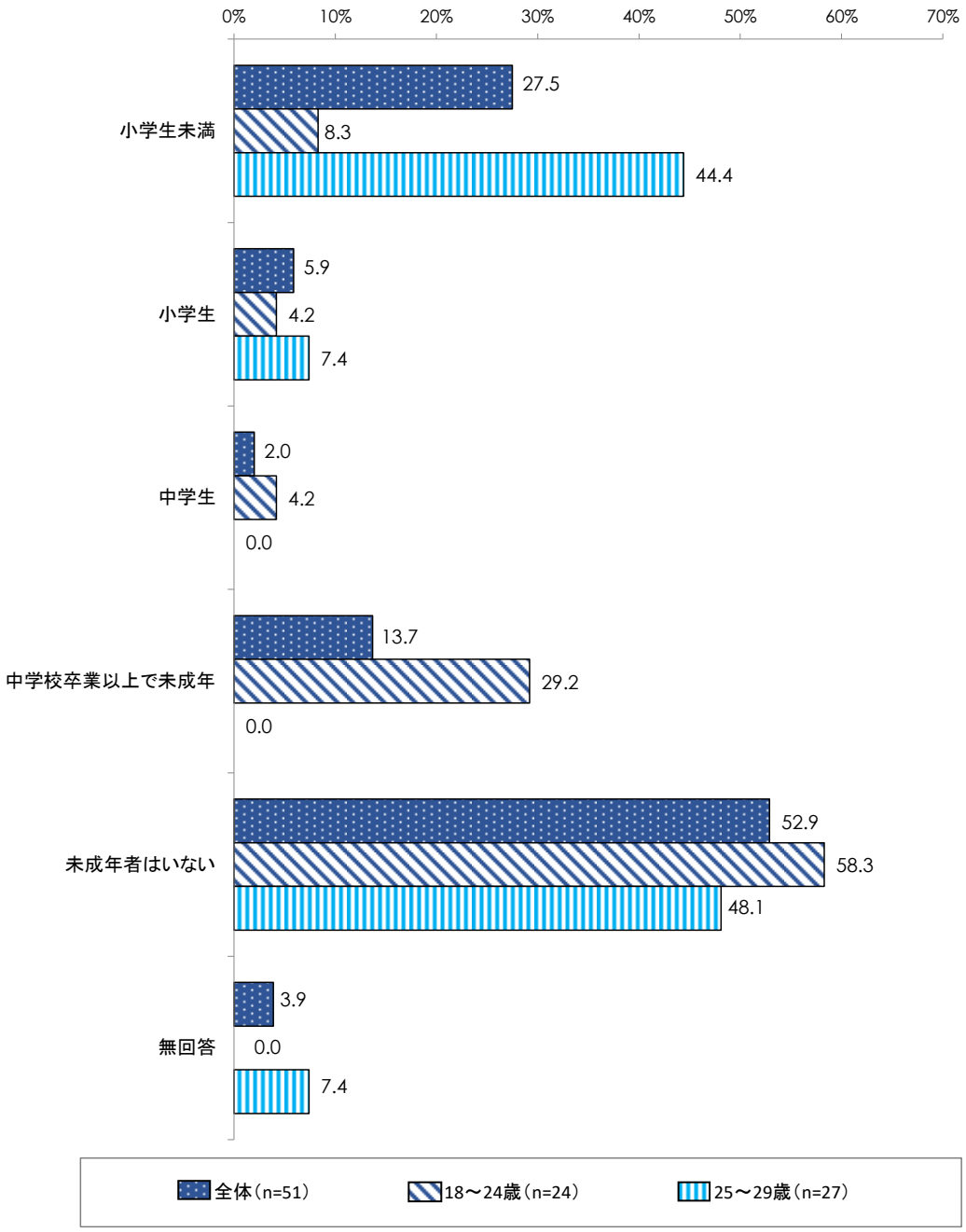
性別にみると、男女ともに「未成年者はいない」の割合が最も高く、次いで「小学生未満」、「中学校卒業以上で未成年」の順となっています。

年代別にみると、いずれも「未成年者はいない」が最も高く、次いで18～24歳では「中学校卒業以上で未成年」、25～29歳では「小学生未満」が続いています。

【 性別にみた同居している家族の未成年者について 】



【 年代別にみた同居している家族の未成年者について 】



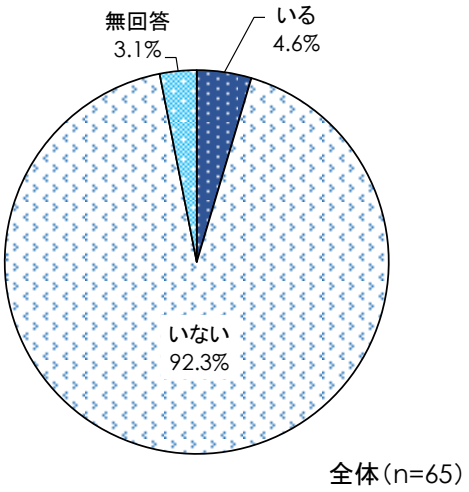
F7. 現在、あなたが同居しているご家族に、日常的に介護を必要とする方はいますか。（○は1つ）

現在、同居している家族に、日常的に介護を必要とする方の有無についてみると、「いない」92.3%、「いる」4.6%となっています。

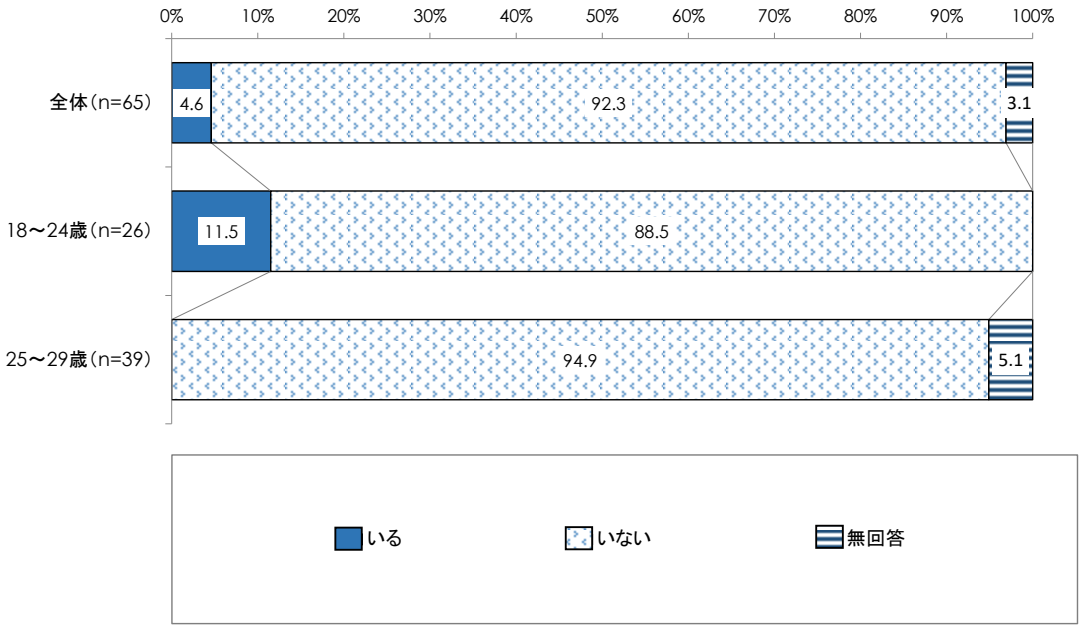
年代別にみると、18～24歳では「いる」が11.5%となっています。

世帯別にみると、「親と子と祖父母」では「いる」の割合が２割を超えています。

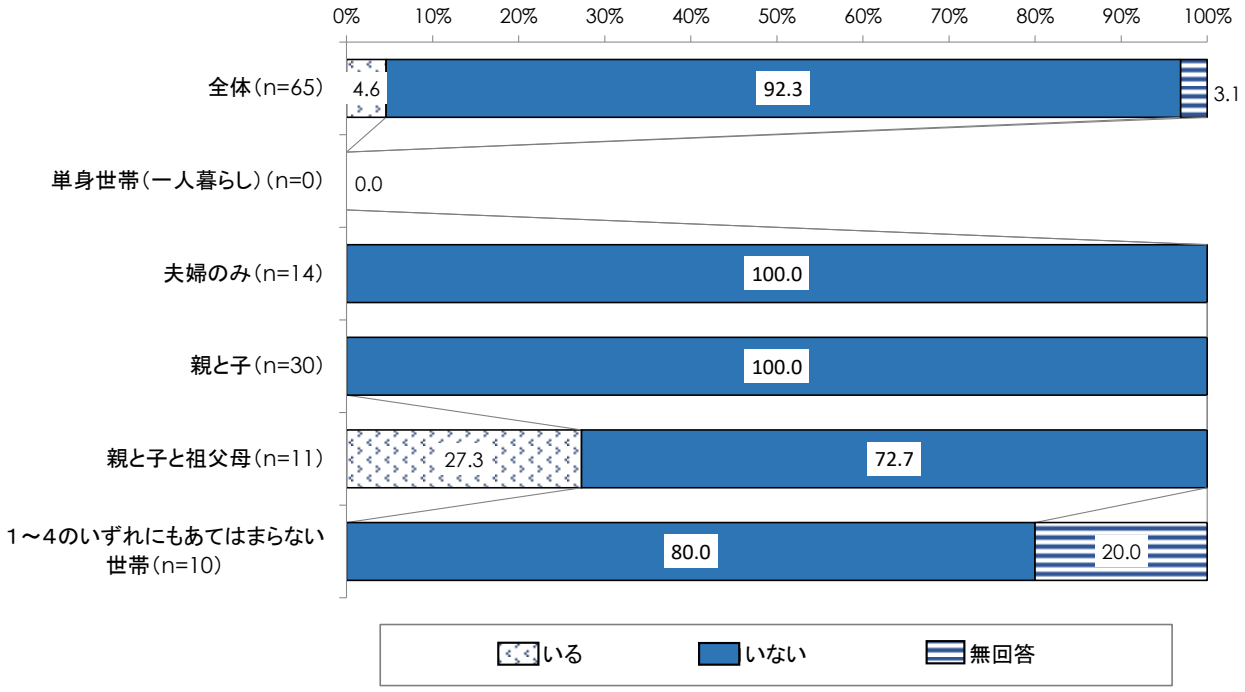
【 性別にみた同居している家族の介護者について 】



【 年代別にみた同居している家族の介護者について 】



【 世帯別にみた同居している家族の介護者について 】



2 男女平等について

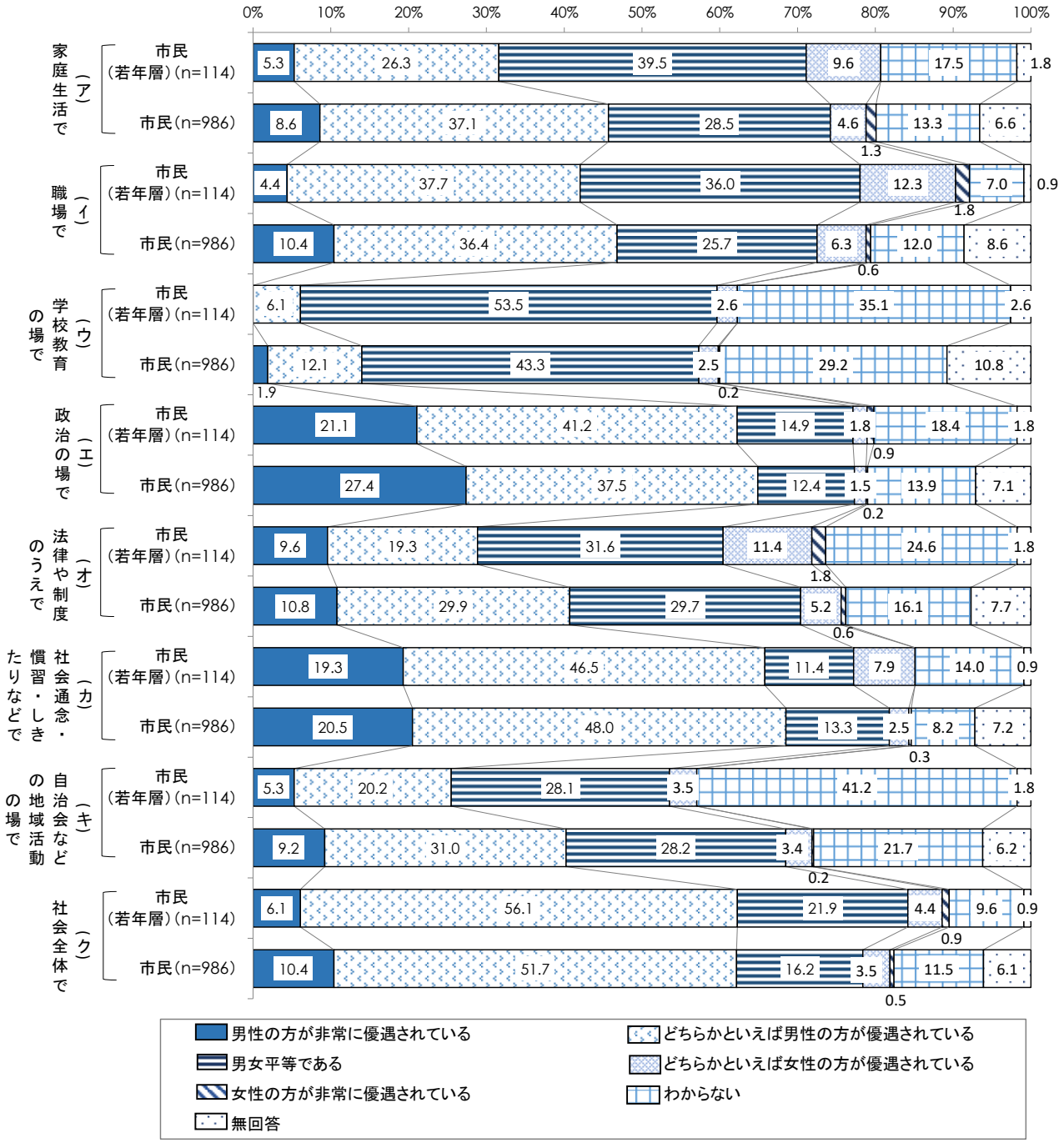
問 1. あなたは、次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。（ア）から（ク）までの項目についてお答えください。（○は各項目1つずつ）

【全体】

男女平等についてみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』では「（カ）社会通念・慣習・しきたりなどで」65.8%の割合が最も高く、次いで「（エ）政治の場で」62.3%、「（ク）社会全体で」62.2%の順となっています。また「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合わせた『女性優遇』では「（イ）職場で」14.1%、「（オ）法律や制度のうえで」13.2%が他の項目に比べて高くなっています。

市民調査と比較すると、いずれも『男性優遇』の割合が『女性優遇』の割合に比べて高くなっています。

【 市民調査と比較した各項目の男女平等について 】



ア　家庭生活で

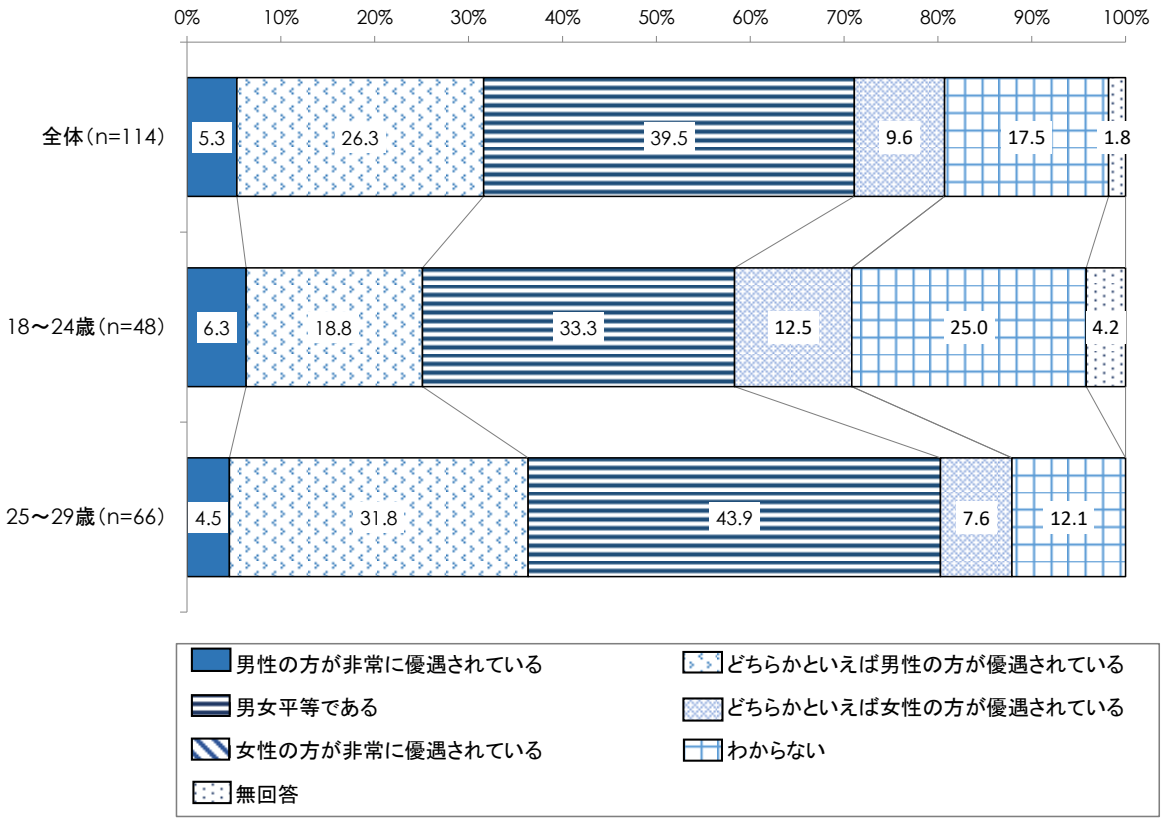
家庭生活での男女平等についてみると、「男女平等である」39.5%の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」26.3%、「わからない」17.5%の順となっています。

年代別にみると、『男性優遇』は18～24歳では25.1%、25～29歳では36.3%となっており、『女性優遇』はいずれも１割程度となっています。

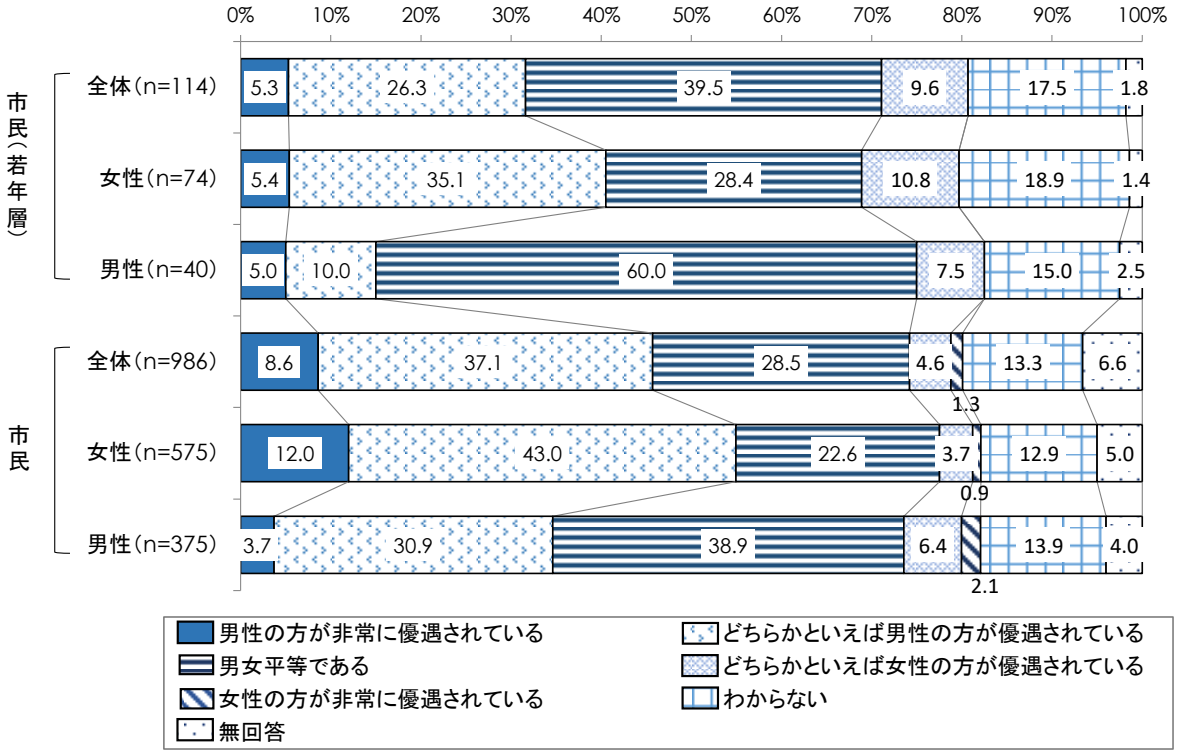
市民調査・性別にみると、若年層の男性では「男女平等である」が60.0%となっており、市民の男性38.9%より21.1ポイント高くなっています。また、いずれも『男性優遇』の割合が『女性優遇』の割合に比べて高くなっています。

自身の職業別・性別にみると、いずれも『男性優遇』の割合が『女性優遇』の割合に比べて高くなっていますが、社員（正規・非正規含む）の男性では「男女平等である」が最も高くなっています。

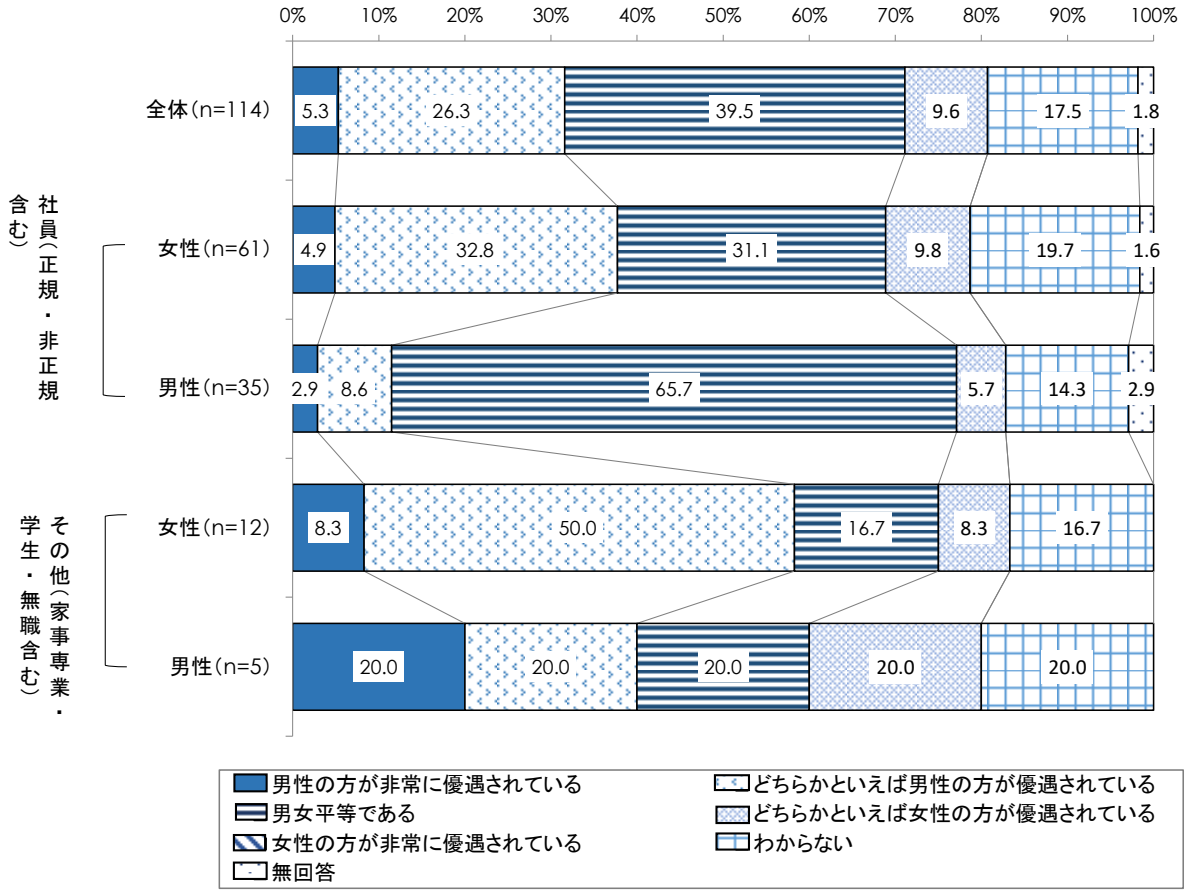
【 年代別にみた男女平等について（ア 家庭生活で）】



【 市民調査比較・性別にみた男女平等について（ア 家庭生活で）】

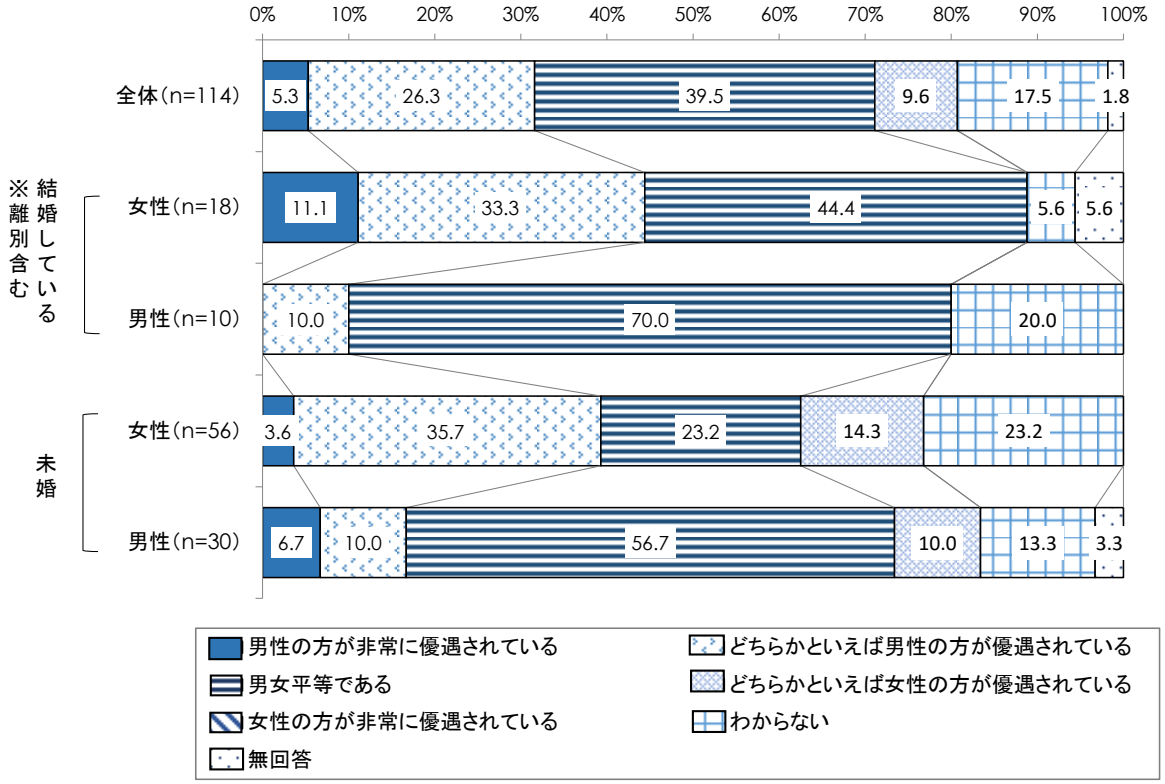


【 自身の職業別・性別にみた男女平等について（ア 家庭生活で）】



婚姻状況・性別にみると、未婚の男女に比べて結婚している（離別含む）男女の方が「男女平等である」と考えている割合が高くなっています。

【 婚姻状況・性別にみた男女平等について（ア 家庭生活で）】



※婚姻状況はＦ３の「１.結婚している」と「３.結婚していたが、離別・死別した」を合わせて『結婚している（離別含む）』、「２.結婚していない」を『未婚』としています。

イ 職場で

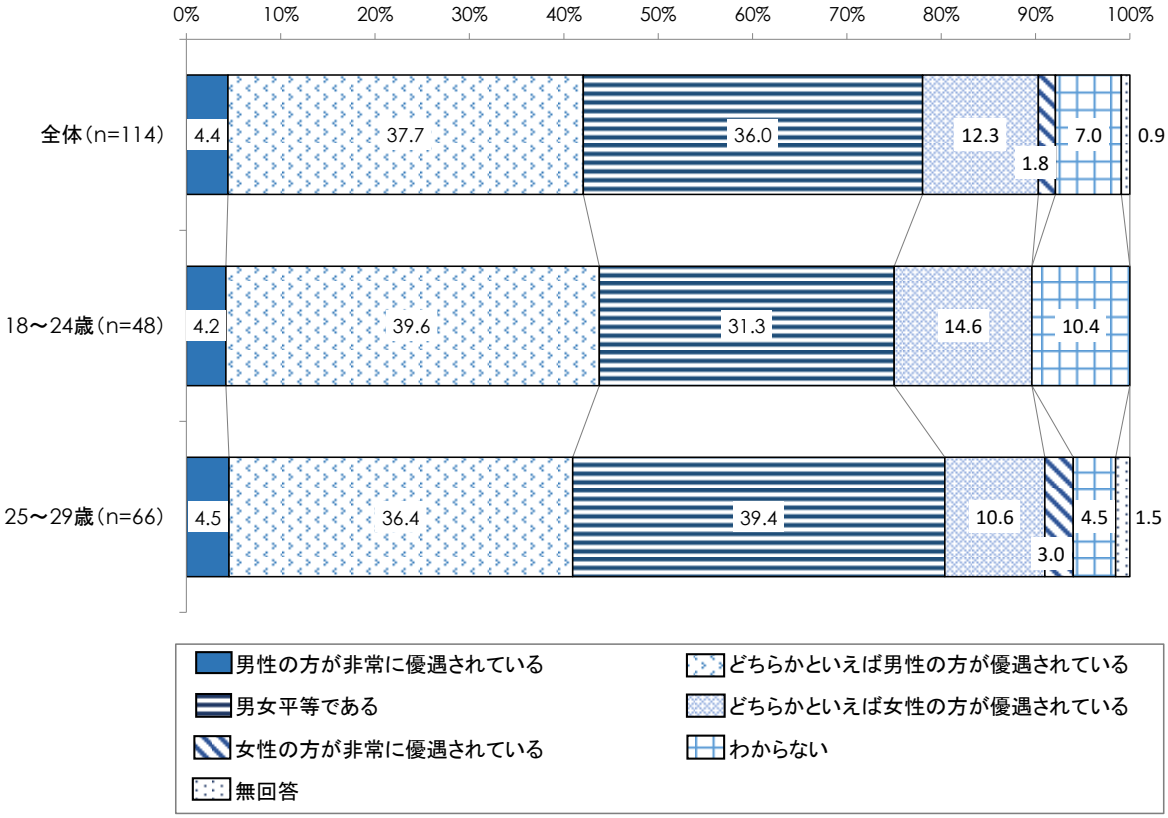
職場での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」37.7%の割合が最も高く、次いで「男女平等である」36.0%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」12.3%の順となっています。

年代別にみると、いずれも概ね同様の傾向となっていますが、25～29 歳では「女性の方が非常に優遇されている」が 3.0%となっています。

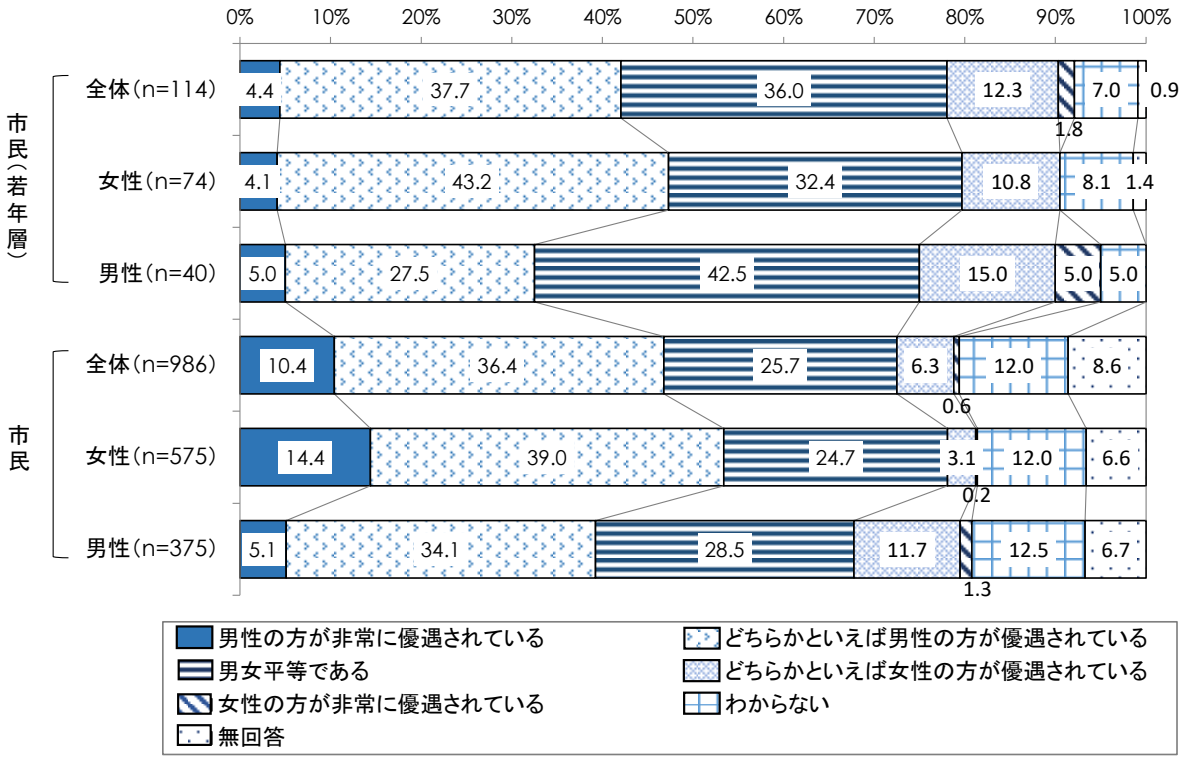
市民調査・性別にみると、若年層の男性では「男女平等である」が 42.5%となっており、市民の男性 28.5%より 14.0 ポイント高くなっています。また、いずれも『男性優遇』の割合が『女性優遇』の割合に比べて高くなっています。

自身の職業別・性別にみると、いずれも『男性優遇』の割合が高くなっていますが、社員（正規・非正規含む）の男女では『女性優遇』の割合もその他（家事専業・学生・無職含む）の男女に比べて高くなっています。

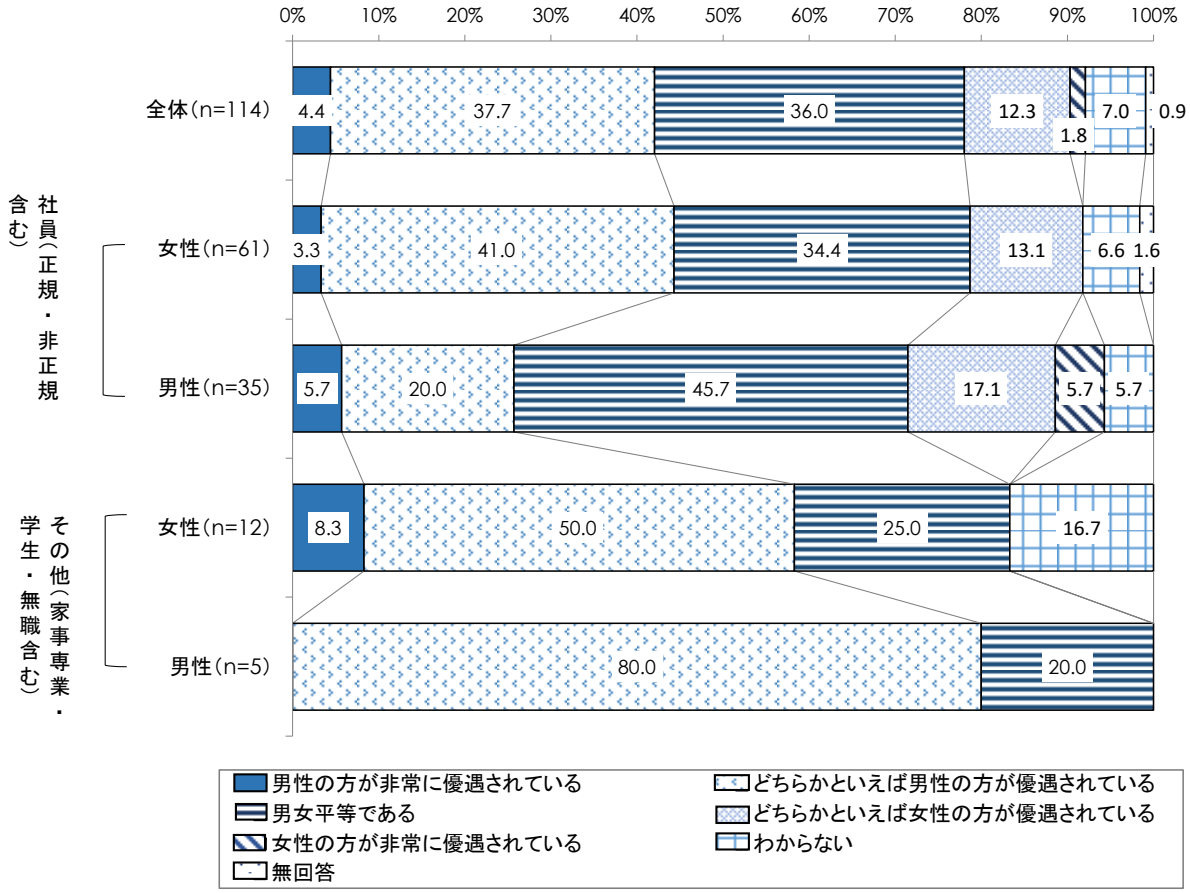
【 年代別にみた男女平等について（イ 職場で）】



【 市民調査比較・性別にみた男女平等について（イ 職場で）】

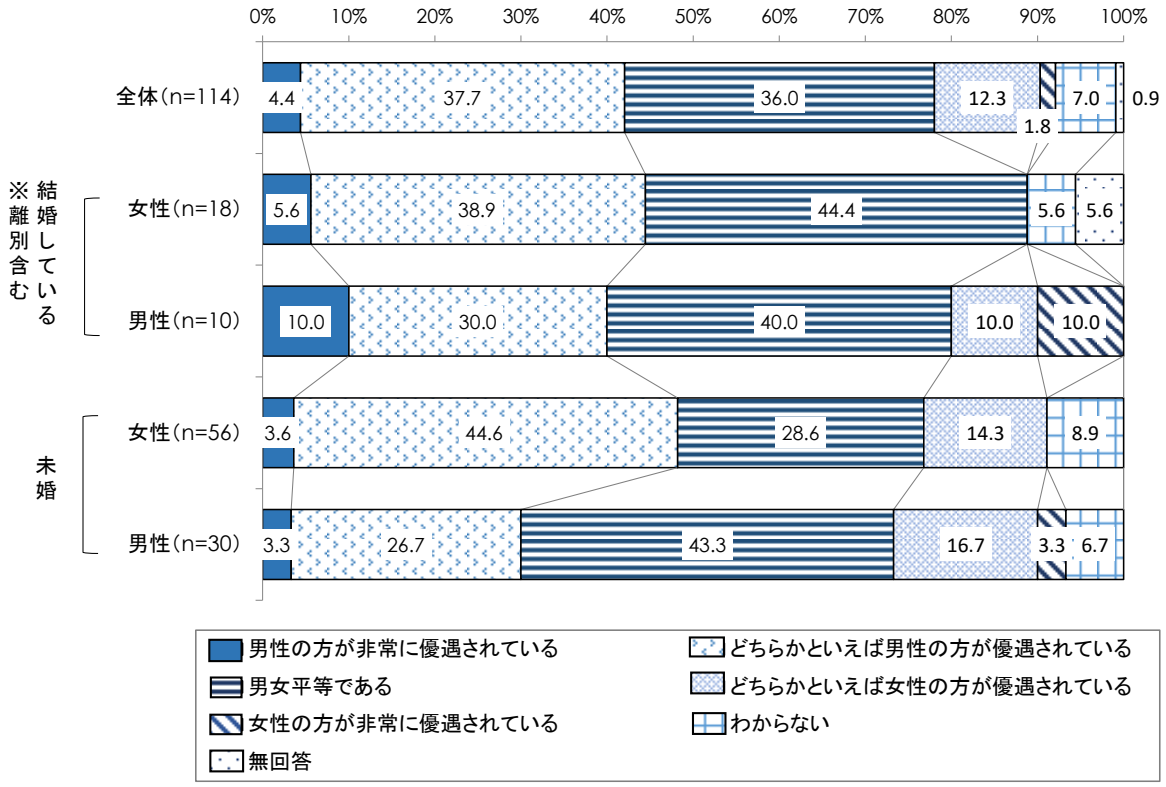


【 自身の職業別・性別にみた男女平等について（イ 職場で）】



婚姻状況・性別にみると、未婚の女性に比べて結婚している（離別含む）女性の方が「男女平等である」と考えている割合が高くなっています。

【 婚姻状況・性別にみた男女平等について（イ 職場で）】



ウ 学校教育の場で

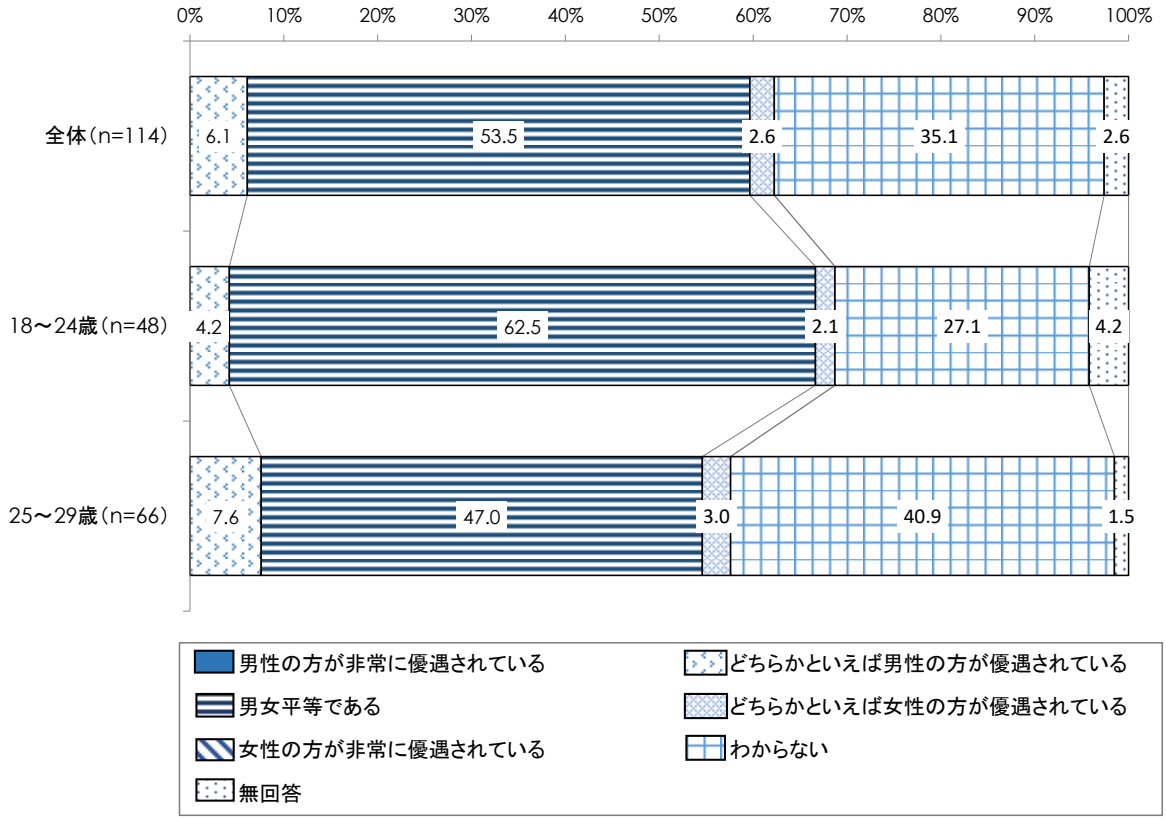
学校教育の場での男女平等についてみると、「男女平等である」53.5%の割合が最も高く、次いで「わからない」35.1%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」6.1%の順となっています。

年代別にみると、いずれも「男女平等である」の割合が高くなっています。

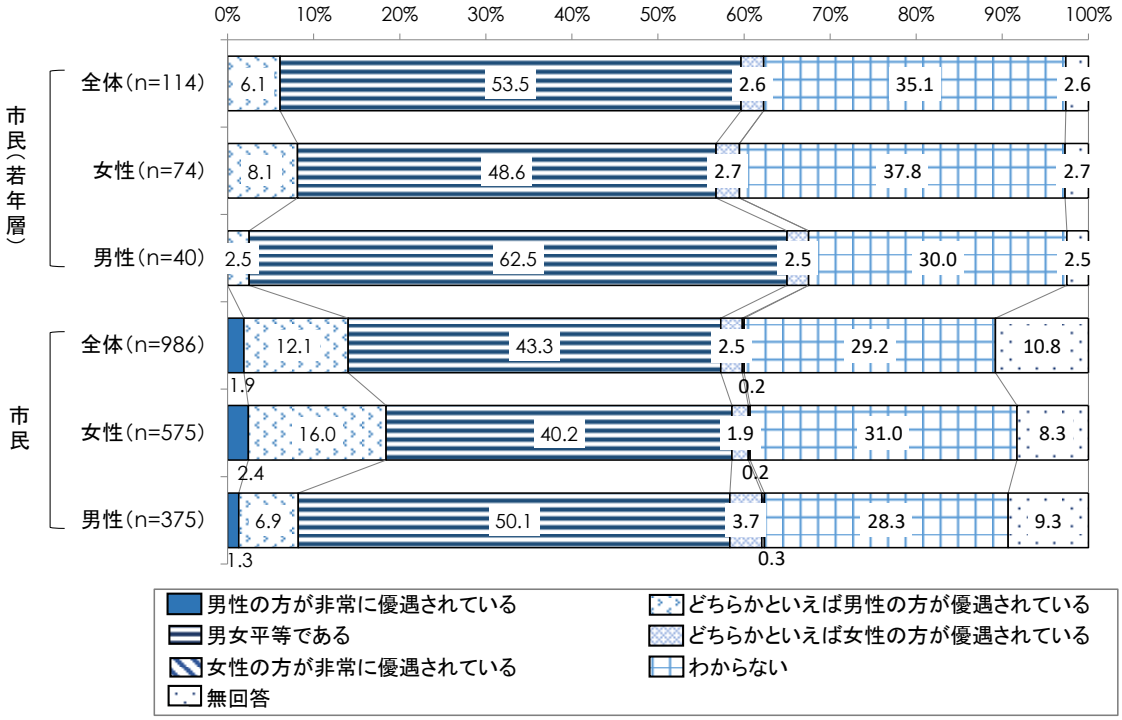
市民調査・性別にみると、いずれも「男女平等である」の割合が最も高くなっています。

自身の職業別・性別にみると、いずれも「男女平等である」の割合が最も高くなっていますが、その他（家事専業・学生・無職含む）の男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が２割を占めています。

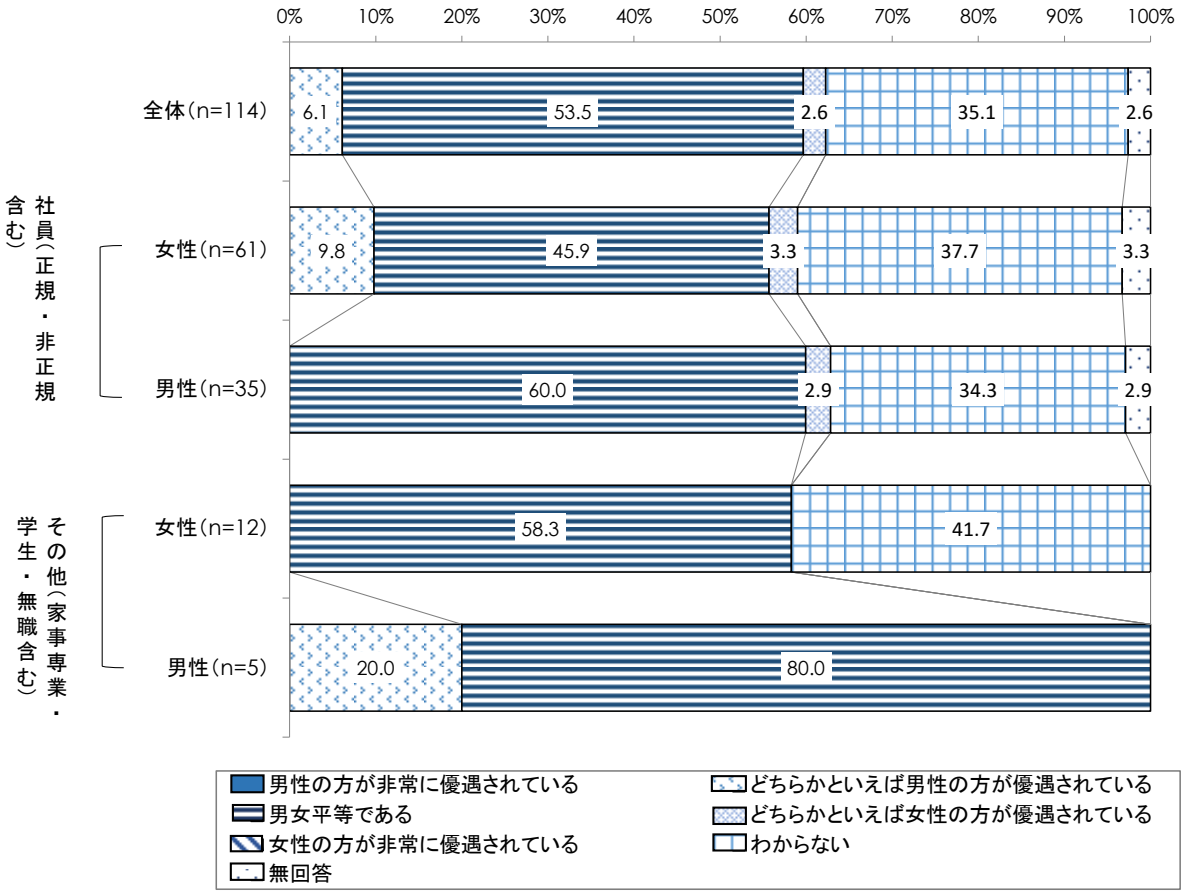
【 年代別にみた男女平等について（ウ 学校教育の場で）】



【 市民調査比較・性別にみた男女平等について（ウ 学校教育の場で）】

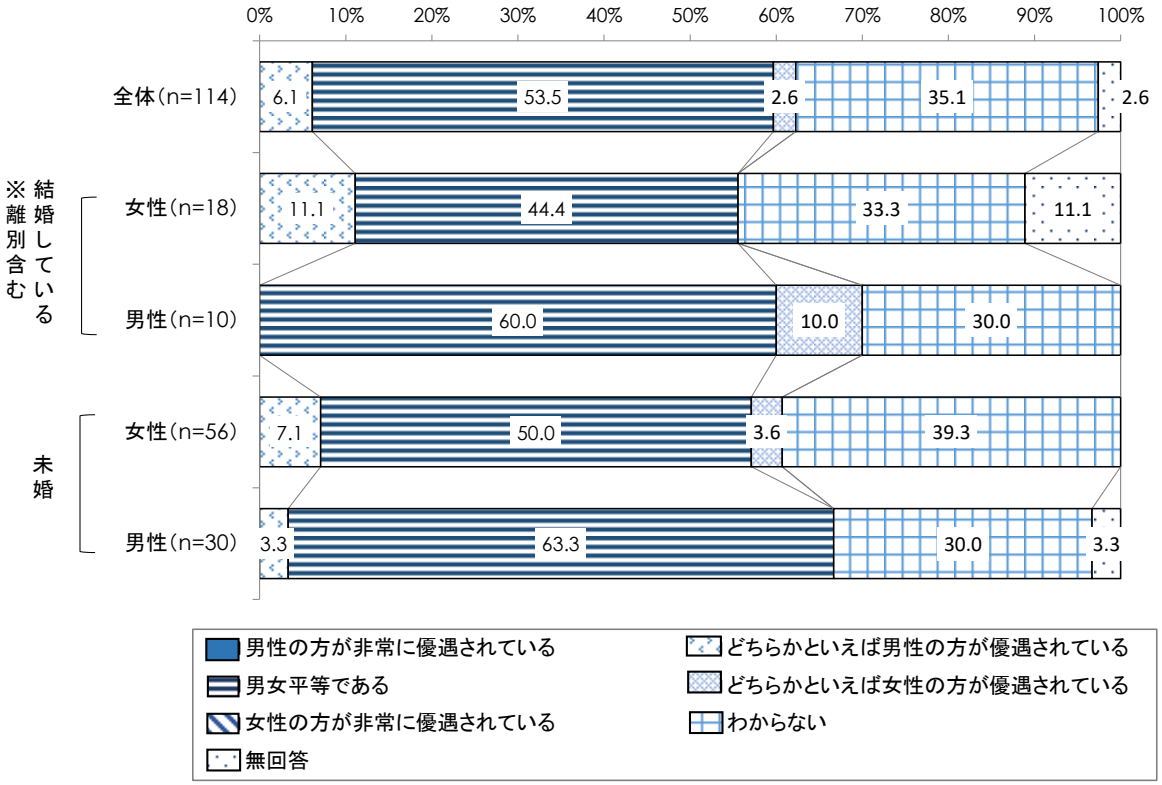


【自身の職業別・性別にみた男女平等について（ウ 学校教育の場で）】



婚姻状況・性別にみると、未婚の男性に比べて結婚している（離別含む）男性の方が「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と考えている割合が高くなっています。

【 婚姻状況・性別にみた男女平等について（ウ 学校教育の場で）】



エ　政治の場で

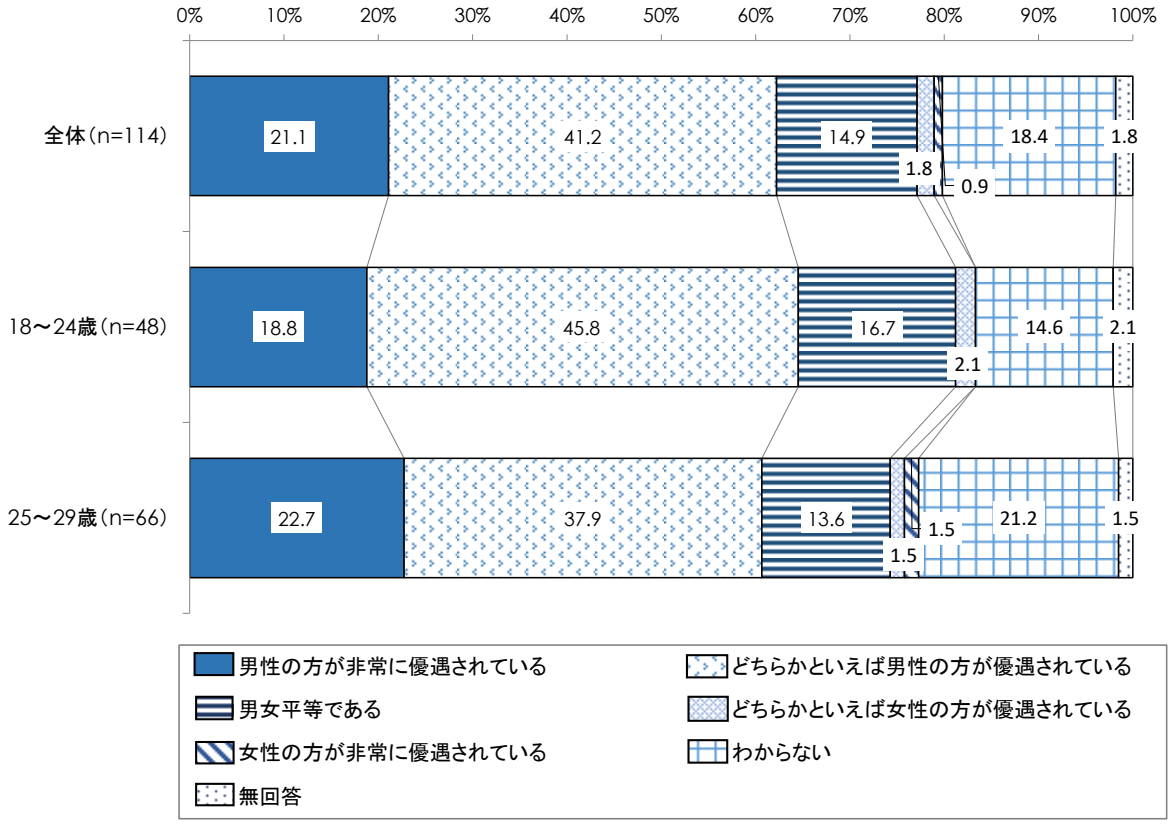
政治の場での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」41.2%が最も割合が高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」21.1%、「わからない」18.4%の順となっています。

『男性優遇』は18～24歳では64.6%、25～29歳では60.6%となっており、『女性優遇』はいずれも１割にも満たない結果となっています。

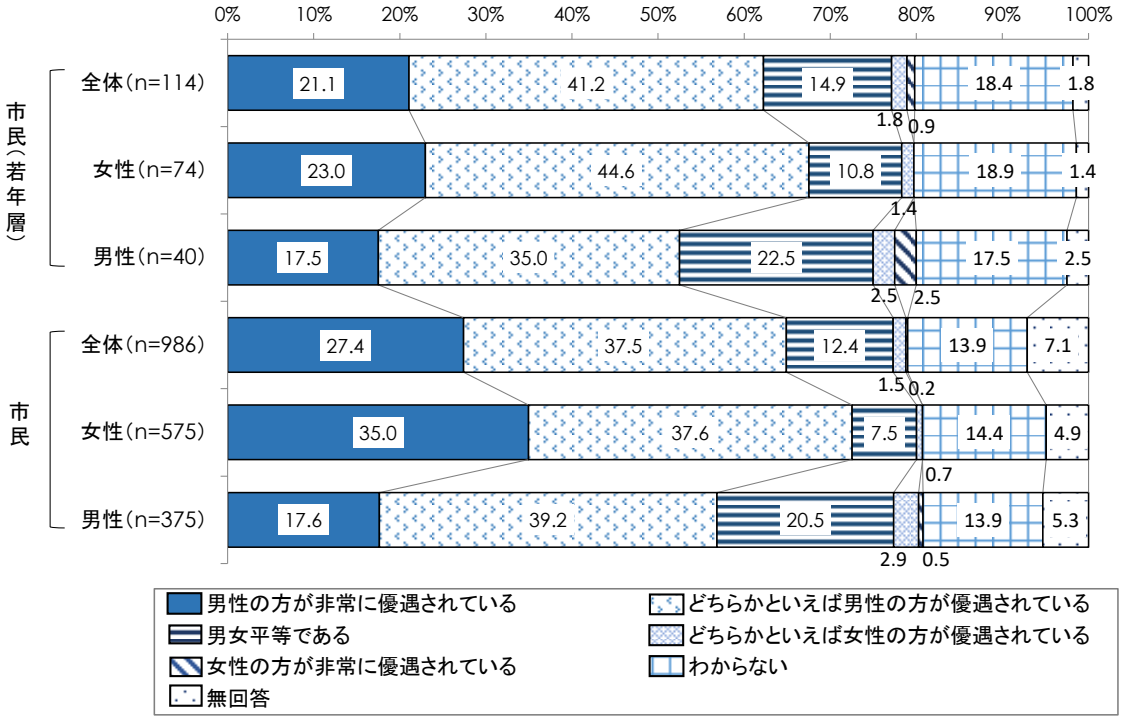
市民調査・性別にみると、いずれもいずれも『男性優遇』の割合が『女性優遇』の割合に比べて高くなっています。

自身の職業別・性別にみると、いずれも『男性優遇』が４割を超えて高くなっていますが、社員（正規・非正規含む）の男性では「男女平等である」も２割を超えています。

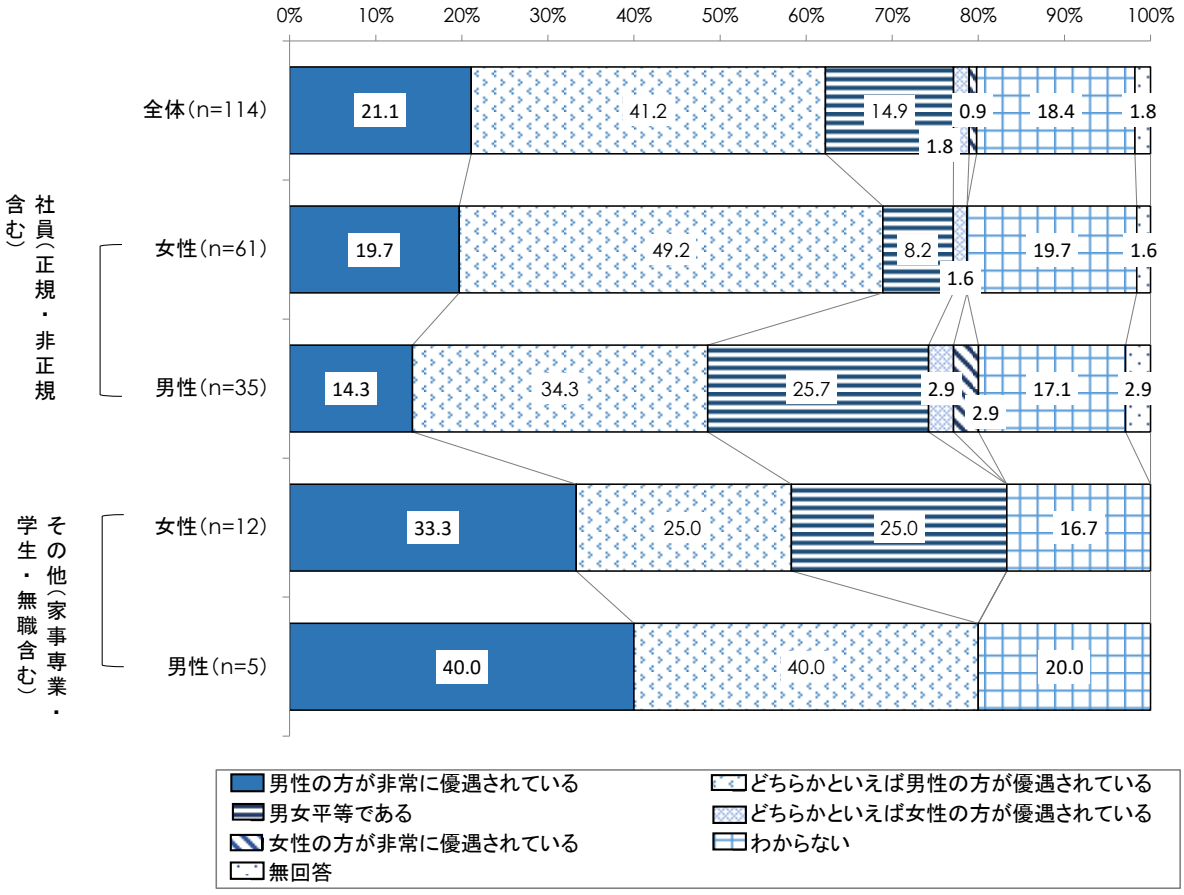
【 年代別にみた男女平等について（エ 政治の場で）】



【 市民調査比較・性別にみた男女平等について（エ 政治の場で）】

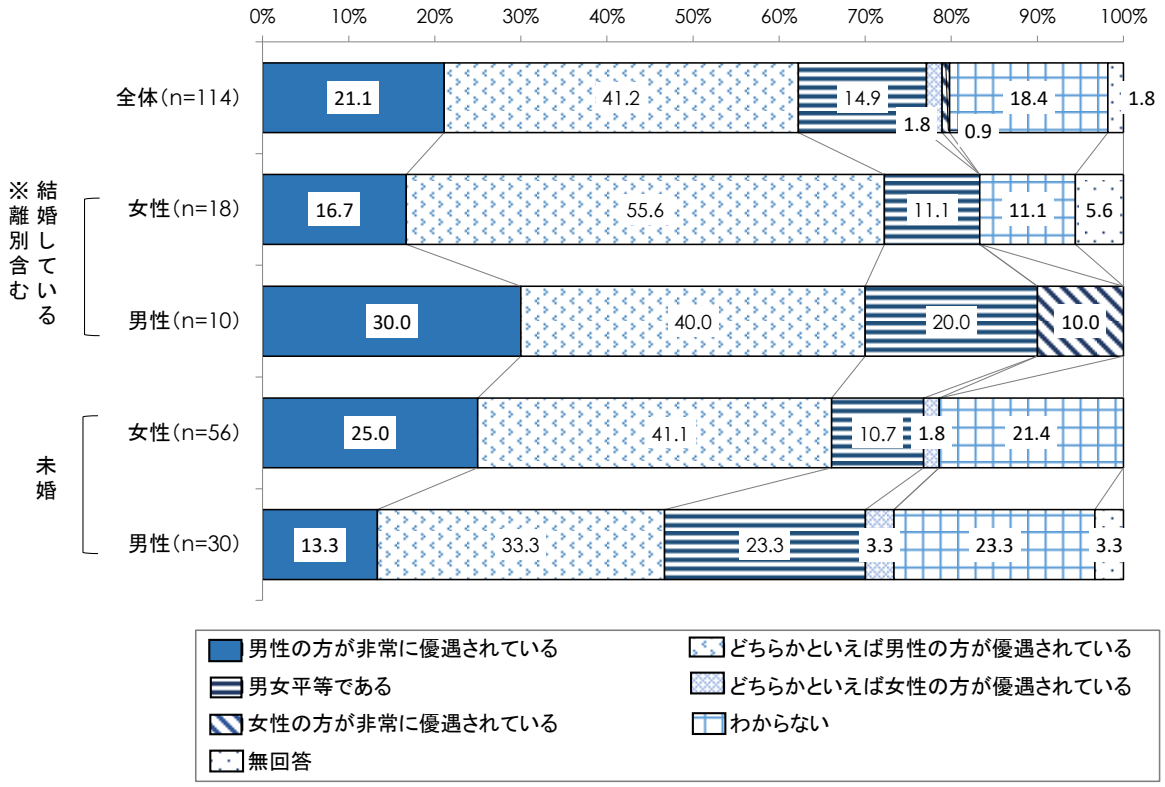


【自身の職業別・性別にみた男女平等について（エ 政治の場で）】



婚姻状況・性別にみると、未婚の男女に比べて結婚している（離別含む）男女の方が『男性優遇』と考えている割合が高くなっています。

【 婚姻状況・年代別にみた男女平等について（エ 政治の場で）】



オ　法律や制度のうえで

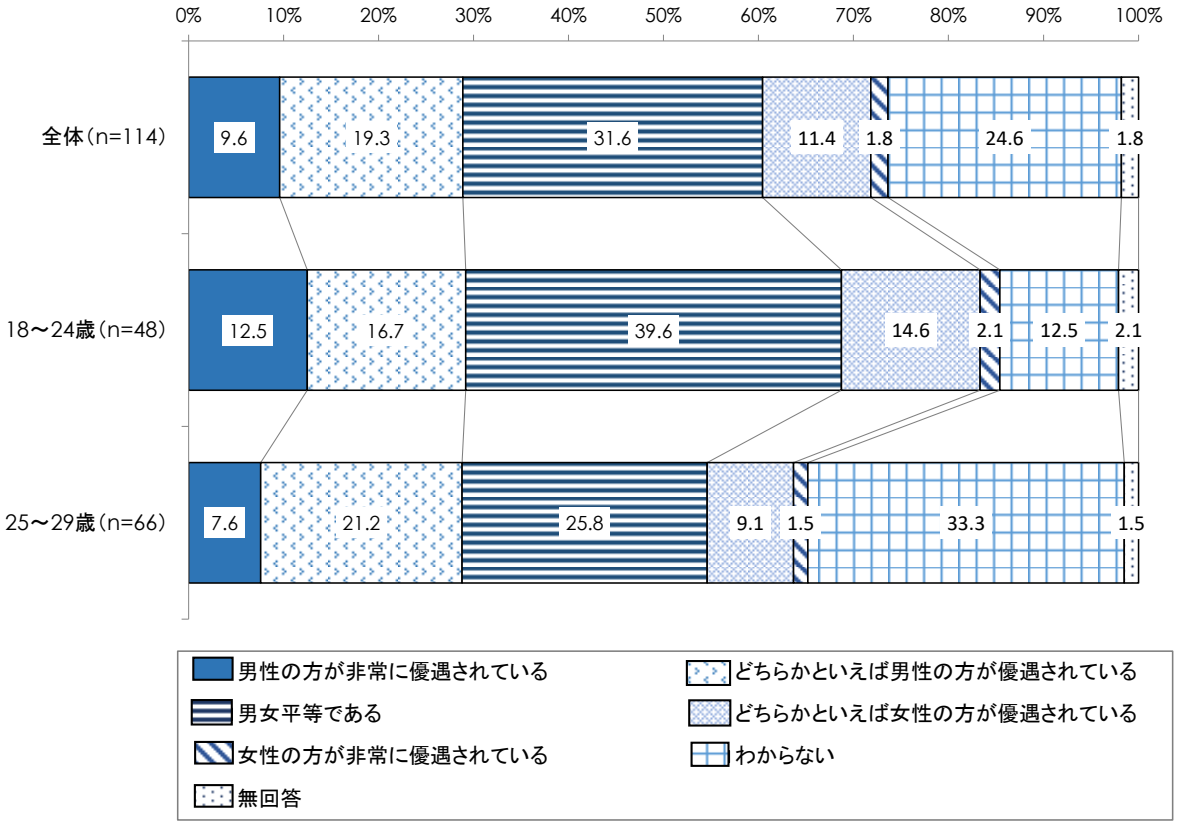
法律や制度のうえでの男女平等についてみると、「男女平等である」31.6%が最も割合が高く、次いで「わからない」24.6%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」19.3%の順となっています。

年代別にみると、『男性優遇』は18～24歳では29.2%、25～29歳では、28.8%となっており、『女性優遇』はいずれも１割程度となっています。

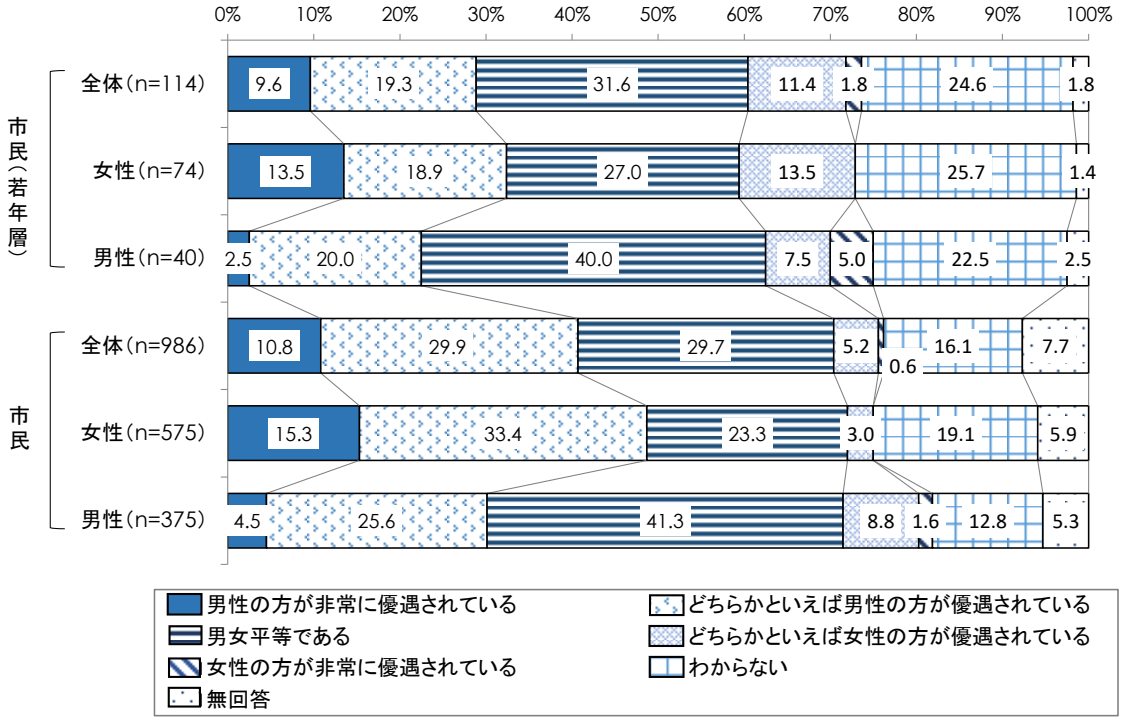
市民調査・性別にみると、いずれも『男性優遇』の割合が『女性優遇』の割合に比べて高くなっています。

自身の職業別・性別にみると、その他（家事専業・学生・無職含む）の男性では『男性優遇』、『女性優遇』に差はなく、「男女平等である」が６割を占めています。一方、社員（正規・非正規含む）の男女、その他（家事専業・学生・無職含む）の女性では『男性優遇』の割合が『女性優遇』に比べて高くなっています。

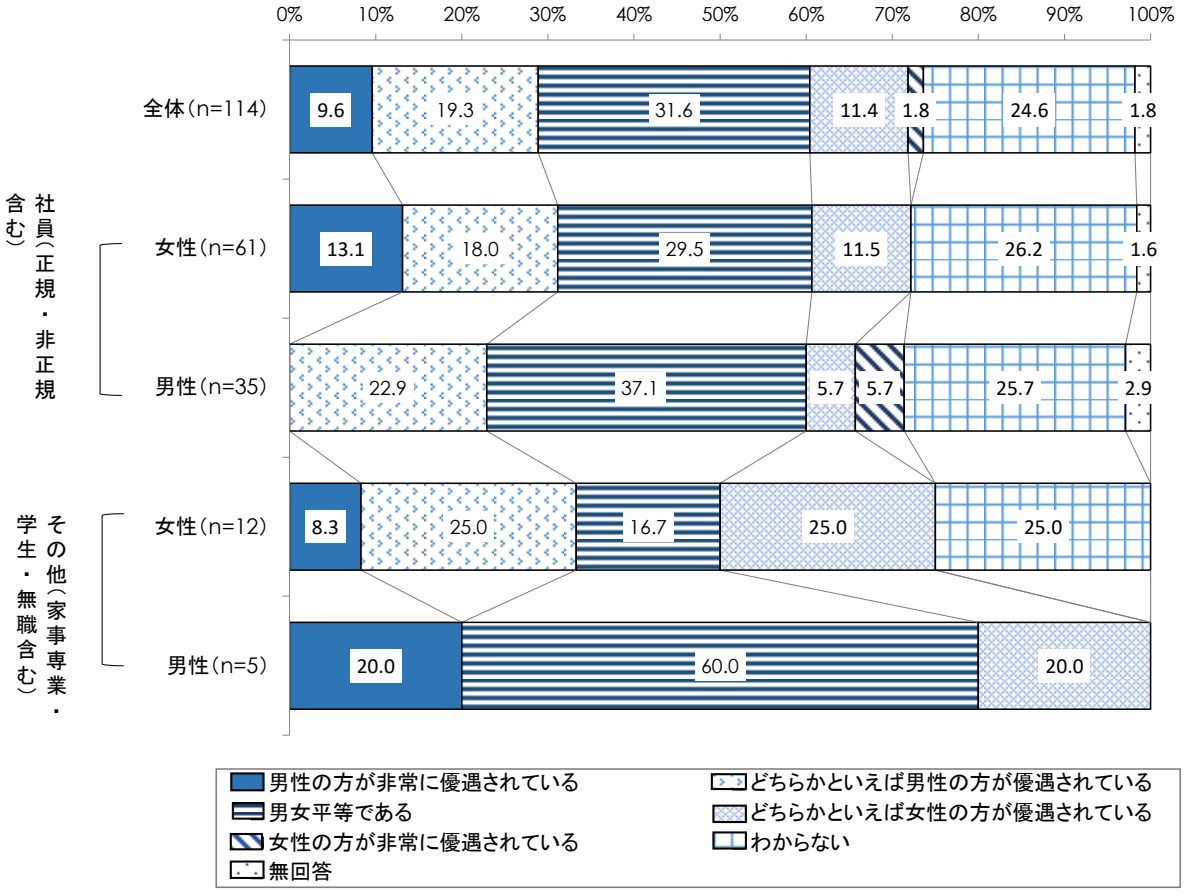
【 年代別にみた男女平等について（オ 法律や制度のうえで）】



【 市民調査比較・性別にみた男女平等について（オ 法律や制度のうえで）】

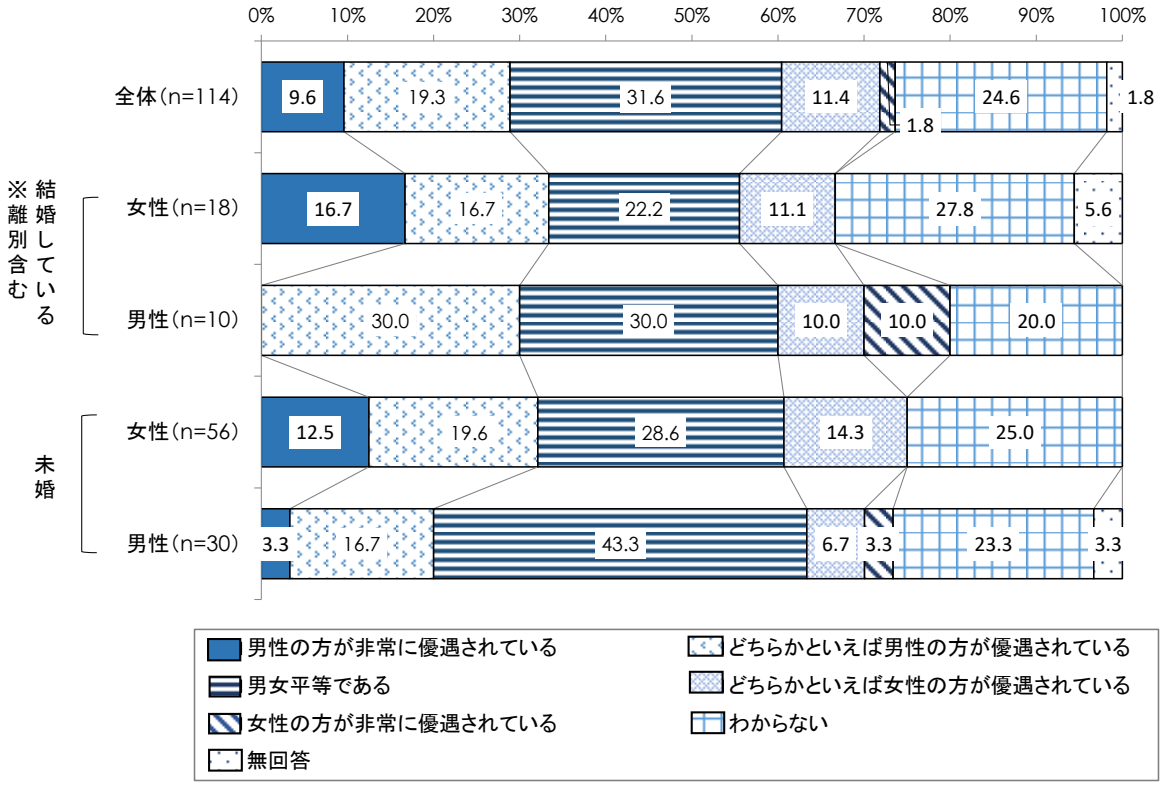


【 自身の職業別・性別にみた男女平等について（オ 法律や制度のうえで）】



婚姻状況・性別にみると、結婚している（離別含む）男性に比べて未婚の男性の方が「男女平等である」と考えている割合が高くなっています。

【 婚姻状況・性別にみた男女平等について（オ 法律や制度のうえで）】



カ　社会通念･慣習･しきたりなどで

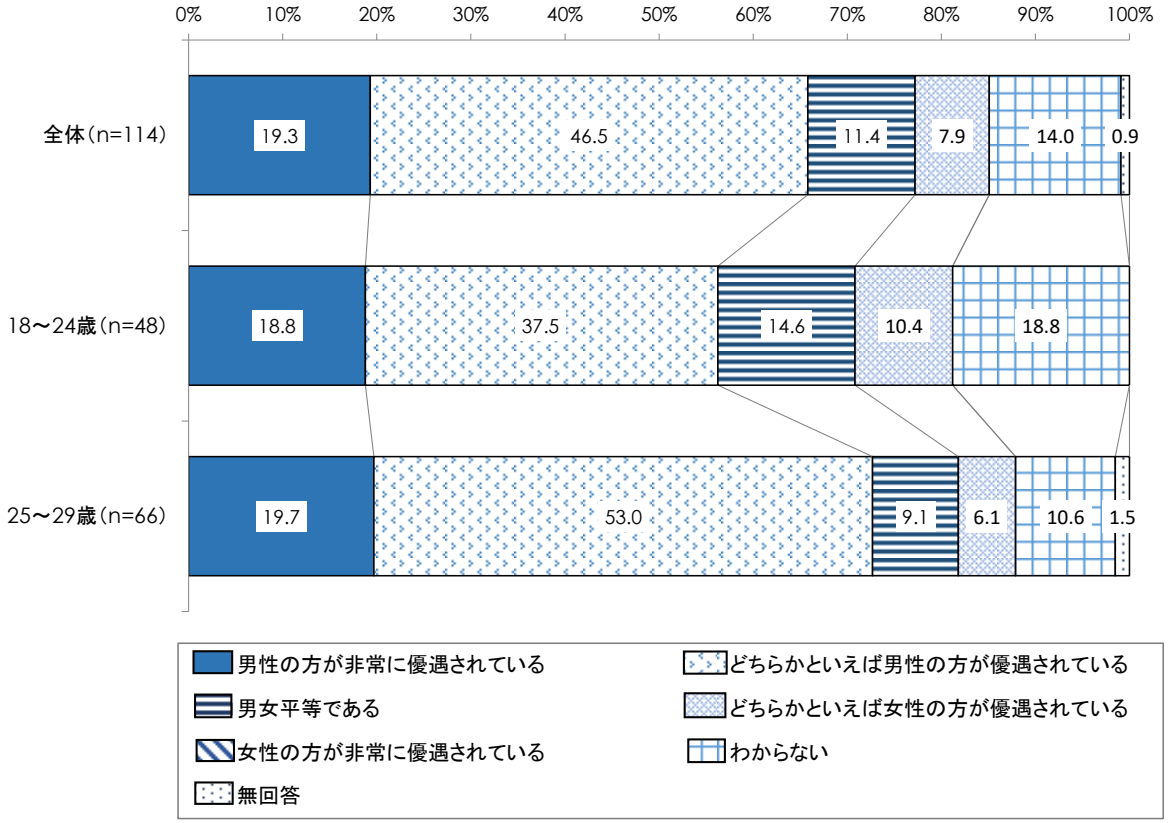
社会通念・慣習・しきたりなどでの男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」46.5%が最も割合が高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」19.3%、「わからない」14.0%の順となっています。

年代別にみると、『男性優遇』は18～24歳では56.3%、25～29歳では72.7%となっており、いずれも「男女平等である」、『女性優遇』は1割程度となっています。

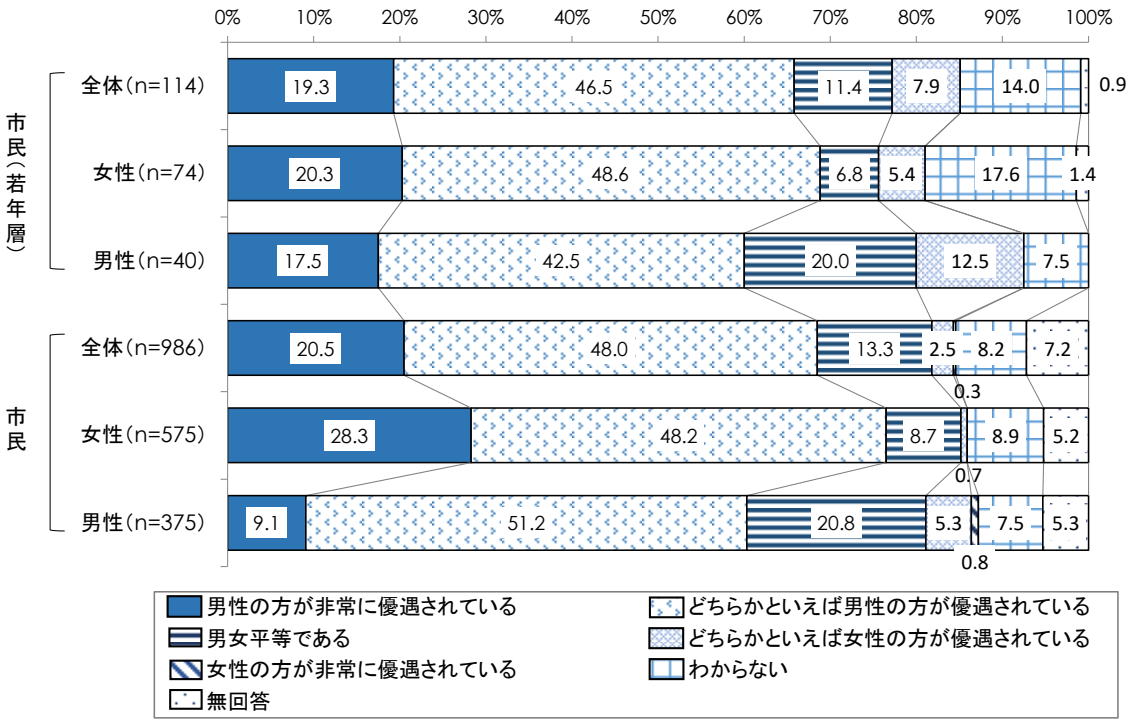
市民調査・性別にみると、いずれも『男性優遇』の割合が『女性優遇』の割合に比べて高くなっています。

自身の職業別・性別にみると、いずれも『男性優遇』の割合が4割を超えて高くなっており、特に社員（正規・非正規含む）の女性では73.8%となっています。

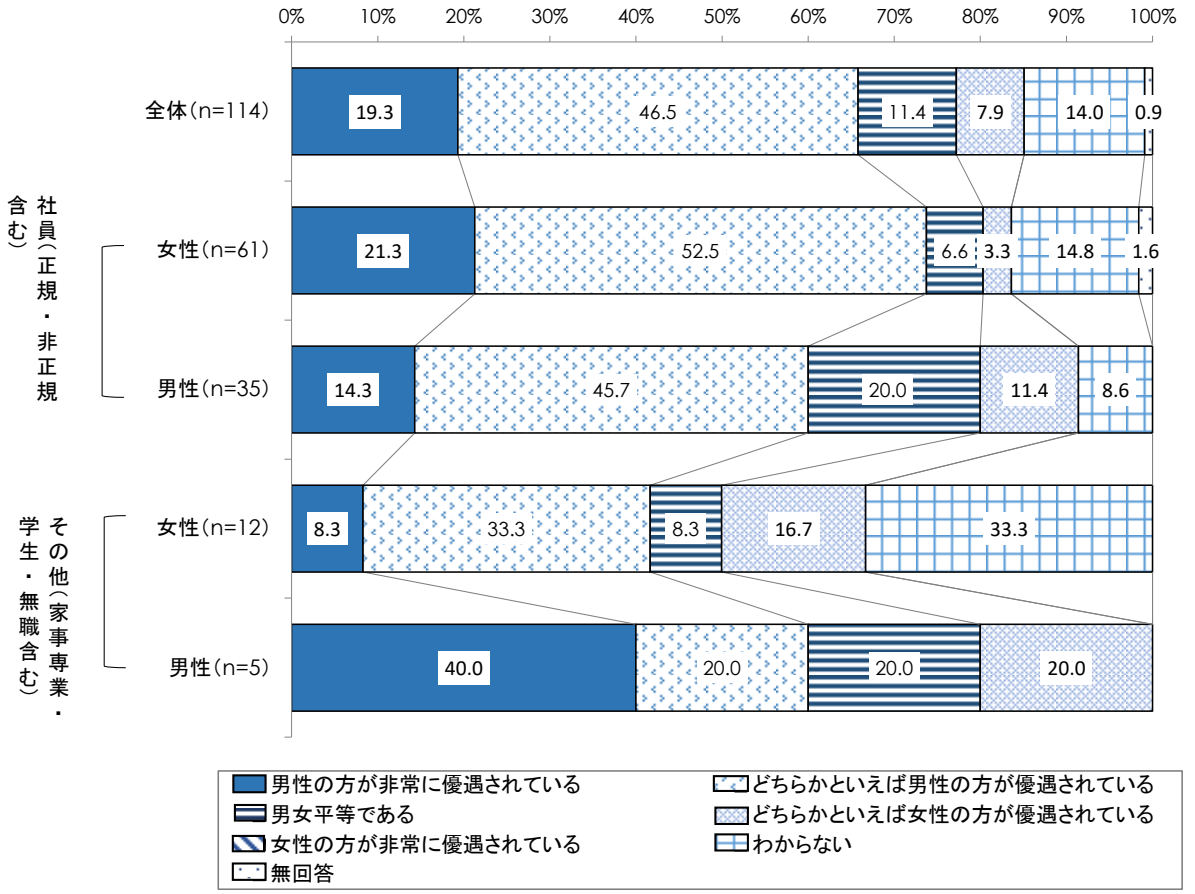
【 年代別にみた男女平等について（カ 社会通念・慣習・しきたりなどで）】



【市民調査比較・性別にみた男女平等について（カ 社会通念・慣習・しきたりなどで）】

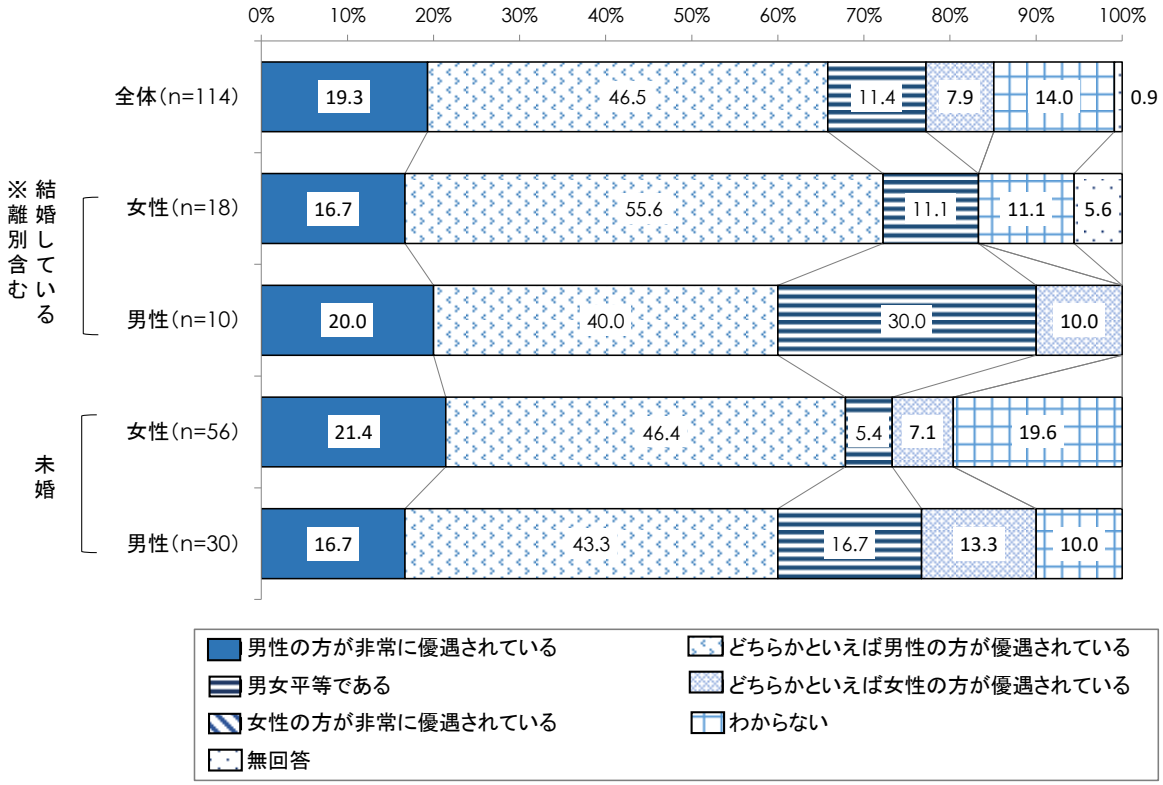


【 自身の職業別・性別にみた男女平等について（カ 社会通念・慣習・しきたりなどで）】



婚姻状況・性別にみると、いずれも『男性優遇』の割合が５割を超えていますが、結婚している（離別含む）男性では「男女平等である」の割合も高くなっています。

【 婚姻状況・性別にみた男女平等について（カ 社会通念・慣習・しきたりなどで）】



キ　自治会などの地域活動の場で

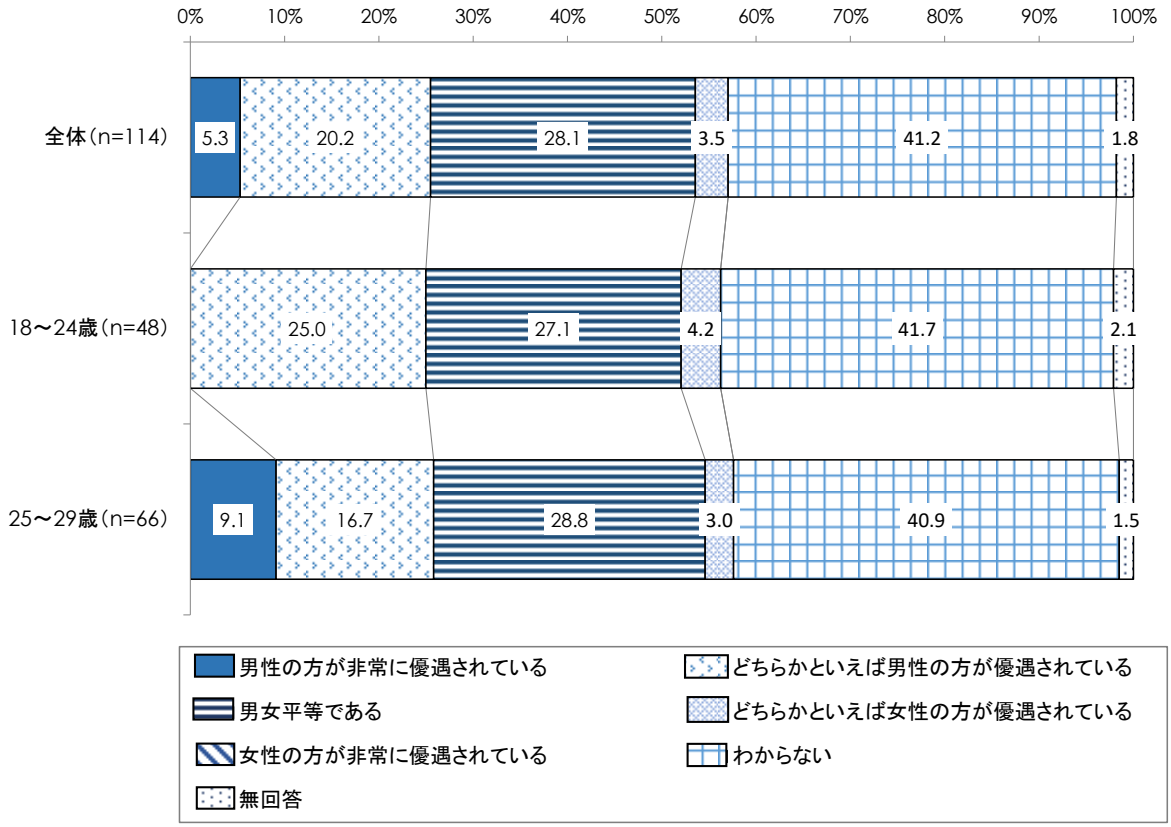
自治会などの地域活動の場での男女平等についてみると、「わからない」41.2%の割合が最も高く、次いで「男女平等である」28.1%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」20.2%の順となっています。

年代別にみると、『男性優遇』は18～24歳では25.0%、25～29歳では25.8%となっており、いずれも『女性優遇』では１割にも満たない結果となっています。

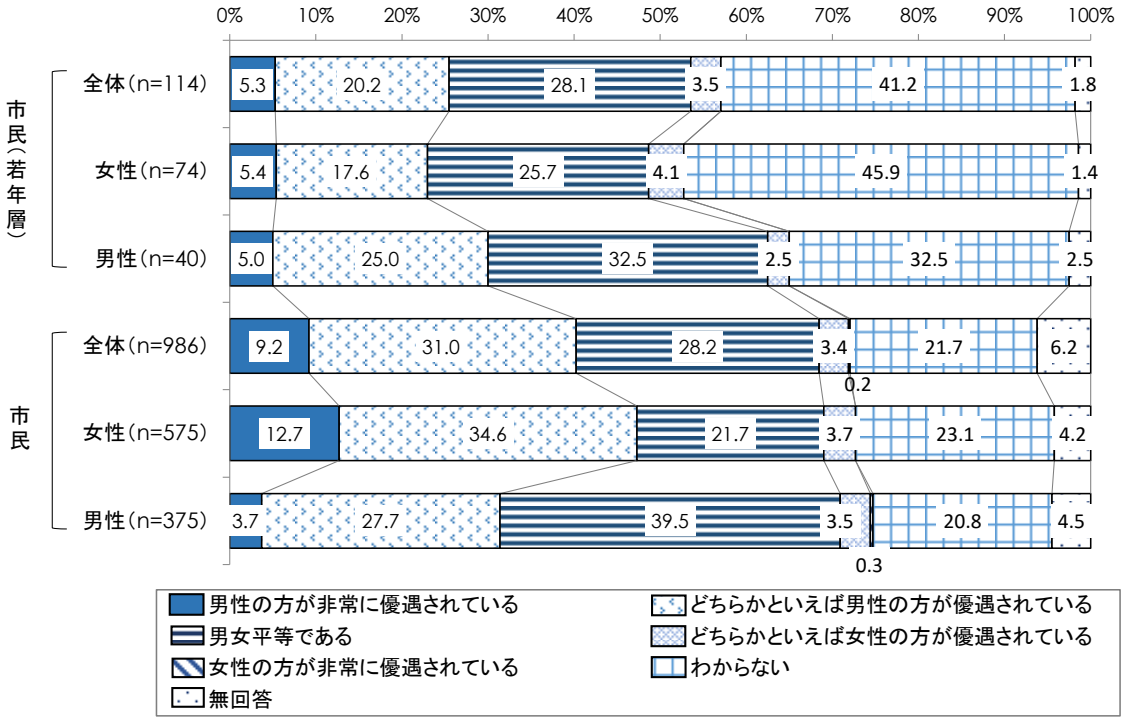
市民調査・性別にみると、いずれも『男性優遇』の割合が『女性優遇』の割合に比べて高くなっています。

自身の職業別・性別にみると、いずれも『男性優遇』の割合が『女性優遇』に比べて高くなっていますが、その他（家事専業・学生・無職含む）の男性では「男女平等である」の割合が最も割合が高くなっています。

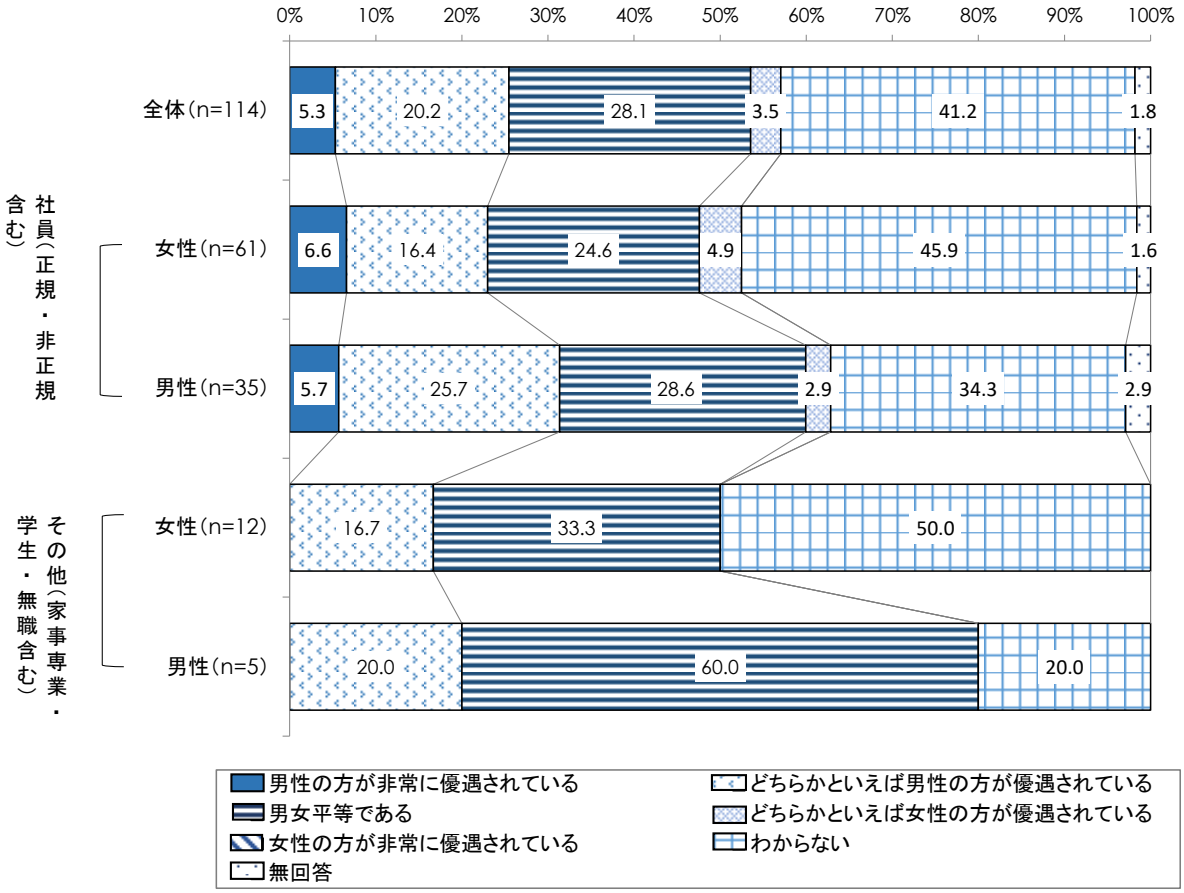
【 年代別にみた男女平等について（キ 自治会などの地域活動の場で）】



【 市民調査比較・性別にみた男女平等について（キ 自治会などの地域活動の場で）】

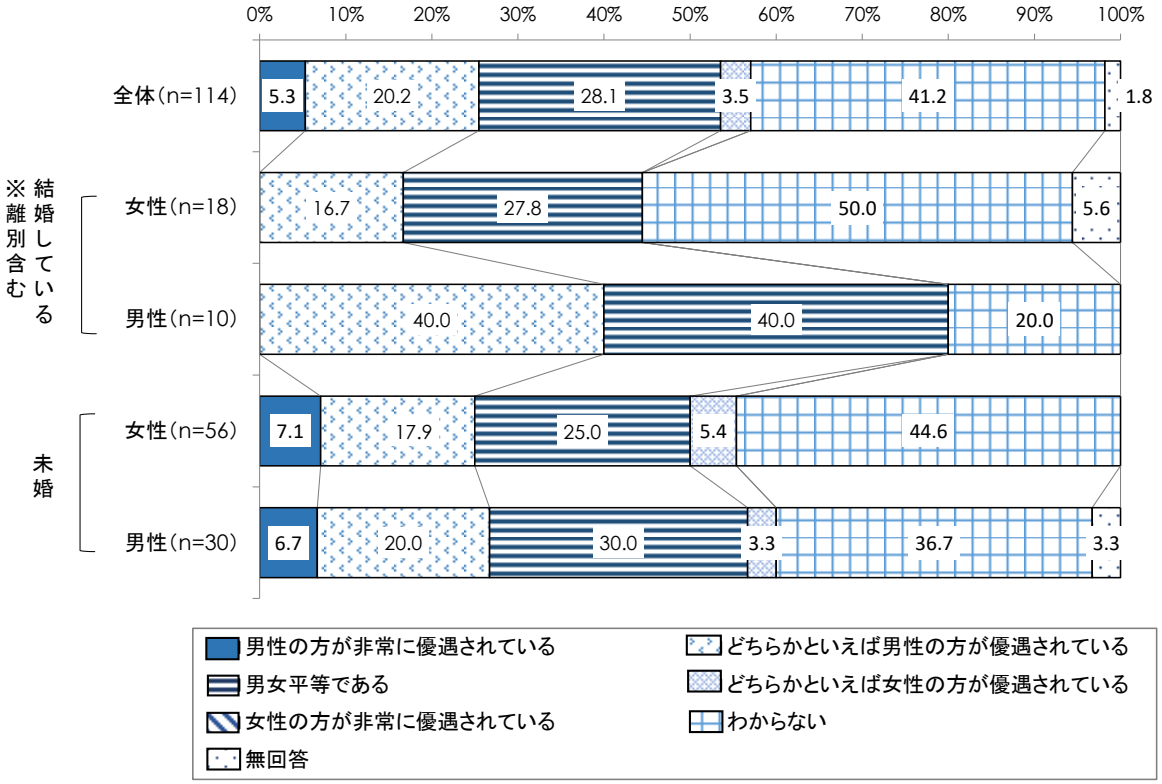


【 自身の職業・性別にみた男女平等について（キ 自治会などの地域活動の場で）】



婚姻状況・性別にみると、結婚している（離別含む）男性では未婚の男性より「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と考えている割合が高くなっていますが、「男女平等である」も同率で最も高くなっています。

【 婚姻状況・性別にみた男女平等について（キ 自治会などの地域活動の場で）】



ク 社会全体で

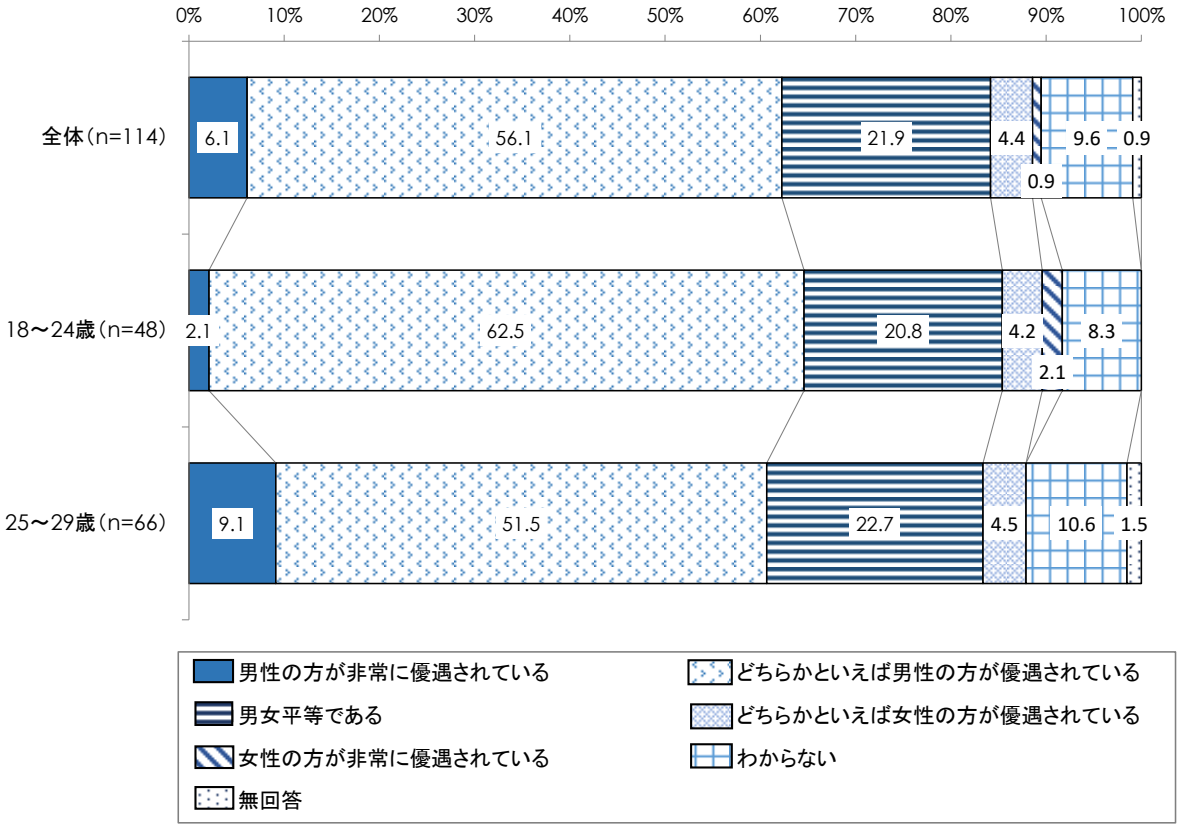
社会全体での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」56.1%の割合が最も高く、次いで「男女平等である」21.9%、「わからない」9.6%の順となっています。

年代別にみると、『男性優遇』は18～24歳では64.6%、25～29歳では60.6%となっており、いずれも『女性優遇』は1割にも満たない結果となっています。

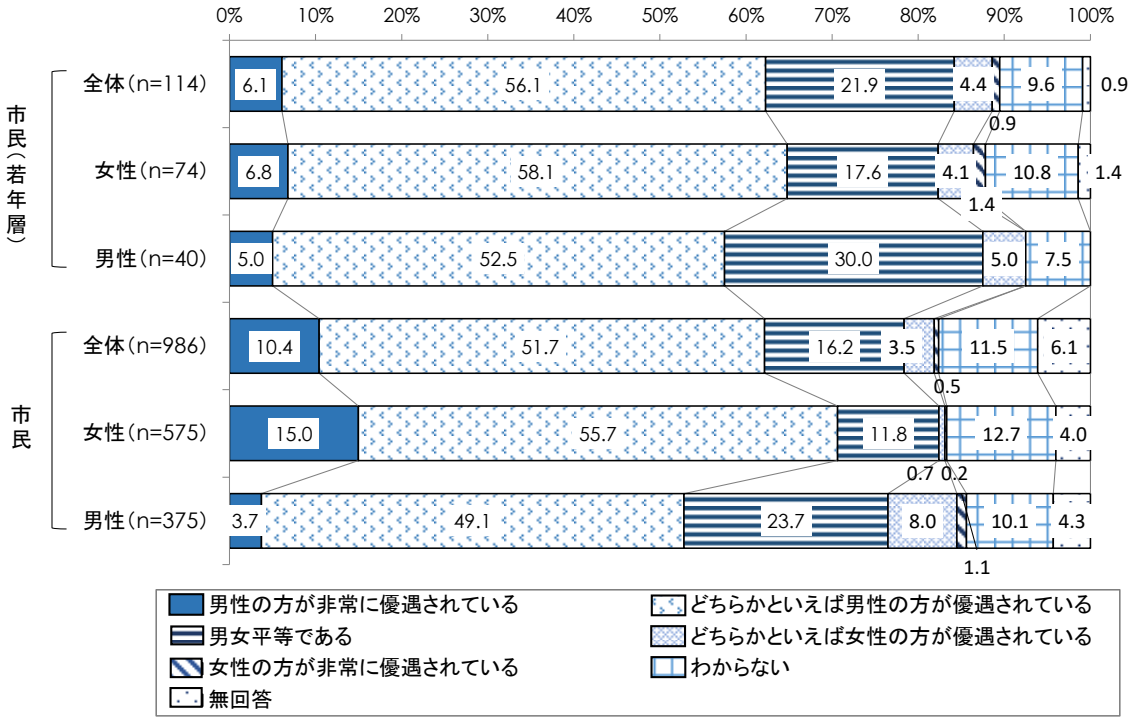
市民調査・性別にみると、いずれも『男性優遇』の割合が『女性優遇』の割合に比べて高くなっています。

自身の職業別・性別にみると、いずれも『男性優遇』の割合が5割を超えて高くなっています。特にその他（家事専業・学生・無職含む）の女性では75.0%となっています。

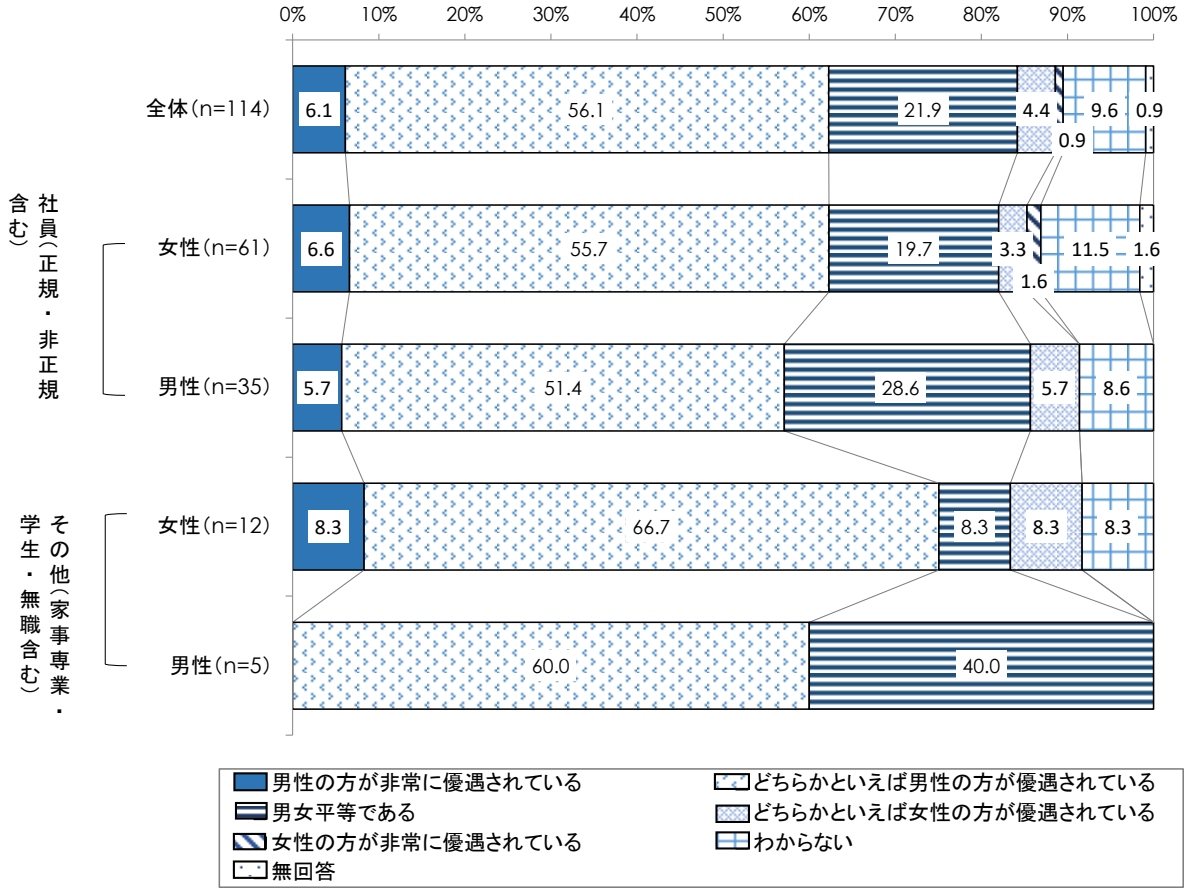
【 年代別にみた男女平等について（ク 社会全体で）】



【 市民調査比較・性別にみた男女平等について（ク 社会全体で）】

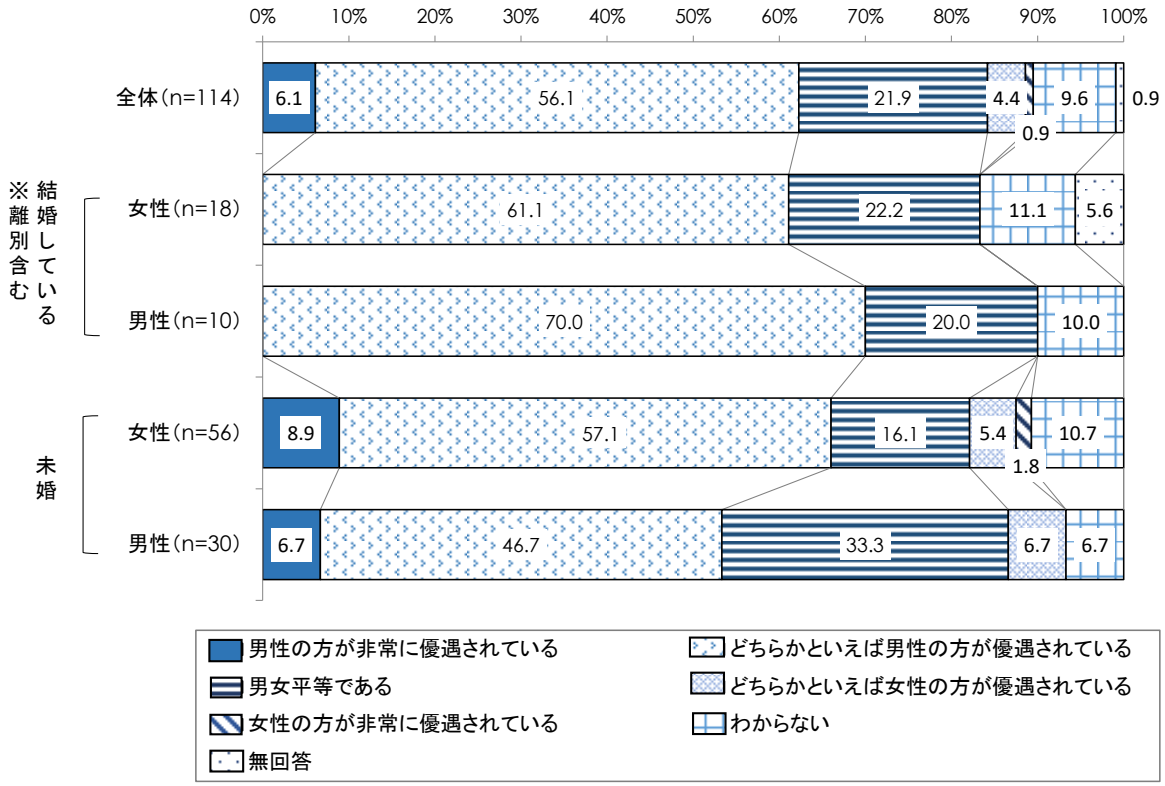


【 自身の職業・性別にみた男女平等について（ク 社会全体で）】



婚姻状況・性別にみると、いずれも『男性優遇』の割合が５割を超えており、『女性優遇』の割合に比べて高くなっています。

【 婚姻状況・性別にみた男女平等について（ク 社会全体で）】



3 職業、職場環境について

問 2. 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどうお考えですか。（○は1つ）

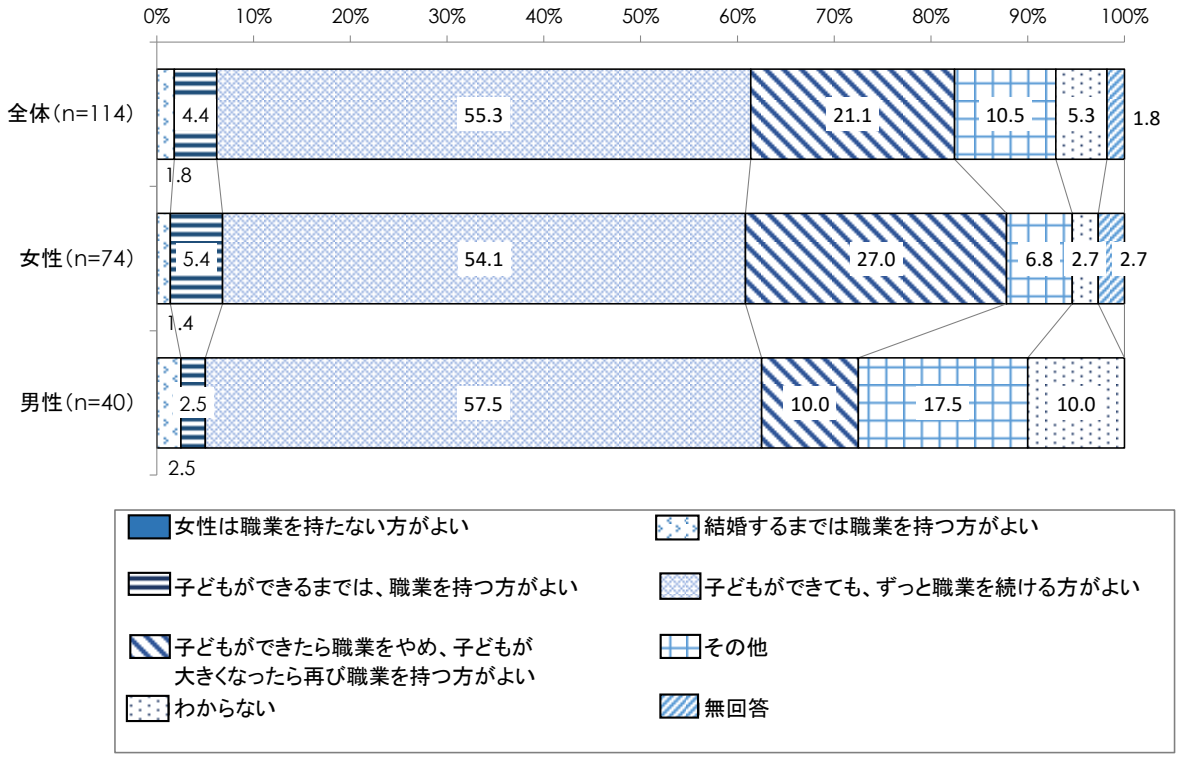
一般的に女性が職業を持つことについてみると、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」55.3%の割合が最も高く、次いで「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」21.1%の順となっています。

性別にみると、女性は「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」27.0%が男性10.0%より17.0ポイント高くなっています。

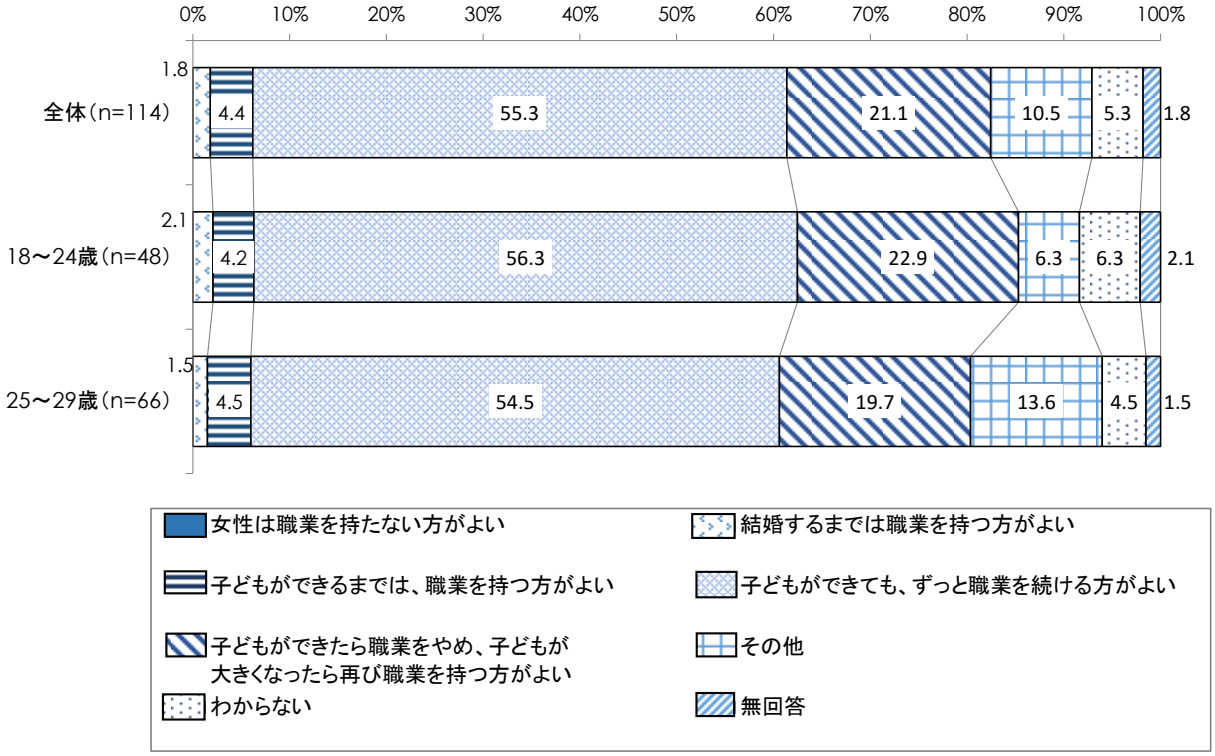
年代別にみると、あまり大きな差は見られませんでした。

市民調査と比較すると、あまり大きな差は見られませんでした。

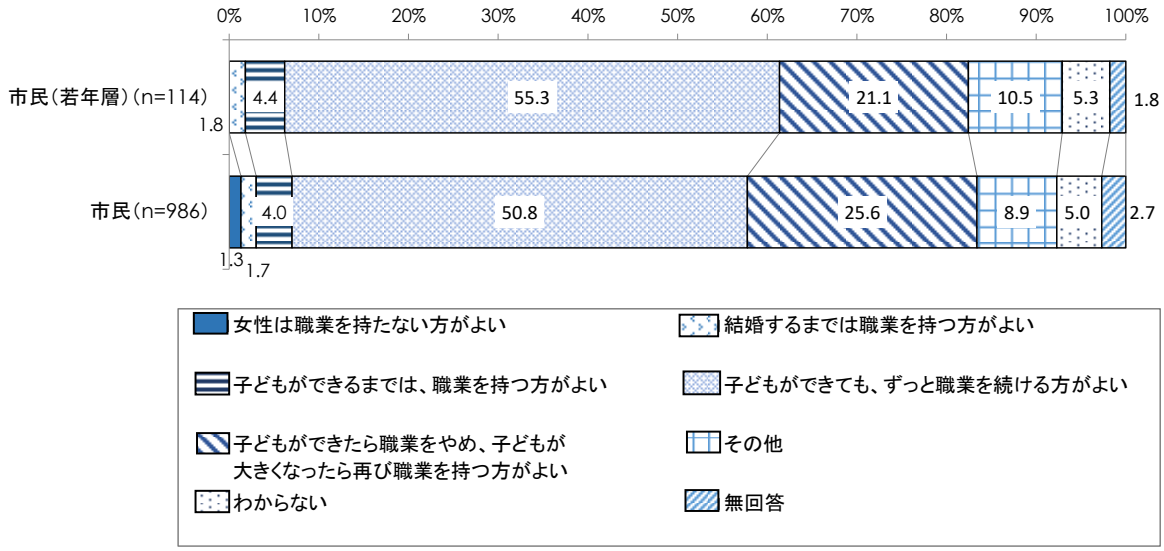
【 性別にみた一般的に女性が職業を持つことについて 】



【 年代別にみた一般的に女性が職業を持つことについて 】



【 市民調査と比較した一般的に女性が職業を持つことについて 】



問 3. ≪就職している方、就職していた方にうかがいます≫ →そのほかの方は問9へ
育児休業の取得についてお聞かせください。（○は1つ）

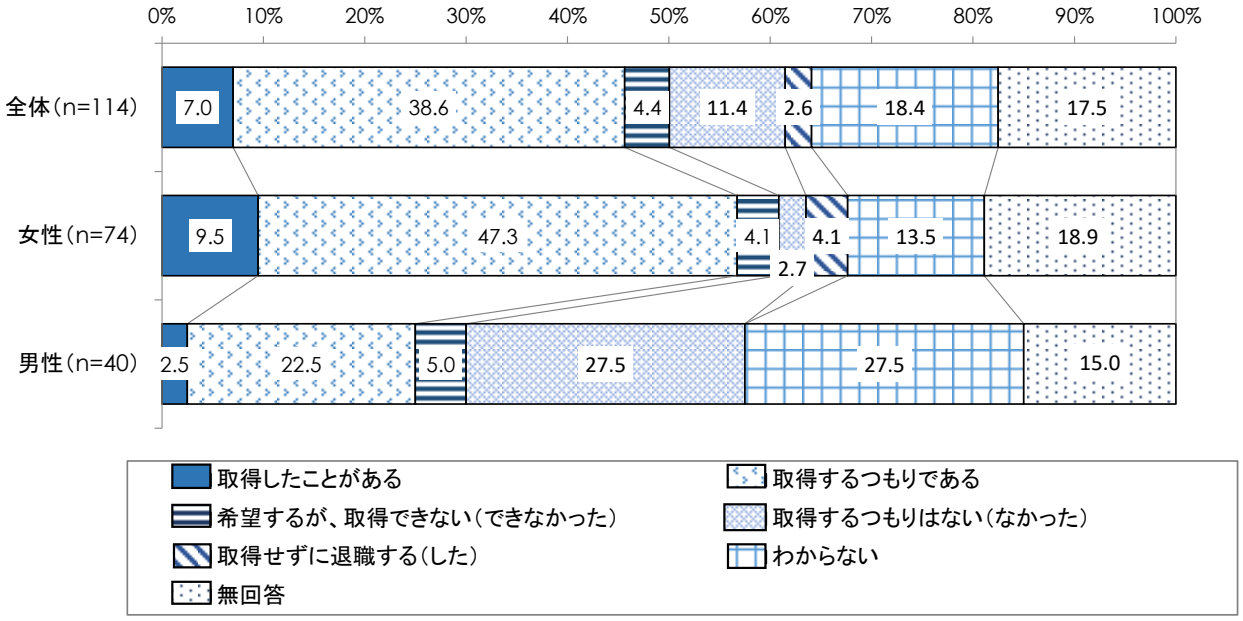
就職している方、就職していた方の育児休業の取得についてみると、「取得するつもりである」38.6%の割合が最も高く、次いで「わからない」18.4%、「取得するつもりはない（なかった）」11.4%の順となっており、「取得したことがある」は7.0%となっています。

性別にみると、「取得したことがある」は女性9.5%、男性2.5%と、女性の割合が男性より7ポイント高くなっており、「取得するつもりはない（なかった）」は男性27.5%、女性2.7%と、男性の割合が女性より24.8ポイント高くなっています。

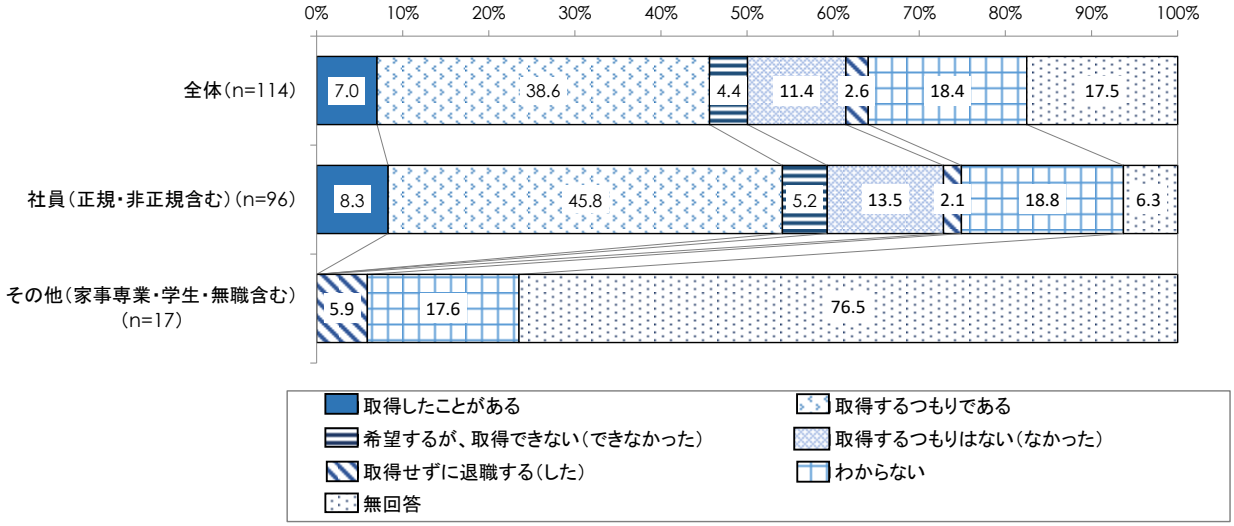
自身の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では「取得するつもりである」45.8%の割合が最も高く、その他（家事専業・学生・無職含む）では「取得せずに退職する（した）」、「わからない」に回答が集まっています。

配偶者の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では「取得したことがある」、「取得するつもりである」に回答が集まっているものの、「取得するつもりはない（なかった）」の割合も高くなっています。

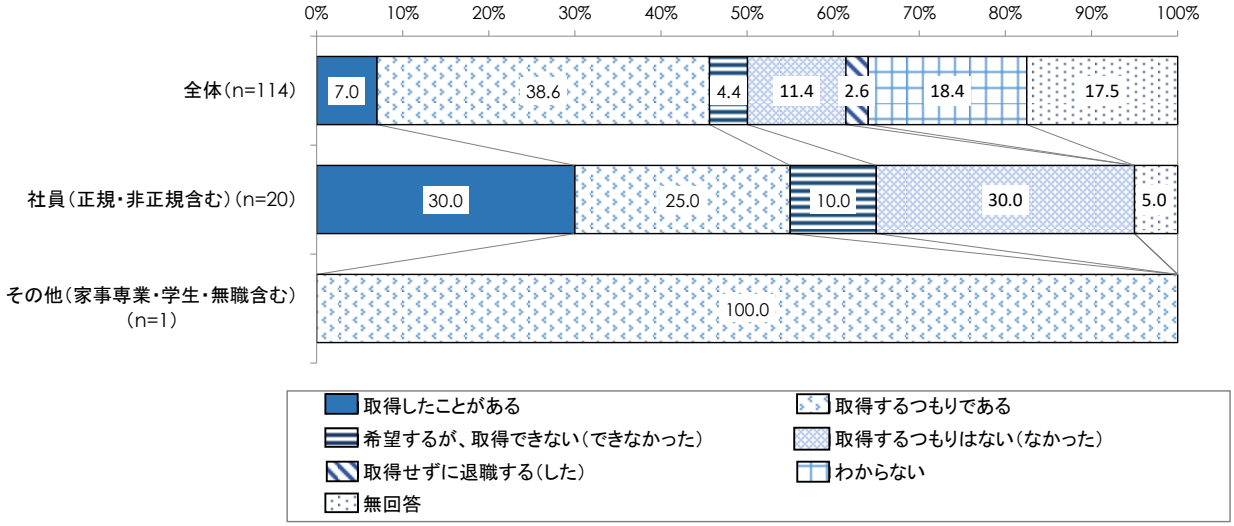
【 性別にみた育児休業の取得について 】



【 自身の職業別にみた育児休業の取得について 】



【 配偶者の職業別にみた育児休業の取得について 】



問 4. ≪問3で「希望するが、取得できない（できなかった）」、「取得するつもりはない（なかった）」、「取得せずに退職する（した）」と答えた方にうかがいます≫ →その他の方は問5へ
それはなぜですか。（○は1つ）

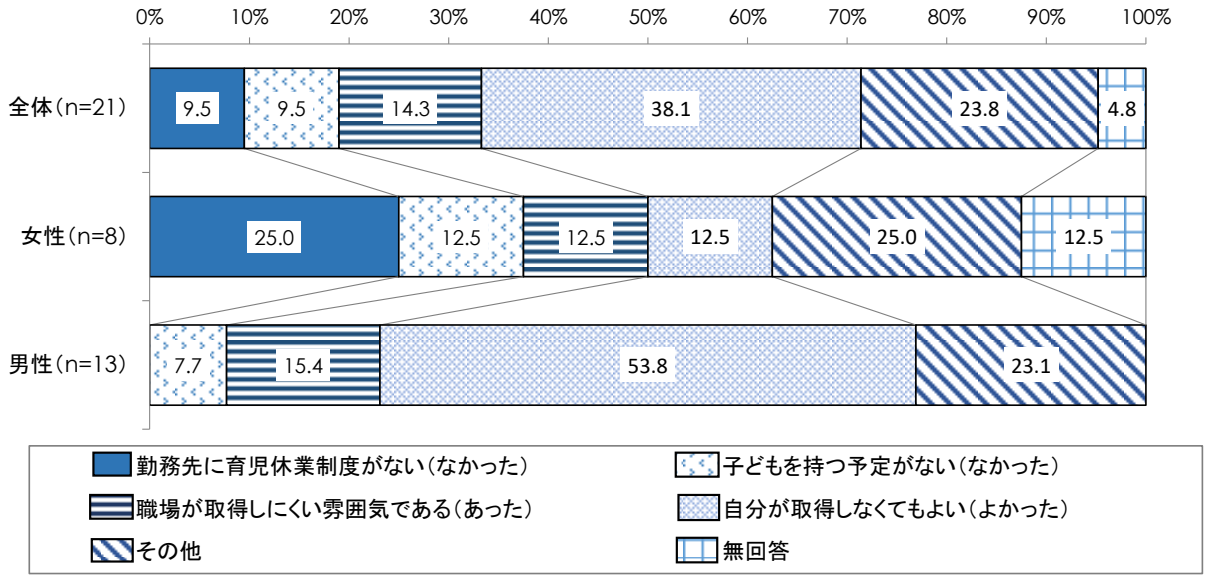
就職している方、就職していた方のうち、育児休業を取得しなかった方の理由をみると、「自分が取得しなくてもよい（よかった）」38.1%の割合が最も高く、次いで「職場が取得しにくい雰囲気である（あった）」14.3%、「勤務先に育児休業制度がない（なかった）」、「子どもを持つ予定がない（なかった）」9.5%の順となっています。「その他」は23.8%となっています。

性別にみると、男性では「自分が取得しなくてもよい（よかった）」の割合が高く、女性では「勤務先に育児休業制度がない（なかった）」の割合が高くなっています。

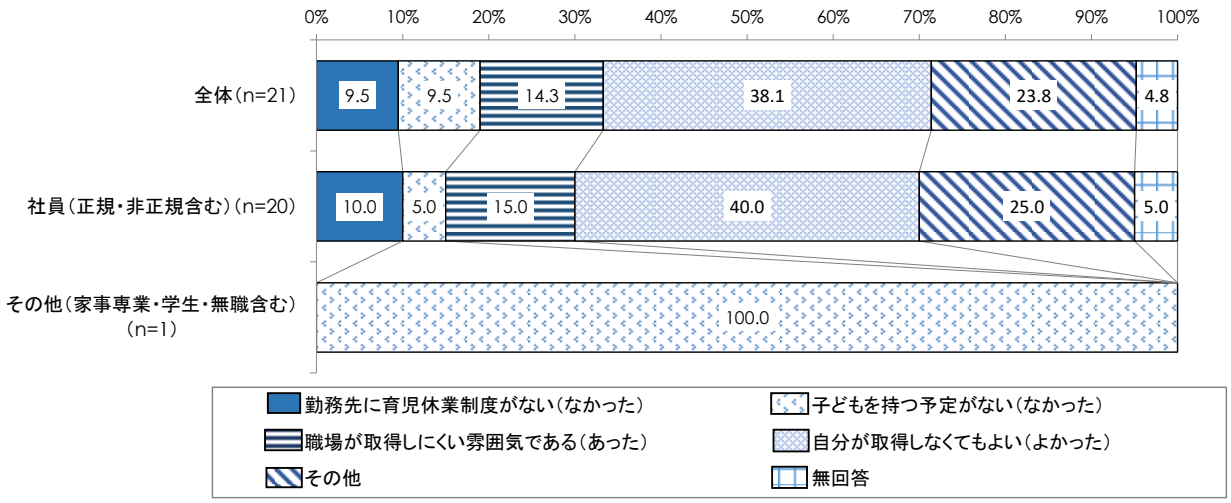
自身の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では「自分が取得しなくてもよい（よかった）」の割合が最も高くなっていますが、その他（家事専業・学生・無職含む）では「子どもを持つ予定がない（なかった）」が100%を占めています。

配偶者の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では「自分が取得しなくてもよい（よかった）」の割合が最も高くなっています。

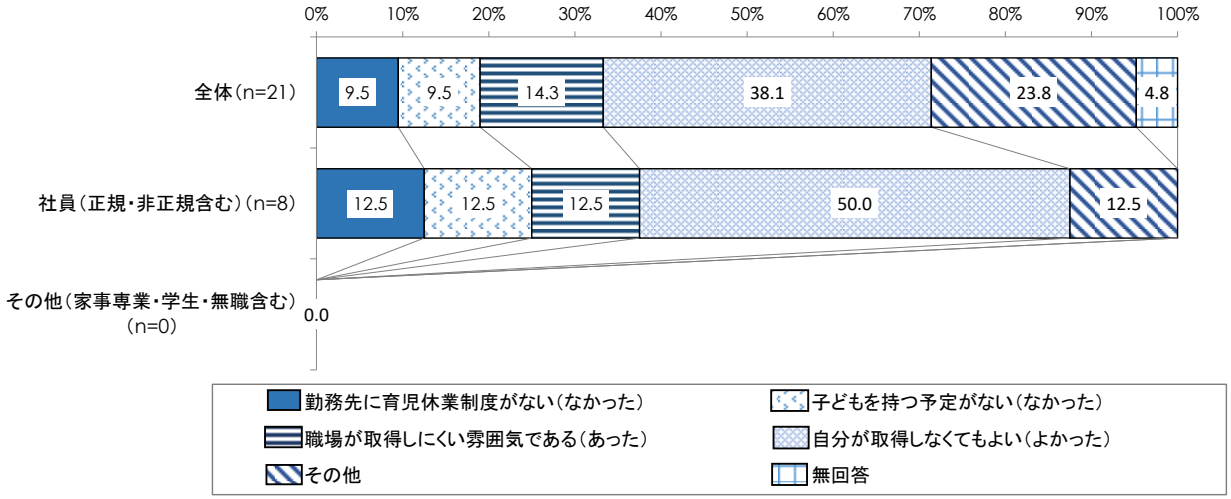
【 性別にみた育児休業を取得しなかった理由 】



【 自身の職業別にみた育児休業を取得しなかった理由 】



【 配偶者の職業別にみた育児休業を取得しなかった理由 】



問 5. ≪就職している方、就職していた方にうかがいます≫ →そのほかの方は問9へ
介護休業の取得についてお聞かせください。（○は1つ）

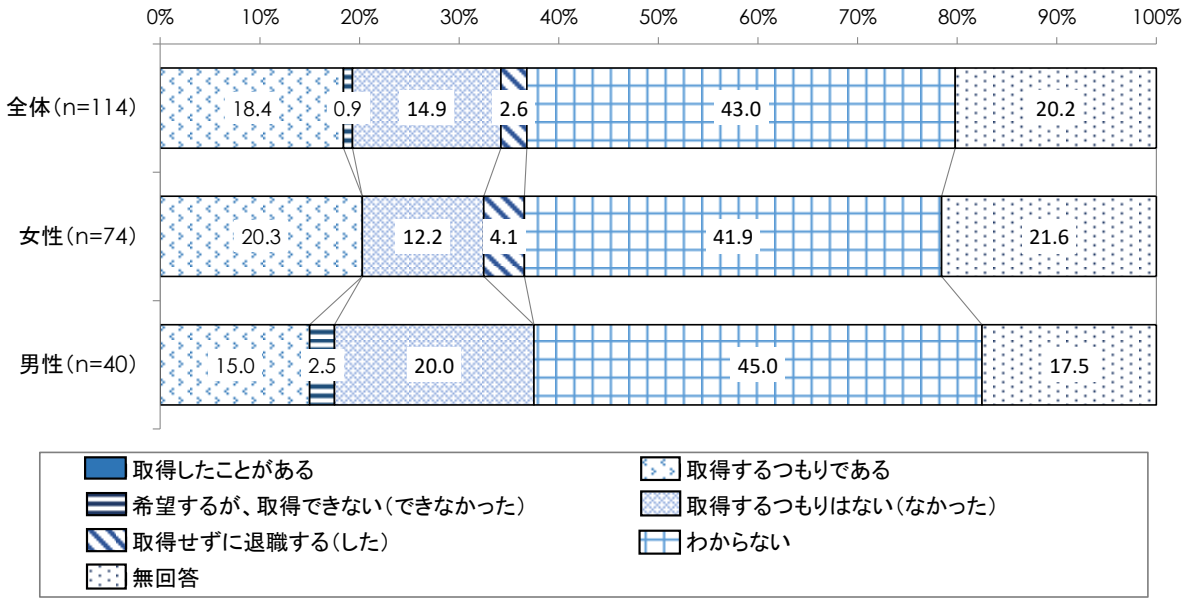
就職している方、就職していた方の介護休業の取得についてみると、「わからない」43.0%の割合が最も高く、次いで「取得するつもりである」18.4%、「取得するつもりはない（なかった）」14.9%の順となっています。

性別にみると、女性は「取得するつもりである」20.3%が男性 15.0%より 5.3 ポイント高くなっています。

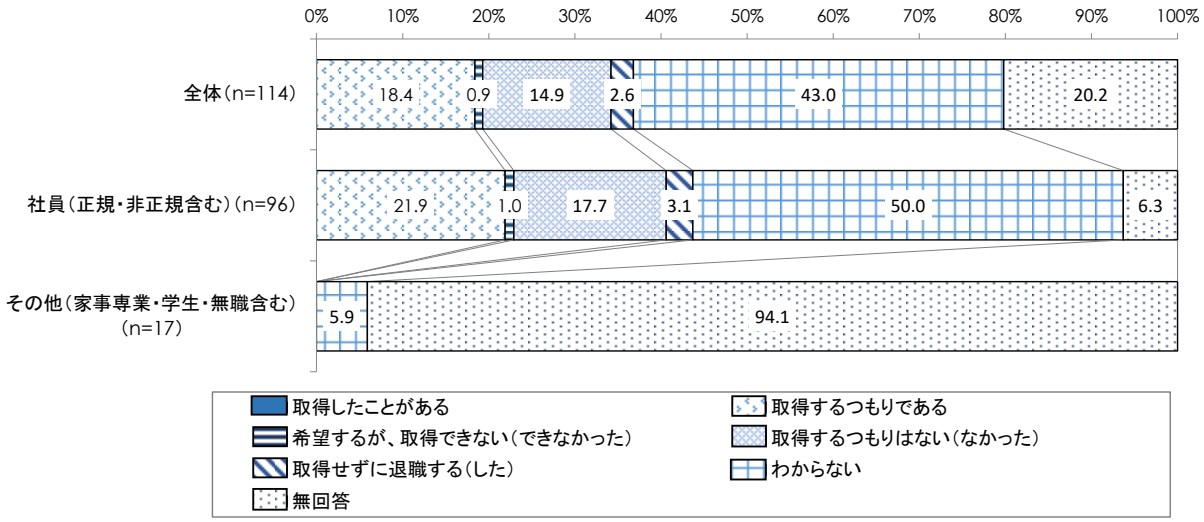
自身の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では「取得するつもりである」21.9%の割合が、その他（家事専業・学生・無職含む）に比べて高くなっています。

配偶者の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では「取得するつもりである」に回答が集まっているものの、「取得するつもりはない（なかった）」の割合も高くなっています。

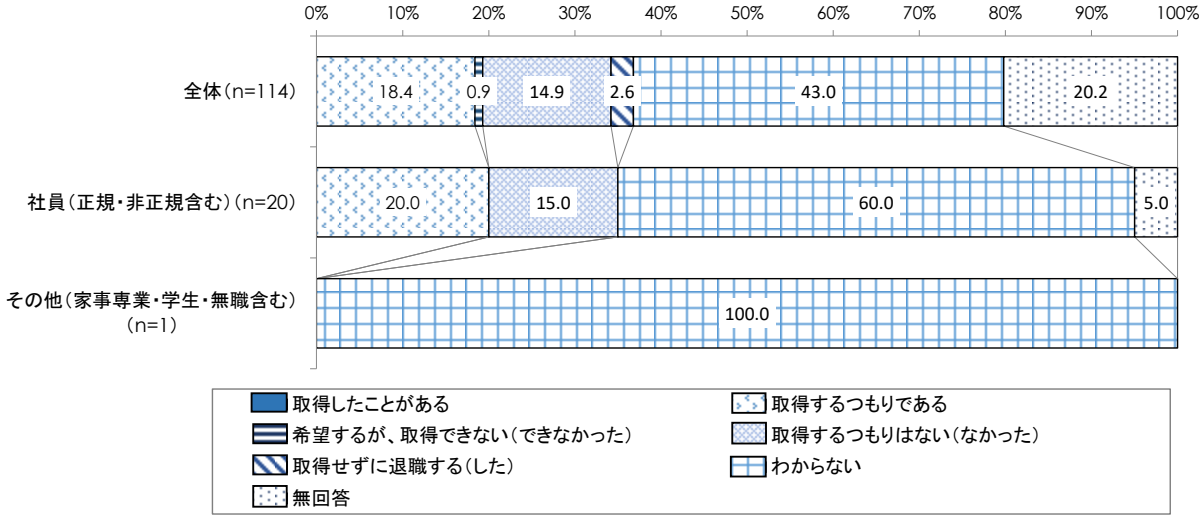
【 性別にみた介護休業の取得について 】



【 自身の職業別にみた介護休業の取得について 】



【 配偶者の職業別にみた介護休業の取得について 】



問 6. ≪問5で「希望するが、取得できない（できなかった）」、「取得するつもりはない（なかった）」、「取得せずに退職する（した）」と答えた方にうかがいます≫ →そのほかの方は問7へ
それはなぜですか。（○は1つ）

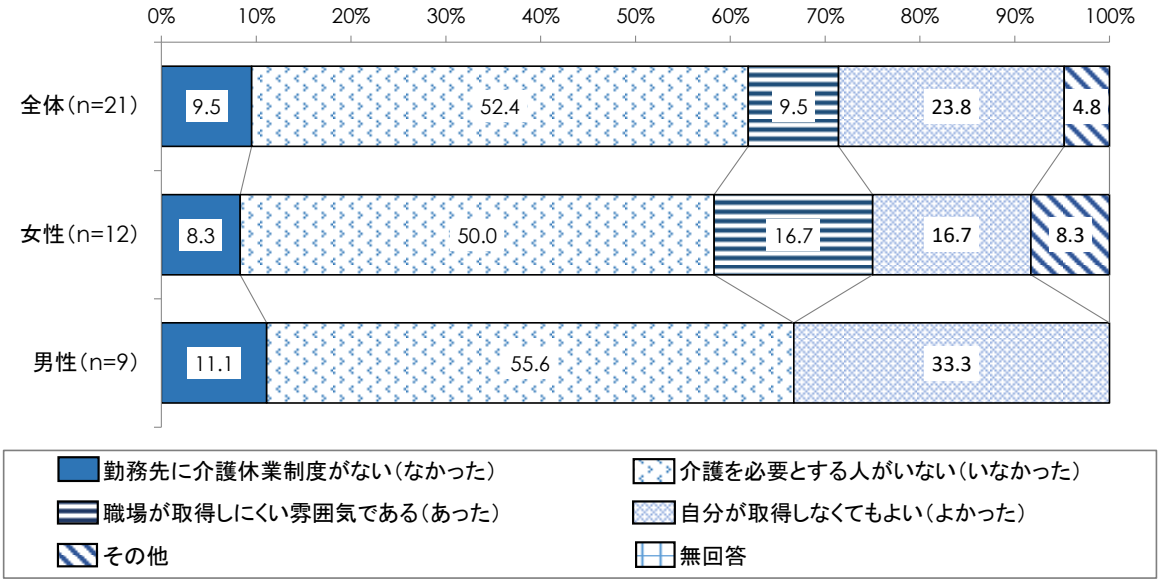
就職している方、就職していた方のうち、介護休業を取得しなかった理由をみると、「介護を必要とする人がいない（いなかった）」52.4%の割合が最も高く、次いで「自分が取得しなくてもよい（よかった）」23.8%、「勤務先に介護休業制度がない（なかった）」、「職場が取得しにくい雰囲気である（あった）」9.5%の順となっています。

性別にみると、男女ともに「介護を必要とする人がいない（いなかった）」の割合が最も高く、次いで男性では「自分が取得しなくてもよい（よかった）」、女性では「職場が取得しにくい雰囲気である（あった）」、「自分が取得しなくてもよい（よかった）」が続いています。

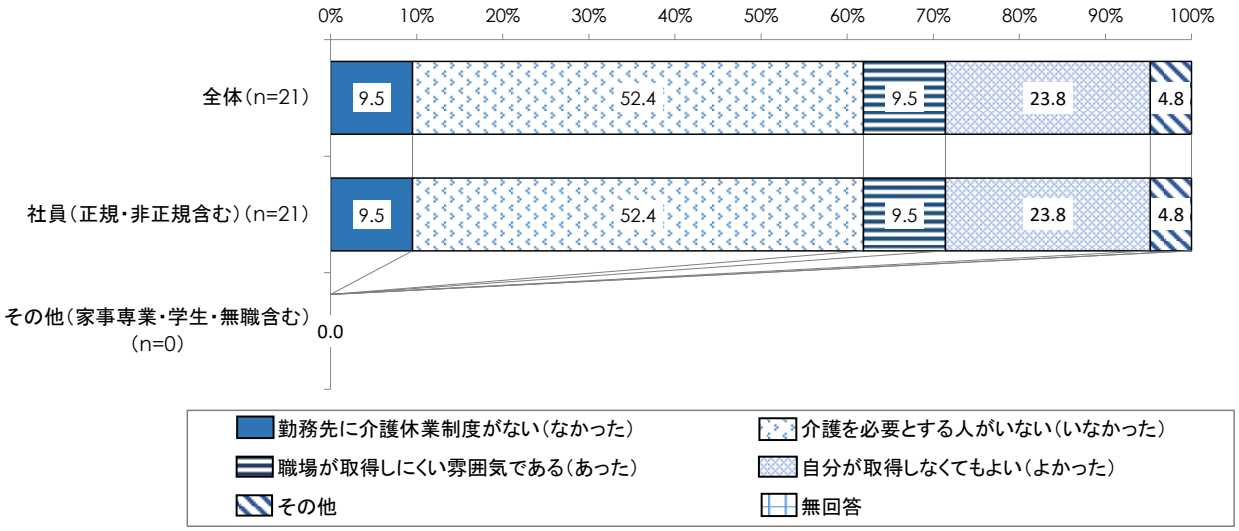
自身の職業別にみると、その他（家事専業・学生・無職含む）の回答者がいなかった為、全体と同様の結果となっています。

配偶者の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では「介護を必要とする人がいない（いなかった）」が100%を占めています。

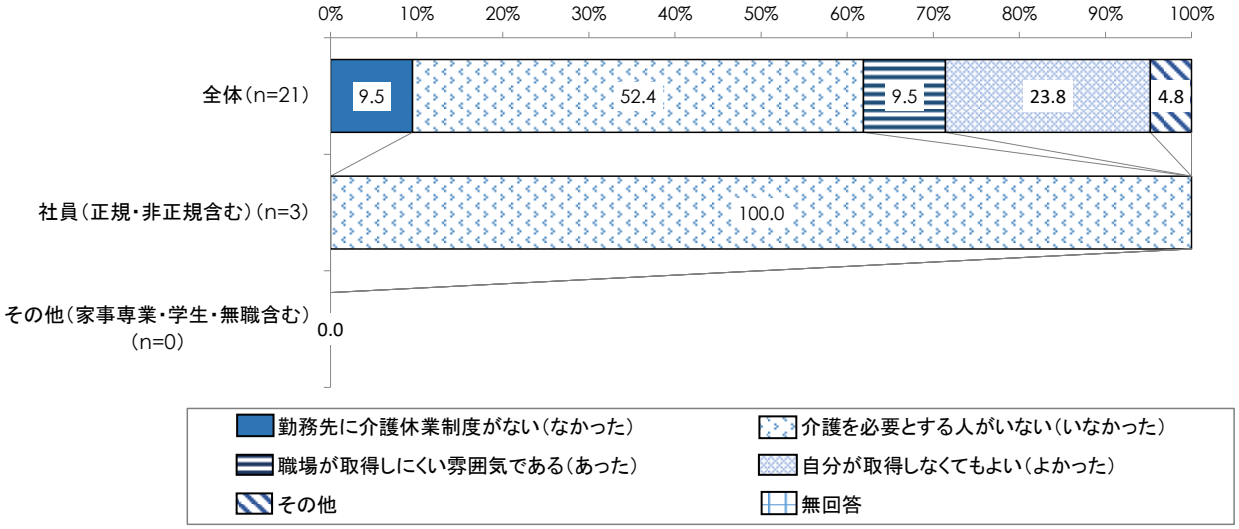
【 性別にみた介護休業を取得しなかった理由について 】



【 自身の職業別にみた介護休業を取得しなかった理由について 】



【 配偶者の職業別にみた介護休業を取得しなかった理由について 】

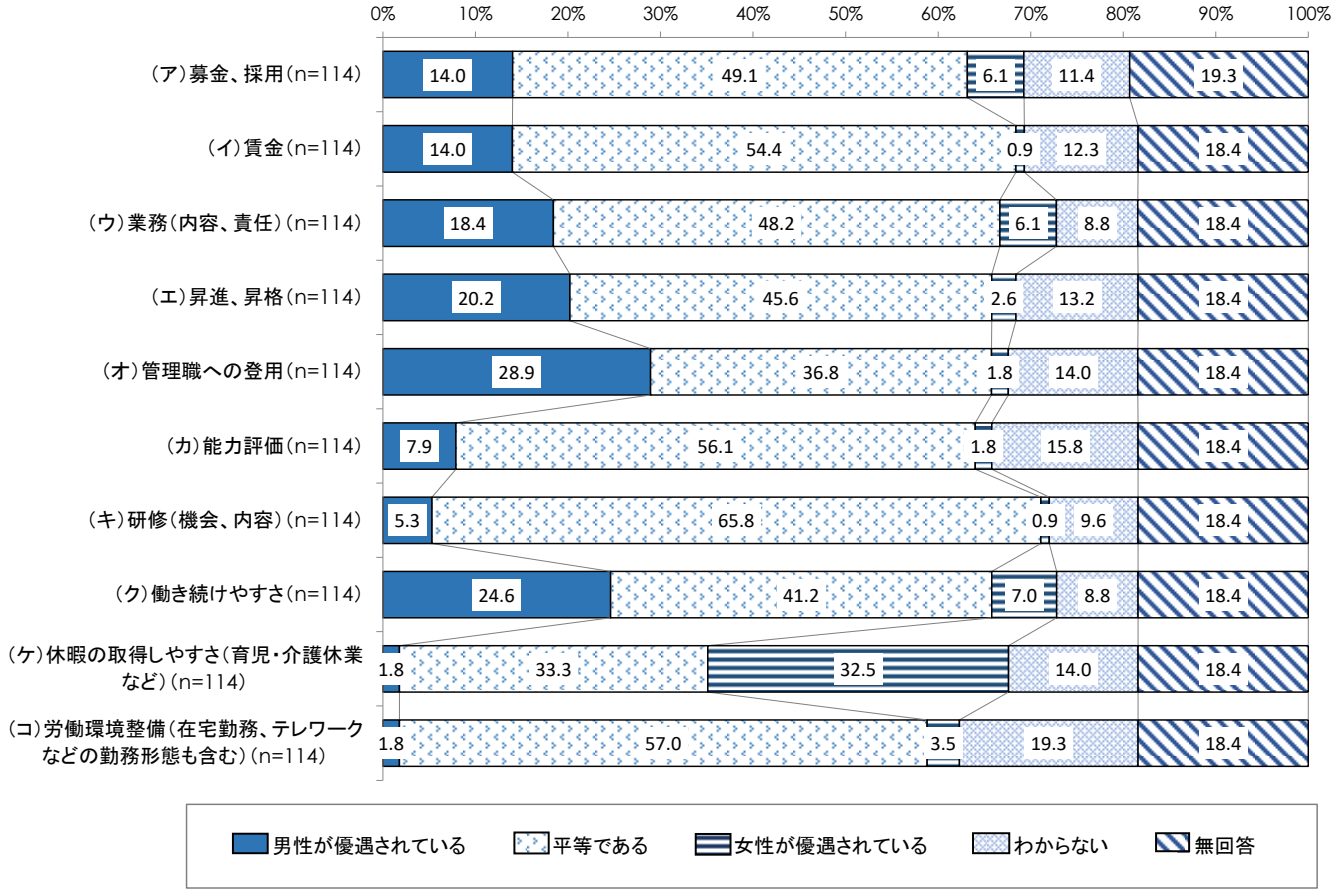


問 7. ≪就職している方、就職していた方にうかがいます≫ →そのほかの方は問9へ
あなたの今の職場、あるいは元の職場では、次の(ア)から(コ)までの項目について、性別によって差がある(あった)と思いますか。(○は各項目1つずつ)

【全体】

今の職場、あるいは元の職場で性別による差がある（あった）と思うことをみると、「男性が優遇されている」は「(オ) 管理職への登用」28.9%の割合が最も高く、次いで「(ク) 働き続けやすさ」24.6%、「(エ) 昇進、昇格」20.2%の順となっています。「女性が優遇されている」は「(ケ) 休暇の取得しやすさ（育児・介護休業など)」32.5%の割合が最も高くなっていますが、他の項目においてはいずれも 10%未満と低くなっています。

【 職場で性別による差がある（あった）と思うことについて 】



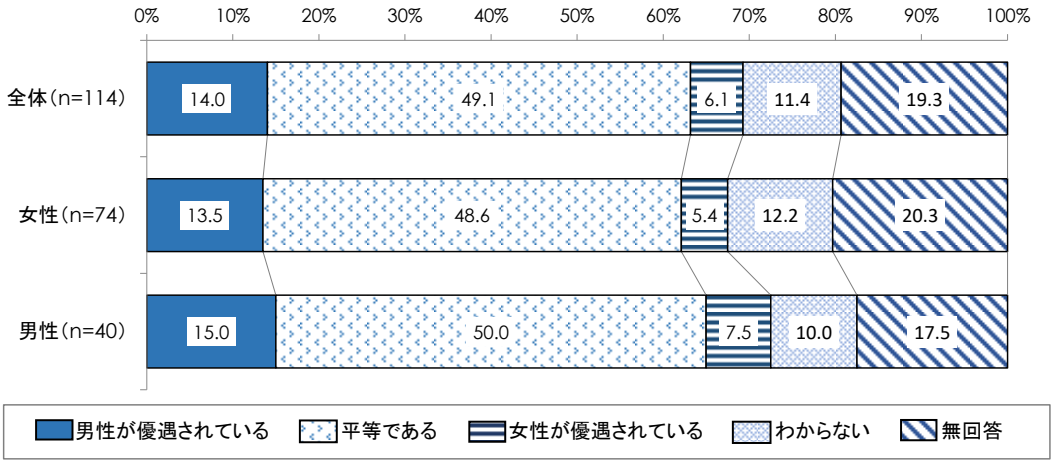
ア　募集、採用

募集、採用についてみると、「平等である」49.1%の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」14.0%、「わからない」11.4%の順となっています。

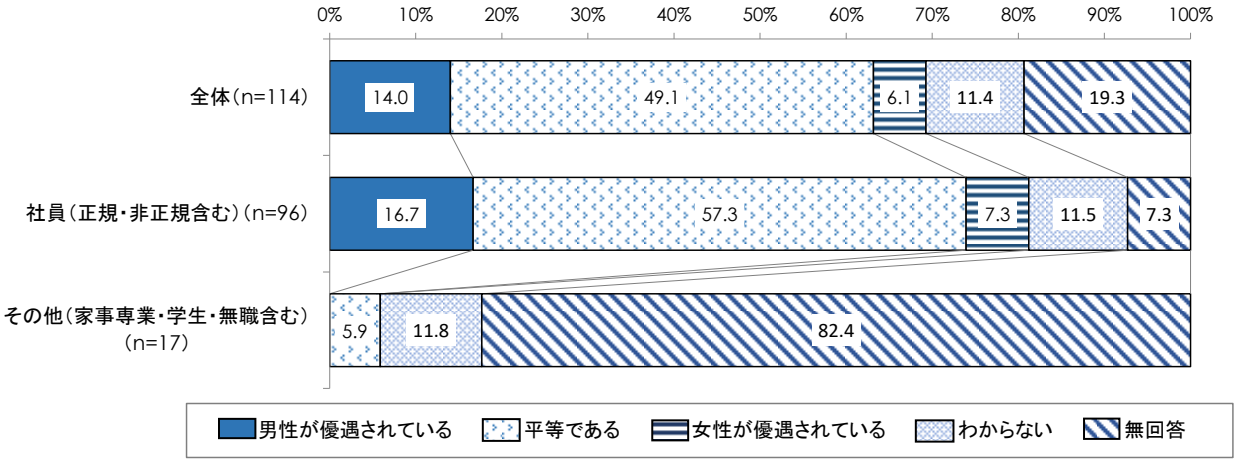
性別にみると、男女ともに「平等である」の割合が高くなっています。

自身の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では「平等である」が５割を超えて高くなっています。

【 性別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(ア 募金、採用）】



【 自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(ア 募金、採用）】



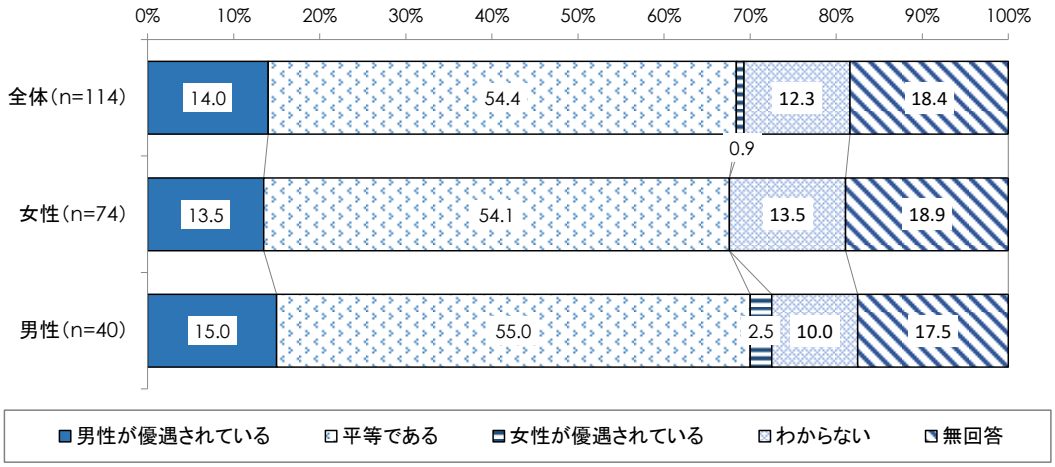
イ 賃金

賃金についてみると、「平等である」54.4%の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」14.0%、「わからない」12.3%の順となっています。

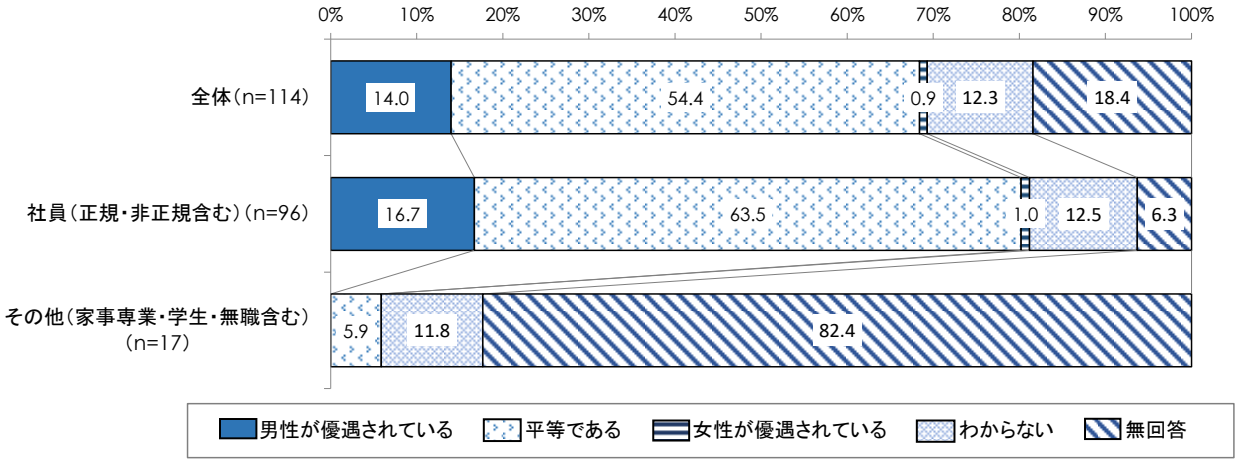
性別にみると、男女ともに「平等である」の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」、「わからない」が続いています。

自身の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では「平等である」が６割を超えて最も高くなっていますが、「男性が優遇されている」も 16.7%と１割を超えています。

【 性別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(イ 賃金) 】



【 自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(イ 賃金) 】



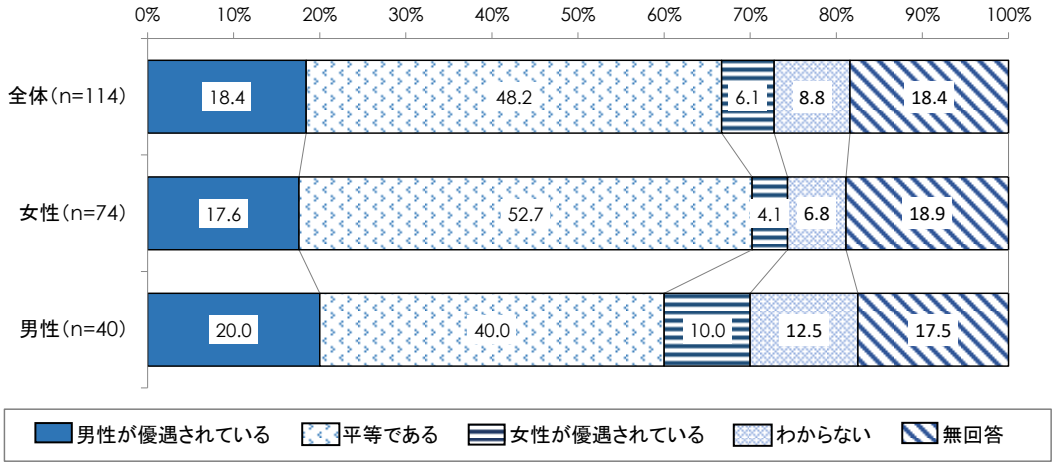
ウ 業務(内容、責任)

業務（内容、責任）についてみると、「平等である」48.2%の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」18.4%、「わからない」8.8%の順となっています。

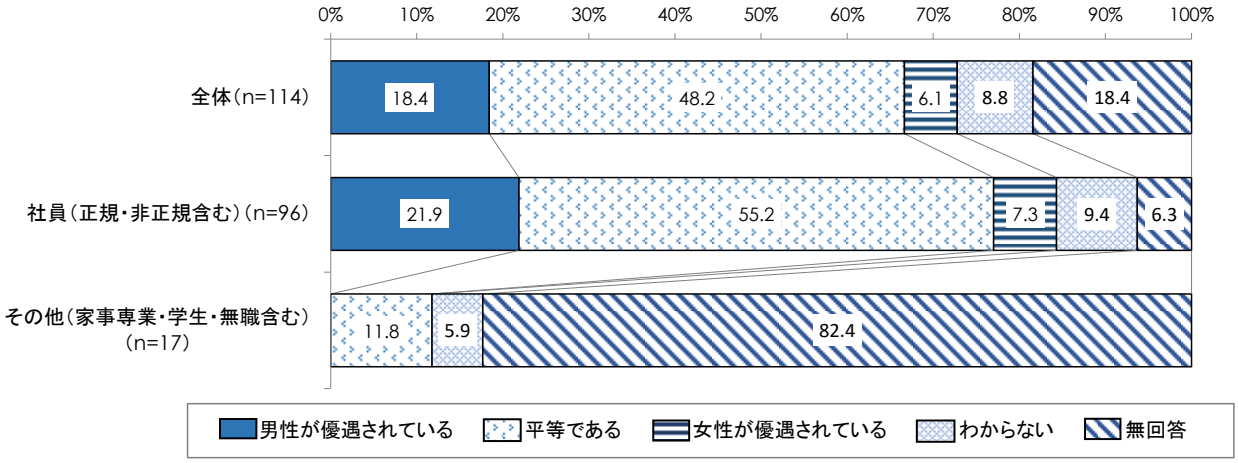
性別にみると、男女ともに「平等である」の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」が続いています。

自身の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では「平等である」が５割を超えて最も高くなっていますが、「男性が優遇されている」も21.9%と２割を超えています。

【 性別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(ウ 業務(内容、責任)) 】



【 自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(ウ 業務(内容、責任)) 】



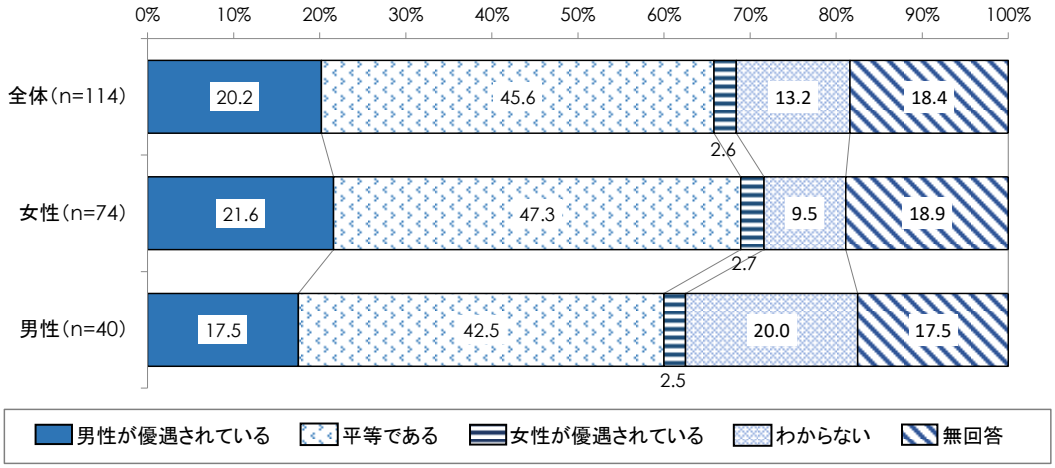
エ　昇進、昇格

昇進、昇格についてみると、「平等である」45.6%の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」20.2%、「わからない」13.2%の順となっています。

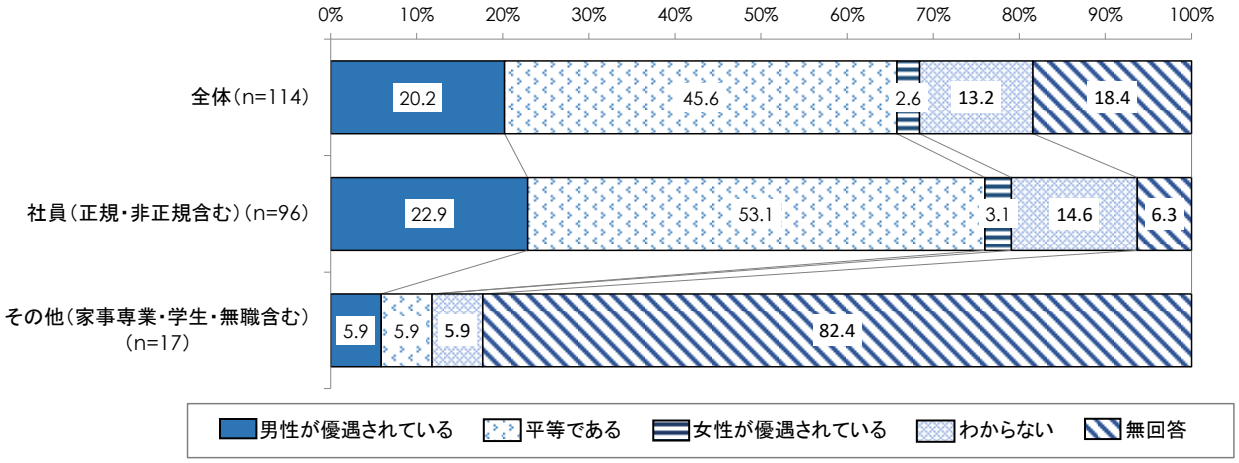
性別にみると、男女ともに「平等である」の割合が最も高く、次いで男性では「わからない」、女性では「男性が優遇されている」が続いています。

自身の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では「平等である」が５割を超えて最も高くなっていますが、「男性が優遇されている」も 22.9%と２割を超えています。

【 性別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(エ 昇進、昇格）】



【 自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(エ 昇進、昇格）】



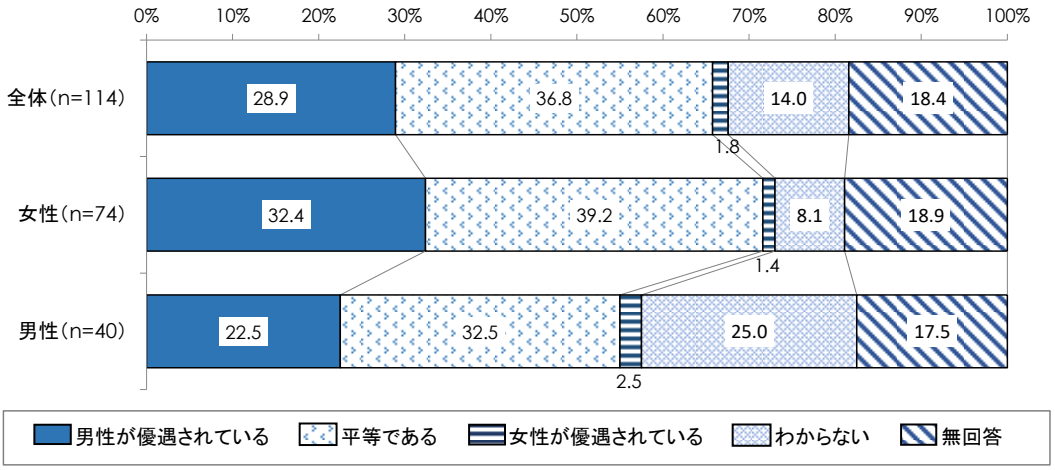
オ　管理職への登用

管理職への登用についてみると、「平等である」36.8%の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」28.9%、「わからない」14.0%の順となっています。

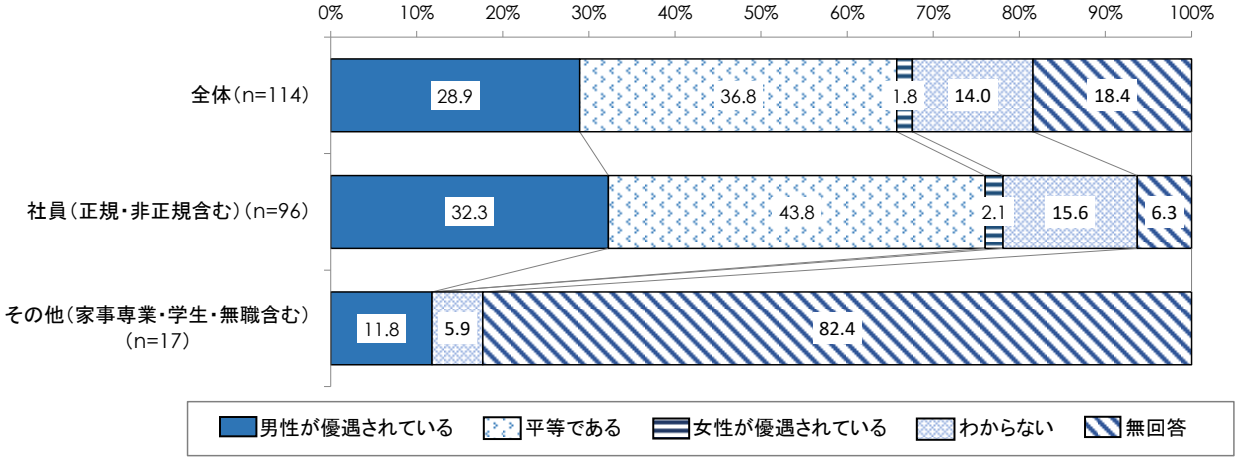
性別にみると、女性では「男性が優遇されている」の割合が男性に比べて9.9ポイント高くなっています。

自身の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では「平等である」が4割を超えて最も高くなっていますが、「男性が優遇されている」も32.3%と3割を超えています。

【 性別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて（オ 管理職への登用）】



【 自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて（オ 管理職への登用）】



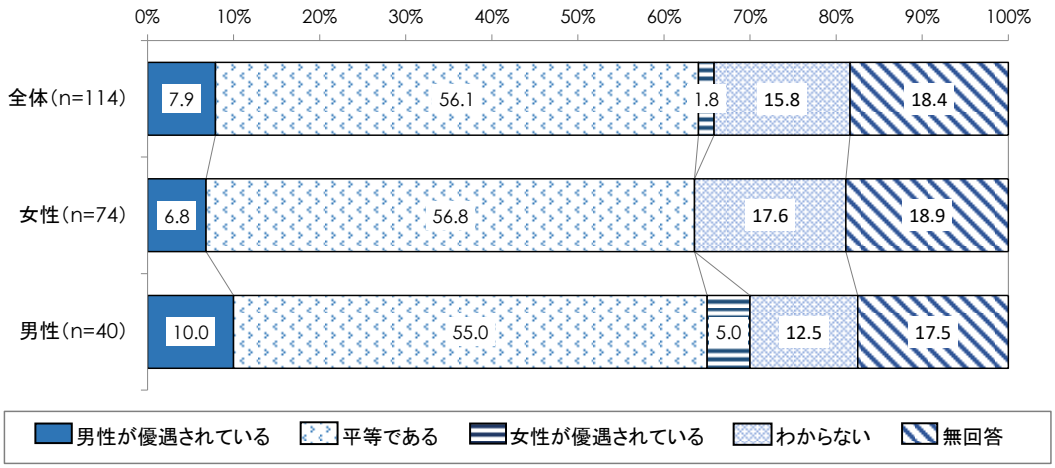
カ 能力評価

能力評価についてみると、「平等である」56.1%の割合が最も高く、次いで「わからない」15.8%、「男性が優遇されている」7.9%の順となっています。

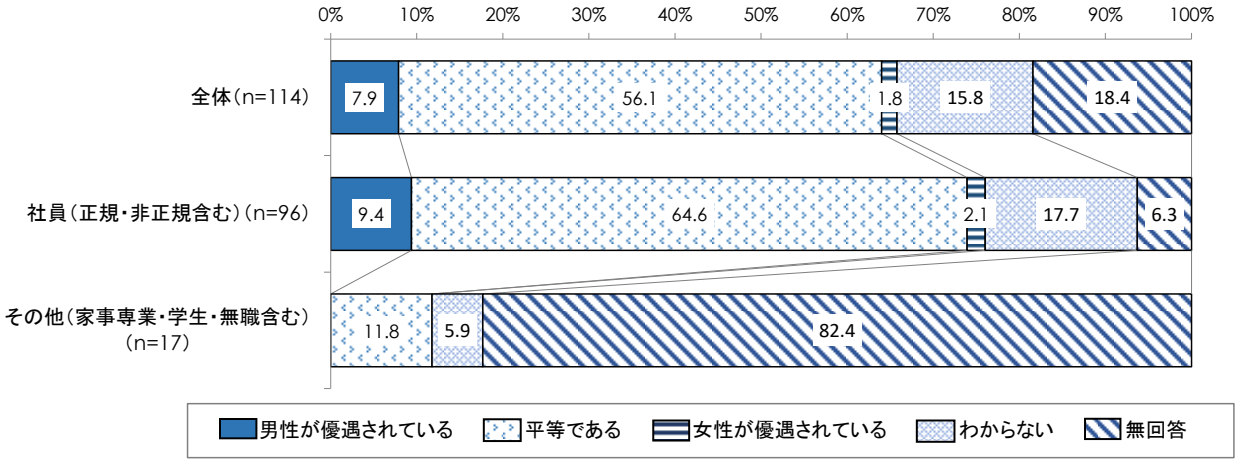
性別にみると、男女ともに「平等である」の割合が高くなっています。

自身の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では「平等である」が6割を超えて最も高くなっています。「男性が優遇されている」では9.4%と、その他（家事専業・学生・無職含む）に比べて割合が高くなっています。

【 性別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(カ 能力評価) 】



【 自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(カ 能力評価) 】



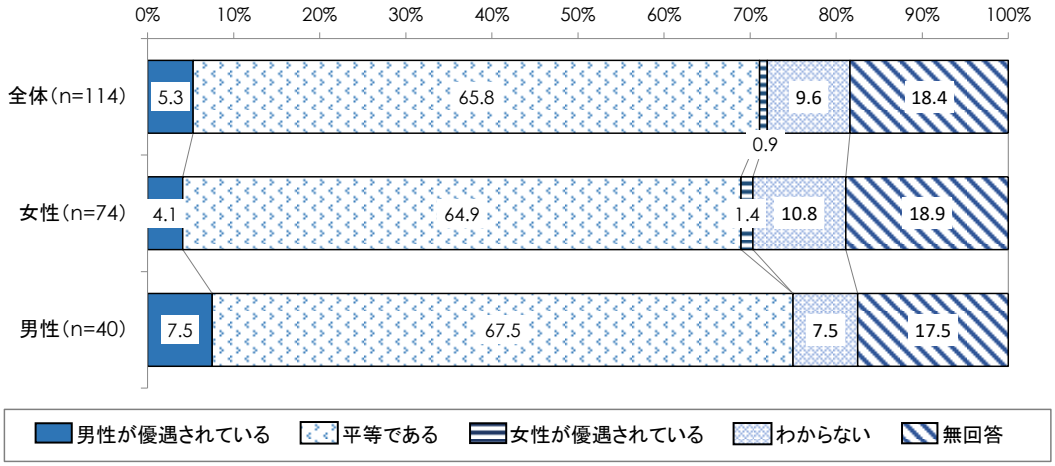
キ　研修(機会、内容)

職場での研修（機会、内容）についてみると、「平等である」65.8%の割合が最も高く、次いで「わからない」9.6%、「男性が優遇されている」5.3%の順となっています。

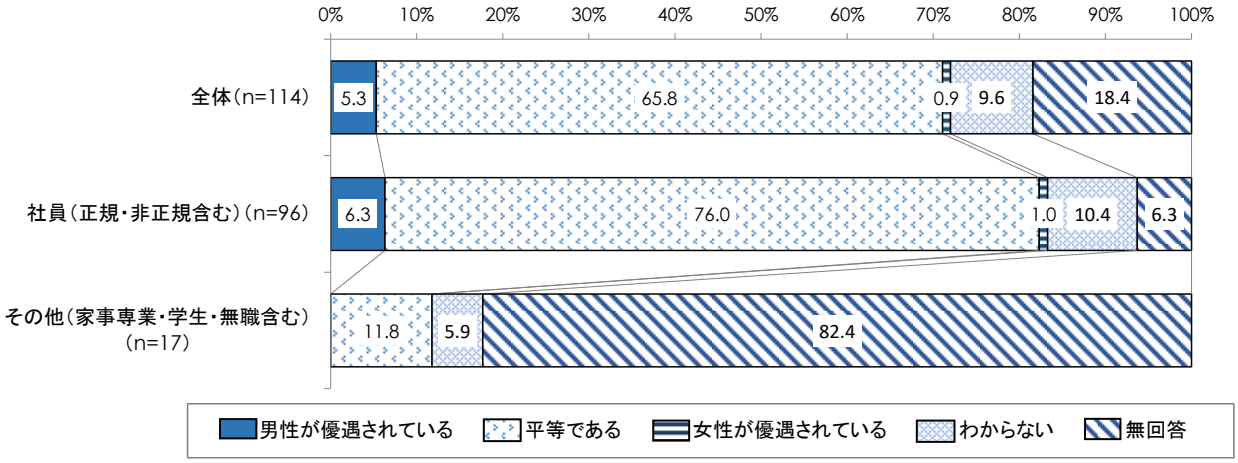
性別にみると、男女ともに「平等である」の割合が最も高く、６割を超えています。

自身の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では「平等である」が７割を超えて最も高くなっています。「男性が優遇されている」では6.3%と、その他（家事専業・学生・無職含む）に比べて割合が高くなっています。

【 性別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(キ 職場での研修(機会、内容)) 】



【 自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(キ 職場での研修(機会、内容)) 】



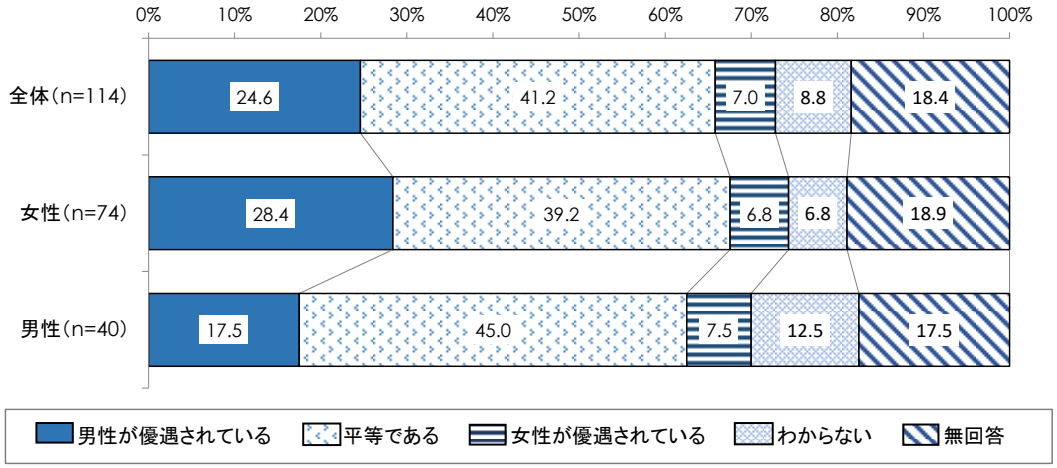
ク 働き続けやすさ

働き続けやすさについてみると、「平等である」41.2%の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」24.6%、「わからない」8.8%の順となっています。

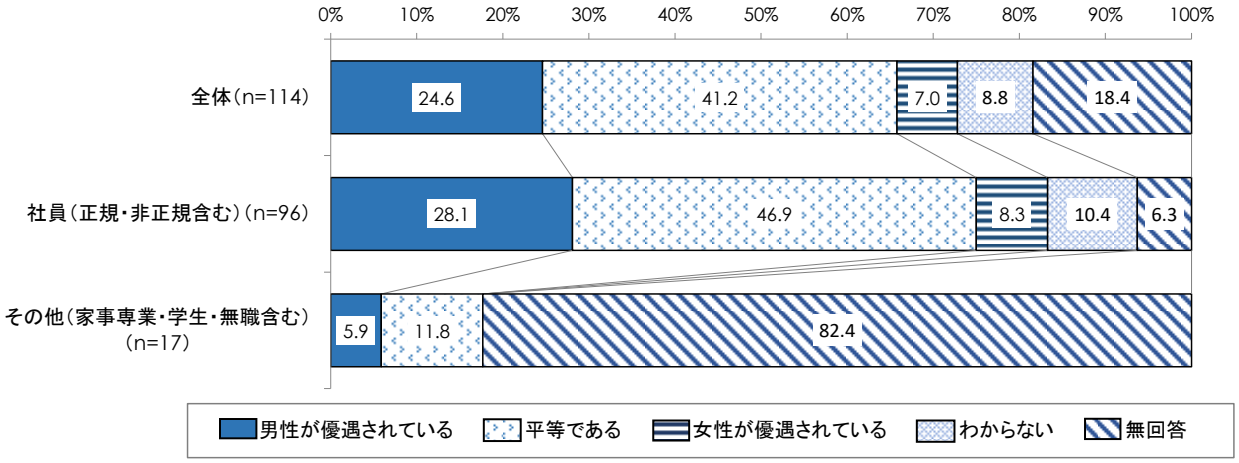
性別にみると、男女ともに「平等である」の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」が続いています。

自身の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では「平等である」が４割を超えて最も高くなっていますが、「男性が優遇されている」も 28.1%と２割を超えています。

【 性別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(ク 働き続けやすさ) 】



【 自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(ク 働き続けやすさ) 】



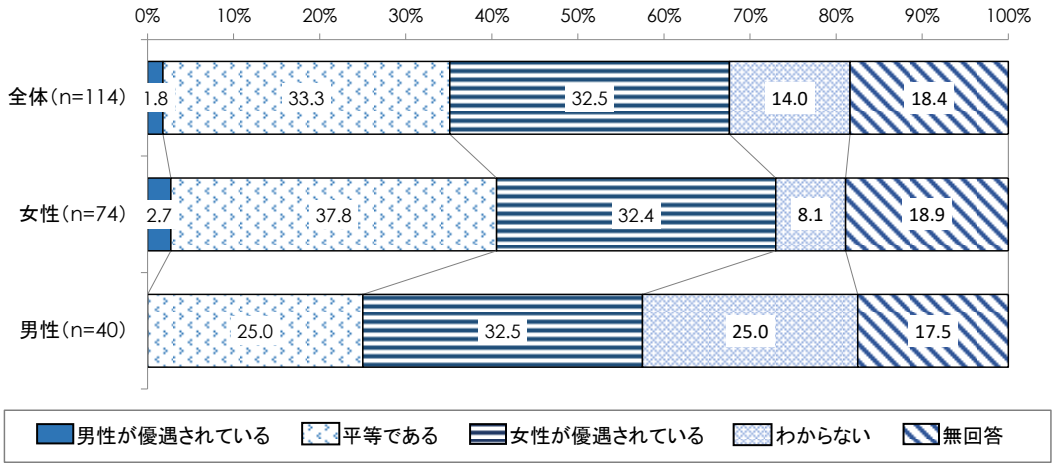
ケ　休暇の取得しやすさ（育児・介護休業など）

職場での休暇の取得しやすさ（育児・介護休業など）についてみると、「平等である」33.3%の割合が最も高く、次いで「女性が優遇されている」32.5%、「わからない」14.0%の順となっています。

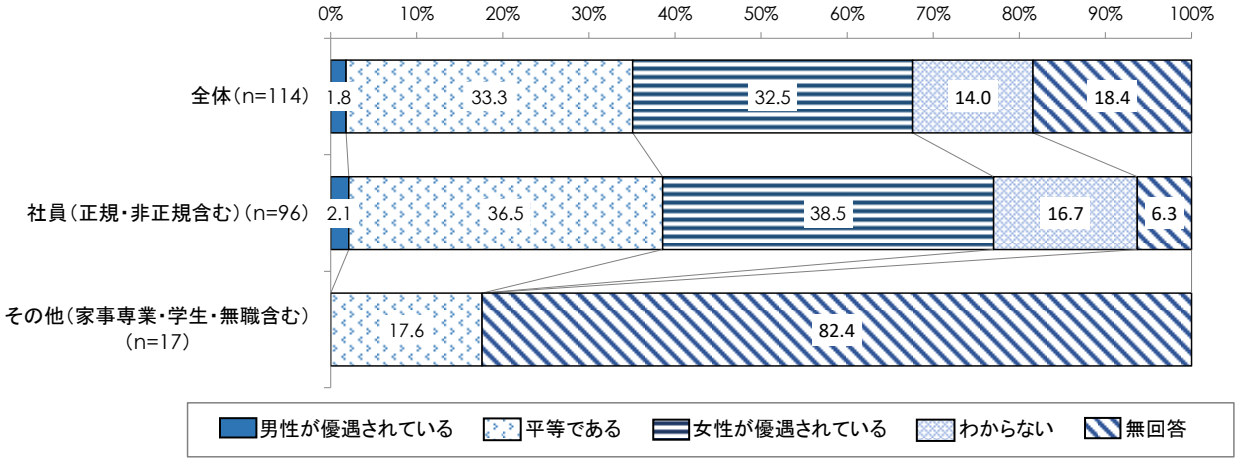
性別にみると、男性では「女性が優遇されている」、女性では「平等である」の割合が最も高くなっています。

自身の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では「女性が優遇されている」が３割を超えて高くなっています。

【 性別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて
（ケ 職場での休暇の取得しやすさ（育児・介護休業など））】



【 自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて
（ケ 職場での休暇の取得しやすさ（育児・介護休業など））】



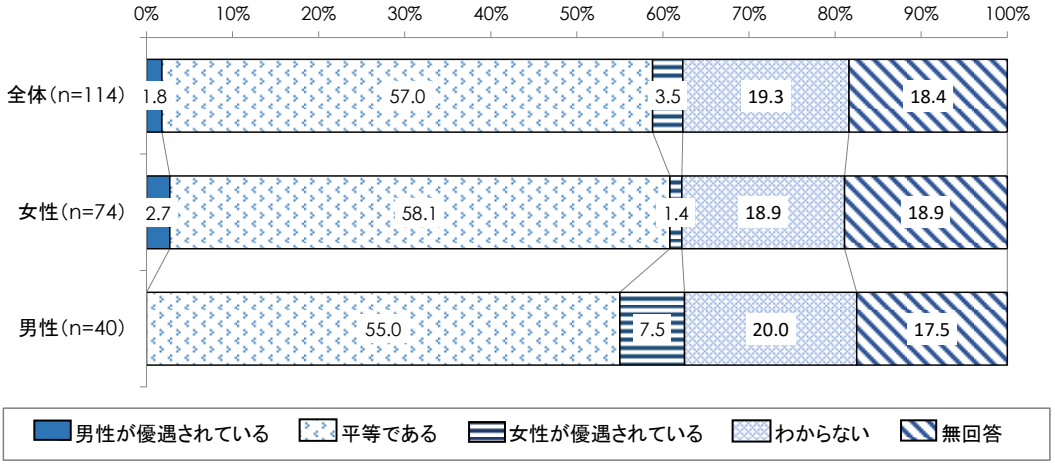
コ　労働環境整備（在宅勤務、テレワークなどの勤務形態も含む）

労働環境整備（在宅勤務、テレワークなどの勤務形態も含む）についてみると、「平等である」57.0%の割合が最も高く、次いで「わからない」19.3%、「女性が優遇されている」3.5%の順となっています。

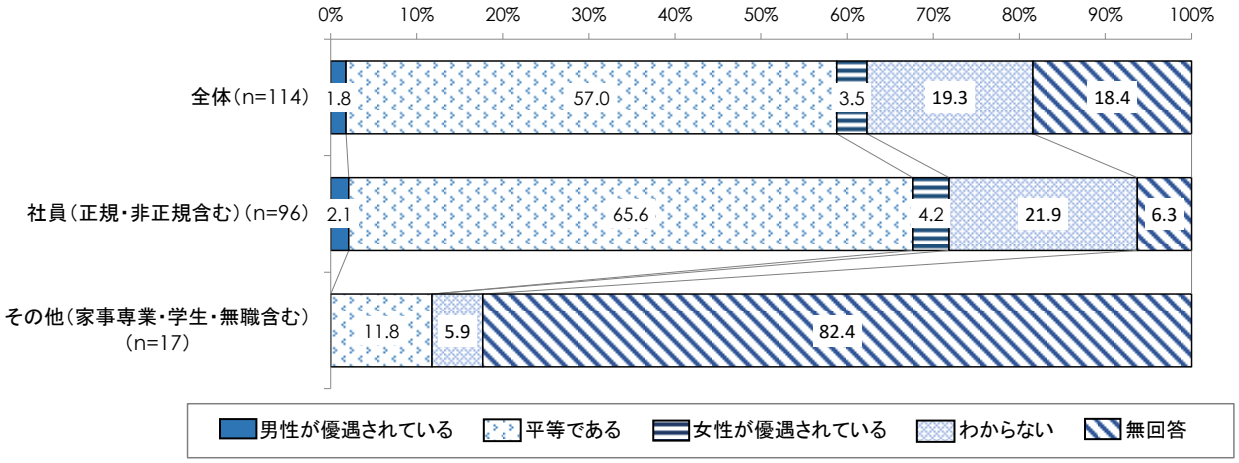
性別にみると、男女ともに「平等である」の割合が最も高く、次いで「わからない」が続いています。

自身の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では「平等である」が６割を超えて最も高くなっています。

【 性別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて
（コ　労働環境整備（在宅勤務、テレワークなどの勤務形態も含む））】



【 自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて
（コ　労働環境整備（在宅勤務、テレワークなどの勤務形態も含む））】



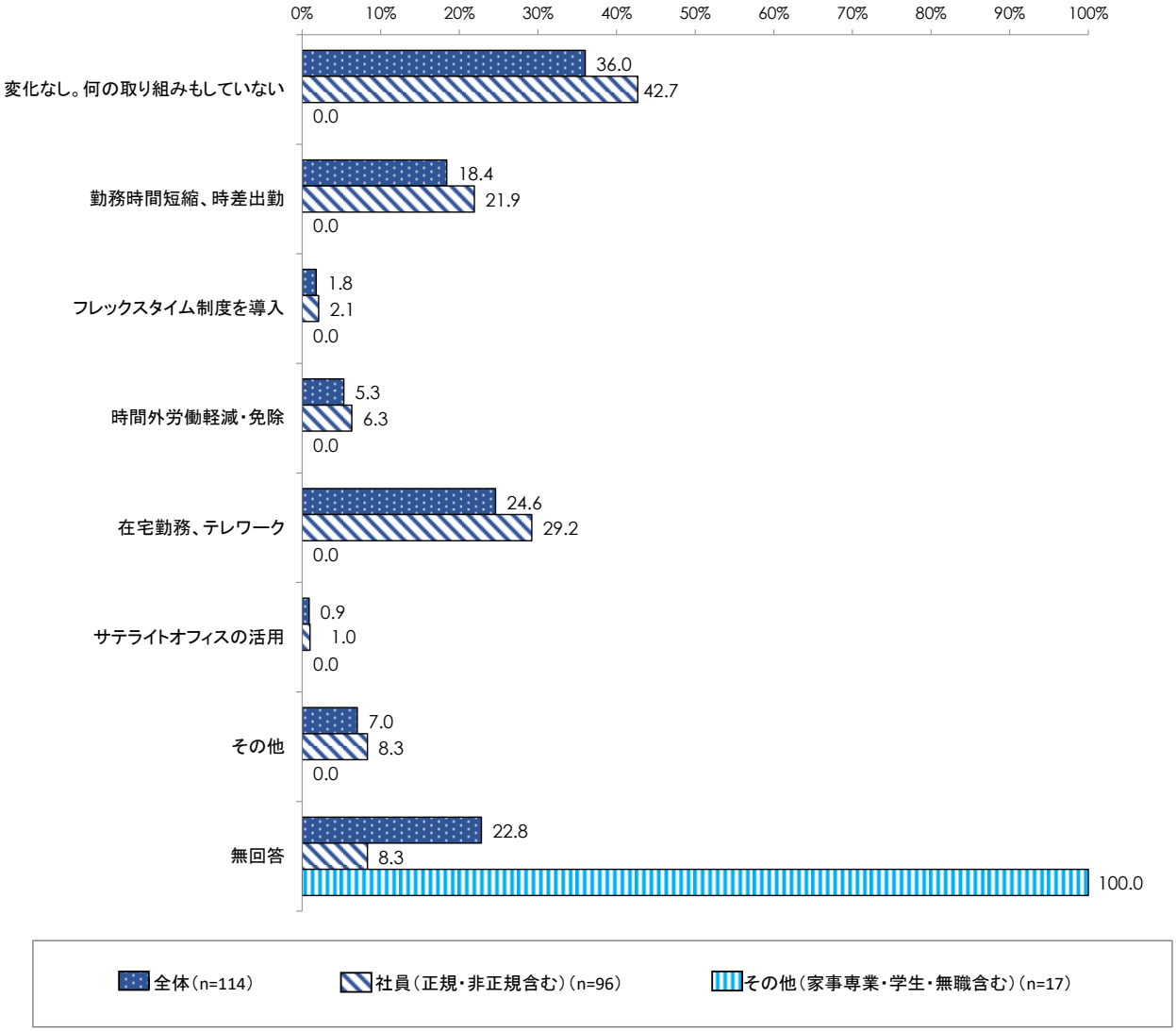
問 8. ≪就職している方にうかがいます≫ →そのほかの方は問9へ

今回の新型コロナウイルス感染症対策における自粛活動等の影響で、あなたの職場の働き方改革は進んだと感じますか。また、どのような取り組みをされていますか（されましたか）。（2以降はあてはまるものすべてに○を）

就職している方、就職していた方のうち、新型コロナウイルス感染症対策における自粛活動等の影響による働き方改革の進行状況をみると、「変化なし。何の取り組みもしていない」36.0%の割合が最も高く、次いで「在宅勤務、テレワーク」24.6%、「勤務時間短縮、時差出勤」18.4%の順となっています。

自身の職業別にみると、社員（正規・非正規含む）では全体と同様の傾向となっています。

【 自身の職業別にみた自身の職場の働き方改革について 】

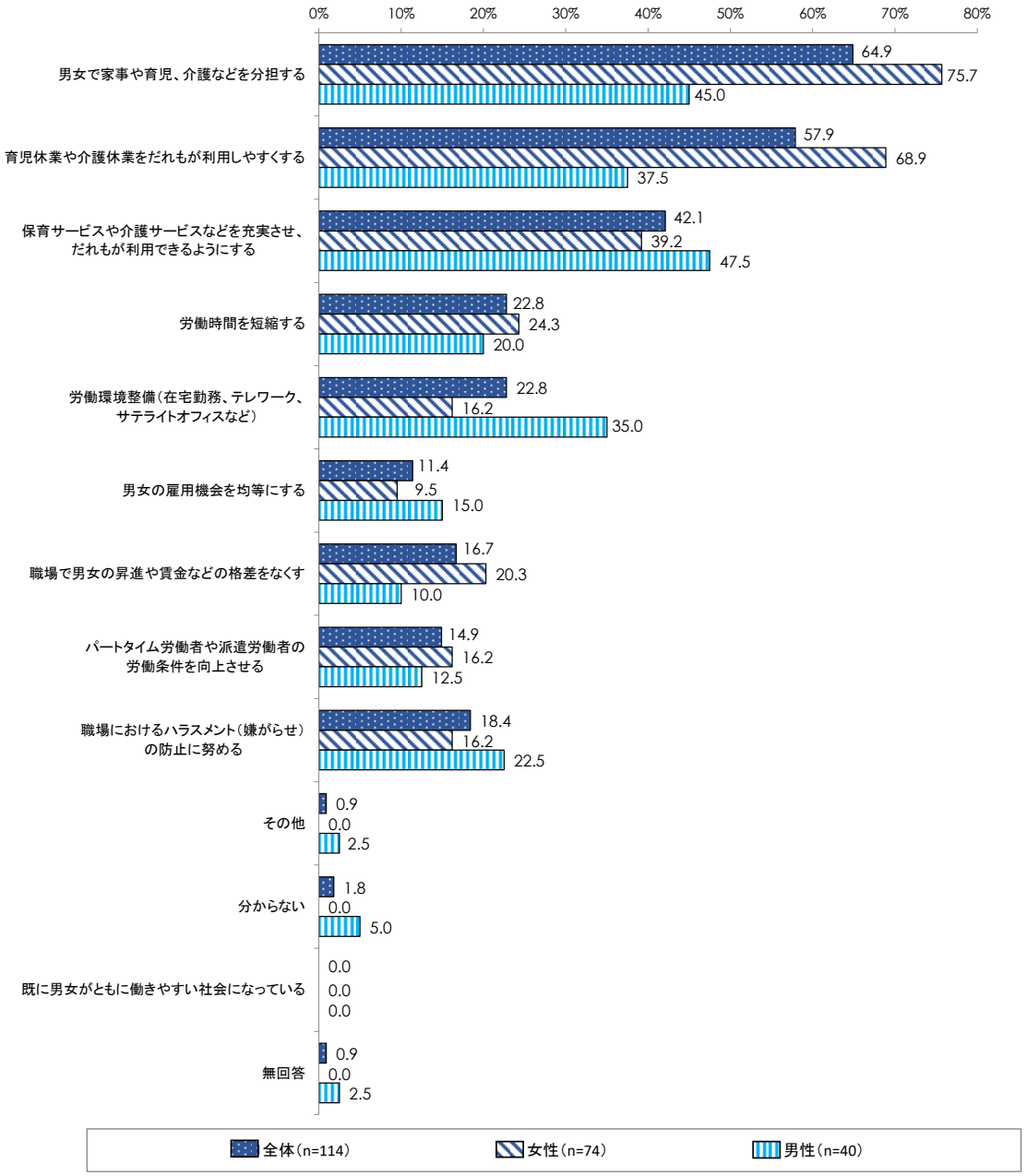


問 9. ≪全員にうかがいます≫
男女がともに働きやすい社会の環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
（○は特に必要だと思うものを3つまで）

男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うことについてみると、「男女で家事や育児、介護などを分担する」64.9%の割合が最も高く、次いで「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」57.9%、「保育サービスや介護サービスなどを充実させ、だれもが利用できるようにする」42.1%の順となっています。

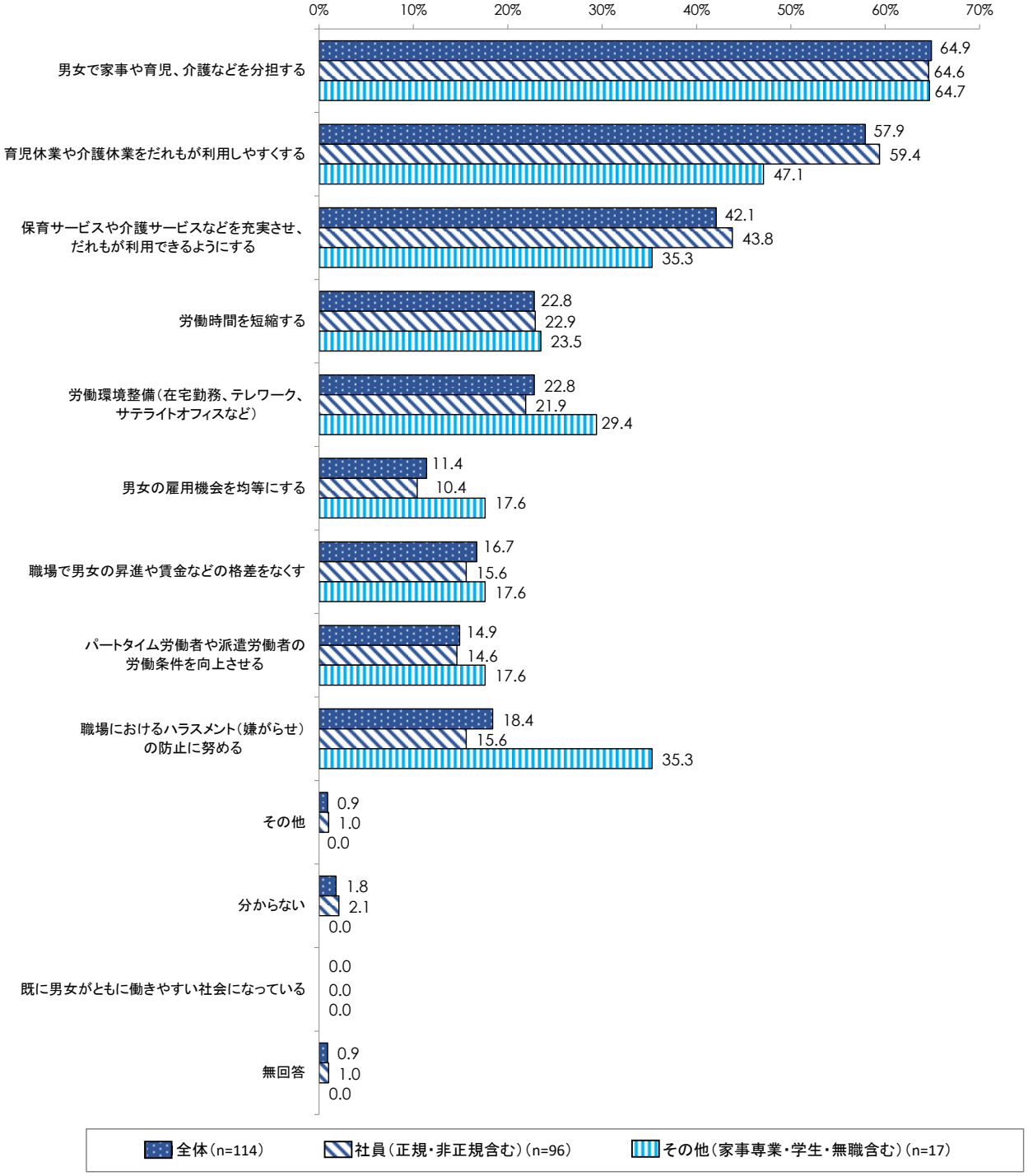
性別にみると、男性では「保育サービスや介護サービスなどを充実させ、だれもが利用できるようにする」、女性では「男女で家事や育児、介護などを分担する」の割合が最も高くなっています。

【 性別にみた男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うことについて 】



自分の職業別にみると、概ね同様の割合となっていますが、その他（家事専業・学生・無職含む）では「職場におけるハラスメント（嫌がらせ）の防止に努める」35.3%が社員（正規・非正規含む）15.6%より 19.7 ポイント高くなっています。

【 自身の職業別にみた男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うことについて 】



4 家庭生活、地域活動と、仕事とのかかわりについて

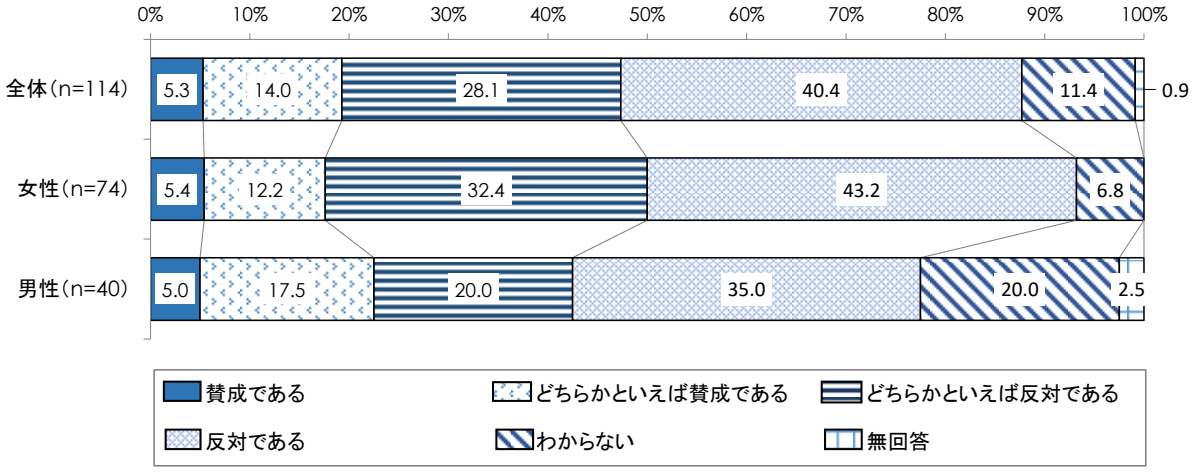
問 10.「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。（○は1つ）

「夫は外で働き、妻は家庭を守るできである」という考え方についてみると、「反対である」40.4%の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば反対である」28.1%、「どちらかといえば賛成である」14.0%、「わからない」11.4%の順となっています。

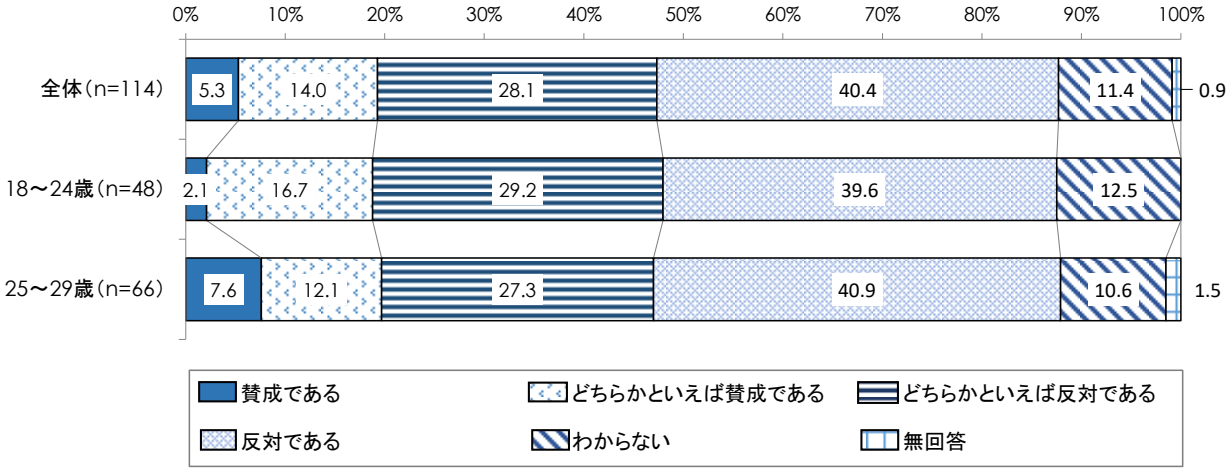
性別にみると、『賛成である』は男性では22.5%、女性では17.6%と男性が4.9ポイント高くなっています。

年代別にみると、『賛成である』は18～24歳では18.8%、25～29歳では19.7%となっており、「夫は外で働き、妻は家庭を守るできである」という考え方に6割以上の方は反対であるという結果となっています。

【 性別にみた「夫は外で働き、妻は家庭を守るできである」という考え方について 】



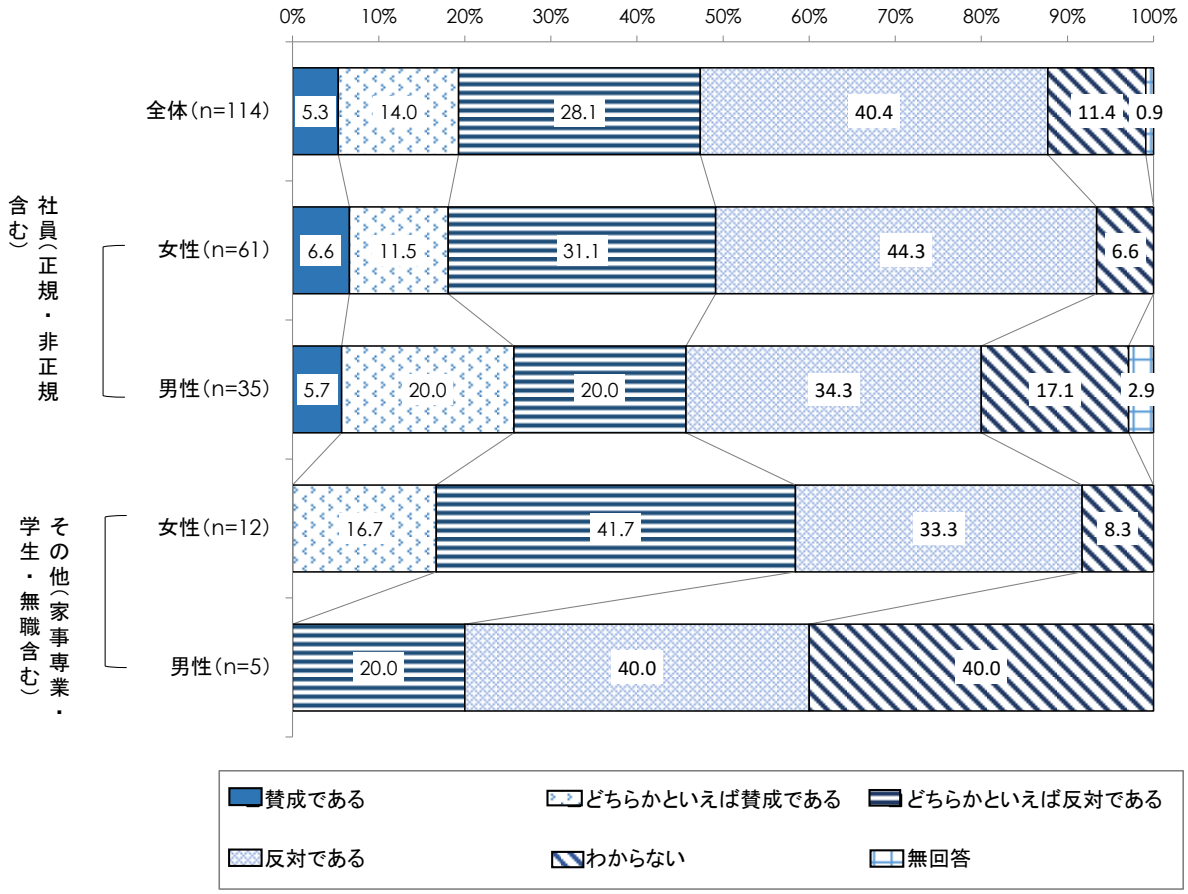
【 年代別にみた「夫は外で働き、妻は家庭を守るできである」という考え方について 】



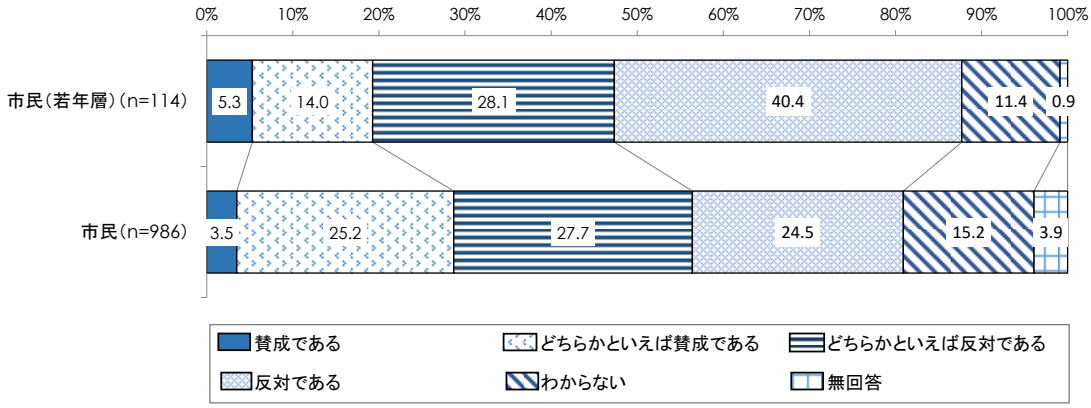
自身の職業別にみると、いずれも『反対である』が５割を超えており、自身の職業に関係なく「夫は外で働き、妻は家庭を守るできである」という考え方に反対であるという結果となっています。

市民調査と比較すると、いずれも『反対である』が５割を超えており、市民、市民（若年層）に関係なく「夫は外で働き、妻は家庭を守るできである」という考え方に反対であるという結果となっています。

【 自身の職業別・性別にみた「夫は外で働き、妻は家庭を守るできである」という考え方について 】



【 市民調査と比較した「夫は外で働き、妻は家庭を守るできである」という考え方について 】



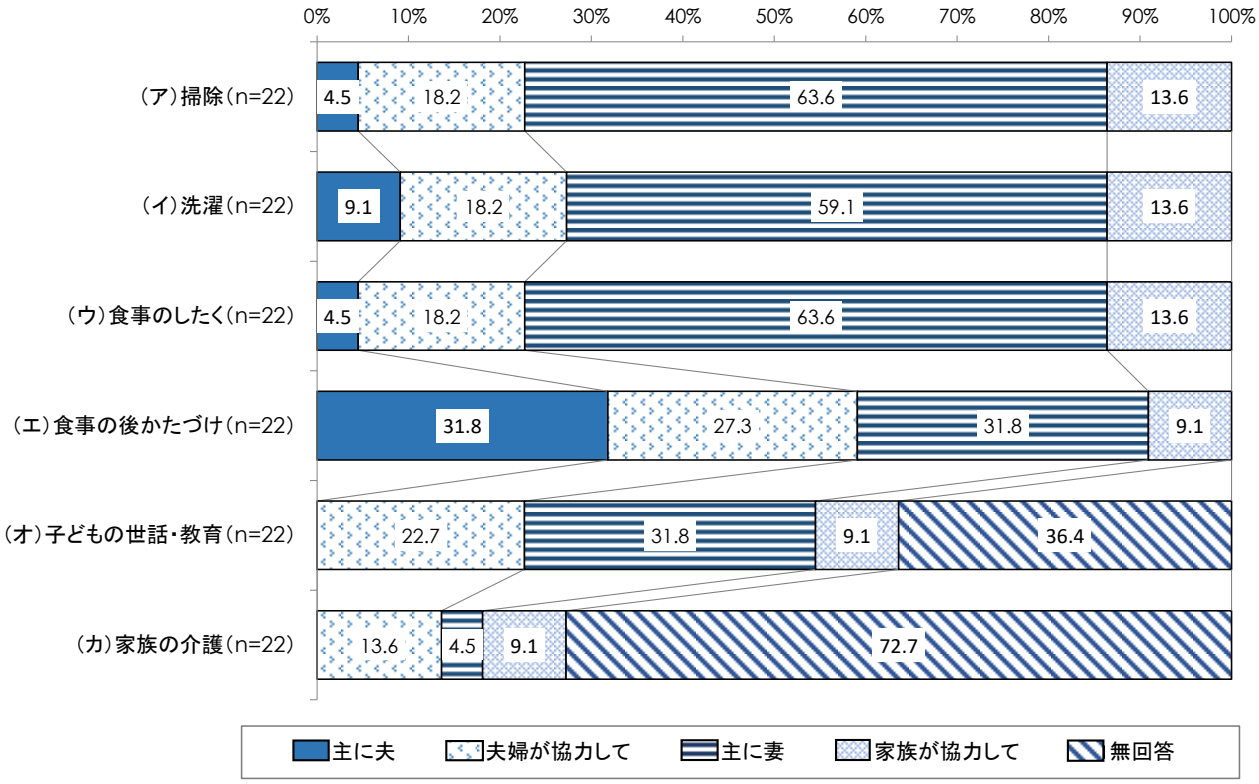
問 11. あなたの家庭では、(ア)から(カ)までの家事などはどなたがされていますか(今回の新型コロナウイルス感染症対策における自粛活動等の影響前後でお伺いします)。また、あなたの理想ではどのようにしたいと思いますか。(1)(2)は結婚(事実婚も含みます)している方で該当する項目のみ、(3)はすべての方がお答えください。(○は各項目1つずつ)

(1) コロナ影響前【1～2月頃】(結婚している方)

【全体】

結婚している方の家庭での家事などの役割分担についてみると、「主に夫」は「(エ) 食事の後かたづけ」を除くすべての項目で10%未満となっており、「主に妻」は「(カ) 家族の介護」を除く項目で3割を超えて高くなっています。

【 コロナ影響前：家事などの役割分担について 】



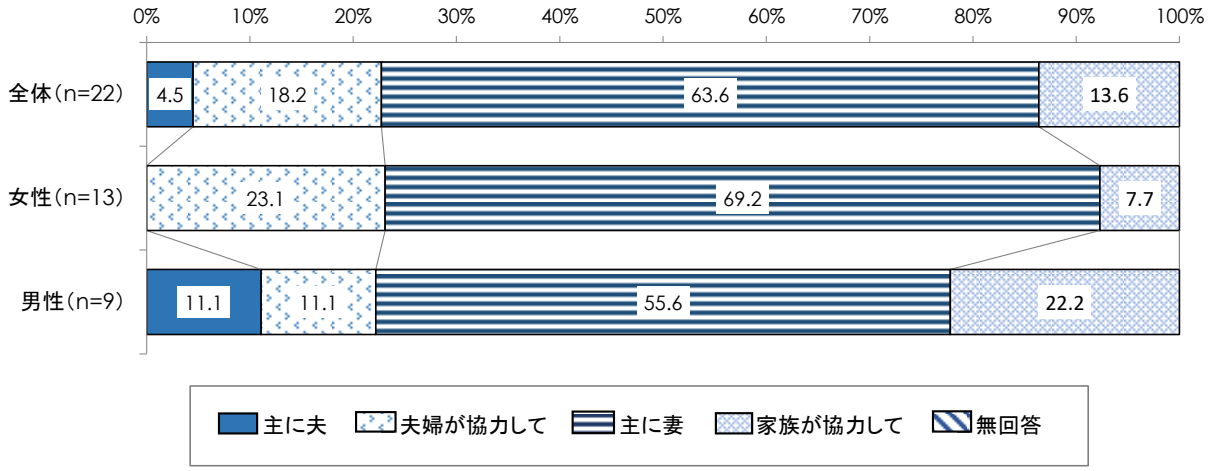
ア　掃除

掃除についてみると、「主に妻」63.6%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」18.2%、「家族が協力して」13.6%の順となっています。

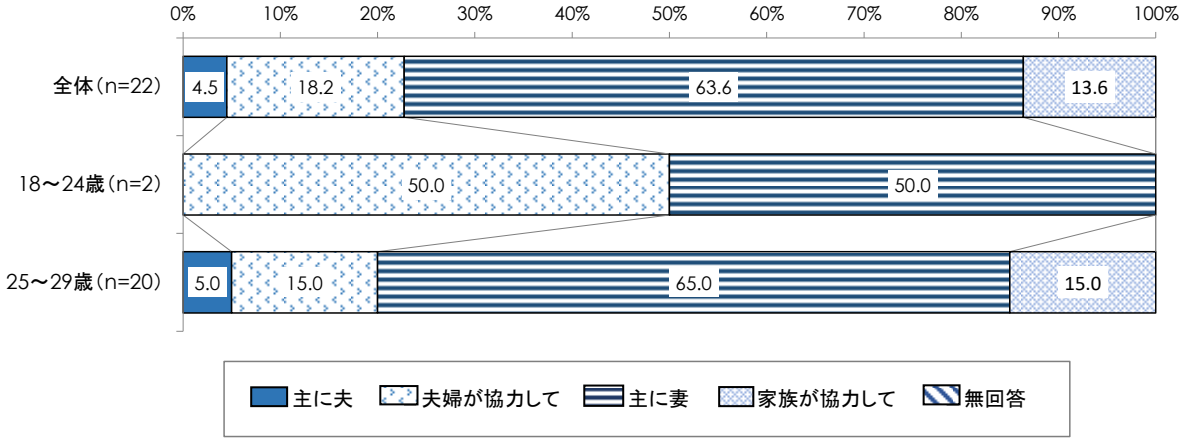
性別にみると、男女ともに「主に妻」の割合が最も高くなっており、「夫婦が協力して」は女性が男性より12ポイント高くなっています。

年代別にみると、18～24歳では「夫婦が協力して」、「主に妻」に回答が集まっていますが、25～29歳では「主に妻」の割合が最も高くなっており、年代が高くなるにつれ「主に妻」の役割だと考える人が増える傾向となっています。

【 コロナ影響前：性別にみた家事などの役割分担について（ア　掃除） 】



【 コロナ影響前：年代別にみた家事などの役割分担について（ア　掃除） 】



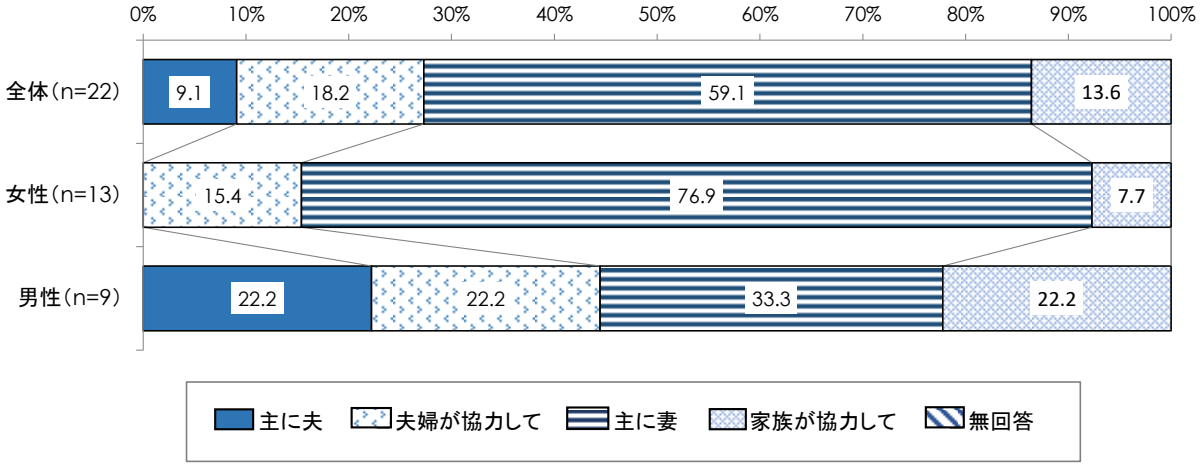
イ 洗濯

洗濯についてみると、「主に妻」59.1%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」18.2%、「家族が協力して」13.6%の順となっています。

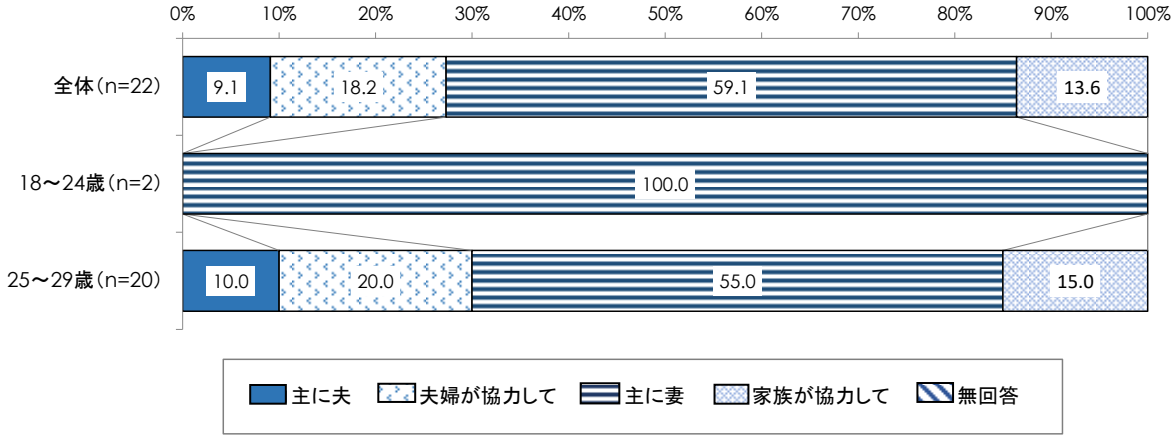
性別にみると、男女ともに「主に妻」の割合が最も高くなっており、次いで男性では「主に夫」、「夫婦が協力して」、「家族が協力して」、女性では「夫婦が協力して」が続いています。

年代別にみると、18～24 歳では「主に妻」が 100%を占めており、また 25～29 歳でも「主に妻」の割合が最も高くなっています。

【 コロナ影響前：性別にみた家事などの役割分担について（イ 洗濯） 】



【 コロナ影響前：性別にみた家事などの役割分担について（イ 洗濯） 】



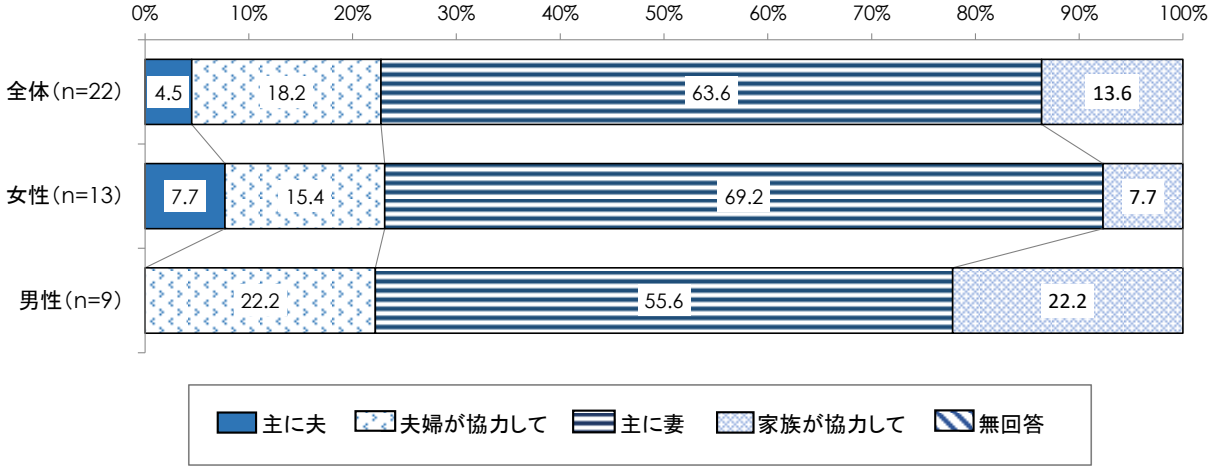
ウ　食事のしたく

食事のしたくについてみると、「主に妻」63.6%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」18.2%、「家族が協力して」13.6%の順となっています。

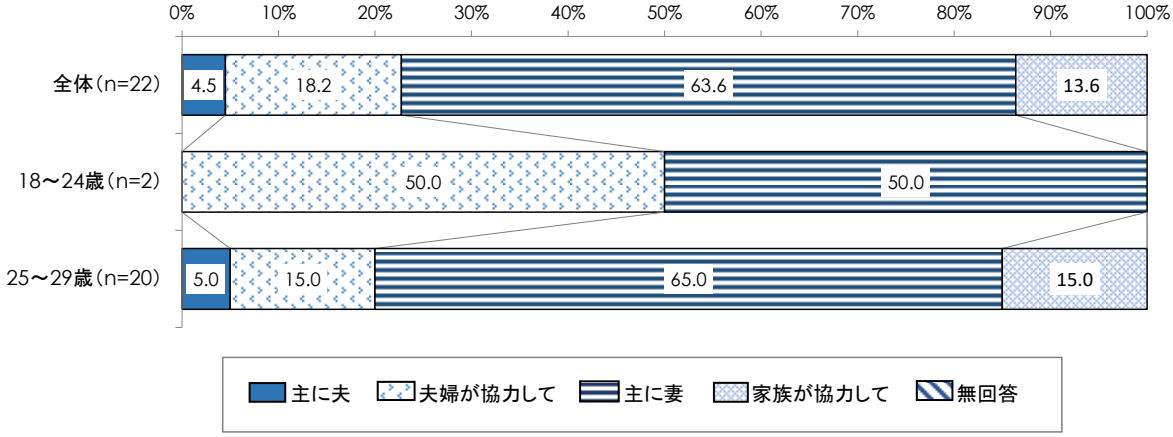
性別にみると、男女ともに「主に妻」の割合が最も高くなっており、次いで男性では「夫婦が協力して」、「家族が協力して」、女性では「夫婦が協力して」が続いています。

年代別にみると、18～24 歳では「夫婦が協力して」、「主に妻」に回答が集まっていますが、25～29 歳では「主に妻」の割合が最も高くなっており、年代が高くなるにつれ「主に妻」の役割だと考える人が増える傾向となっています。

【 コロナ影響前：性別にみた家事などの役割分担について（ウ 食事のしたく）】



【 コロナ影響前：年代別にみた家事などの役割分担について（ウ 食事のしたく）】



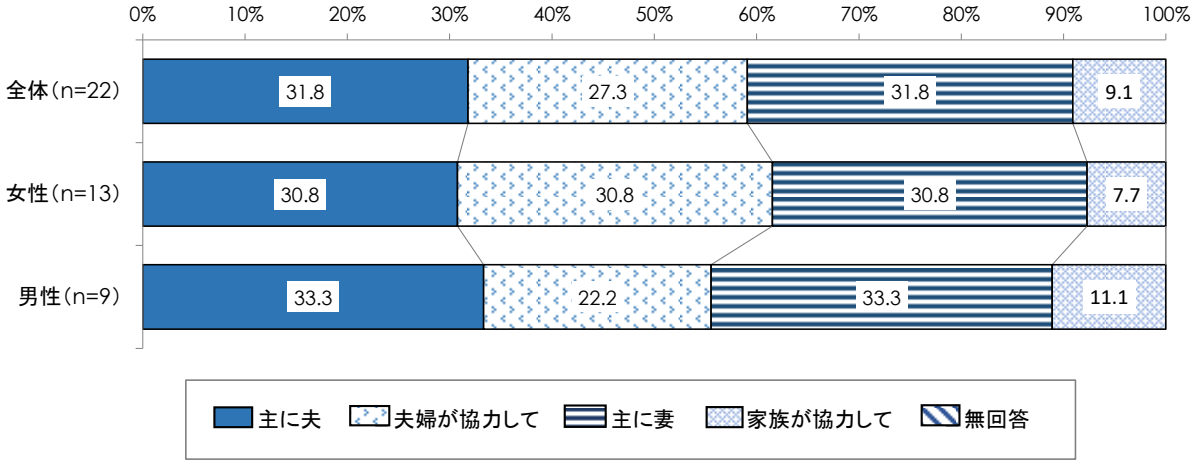
エ　食事の後かたづけ

食事の後かたづけについてみると、「主に夫」、「主に妻」31.8%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」27.3%、「家族が協力して」9.1%の順となっています。

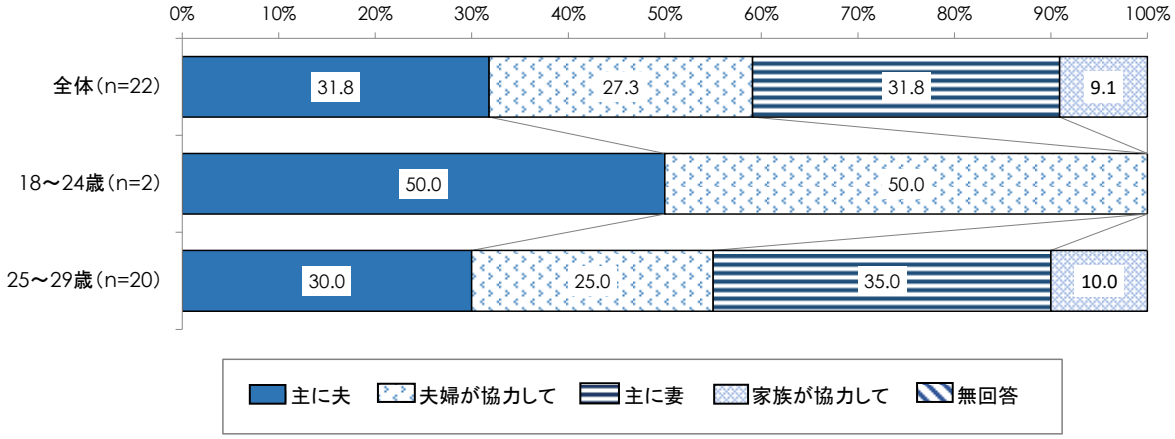
性別にみると、男性では「主に夫」、「主に妻」、女性では「主に夫」、「夫婦が協力して」、「主に妻」の割合が最も高くなっています。

年代別にみると、18～24 歳では「主に夫」、「夫婦が協力して」に回答が集まっており、25～29 歳では「主に妻」の割合が最も高くなっています。

【 コロナ影響前：性別にみた家事などの役割分担について（エ　食事の後かたづけ） 】



【 コロナ影響前：年代別にみた家事などの役割分担について（エ　食事の後かたづけ） 】



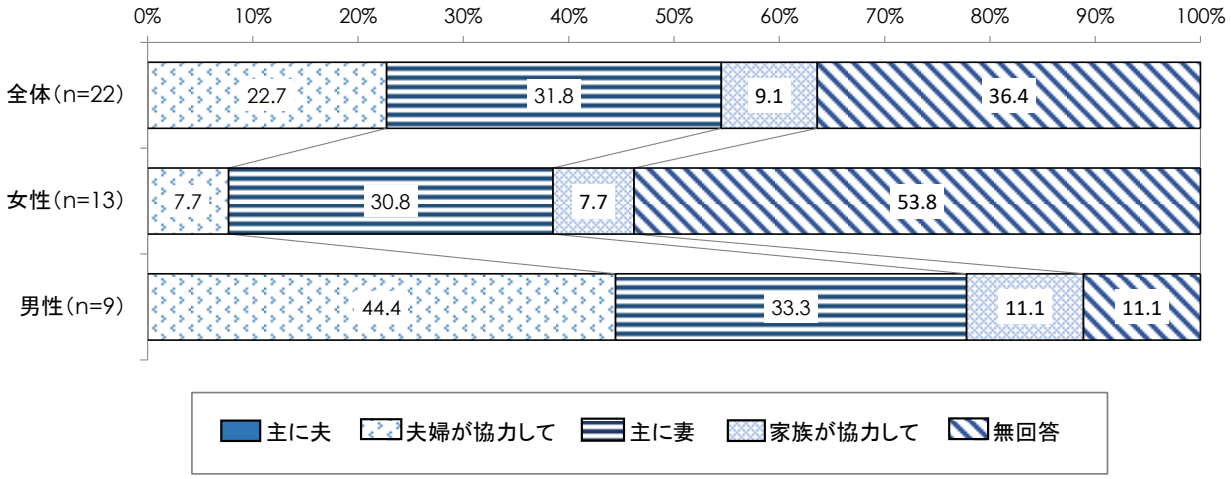
オ　子どもの世話･教育

子どもの世話･教育についてみると､｢主に妻｣31.8%の割合が最も高く､次いで｢夫婦が協力して｣22.7%､｢家族が協力して｣ 9.1%の順となっています。

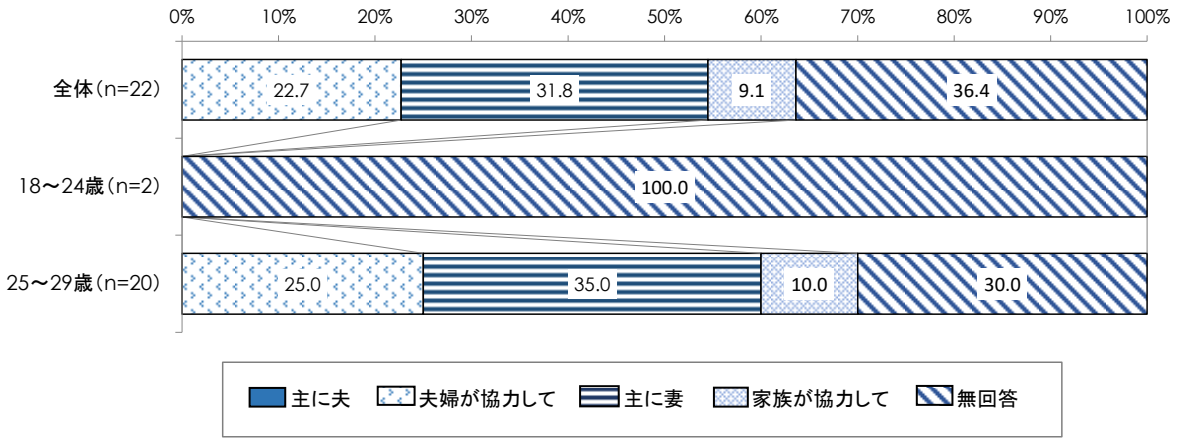
性別にみると、男性では「夫婦が協力して」、女性では「主に妻」と男女で育児に対する役割分担に対する意識の違いが見受けられます。

年代別にみると、25～29 歳では「主に妻」の割合が最も高くなっています。

【 コロナ影響前：性別にみた家事などの役割分担について（オ 子どもの世話・教育）】



【 コロナ影響前：性別にみた家事などの役割分担について（オ 子どもの世話・教育）】



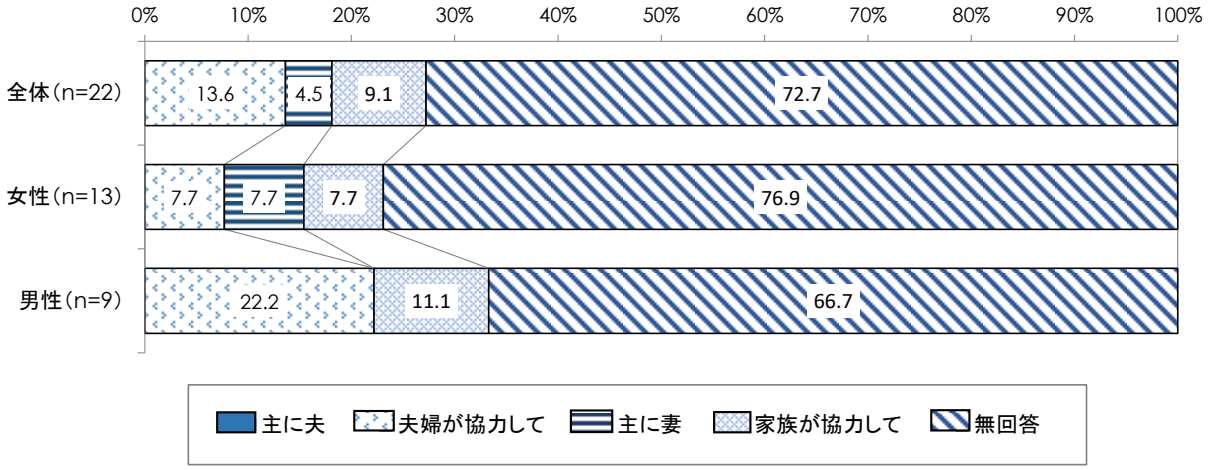
カ 家族の介護

家族の介護についてみると、「夫婦が協力して」13.6%の割合が最も高く、次いで「家族が協力して」9.1%、「主に妻」4.5%の順となっています。

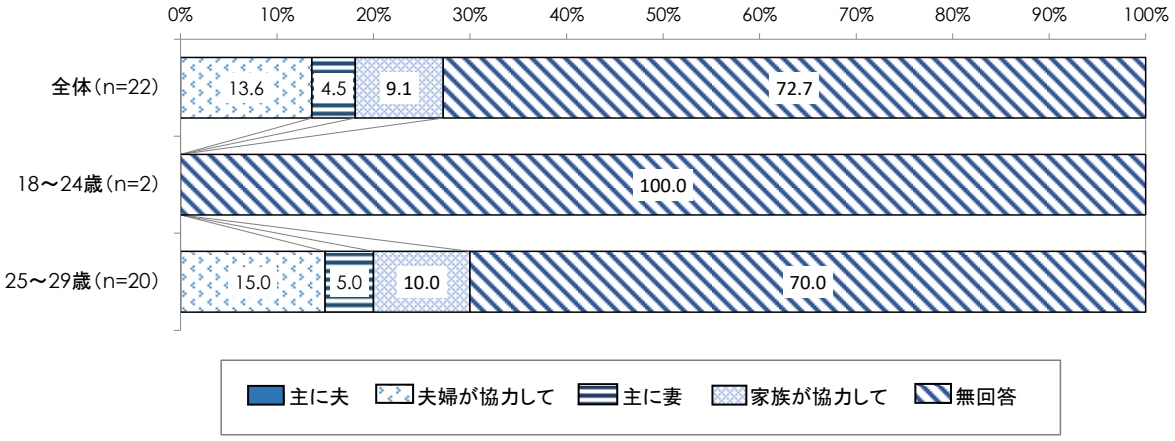
性別にみると、男性では「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

年代別にみると、25～29 歳では「夫婦が協力して」、「主に妻」、「家族が協力して」に回答が集まっています。

【 コロナ影響前：性別にみた家事などの役割分担について（カ 家族の介護） 】



【 コロナ影響前：年代別にみた家事などの役割分担について（カ 家族の介護） 】

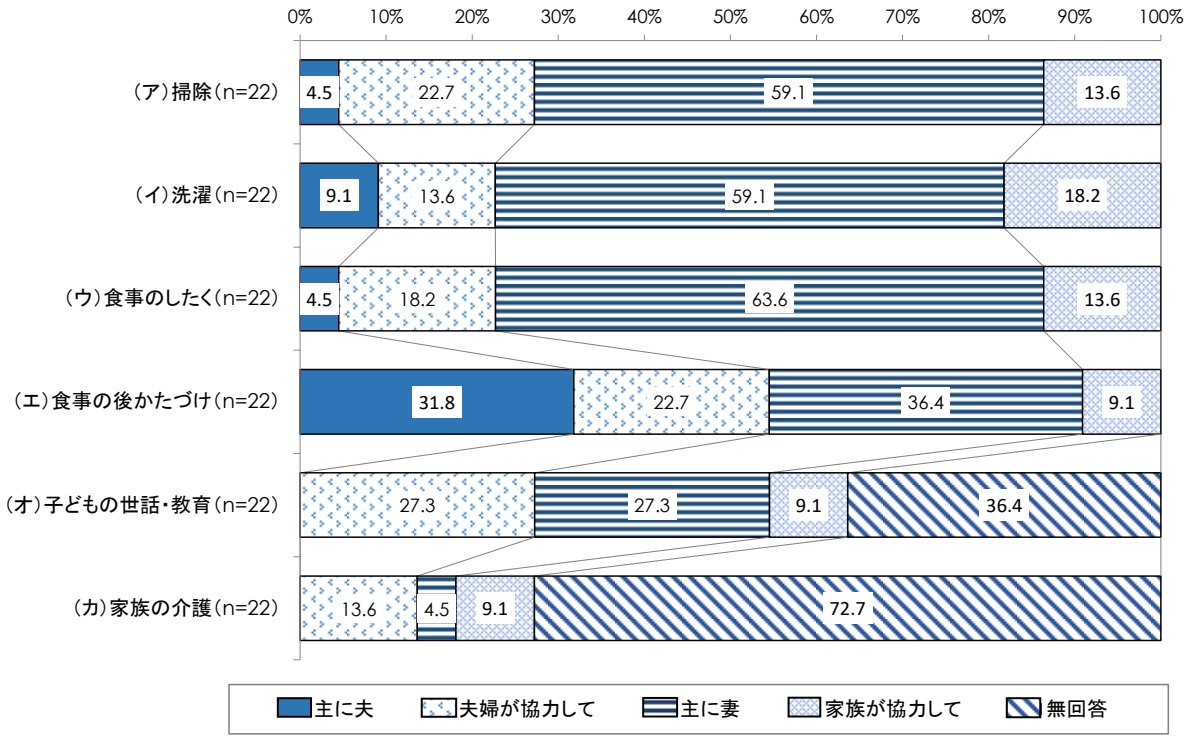


（2）コロナ影響後【4～5月頃】（結婚している方）

【全体】

結婚している方の家庭での家事などの役割分担についてみると、「(カ) 家族の介護」を除く項目で「主に妻」の割合が高くなっています。また、「(エ) 食事の後かたづけ」では「主に夫」の割合が３割を超えています。

【 コロナ影響後：家事などの役割分担について 】



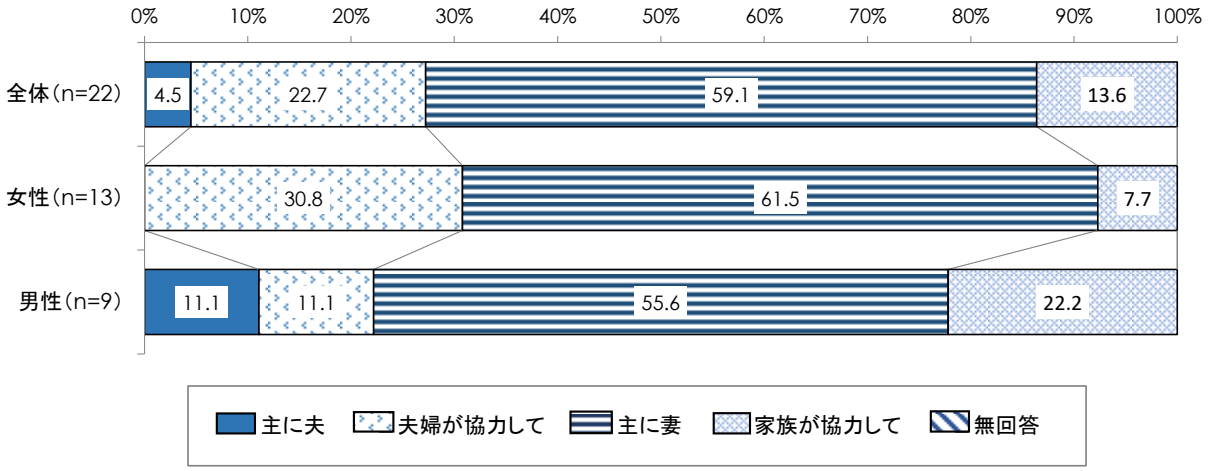
ア　掃除

掃除についてみると、「主に妻」59.1%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」22.7%、「家族が協力して」13.6%の順となっています。

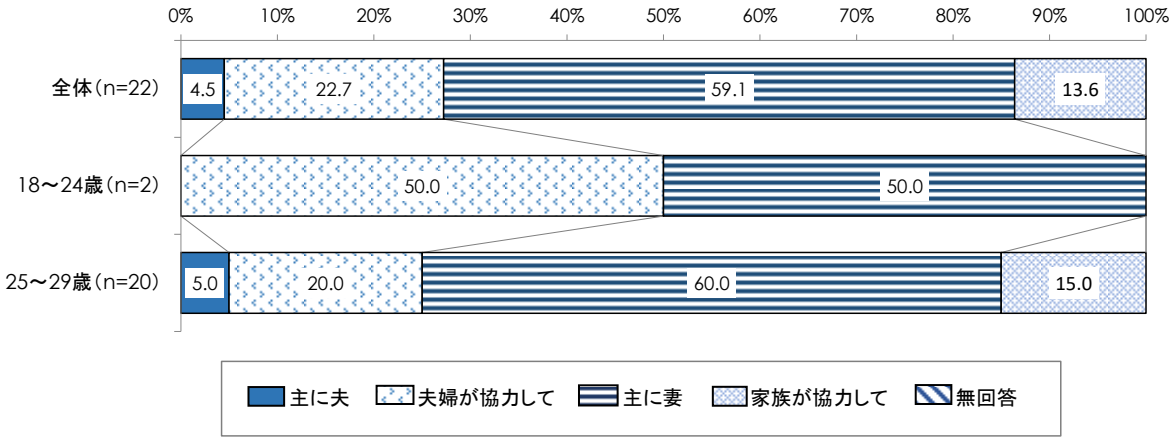
性別にみると、男女ともに「主に妻」の割合が最も高くなっており、次いで男性では「家族が協力して」、女性では「夫婦が協力して」が続いています。

年代別にみると、18～24歳では「夫婦が協力して」、「主に妻」に回答が集まっていますが、25～29歳では「主に妻」の割合が最も高くなっており、年代が高くなるにつれ「主に妻」の役割だと考える人が増える傾向となっています。

【 コロナ影響後：性別にみた家事などの役割分担について（ア　掃除） 】



【 コロナ影響後：年代別にみた家事などの役割分担について（ア　掃除） 】



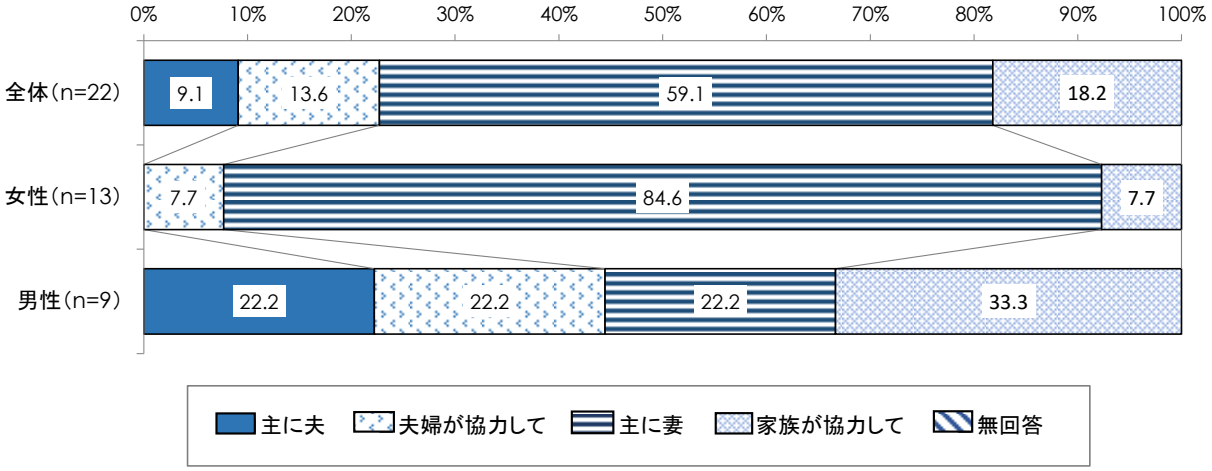
イ 洗濯

洗濯についてみると、「主に妻」59.1%の割合が最も高く、次いで「家族が協力して」18.2%、「夫婦が協力して」13.6%の順となっています。

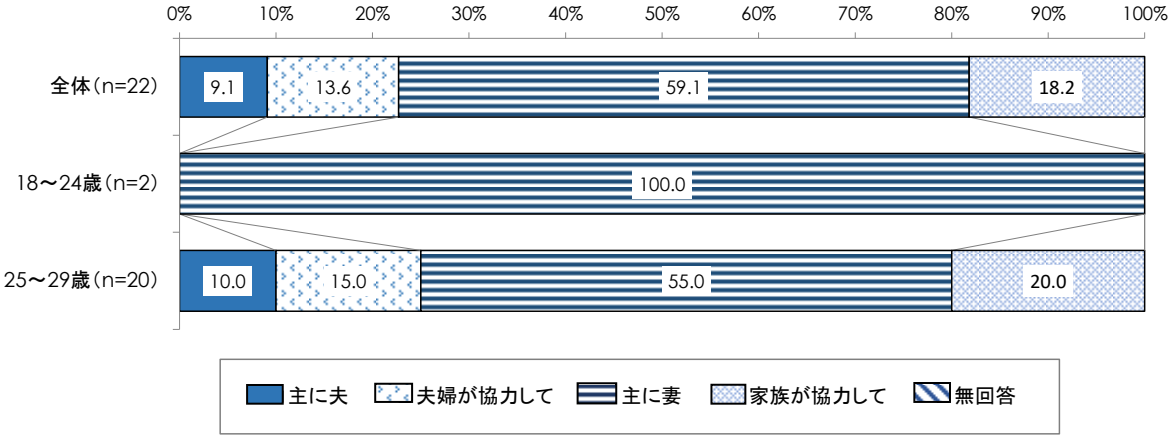
性別にみると、男性では「家族が協力して」の割合が最も高くなっており、女性では「主に妻」が最も割合が高く、８割を超える結果となっています。

年代別にみると、18～24 歳では「主に妻」の割合が 100%を占めており、また 25～29 歳でも「主に妻」の割合が最も高くなっています。

【 コロナ影響後：性別にみた家事などの役割分担について(イ 洗濯) 】



【 コロナ影響後：年代別にみた家事などの役割分担について(イ 洗濯) 】



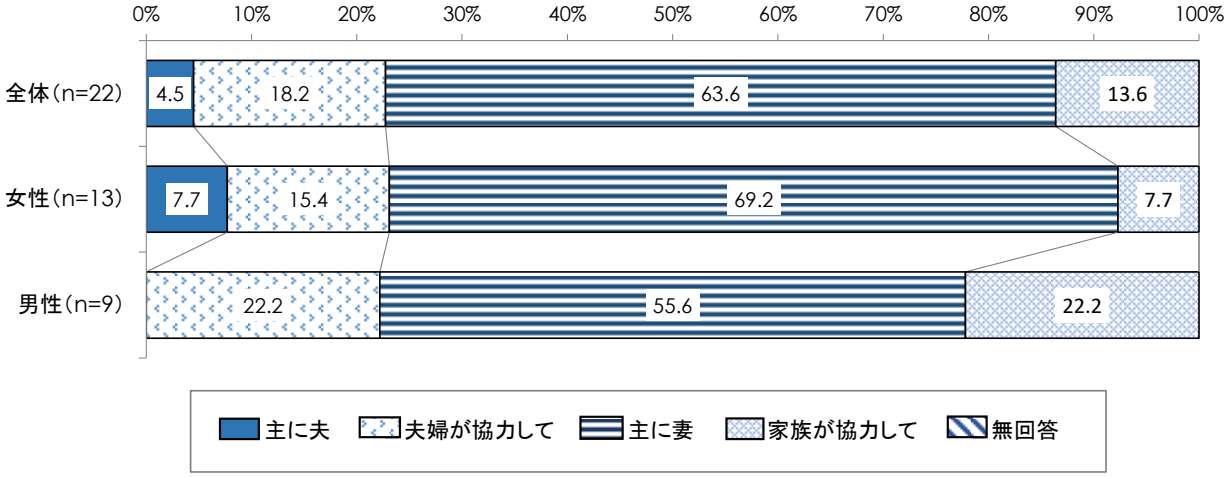
ウ　食事のしたく

食事のしたくについてみると、「主に妻」63.6%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」18.2%、「家族が協力して」13.6%の順となっています。

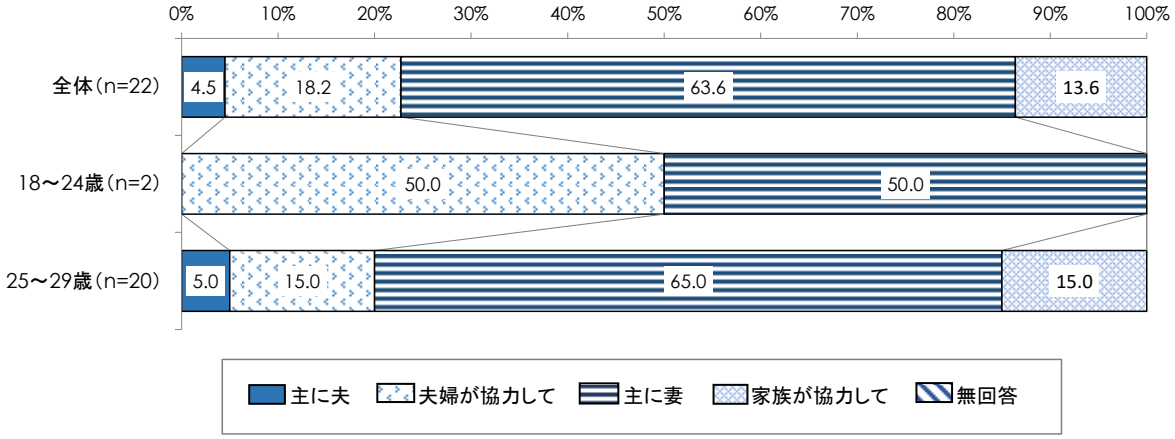
性別にみると、男女ともに「主に妻」の割合が最も高くなっており、次いで男性では「夫婦が協力して」、「家族が協力して」、女性では「夫婦が協力して」が続いています。

年代別にみると、18～24 歳では「夫婦が協力して」、「主に妻」の割合が最も高くなっていますが、25～29 歳では「主に妻」の割合が最も高くなっており、年代が高くなるにつれ「主に妻」の役割だと考える人が増える傾向となっています。

【 コロナ影響後：性別にみた家事などの役割分担について（ウ 食事のしたく）】



【 コロナ影響後：性別にみた家事などの役割分担について（ウ 食事のしたく）】



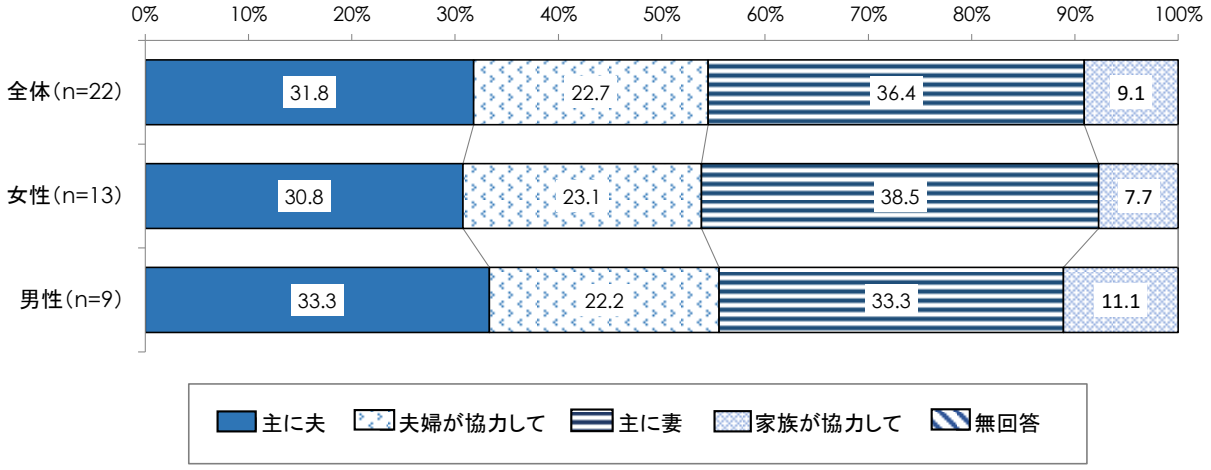
エ　食事の後かたづけ

食事の後かたづけについてみると、「主に妻」36.4%の割合が最も高く、次いで「主に夫」31.8%、「夫婦が協力して」22.7%の順となっています。

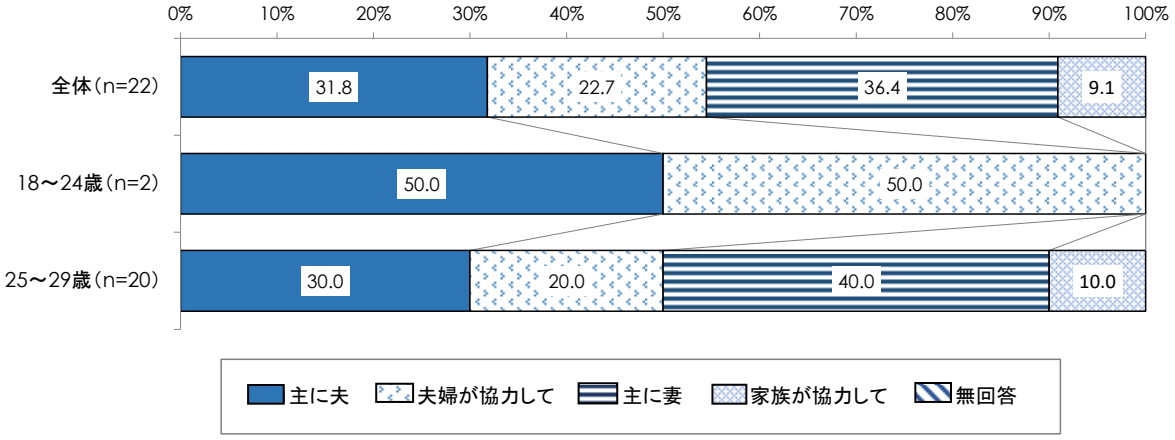
性別にみると、男性では「主に夫」、「主に妻」、女性では「主に妻」の割合が最も高くなっており、次いで男性では「夫婦が協力して」、女性では「主に夫」が続いています。

年代別にみると、18～24歳では「主に夫」、「夫婦が協力して」に回答が集まっていますが、25～29歳では「主に妻」の割合が最も高くなっています。

【 コロナ影響後：性別にみた家事などの役割分担について(エ 食事の後かたづけ) 】



【 コロナ影響後：年代別にみた家事などの役割分担について(エ 食事の後かたづけ) 】



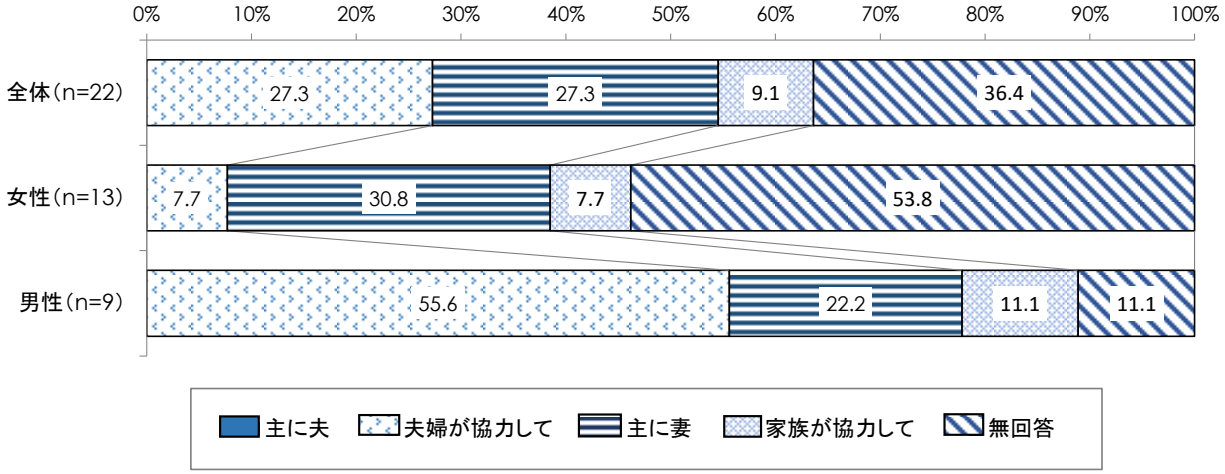
オ　子どもの世話･教育

子どもの世話・教育についてみると、「夫婦が協力して」、「主に妻」27.3%の割合が最も高く、次いで「家族が協力して」9.1%の順となっています。

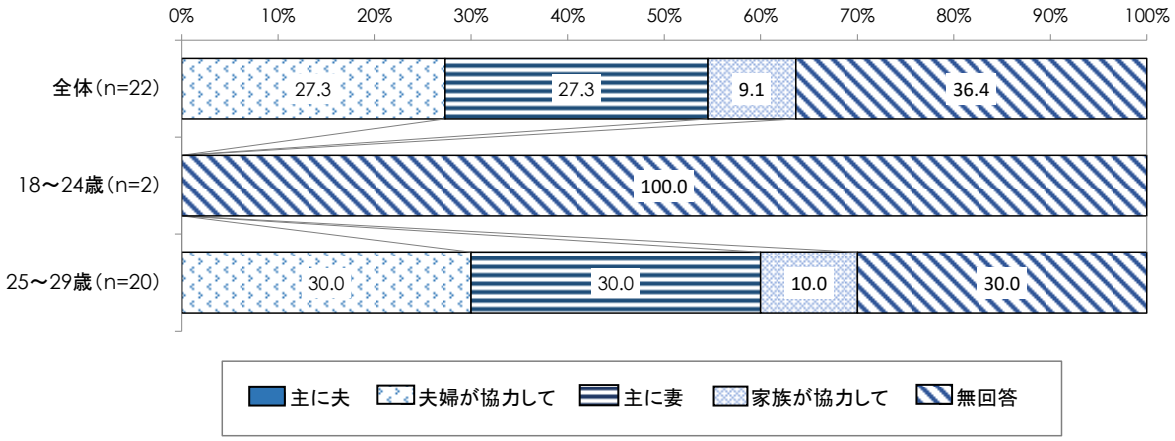
性別にみると、男性では「夫婦が協力して」、女性では「主に妻」の割合が最も高くなっています。

年代別にみると、25～29 歳では「夫婦が協力して」、「主に妻」の割合が最も高くなっています。

【 コロナ影響後：性別にみた家事などの役割分担について（オ 子どもの世話・教育）】



【 コロナ影響後：年代別にみた家事などの役割分担について（オ 子どもの世話・教育）】



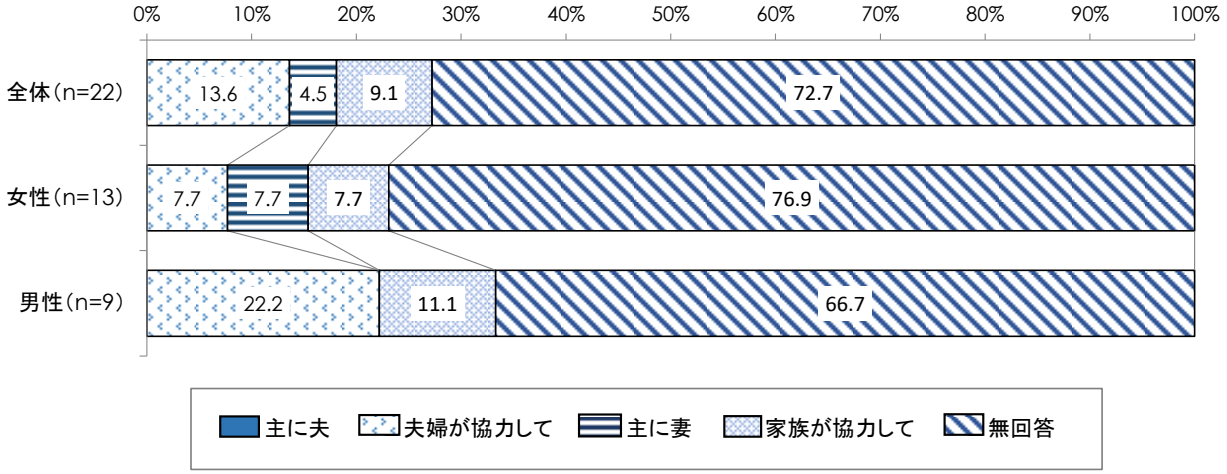
カ 家族の介護

家族の介護についてみると、「夫婦が協力して」13.6%の割合が最も高く、次いで「家族が協力して」9.1%、「主に妻」4.5%の順となっています。

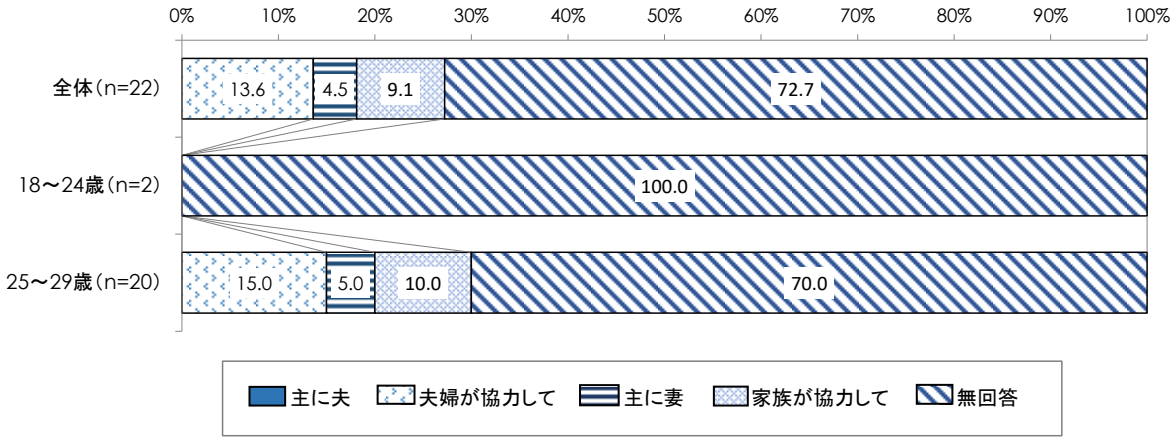
性別にみると、男性では「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

年代別にみると、25～29 歳では「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

【 コロナ影響後：性別にみた家事などの役割分担について（カ 家族の介護） 】



【 コロナ影響後：年代別にみた家事などの役割分担について（カ 家族の介護） 】



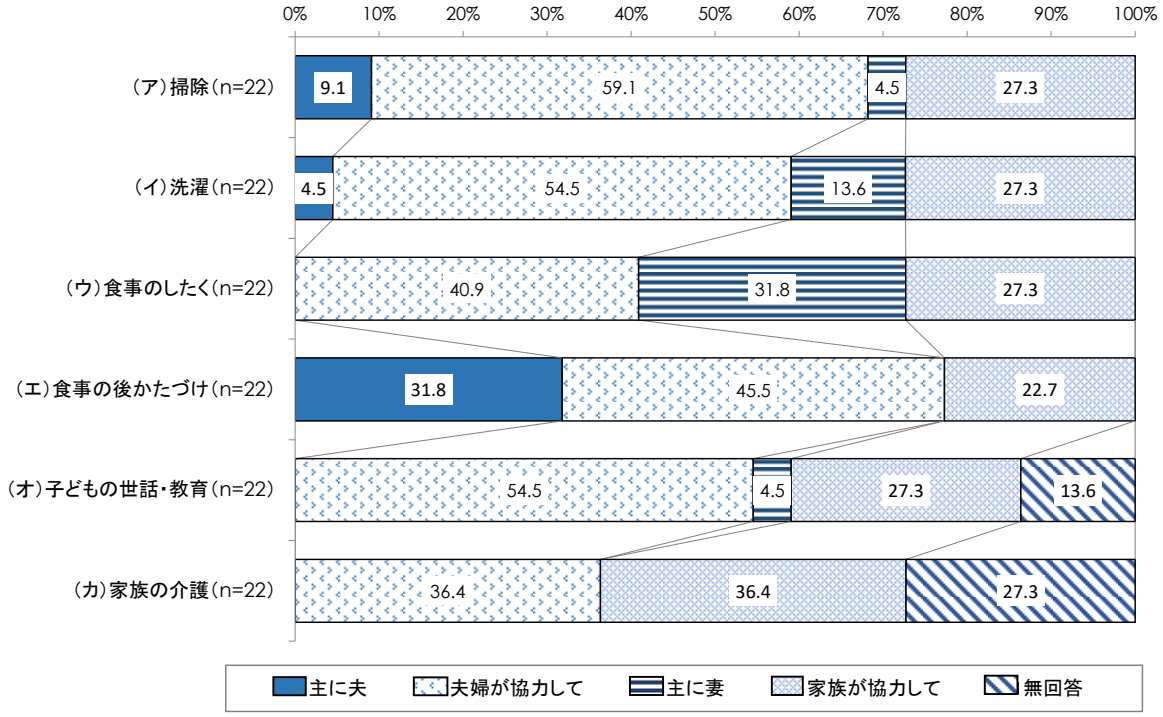
（3）理想（すべての方）

【全体】

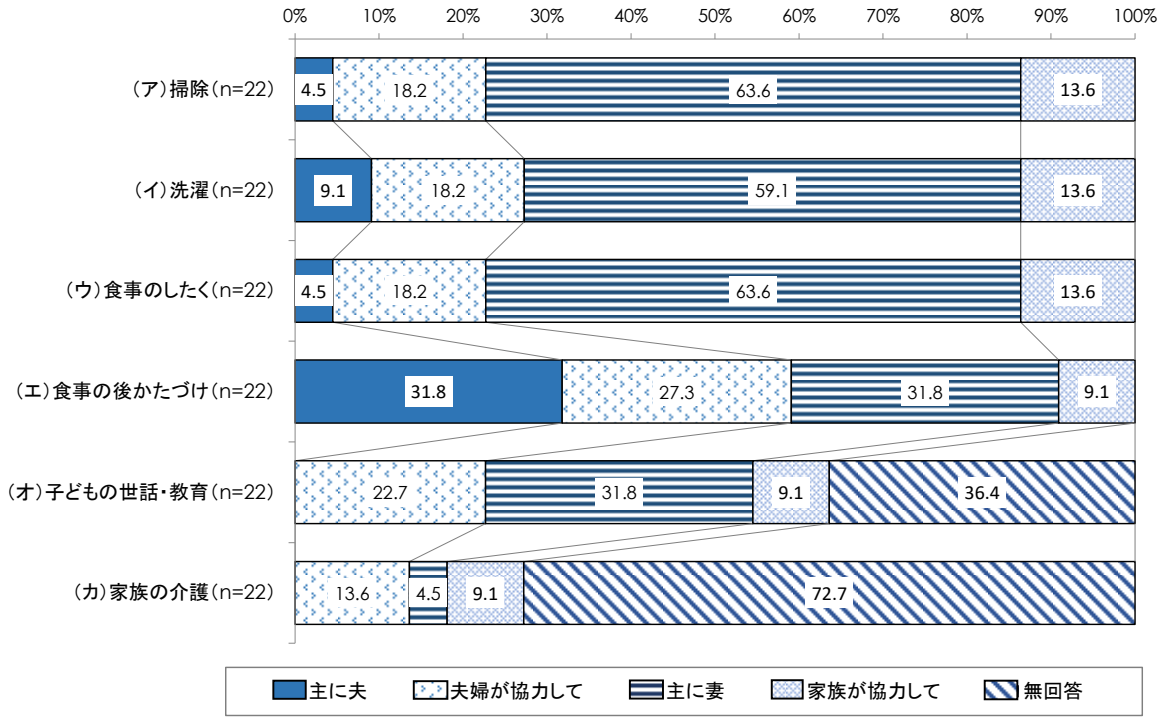
家庭での家事などの役割分担の理想についてみると、「夫婦が協力して」では、「(ア) 掃除」59.1%が最も割合が高く、次いで、「(イ) 洗濯」、「(オ) 子どもの世話・教育」54.5%、「(エ) 食事の後かたづけ」45.5%の順となっています。

すべての項目で夫婦や家族が協力して行うことを希望していますが、現実は「主に妻」が行っていることが多く、理想と現実との違いが見られます。

【 理想：家事などの役割分担について 】



再掲【 コロナ影響前：家事などの役割分担について 】



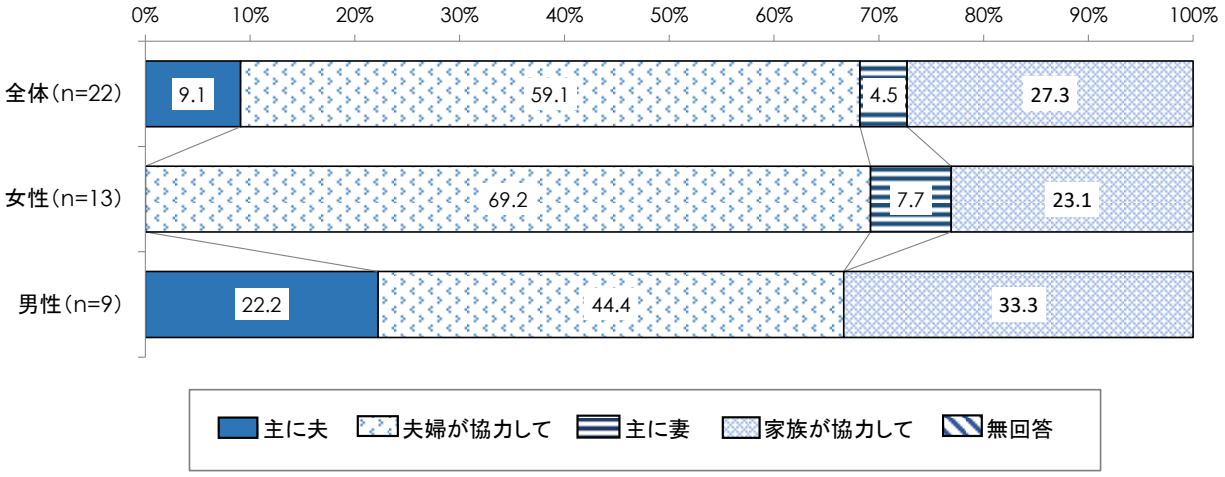
ア　掃除

掃除についてみると、「夫婦が協力して」59.1%の割合が最も高く、次いで「家族が協力して」27.3%、「主に夫」9.1%、「主に妻」4.5%の順となっています。

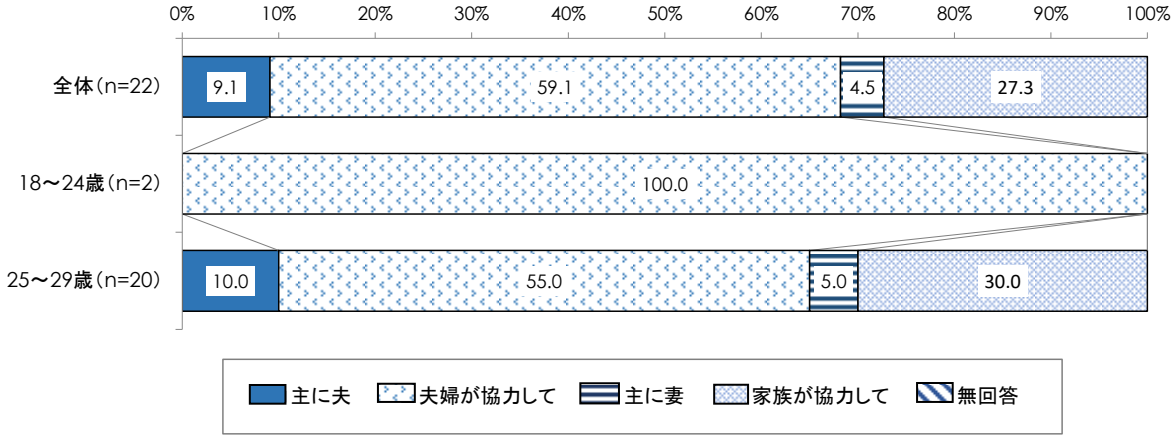
性別にみると、男女ともに「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっており、次いで「家族が協力して」が続いています。

年代別にみると、18～24歳では「夫婦が協力して」の割合が100%を占めており、また25～29歳でも「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

【 理想：性別にみた家事などの役割分担について（ア　掃除） 】



【 理想：年代別にみた家事などの役割分担について（ア　掃除） 】



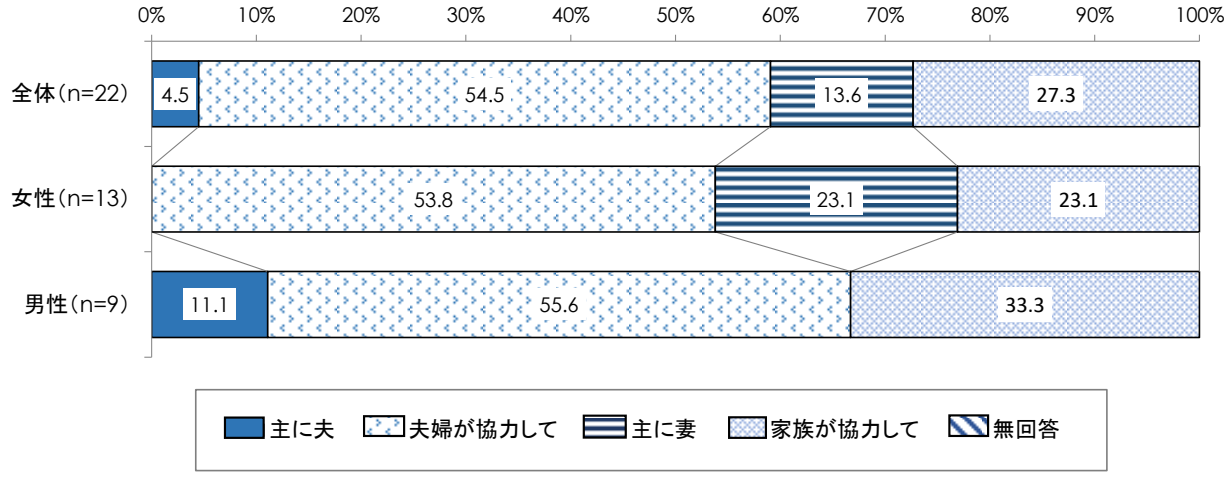
イ 洗濯

洗濯についてみると、「夫婦が協力して」54.5%の割合が最も高く、次いで「家族が協力して」27.3%、「主に妻」13.6%、「主に夫」4.5%の順となっています。

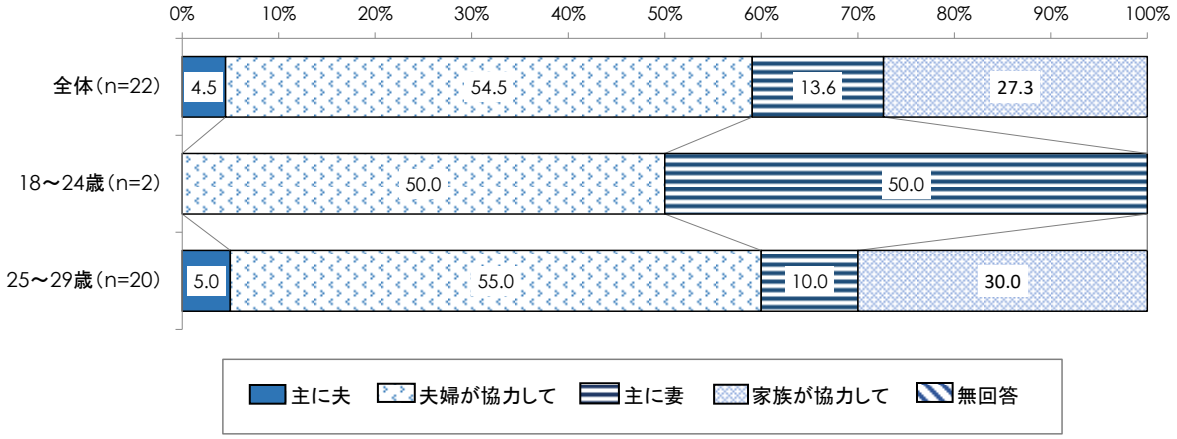
性別にみると、男女ともに「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっており、次いで男性では「家族が協力して」、女性では「主に妻」、「家族が協力して」が続いています。

年代別にみると、18～24歳では「夫婦が協力して」、「主に妻」に回答が集まっており、25～29歳では「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

【 理想：性別にみた家事などの役割分担について（イ 洗濯） 】



【 理想：年代別にみた家事などの役割分担について（イ 洗濯） 】



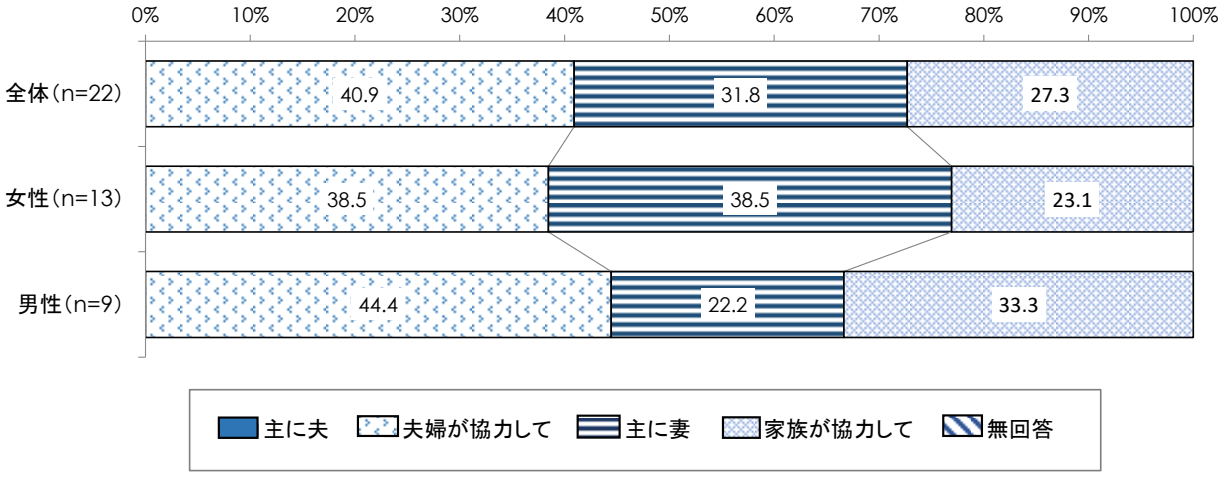
ウ　食事のしたく

食事のしたくについてみると、「夫婦が協力して」40.9%の割合が最も高く、次いで「主に妻」31.8%、「家族が協力して」27.3%の順となっています。

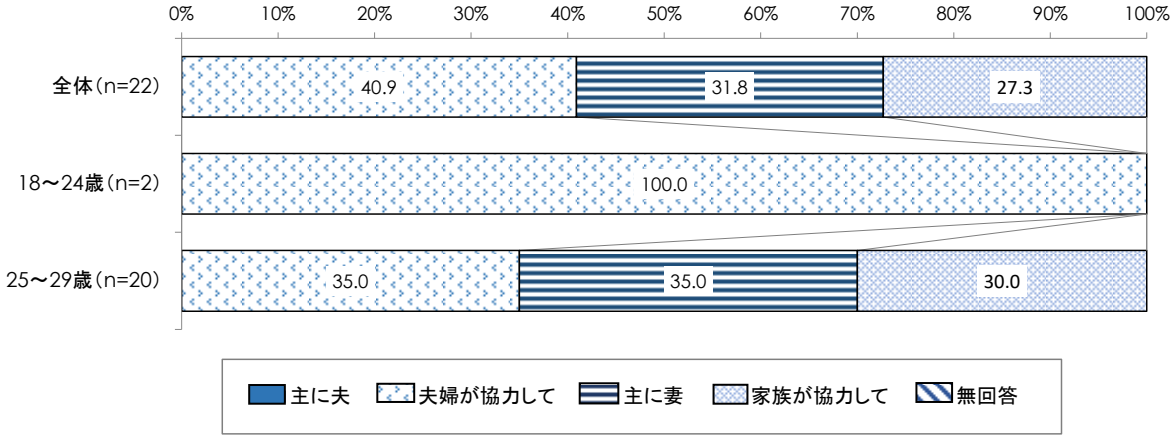
性別にみると、男性では「夫婦が協力して」、女性では「夫婦が協力して」、「主に妻」の割合が最も高くなっています。

年代別にみると、18～24 歳では「夫婦が協力して」の割合が 100%を占めており、25～29 歳では「夫婦が協力して」、「主に妻」の割合が最も高くなっています。

【 理想：性別にみた家事などの役割分担について（ウ　食事のしたく）】



【 理想：年代別にみた家事などの役割分担について（ウ　食事のしたく）】



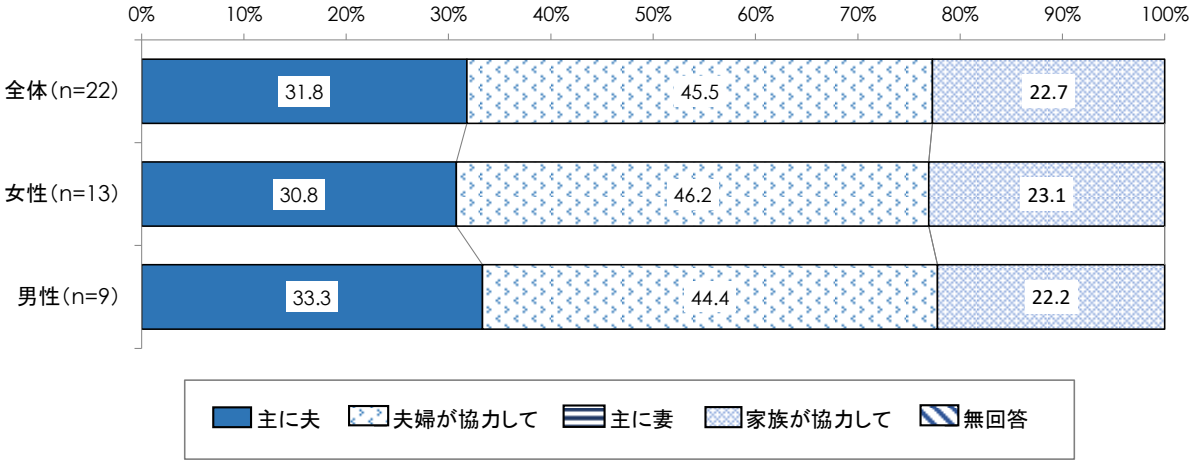
エ　食事の後かたづけ

食事の後かたづけについてみると、「夫婦が協力して」45.5%の割合が最も高く、次いで「主に夫」31.8%、「家族が協力して」22.7%の順となっています。

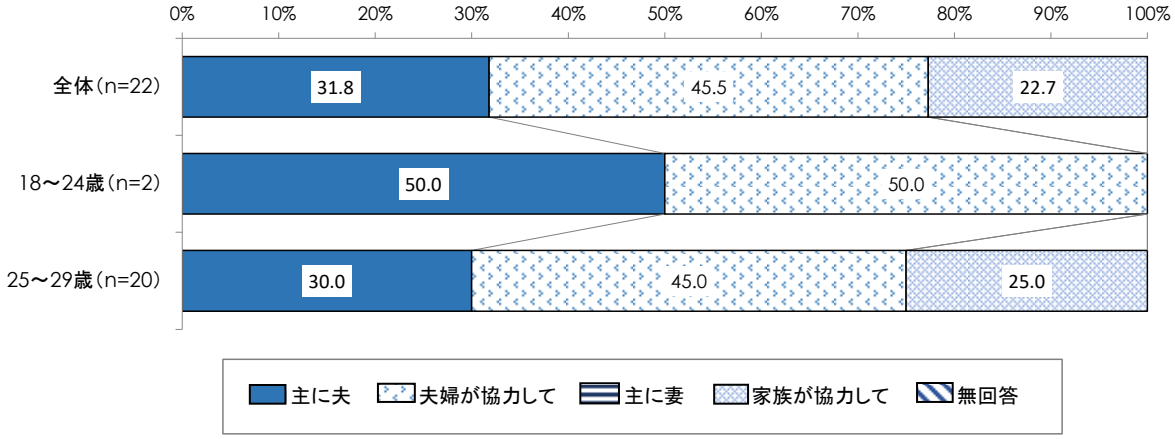
性別にみると、男女ともに「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっており、次いで「主に夫」が続いています。

年代別にみると、18～24 歳では「主に夫」、「夫婦が協力して」に回答が集まっており、25～29 歳では「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

【 理想：性別にみた家事などの役割分担について(エ　食事の後かたづけ) 】



【 理想：年代別にみた家事などの役割分担について(エ　食事の後かたづけ) 】



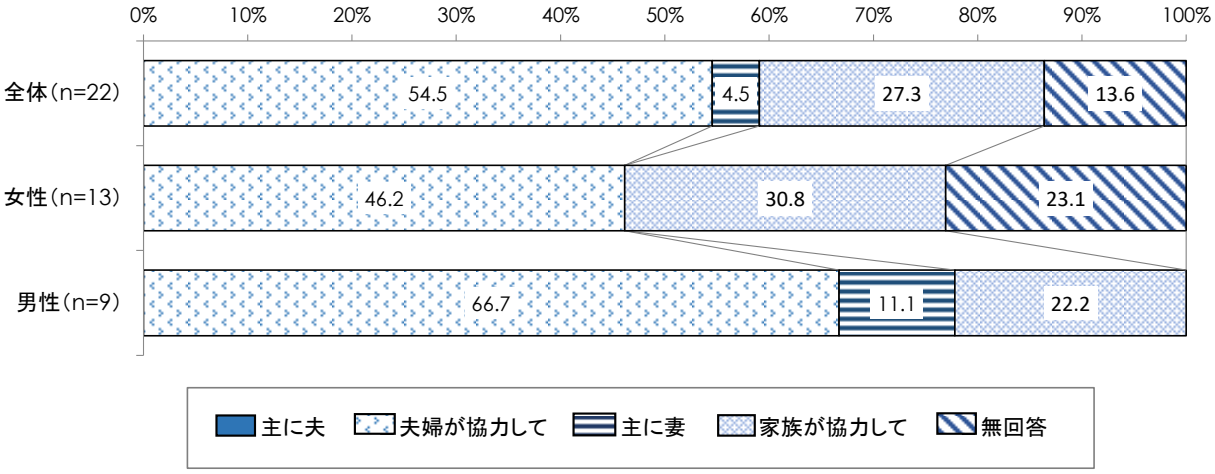
オ　子どもの世話･教育

子どもの世話・教育についてみると、「夫婦が協力して」54.5%の割合が最も高く、次いで「家族が協力して」27.3%、「主に妻」4.5%の順となっています。

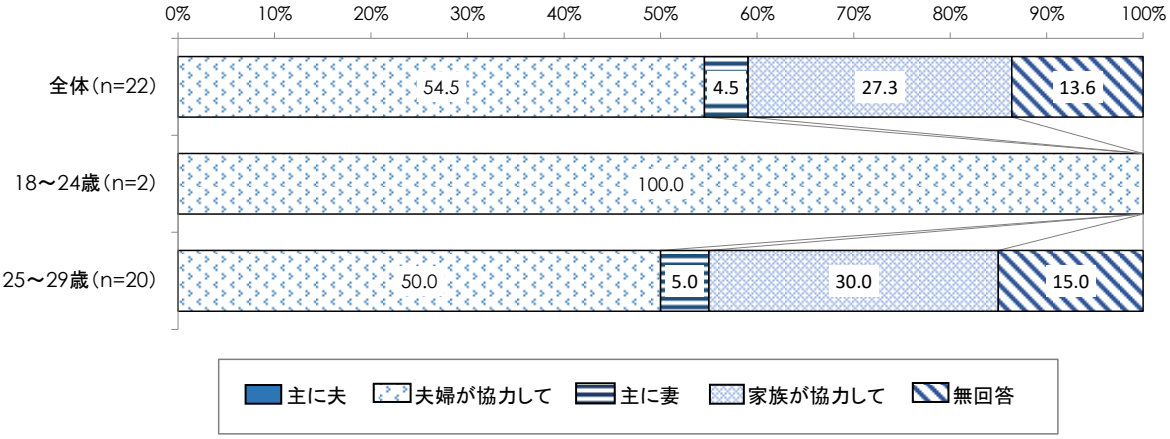
性別にみると、男女ともに「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっており、次いで「家族が協力して」が続いています。

年代別にみると、18～24 歳では「夫婦が協力して」の割合が 100%を占めており、また 25～29 歳でも「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

【 理想：性別にみた家事などの役割分担について(オ 子どもの世話・教育) 】



【 理想：年代別にみた家事などの役割分担について(オ 子どもの世話・教育) 】



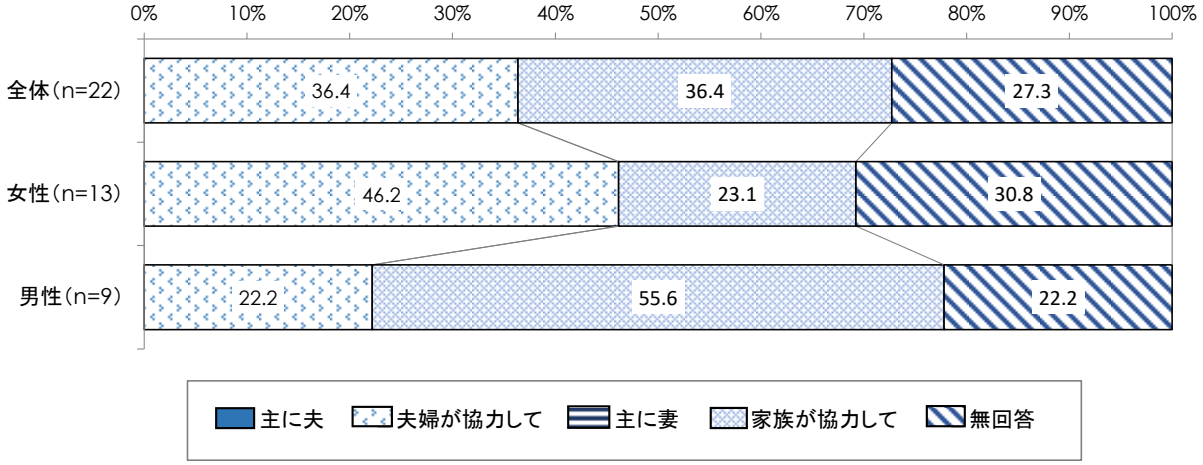
カ 家族の介護

家族の介護についてみると、「夫婦が協力して」、「家族が協力して」が 36.4%となっています。

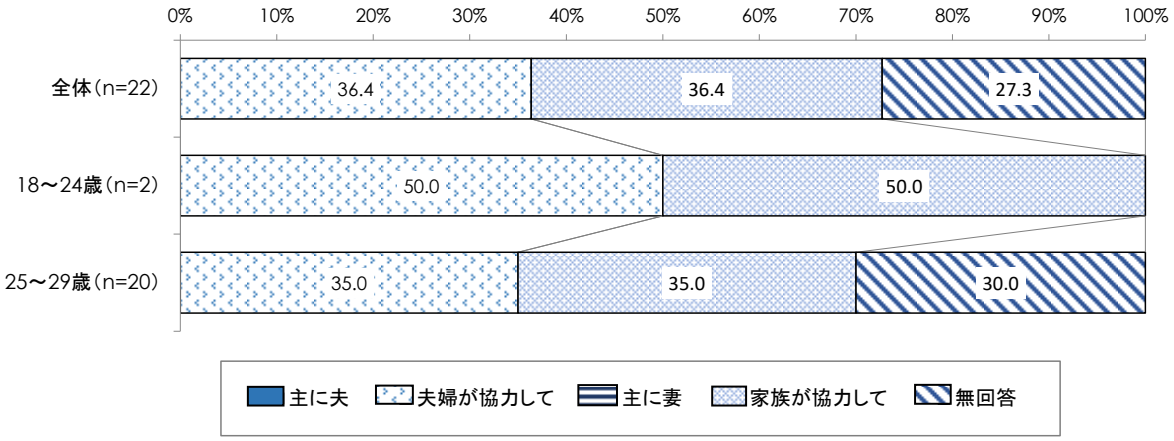
性別にみると、男性では「家族が協力して」、女性では「夫婦が協力して」が最も割合が高くなっており、次いで男性では「夫婦が協力して」、女性では「家族が協力して」となっています。

年代別にみると、いずれも「夫婦が協力して」、「家族が協力して」に回答が集まっています。

【 理想：性別にみた家事などの役割分担について(カ 家族の介護) 】



【 理想：年代別にみた家事などの役割分担について(カ 家族の介護) 】



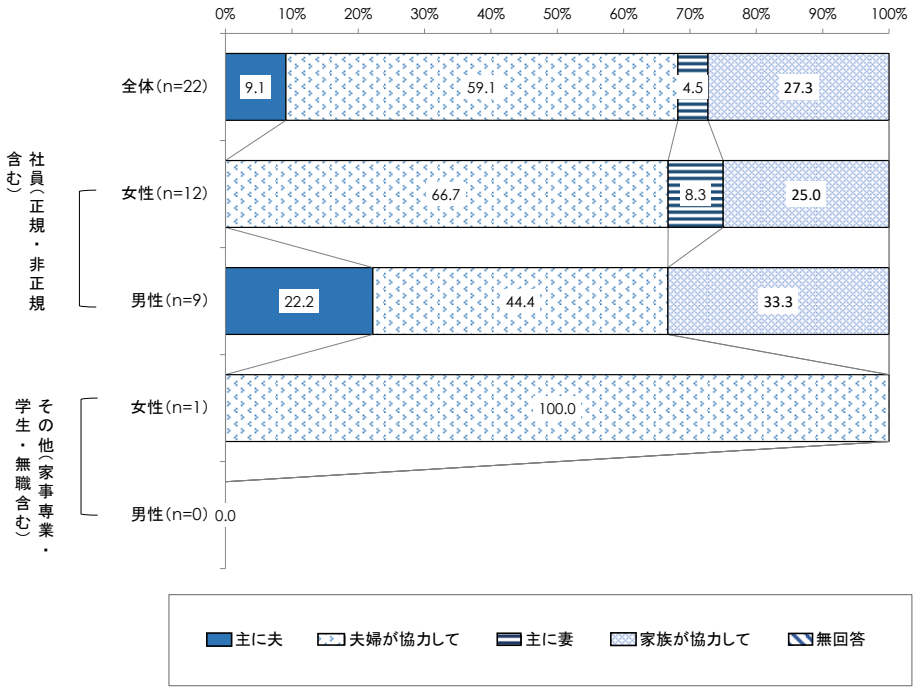
（4）理想と現実（コロナ影響前）の比較

ア　掃除

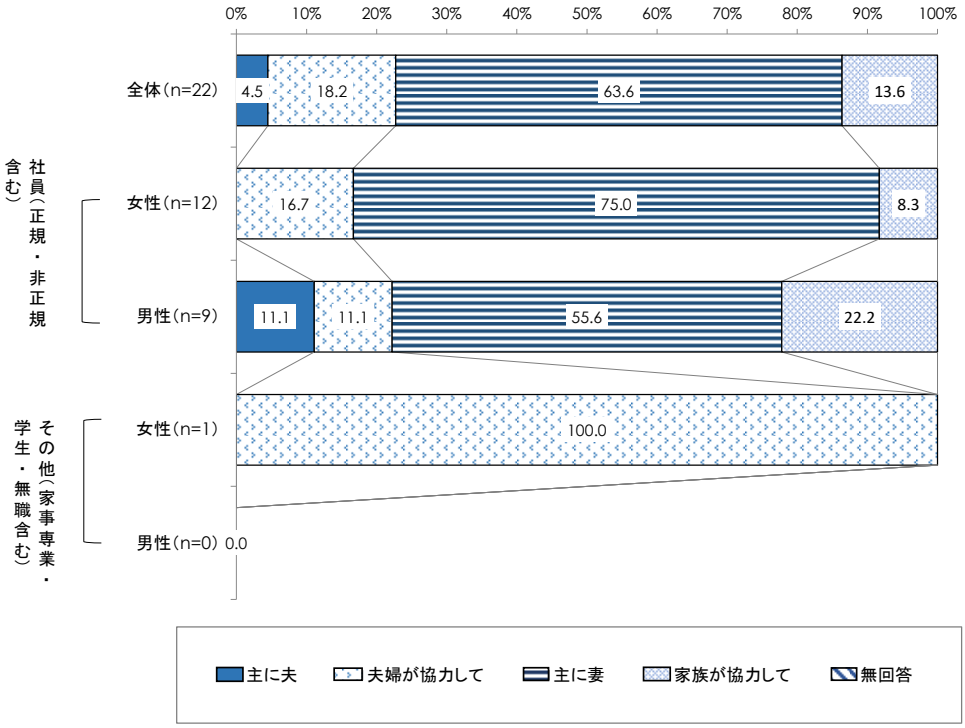
掃除についてみると、社員（正規・非正規含む）男女の理想は「夫婦が協力して」の割合が高くなっていますが、社員（正規・非正規含む）男女の現実は「主に妻」の割合が高くなっています。

【 自身の職業別・性別にみた家事などの役割分担について（ア　掃除）】

理想



現実

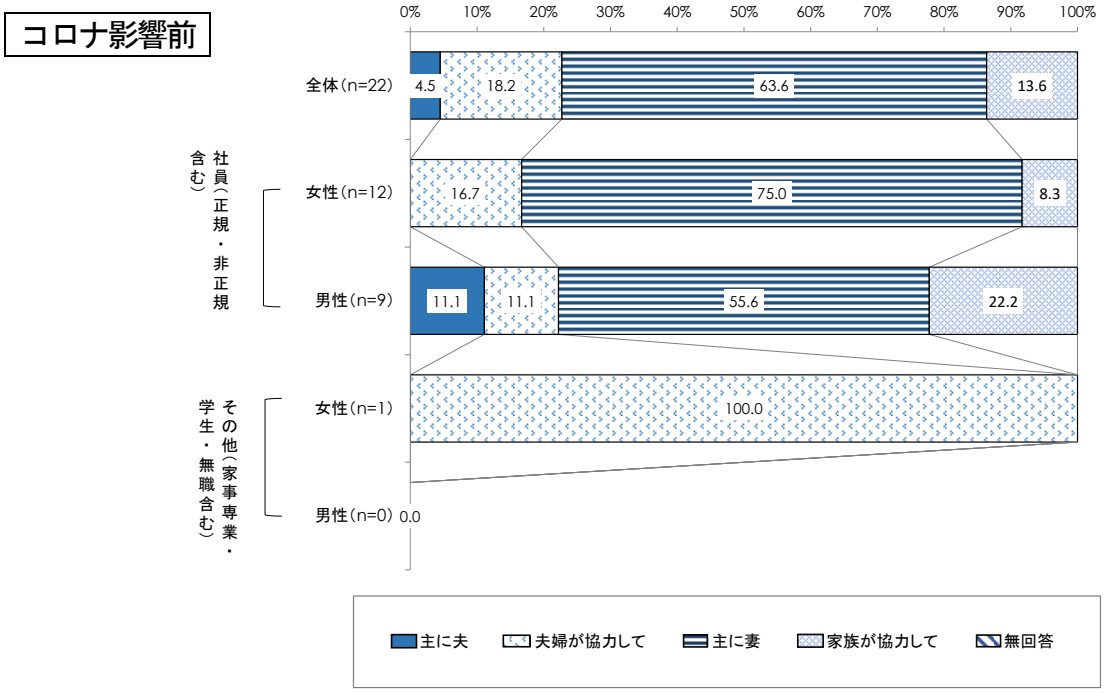


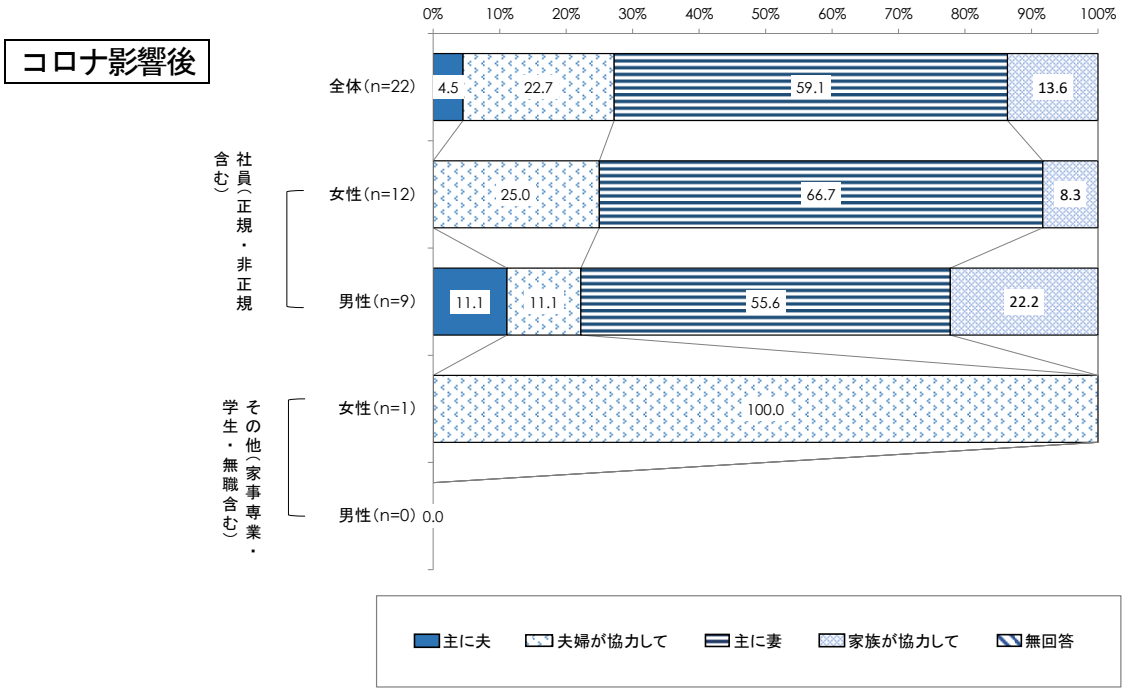
【参考：コロナ影響前・コロナ影響後】

ア　掃除

コロナ影響前後で比較すると、社員（正規・非正規含む）の女性では「夫婦が協力して」、「主に妻」の割合がコロナ影響後では約８ポイント高くなっています。

【 自身の職業別・性別にみた家事などの役割分担について（ア　掃除）】



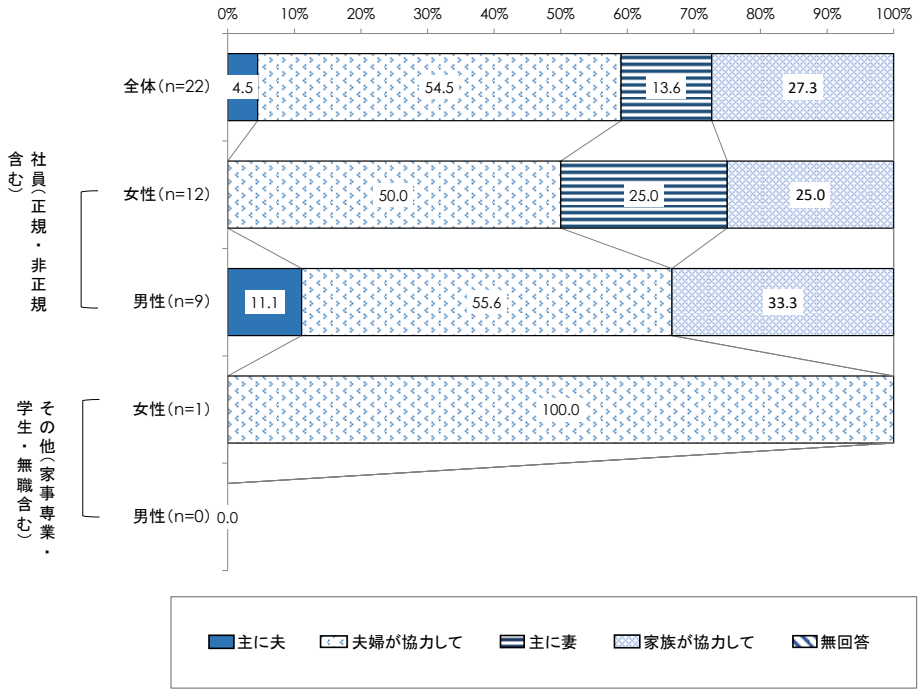


イ 洗濯

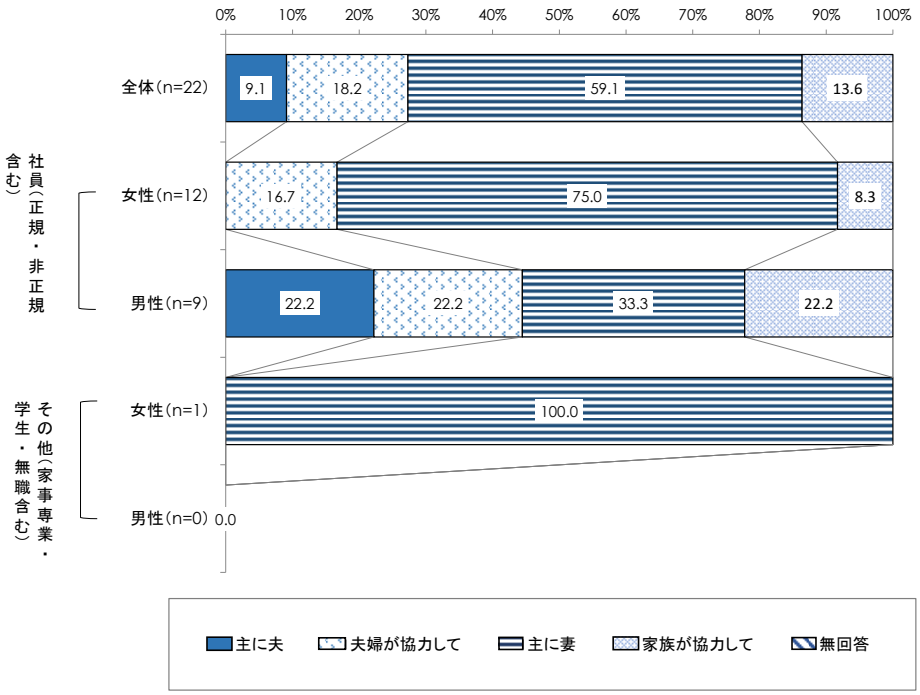
洗濯についてみると、社員（正規・非正規含む）男女の理想は「夫婦が協力して」の割合が高くなっていますが、社員（正規・非正規含む）女性の現実は「主に妻」の割合が最も高くなっています。

【 自身の職業別・性別にみた家事などの役割分担について（イ 洗濯）】

理想



現実

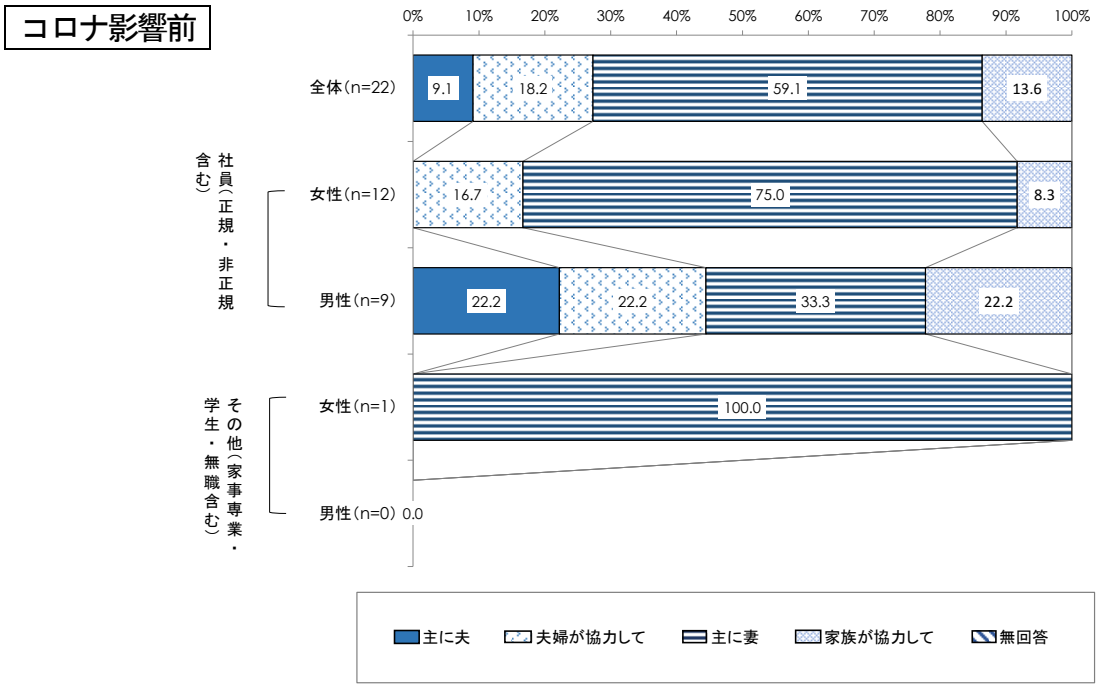


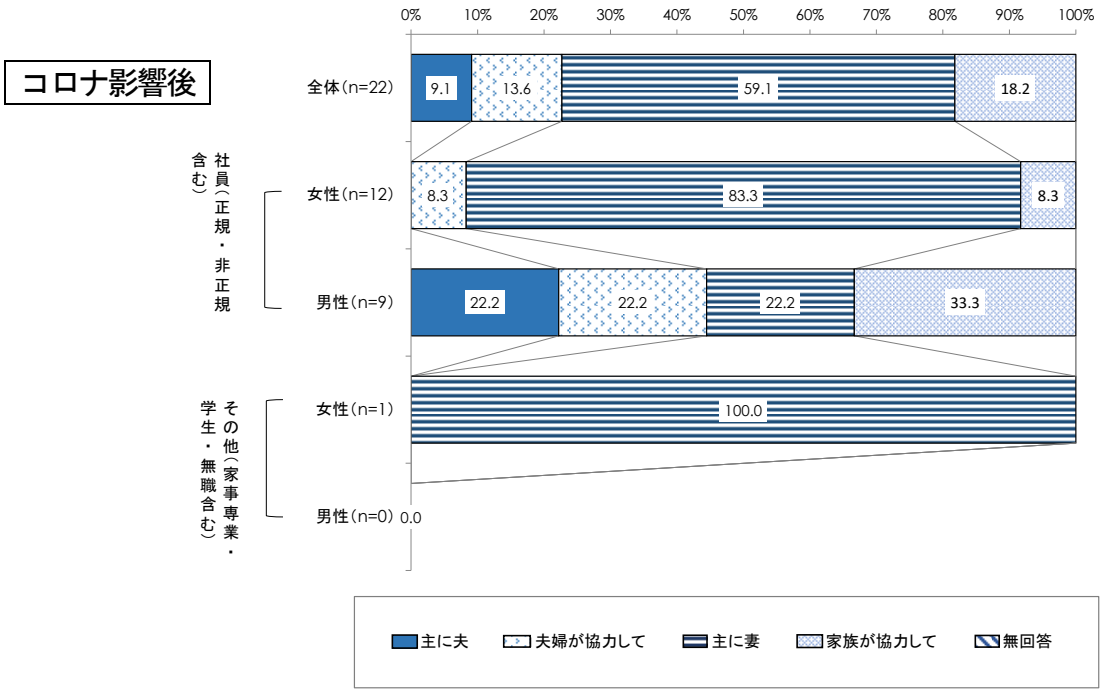
【参考：コロナ影響前・コロナ影響後】

イ 洗濯

コロナ影響前後で比較すると、社員（正規・非正規含む）の男性では「主に妻」の割合が最も高くなっていたのに対し、コロナ影響後では「家族が協力して」の割合が最も高くなっています。

【 自身の職業別・性別にみた家事などの役割分担について（イ 洗濯）】



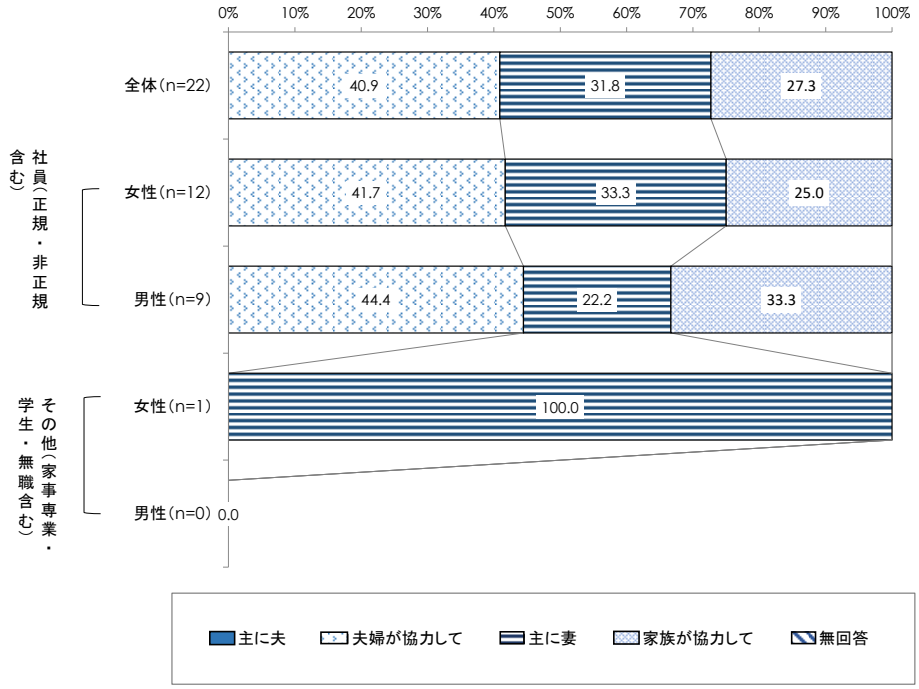


ウ　食事のしたく

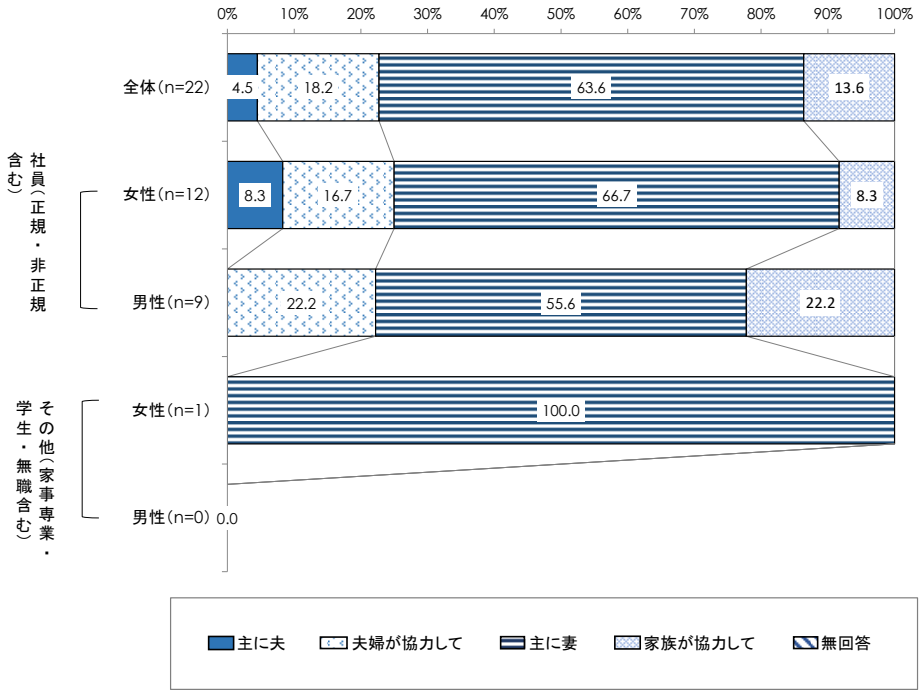
食事のしたくについてみると、社員（正規・非正規含む）男女の理想は「夫婦が協力して」の割合が高くなっていますが、社員（正規・非正規含む）男女の現実は「主に妻」の割合が高くなっています。

【 自身の職業別・性別にみた家事などの役割分担について（ウ　食事のしたく）】

理想



現実



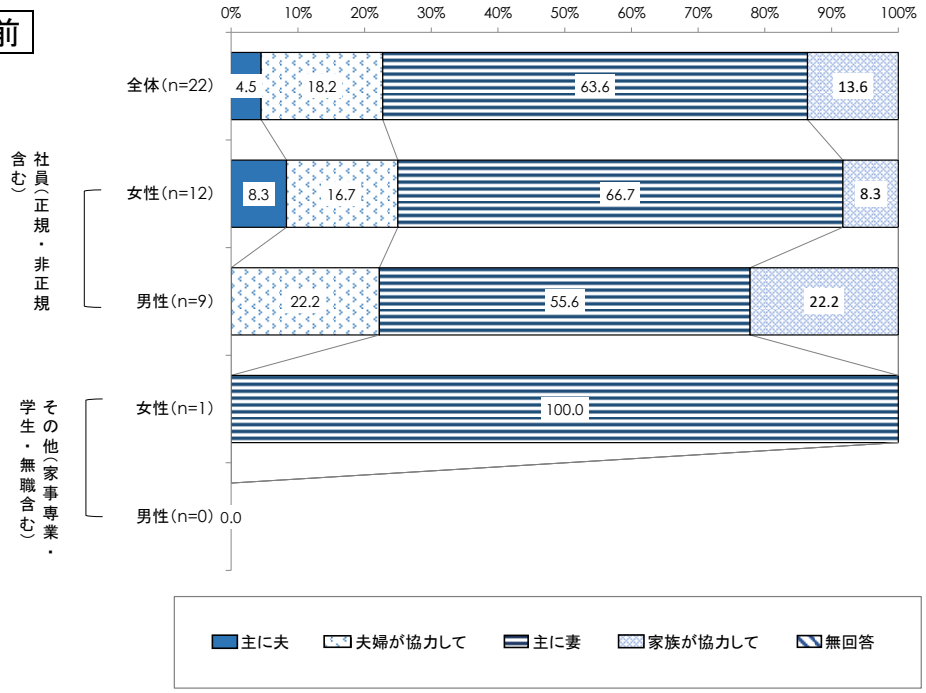
【参考：コロナ影響前・コロナ影響後】

ウ　食事のしたく

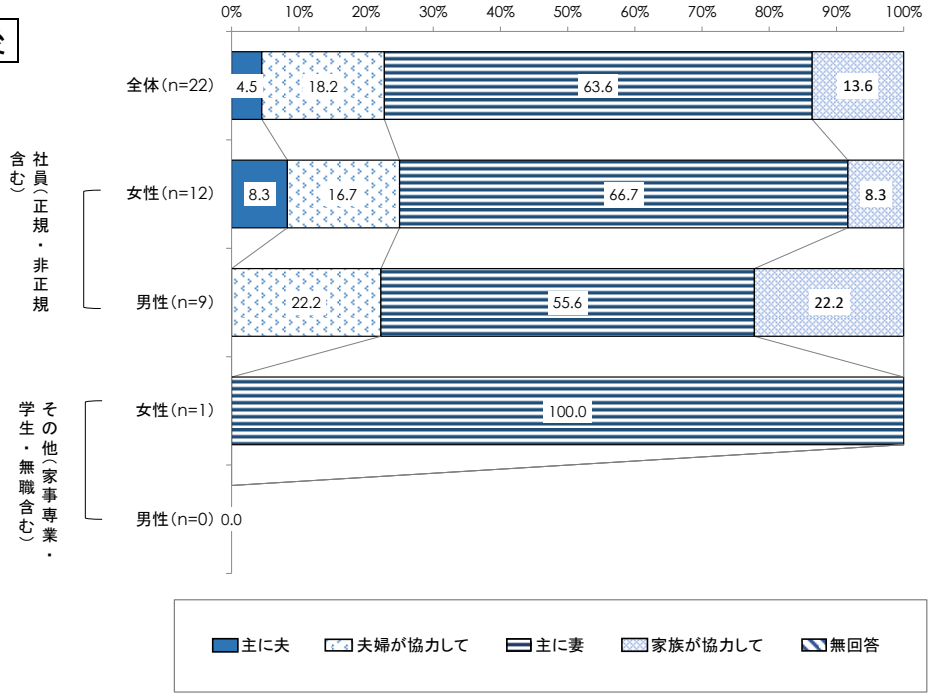
コロナ影響前後で比較すると、差は見られませんでした。

【 自身の職業別・性別にみた家事などの役割分担について（ウ　食事のしたく）】

コロナ影響前



コロナ影響後

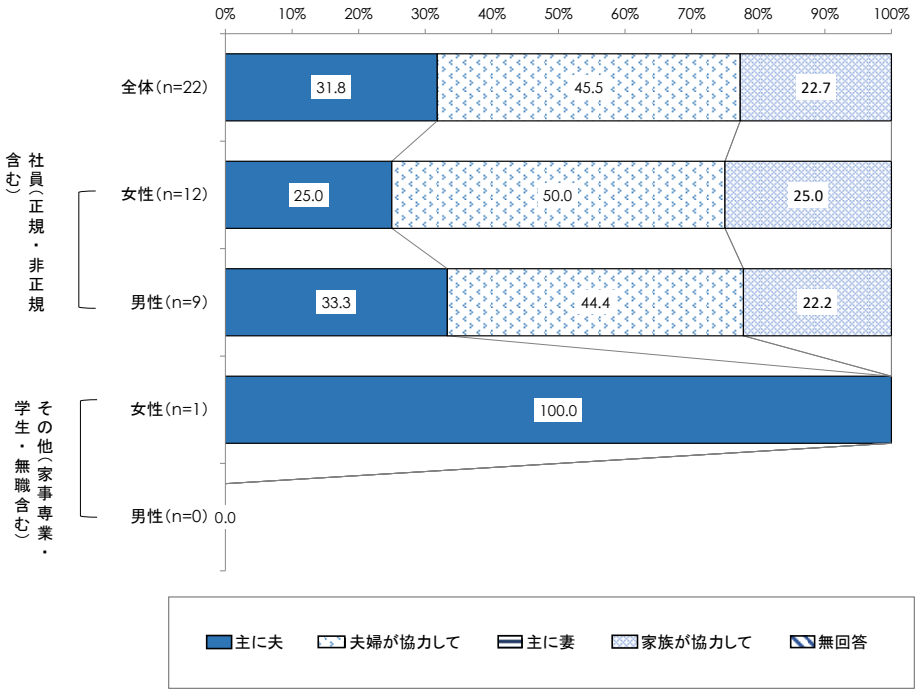


エ　食事の後かたづけ

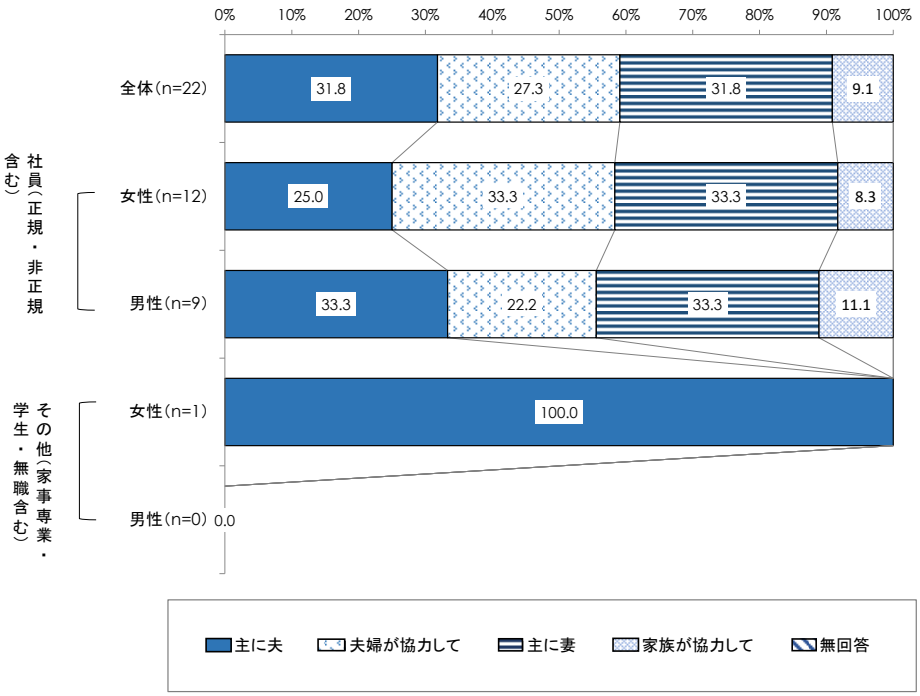
食事の後かたづけについてみると、社員（正規・非正規含む）男女の理想は「主に夫」、「夫婦が協力して」の割合が高くなっていますが、社員（正規・非正規含む）男女の現実は「主に夫」、「夫婦が協力して」に加えて「主に妻」の割合も高くなっています。

【 自身の職業別・性別にみた家事などの役割分担について（エ 食事の後かたづけ）】

理想



現実

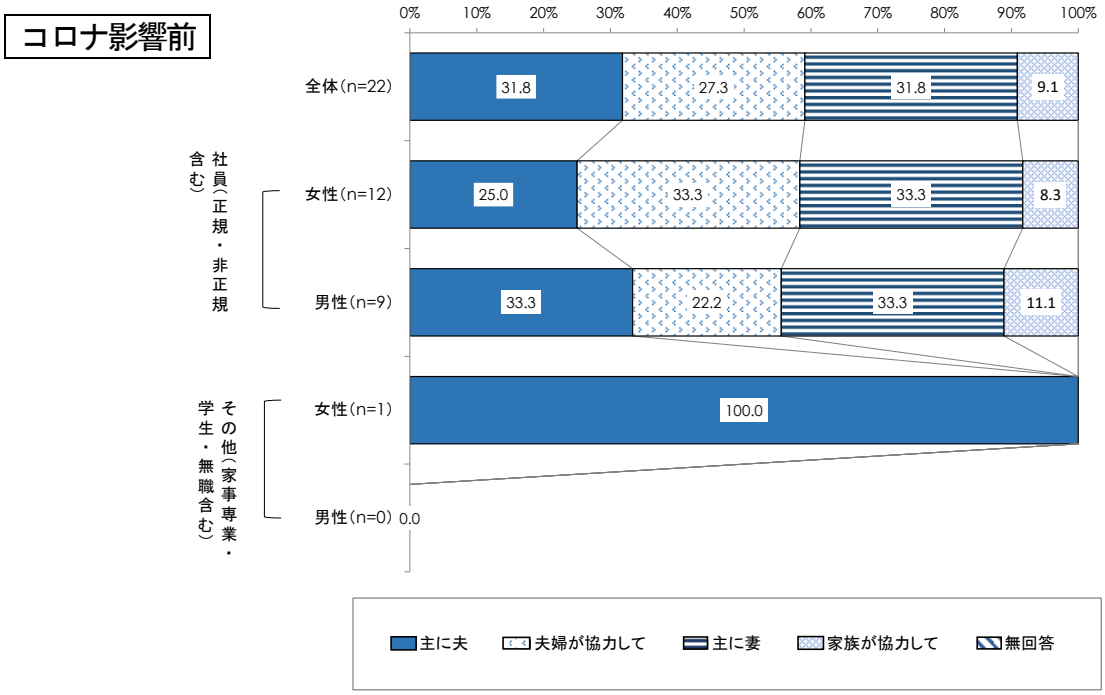


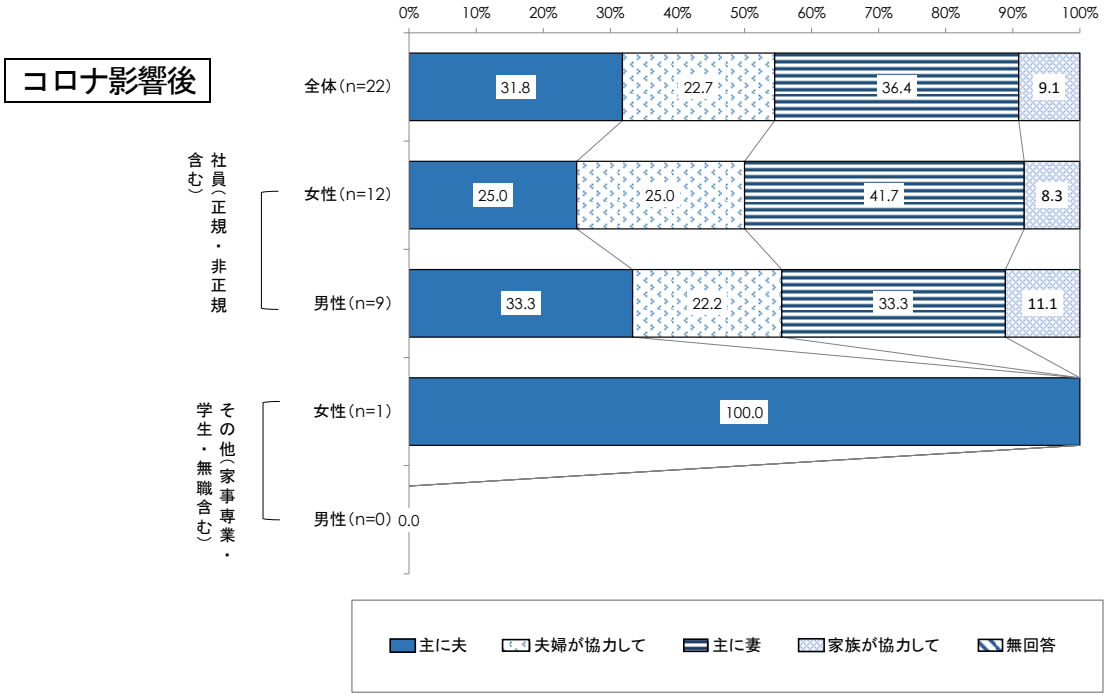
【参考：コロナ影響前・コロナ影響後】

エ　食事の後かたづけ

コロナ影響前後で比較すると、社員（正規・非正規含む）の女性では「夫婦が協力して」、「主に妻」の割合が最も高くなっていたのに対し、コロナ影響後では「主に妻」の割合が最も高くなっています。

【 自身の職業別・性別にみた家事などの役割分担について（エ 食事の後かたづけ）】



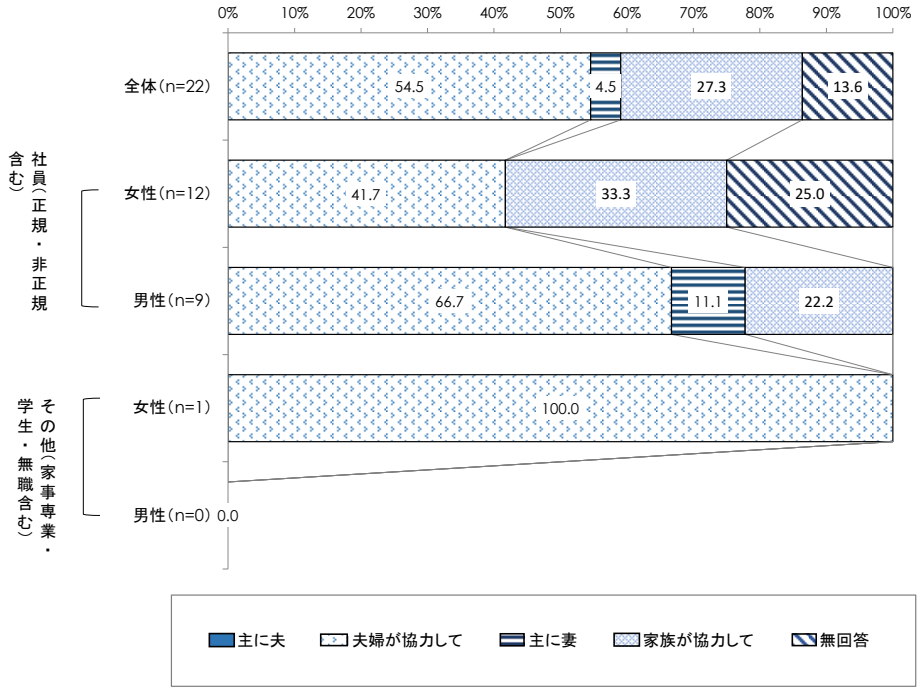


オ　子どもの世話･教育

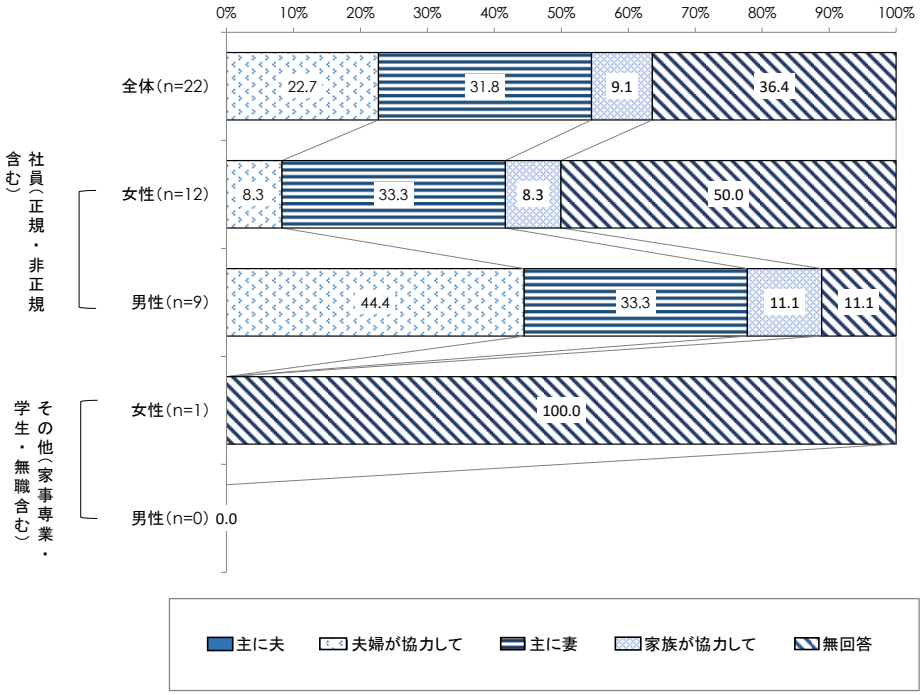
子どもの世話・教育についてみると、社員（正規・非正規含む）男女の理想は「夫婦が協力して」の割合が高くなっていますが、社員（正規・非正規含む）男女の現実は「主に妻」の割合も高くなっています。

【 自身の職業別・性別にみた家事などの役割分担について（オ 子どもの世話・教育）】

理想



現実



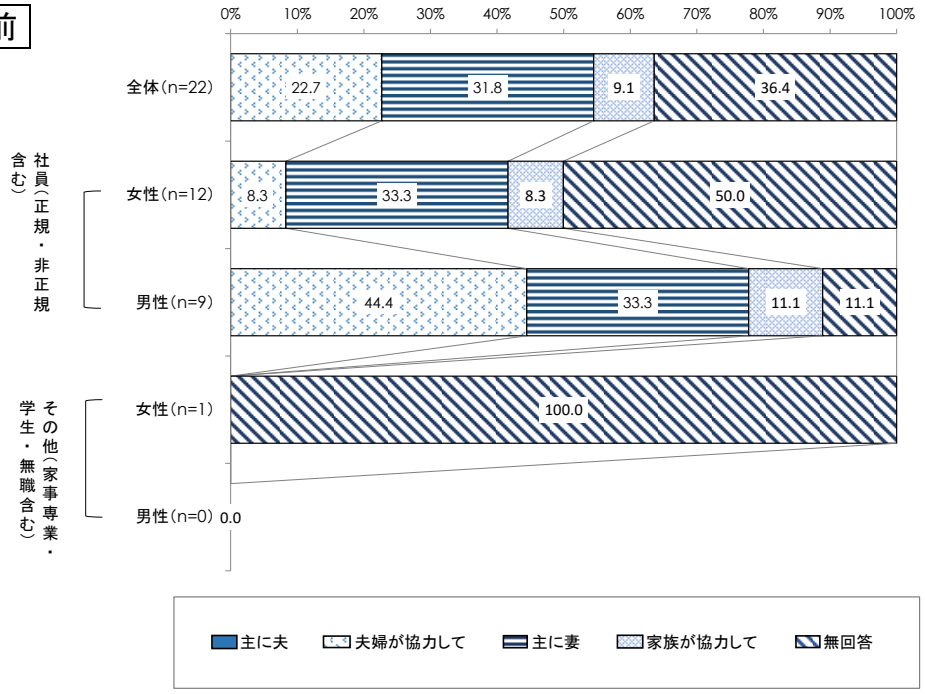
【参考：コロナ影響前・コロナ影響後】

オ　子どもの世話･教育

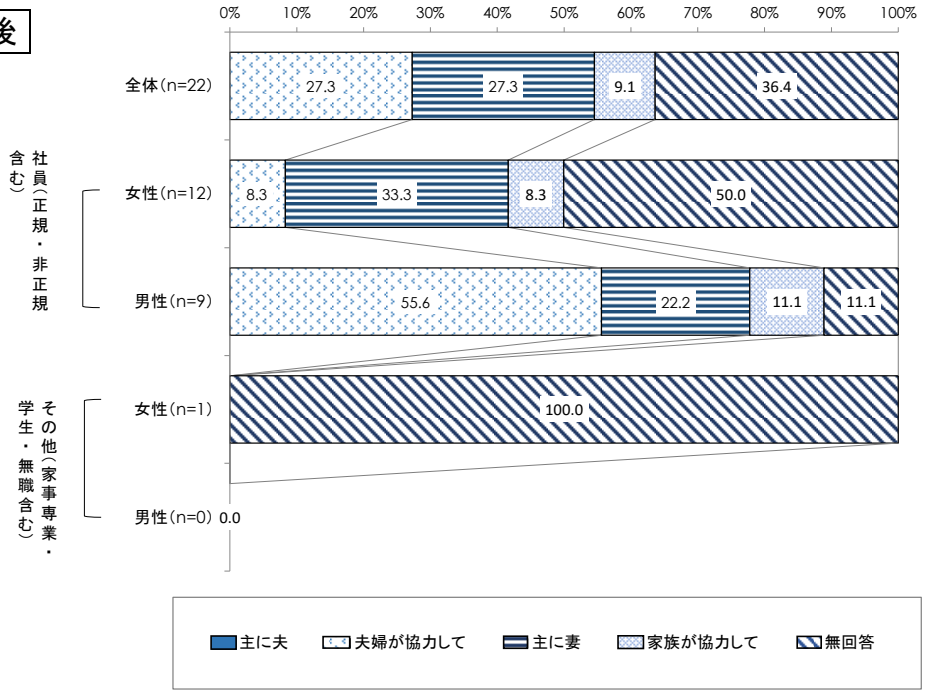
コロナ影響前後で比較すると、社員（正規・非正規含む）の男性では「夫婦が協力して」の割合が最も高く、コロナ影響後でも「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

【 自身の職業別・性別にみた家事などの役割分担について（オ 子どもの世話・教育）】

コロナ影響前



コロナ影響後

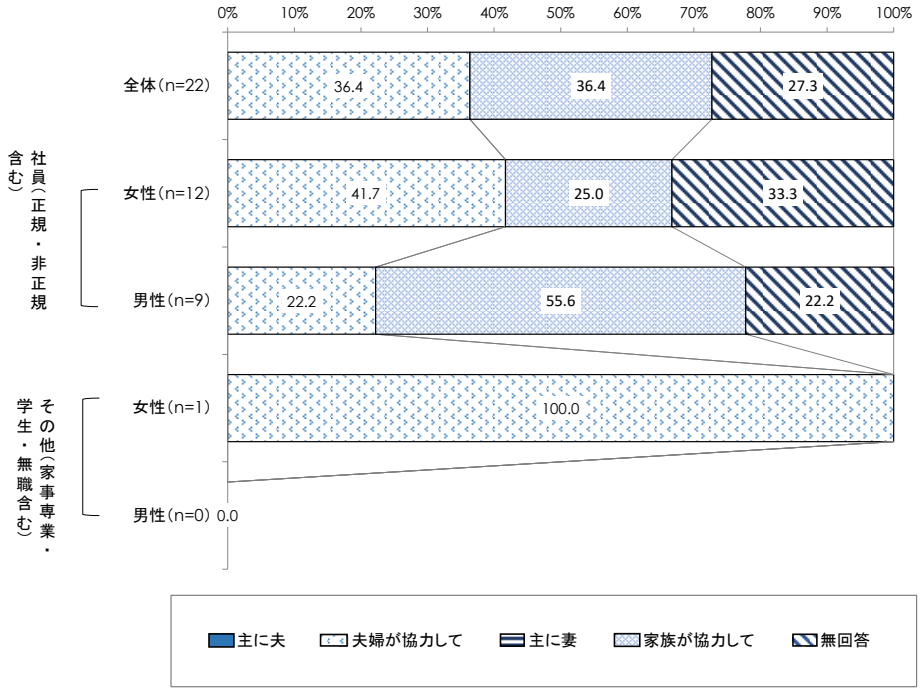


カ 家族の介護

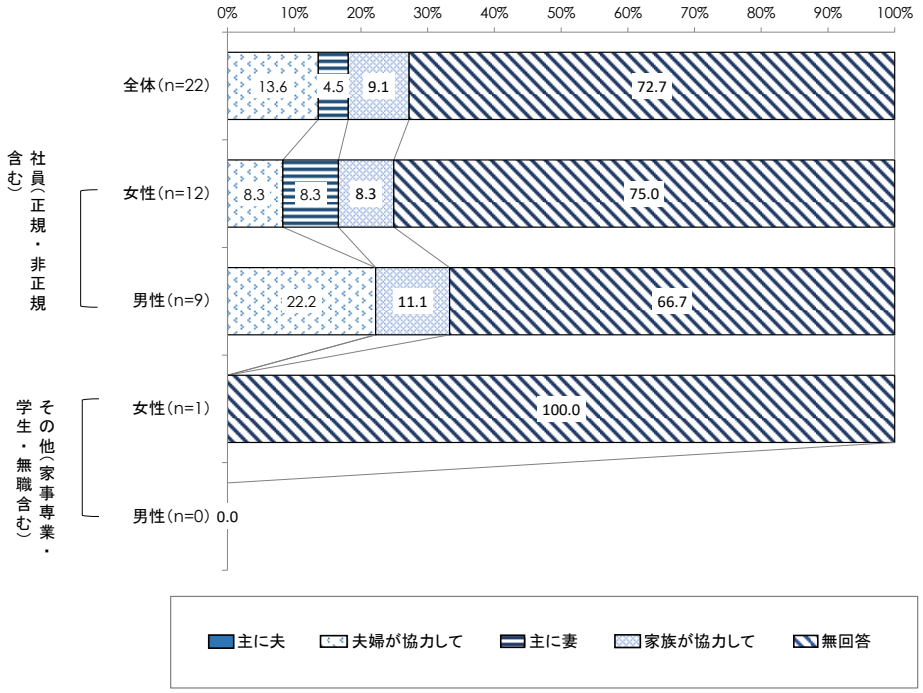
家族の介護についてみると、社員（正規・非正規含む）男性の理想は「家族が協力して」の割合が高くなっていますが、社員（正規・非正規含む）男性の現実は「夫婦が協力して」の割合も高くなっています。

【 自身の職業別・性別にみた家事などの役割分担について（カ 家族の介護） 】

理想



現実

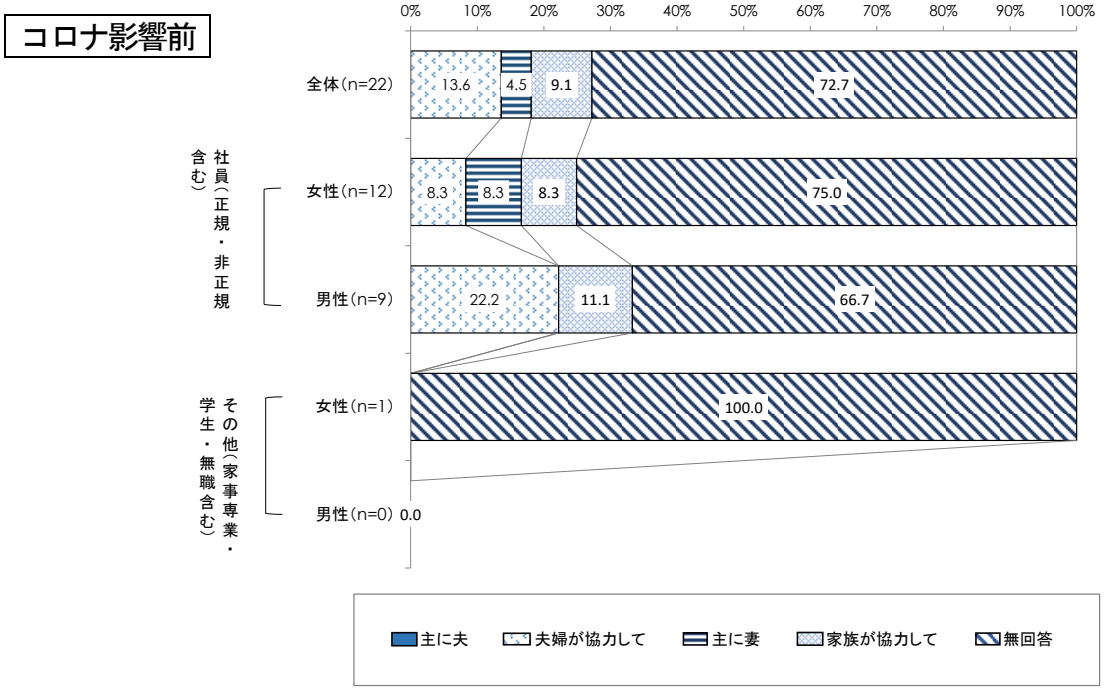


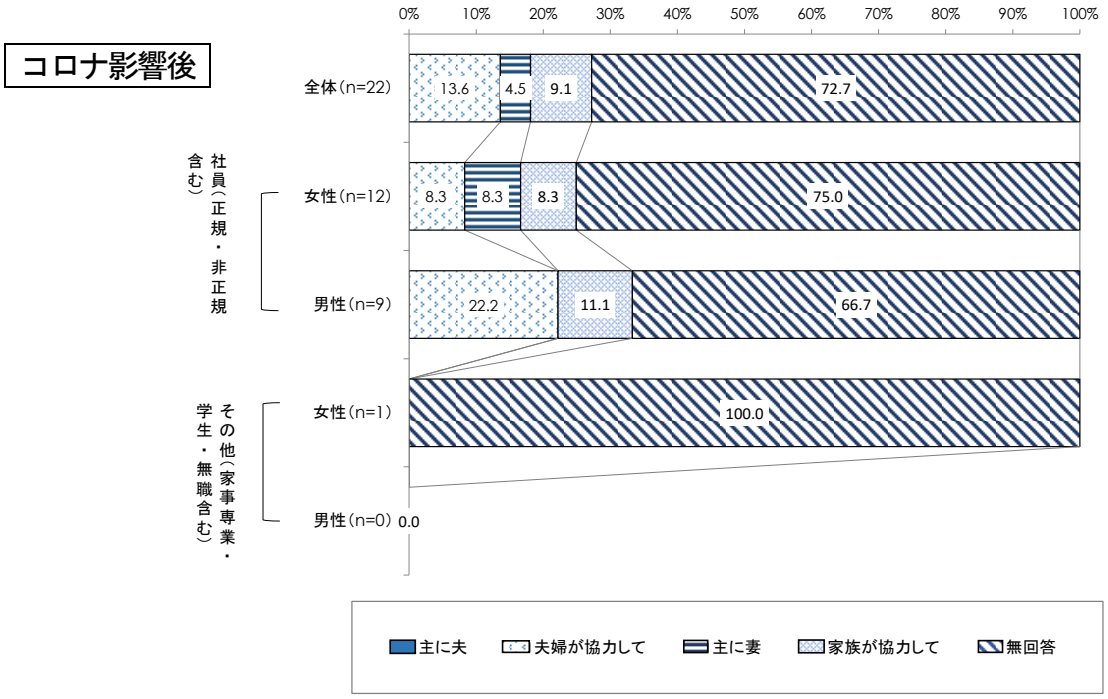
【参考：コロナ影響前・コロナ影響後】

カ 家族の介護

コロナ影響前後で比較すると、差は見られませんでした。

【 自身の職業別・性別にみた家事などの役割分担について（カ 家族の介護） 】



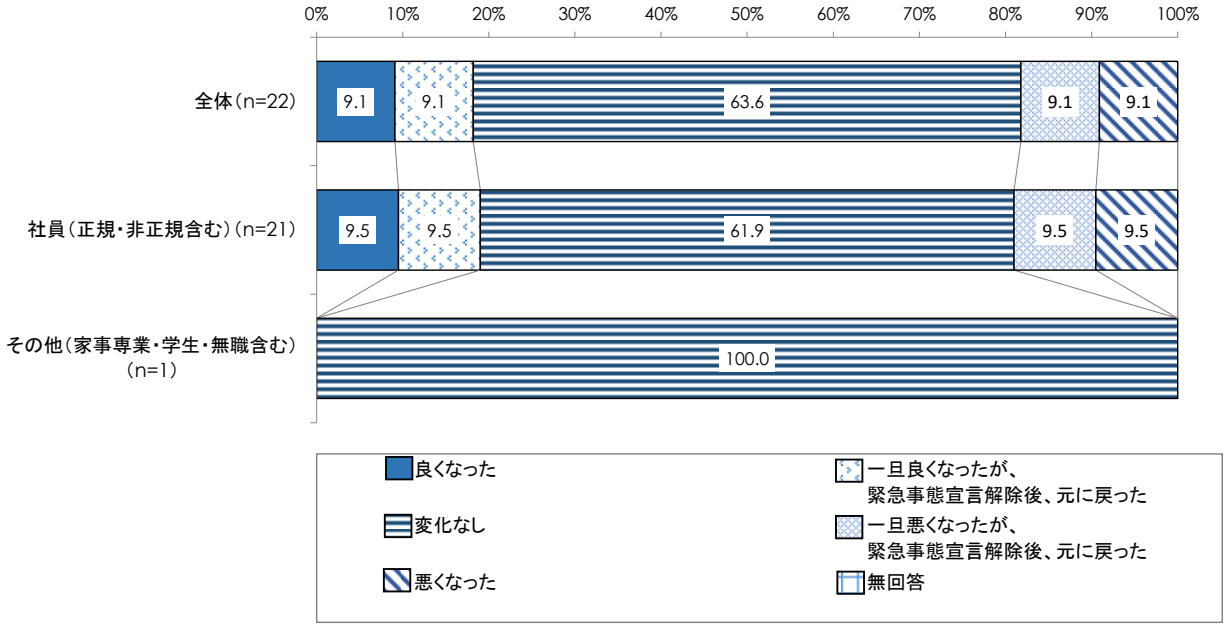


問 12. ≪問11の(1)(2)に回答した方にうかがいます≫ →そのほかの方は問13へ
新型コロナウイルス感染症対策における自粛活動等の影響前後において、あなたの生活はどう変化したと感じますか。(○は1つ)

新型コロナウイルス感染症対策における自粛活動等の影響前後においての生活の変化についてをみると、「変化なし」63.6%が6割を超えています。

自身の職業別にみると、いずれも「変化なし」の割合が最も高くなっています。

【 自身の職業別にみたコロナでの生活の変化について 】

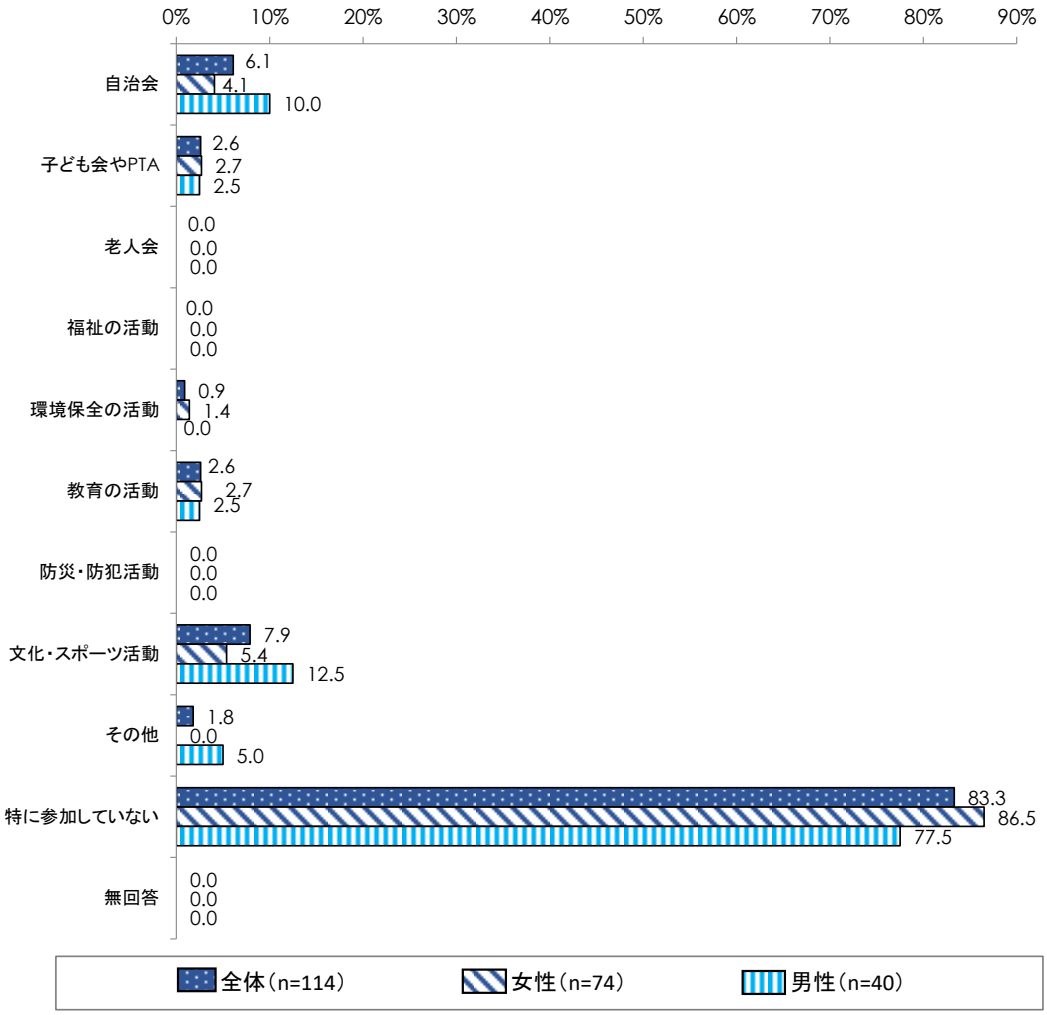


問 13. 地域活動や社会活動について、あなたが参加しているものは何ですか。
（○はあてはまるものすべて）

地域活動や社会活動への参加状況をみると、「特に参加していない」83.3%の割合が最も高く、次いで「文化・スポーツ活動」7.9%、「自治会」6.1%の順となっています。

性別にみると、男女ともに「文化・スポーツ活動」の割合が高く、また、「特に参加していない」は男女ともに７割を超えています。

【 性別にみた地域活動や社会活動への参加状況について 】

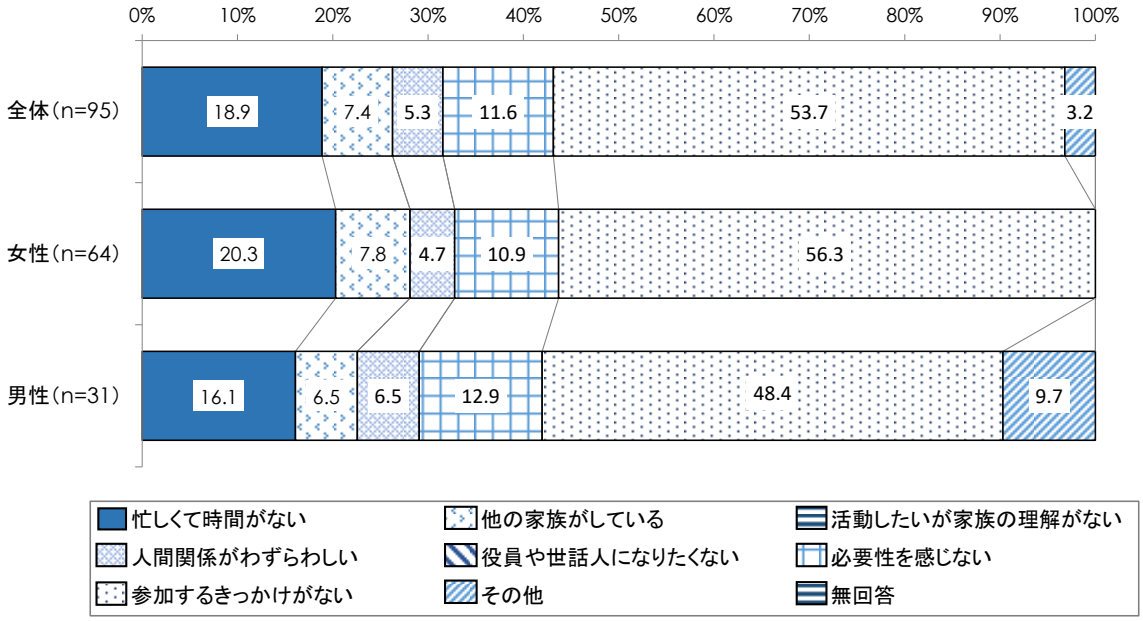


問 14. ≪問 13 で「特に参加していない」と答えた方にうかがいます≫ →そのほかの方は問 15 へ
その主な理由は何ですか。（○は1つ）

地域活動や社会活動に「特に参加していない」と答えた方の参加していない理由についてみると、「参加するきっかけがない」53.7%の割合が最も高く、次いで「忙しくて時間がない」18.9%、「必要性を感じない」11.6%、「他の家族がしている」7.4%の順となっています。

性別にみると、男女ともに「参加するきっかけがない」の割合が最も高くなっており、次いで「忙しくて時間がない」、「必要性を感じない」が続いています。

【 性別にみた地域活動や社会活動に参加していない理由について 】

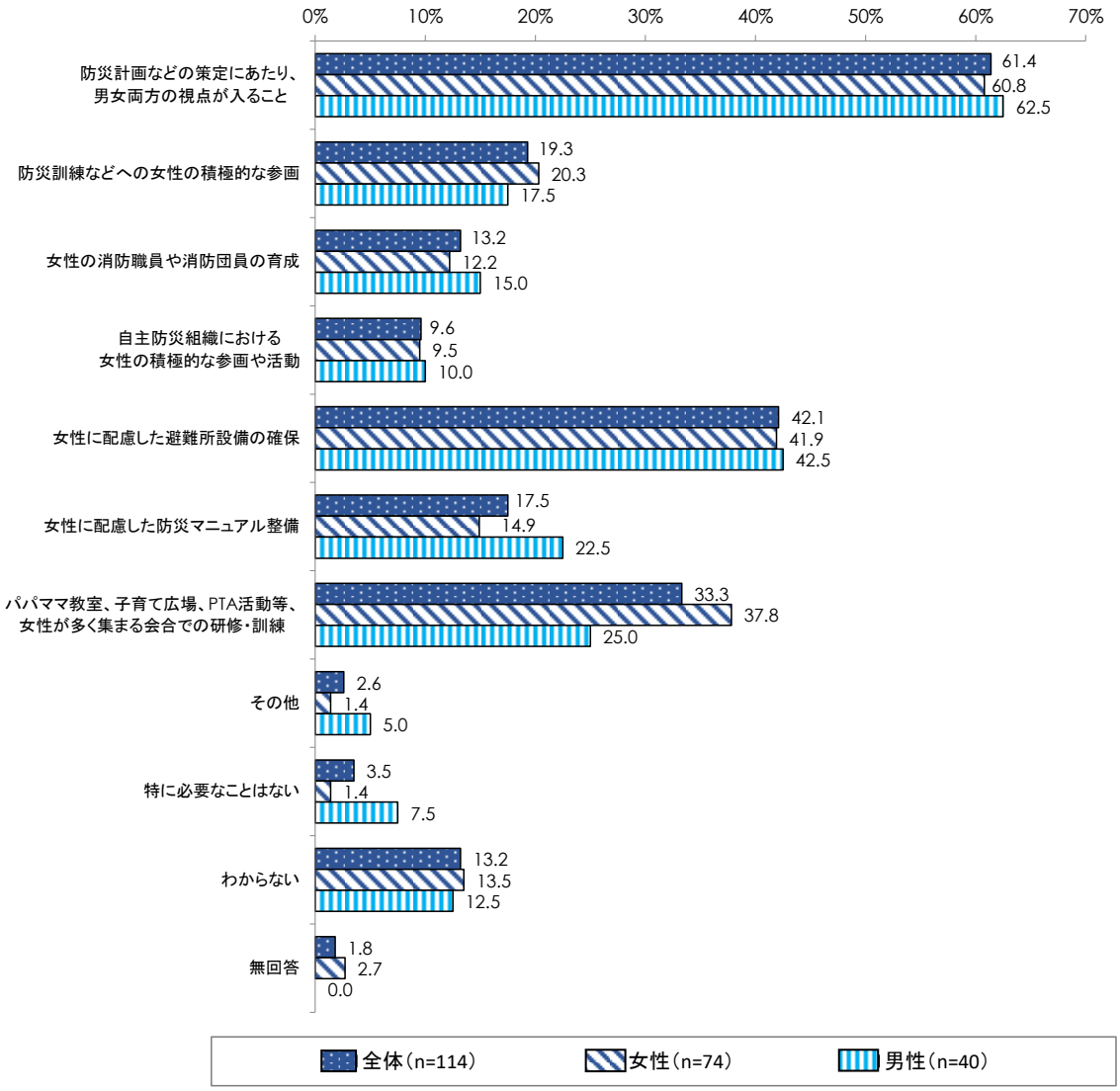


問 15. ≪全員にうかがいます≫
防災（災害復興も含みます）活動に関して、男女共同参画を推進していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（○は特に必要だと思うものを3つまで）

防災（災害復興も含みます）活動に関して、男女共同参画を推進していくために必要なことについてみると、「防災計画などの策定にあたり、男女両方の視点が入ること」61.4%の割合が最も高く、次いで「女性に配慮した避難所設備の確保」42.1%、「パパママ教室、子育て広場、PTA 活動等、女性が多く集まる会合での研修・訓練」33.3%、「防災訓練などへの女性の積極的な参画」19.3%の順となっています。

性別にみると、男女ともに「防災計画などの策定にあたり、男女両方の視点が入ること」の割合が最も高くなっており、次いで「女性に配慮した避難所設備の確保」が続いています。

【 性別にみた防災活動に関して、男女共同参画を推進していくために必要なことについて 】



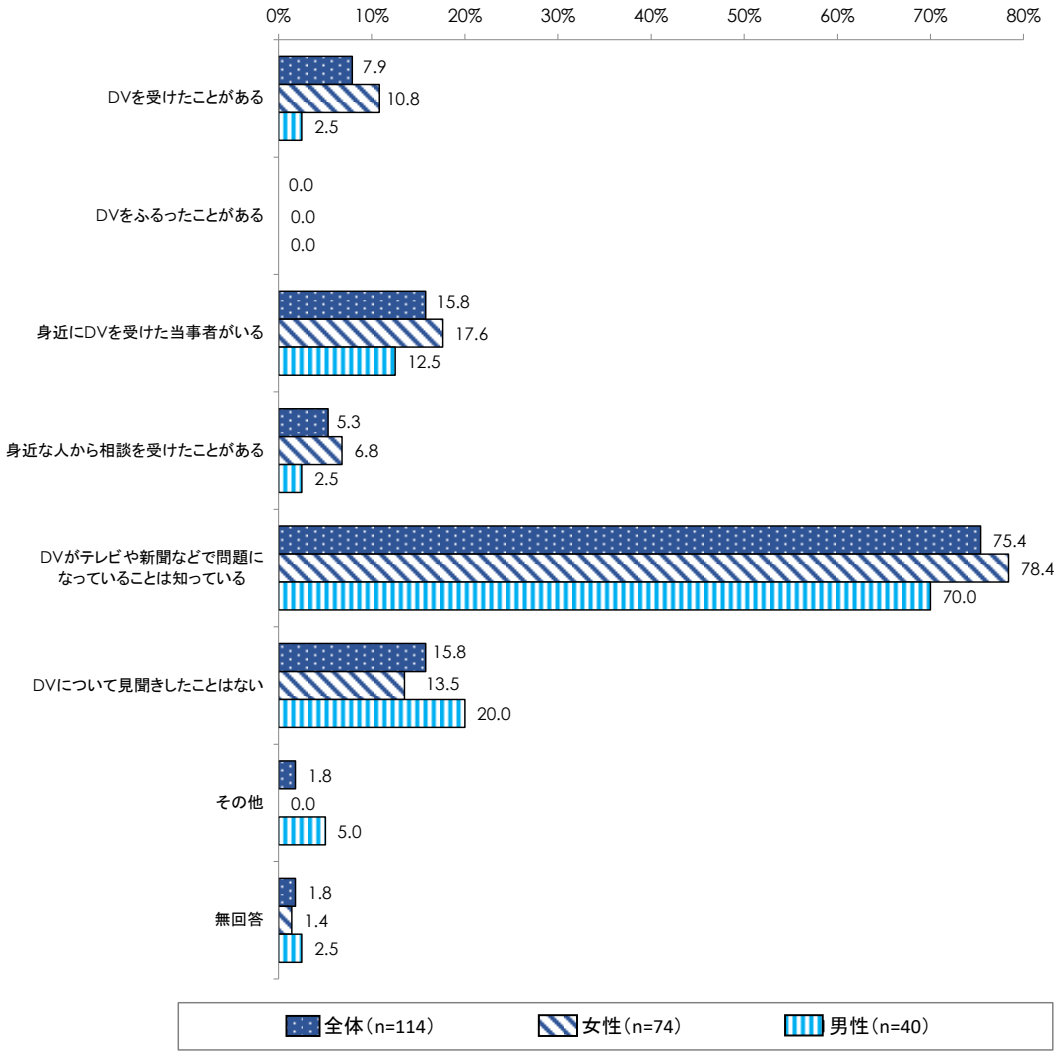
5 ドメスティック・バイオレンス（DV）について

問 16. あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）（※）を経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。（○はあてはまるものすべて）

ＤＶを経験したり、身近で見聞きしたりしたことについてみると、「ＤＶがテレビや新聞などで問題になっていることは知っている」75.4％の割合が最も高く、次いで「身近にＤＶを受けた当事者がいる」、「ＤＶについて見聞きしたことはない」15.8％、「ＤＶを受けたことがある」7.9％の順となっています。

性別にみると、男女ともに「ＤＶがテレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が最も高くなっており、次いで男性では「ＤＶについて見聞きしたことはない」、女性では「身近にＤＶを受けた当事者がいる」が続いています。

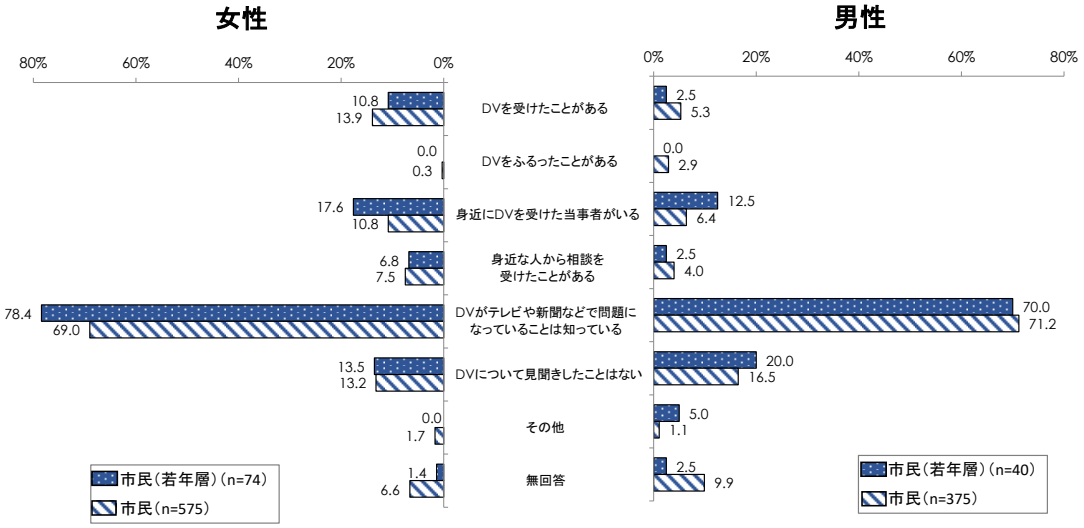
【 性別にみたＤＶを経験したり、身近で見聞きしたりしたことについて 】



※ドメスティック・バイオレンス（DV）とは、配偶者や恋人などの親密な関係にあるパートナーから受ける暴力のことをいいます。殴る、蹴るなどの身体的暴力のみならず、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力や社会的暴力など、広く意味します。

市民調査・性別にみると、女性では「ＤＶがテレビや新聞などで問題になっていることは知っている」、「身近にＤＶを受けた当事者がいる」が市民より市民（若年層）の割合の方が高くなっています。

【 市民調査比較・性別にみたＤＶを経験したり、身近で見聞きしたりしたことについて 】

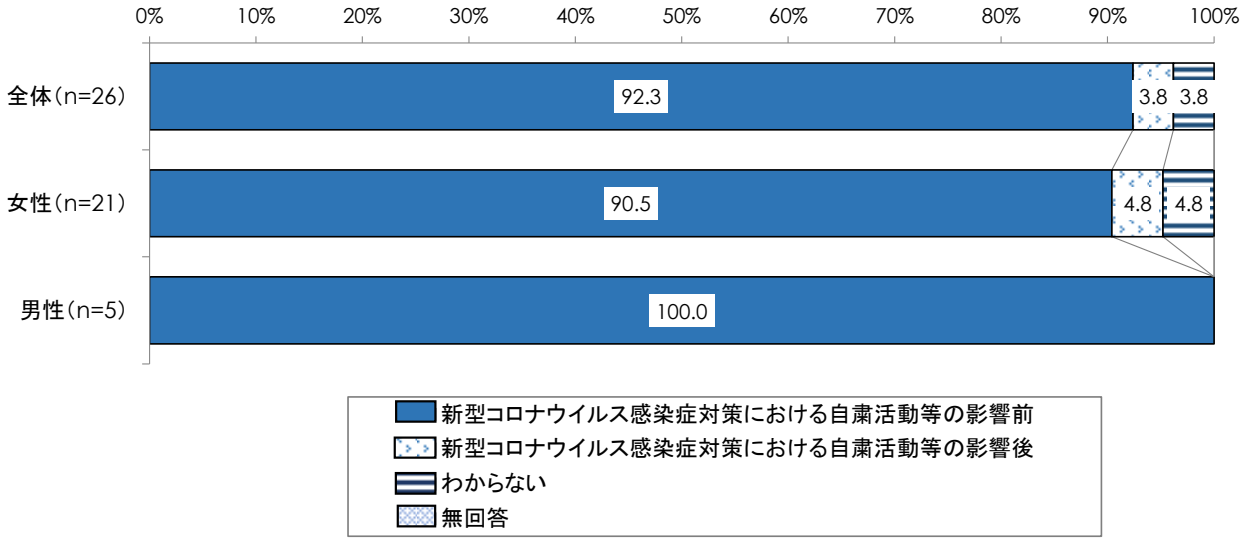


問 17. ≪問 16 で「DV を受けたことがある」「DV をふるったことがある」「身近に DV を受けた当事者がいる」「身近な人から相談を受けたことがある」と答えた方にうかがいます≫
→そのほかの方は問 18 へ
それはいつですか。（○は1つ）

ＤＶを受けたこと、ふるったことがある方、身近にＤＶを受けた当事者がいる、相談を受けたことがあることがあった時期をみると、「新型コロナウイルス感染症対策における自粛活動等の影響前」が 92.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「新型コロナウイルス感染症対策における自粛活動等の影響前」が９割を超えています。

【 性別にみたＤＶを受けたこと、ふるったことがある方、身近にＤＶを受けた当事者がいる、相談を受けたことがあることがあった時期】

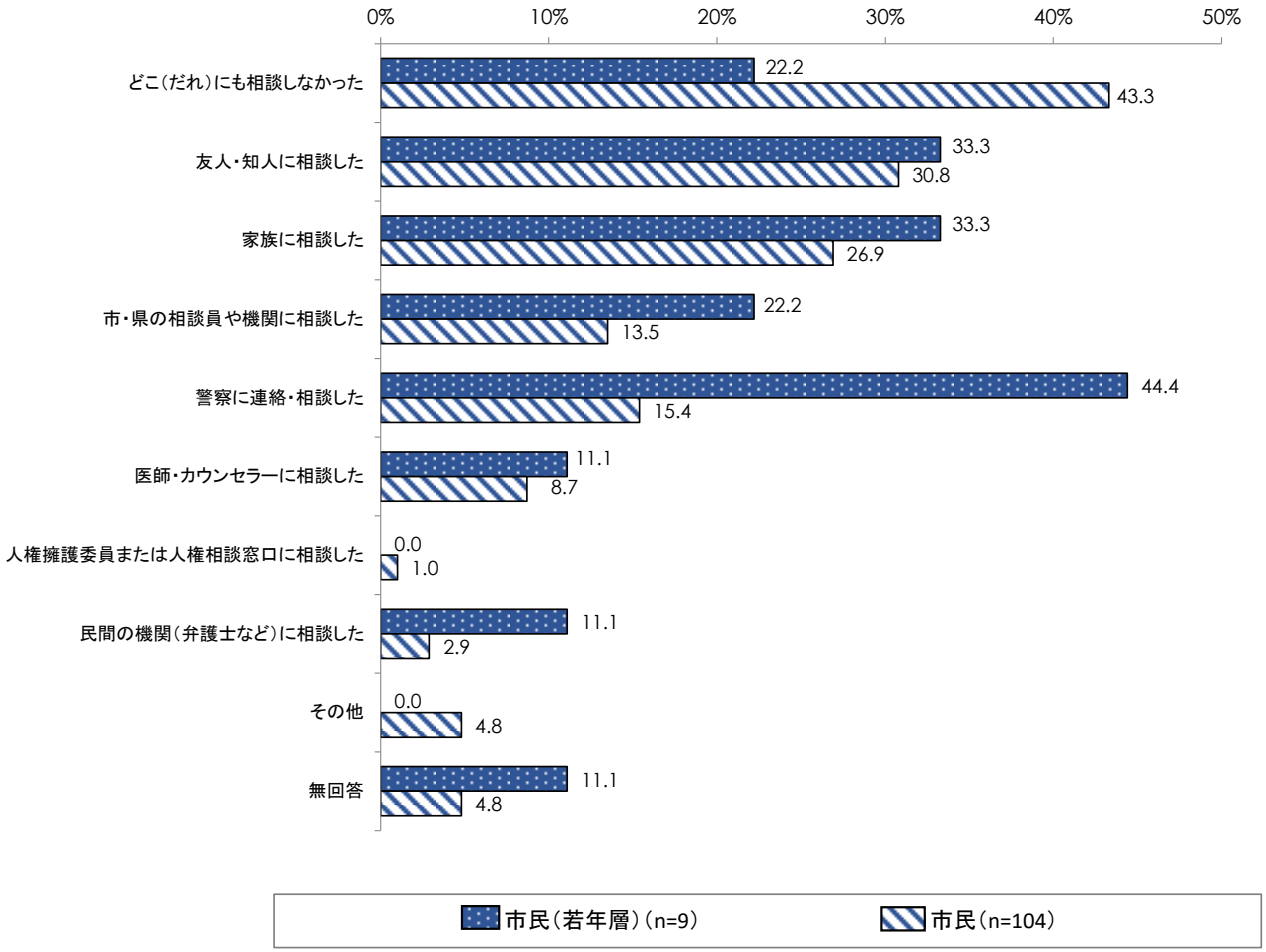


問 18. ≪問 16 で「DV を受けたことがある」と答えた方にうかがいます≫ →そのほかの方は問 20 へ
あなたは、そのことをだれかに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか。
（○はあてはまるものすべて）

ＤＶを受けたことがある方がＤＶのことをだれかに打ち明けたり、相談したりしたことがあるかをみると、「警察に連絡・相談した」44.4%の割合が最も高く、次いで「友人・知人に相談した」、「家族に相談した」33.3%、「どこ（だれ）にも相談しなかった」、「市・県の相談員や機関に相談した」22.2%の順となっています。

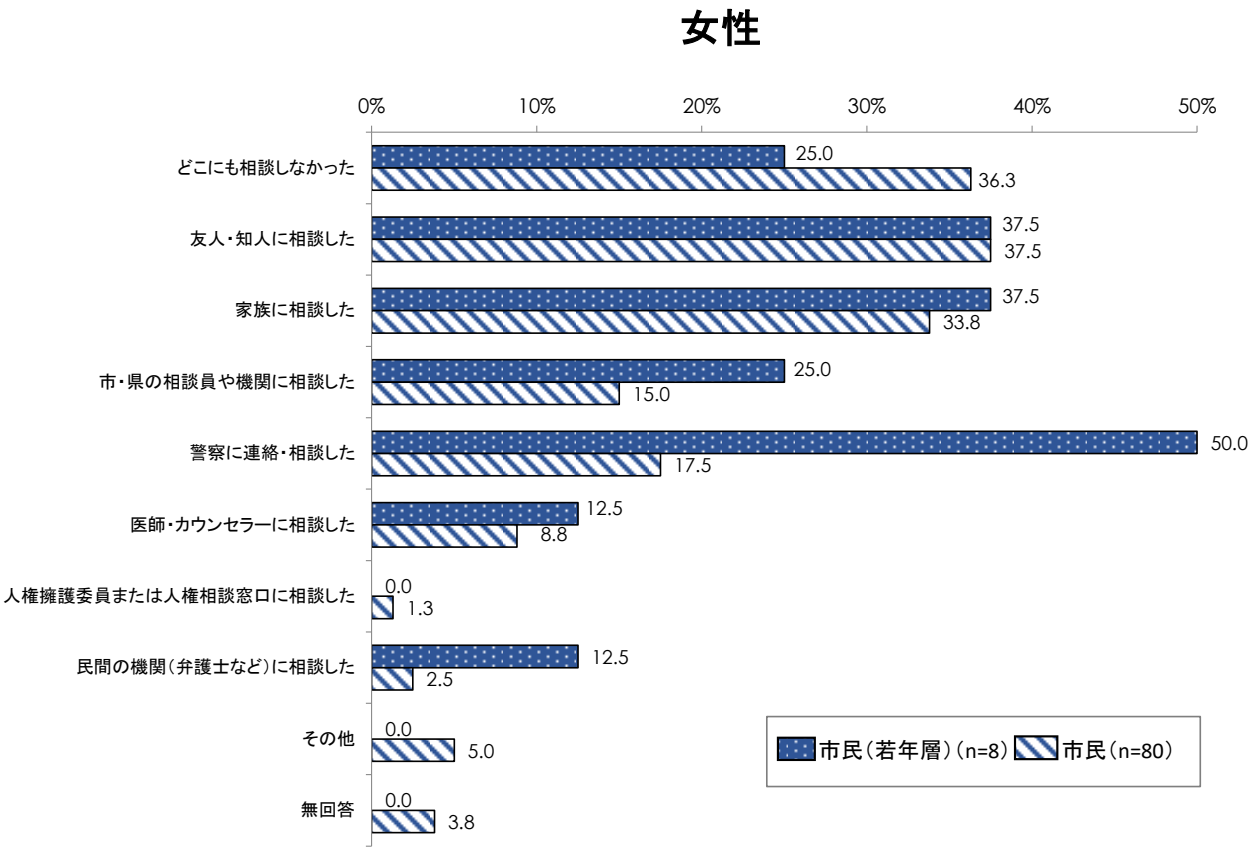
市民調査と比較すると、市民（若年層）では「友人・知人に相談した」、「家族に相談した」、「市・県の相談員や機関に相談した」、「警察に連絡・相談した」、「医師・カウンセラーに相談した」、「民間の機関（弁護士など）に相談した」が市民より割合が高くなっています。

【 市民調査と比較したＤＶのことをだれかに打ち明けたり、相談したりしたことがあるかについて 】



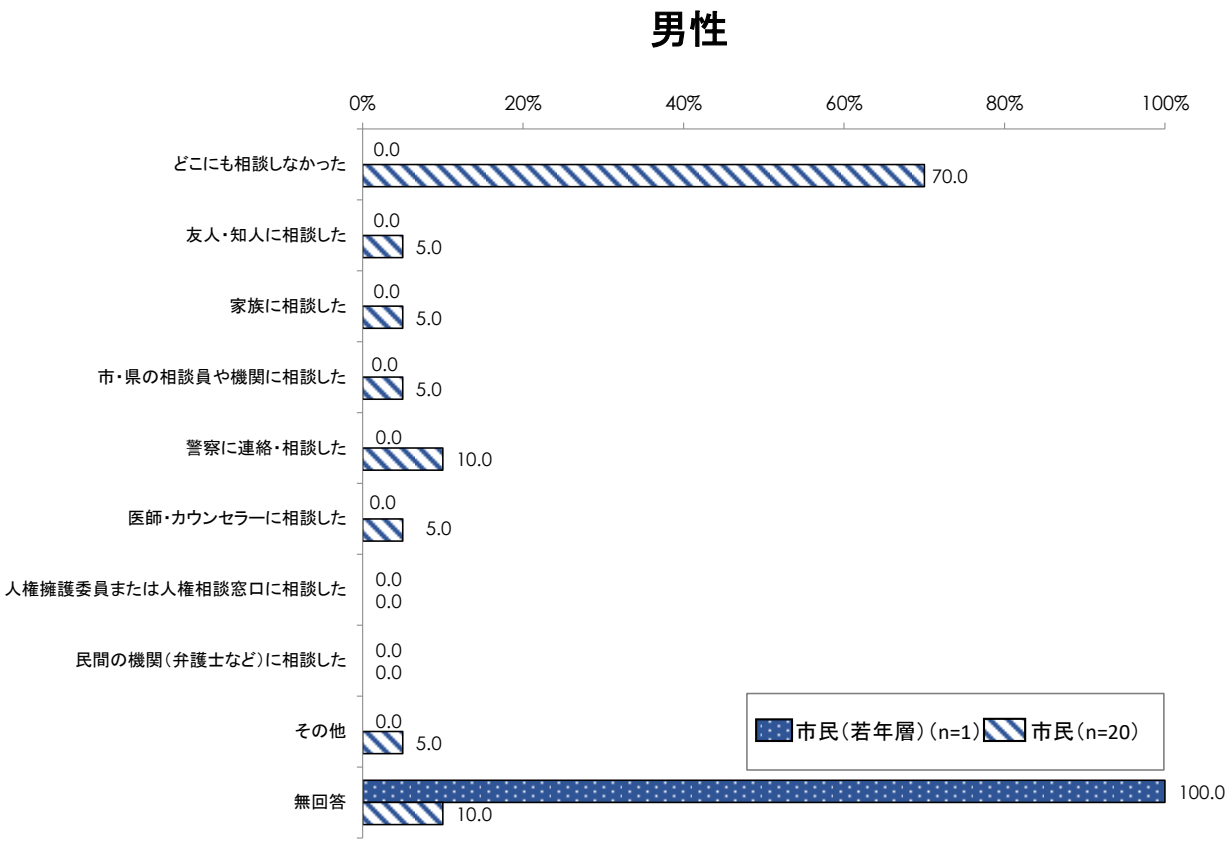
市民（若年層）の女性では「家族に相談した」、「市・県の相談員や機関に相談した」、「警察に連絡・相談した」、「医師・カウンセラーに相談した」、「民間の機関（弁護士など）に相談した」が市民の女性より割合が高くなっています。

【 市民調査比較・性別にみたＤＶのことをだれかに打ち明けたり、相談したりしたことがあるかについて 】



市民調査・性別にみると、市民（若年層）の男性では回答者が１人で、無回答であったため比較はできませんでした。

【 市民調査比較・性別にみたＤＶのことをだれかに打ち明けたり、相談したりしたことがあるかについて 】

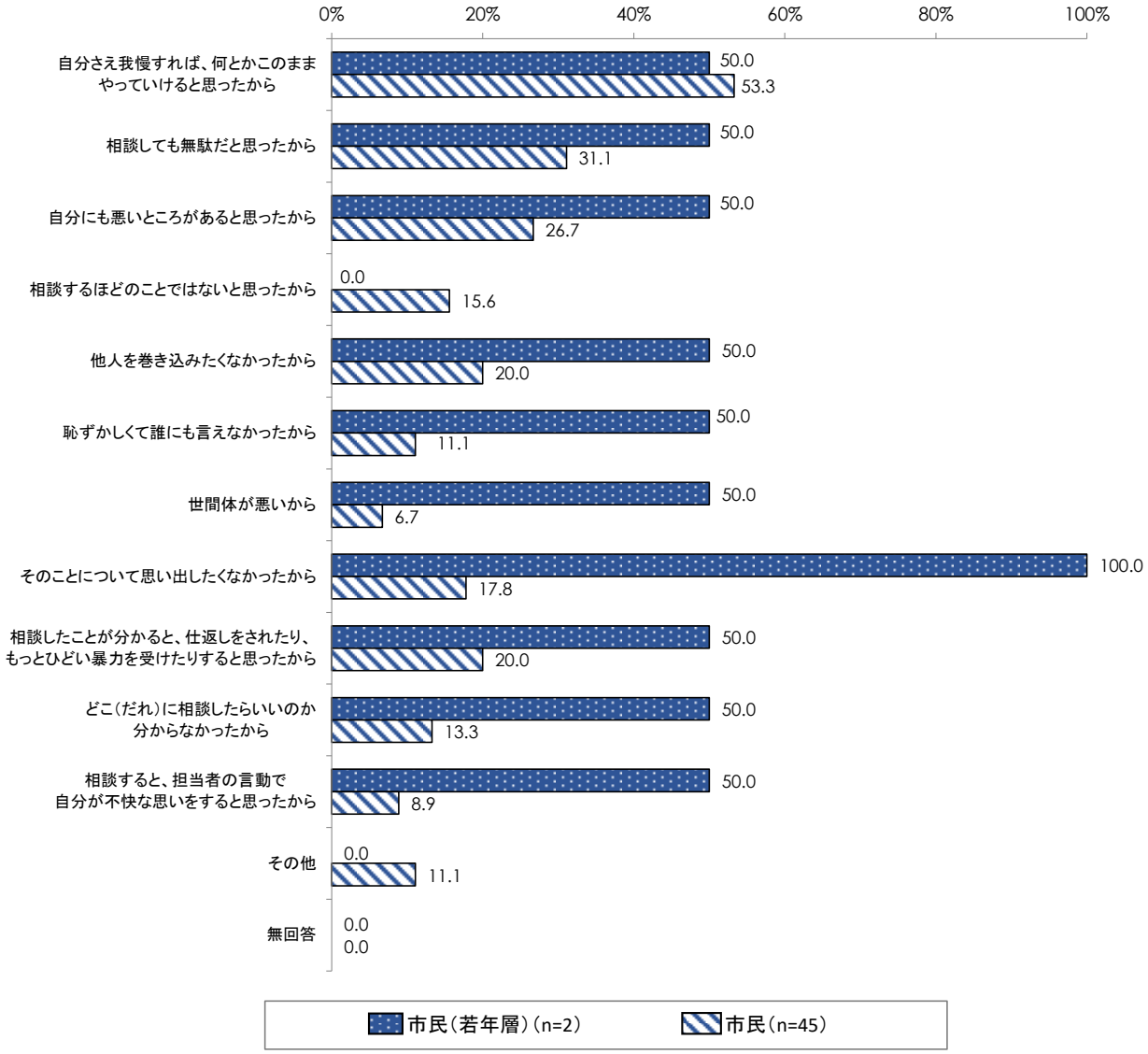


問 19. ≪問 18 で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方にうかがいます≫
→そのほかの方は問 20 へ
相談しなかったのはなぜですか。(○はあてはまるものすべて)

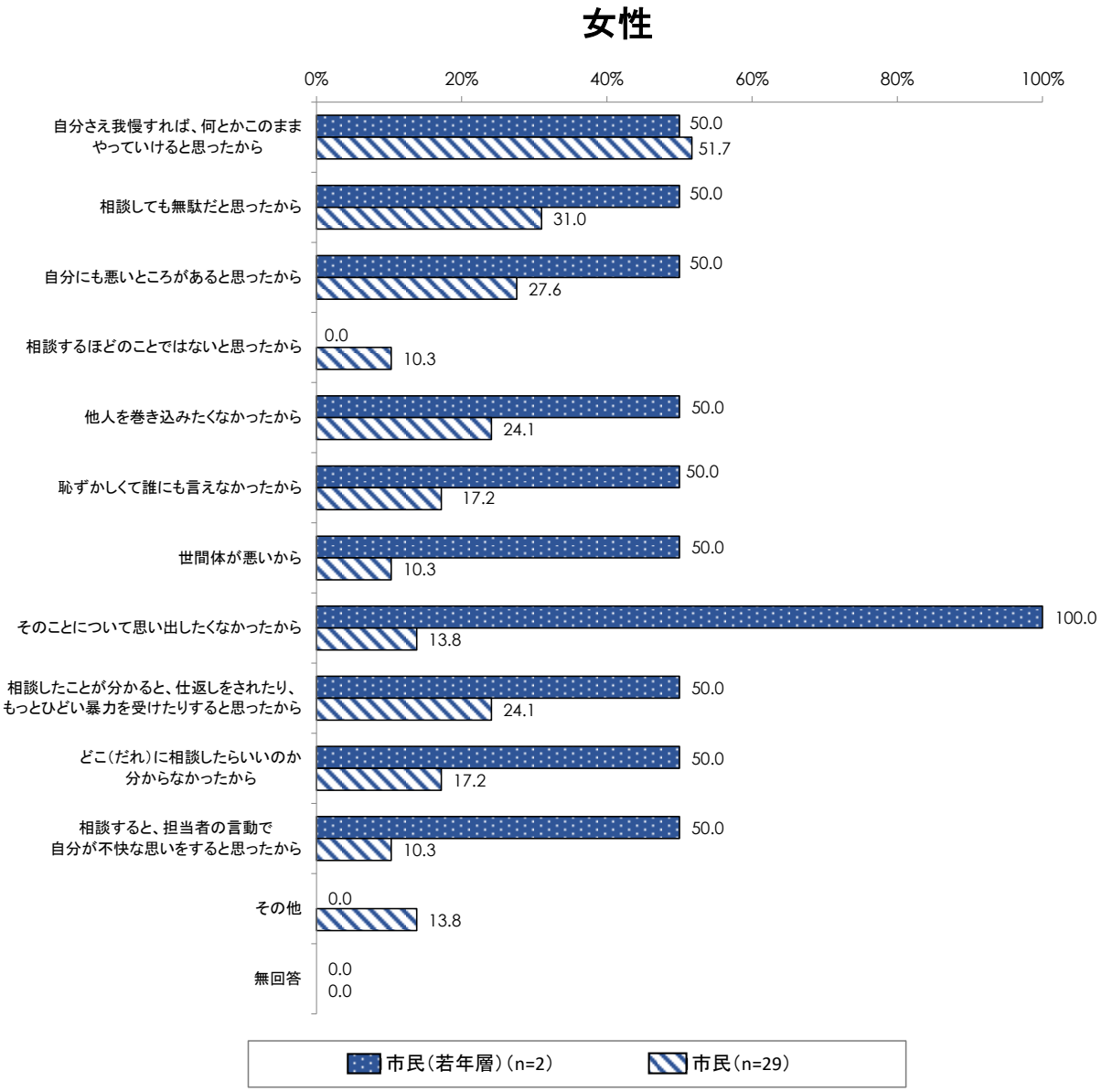
ＤＶを受けたことがある方のうち、ＤＶのことをだれかに打ち明けたり、相談しなかった理由をみると、「そのことについて思い出したくなかったから」の回答が最も多くなっています。

若年層の回答が全体で２人と極端に少ないため、市民調査との比較はできませんでしたが、参考値として記載しています。

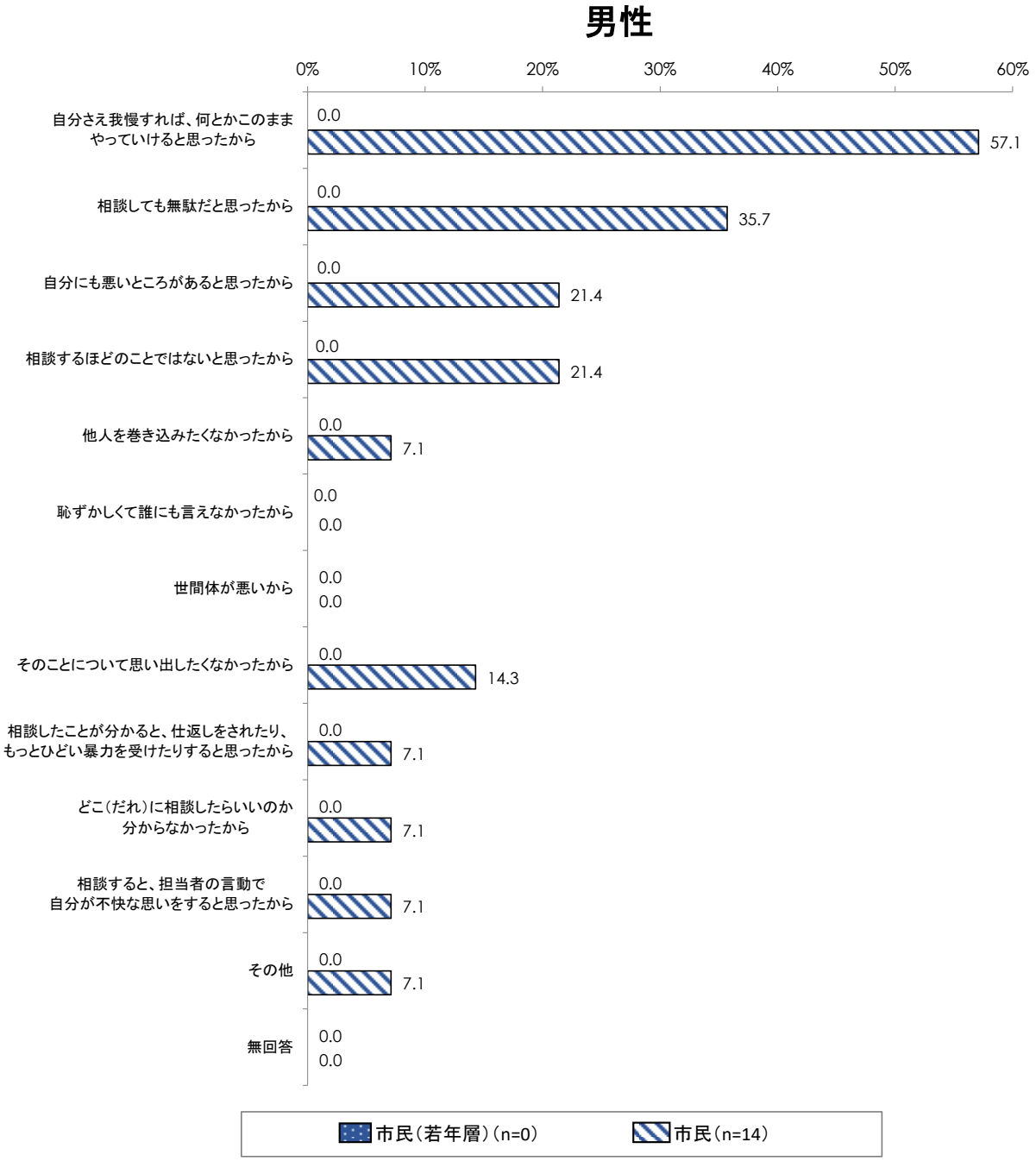
【 市民調査と比較したＤＶのことをだれかに打ち明けたり、相談しなかった理由について】



【 市民調査比較・性別(女性)にみたＤＶのことをだれかに打ち明けたり、
相談したりしなかった理由について】



【 市民調査比較・性別(男性)にみたＤＶのことをだれかに打ち明けたり、
相談したりしなかった理由について】

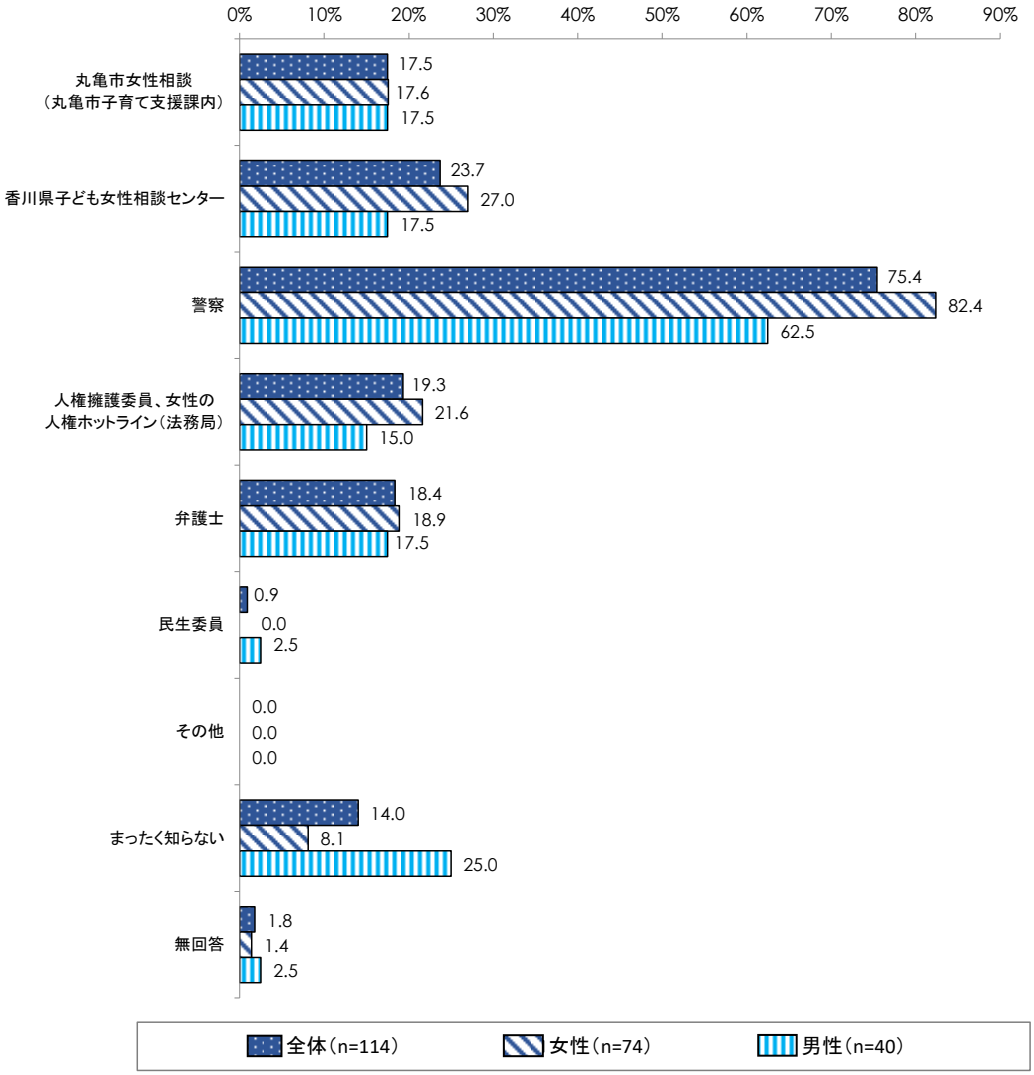


問 20. ≪全員にうかがいます≫
ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、あなたが知っているものを教えてください。（○はあてはまるものすべて）

ＤＶの被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、知っているものをみると、「警察」75.4%の割合が最も高く、次いで「香川県子ども女性相談センター」23.7%、「人権擁護委員、女性の人権ホットライン（法務局）」19.3%、「弁護士」18.4%、「丸亀市女性相談（丸亀市子育て支援課内）」17.5%の順となっています。

性別にみると、男女ともに「警察」の割合が最も高くなっており、次いで男性では「まったく知らない」、女性では「香川県子ども女性相談センター」が続いています。

【 性別にみたＤＶの被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、知っているものについて 】



6 男女共同参画社会づくりについて

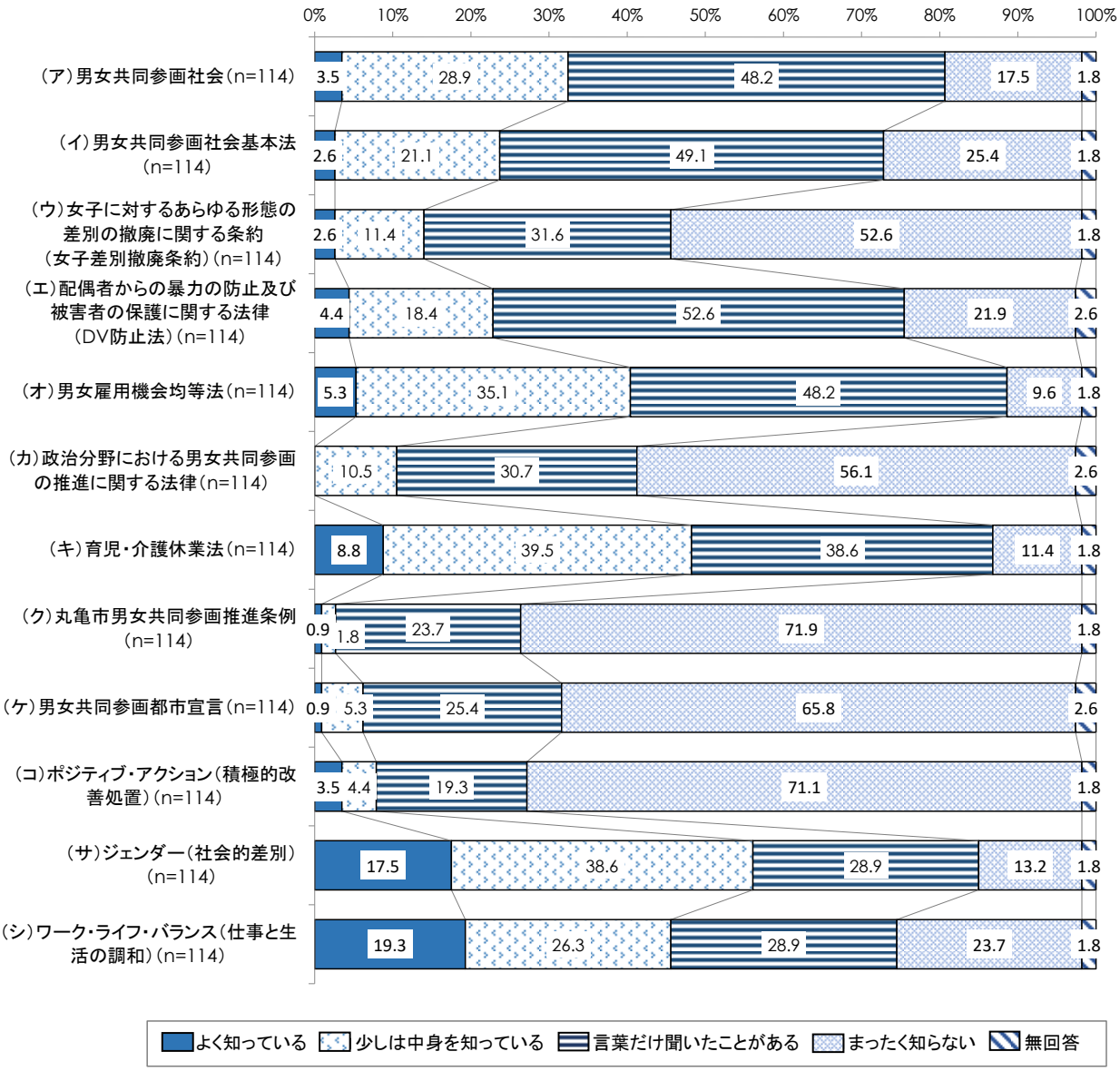
問 21. あなたは男女共同参画に関する(ア)から(シ)までの項目についてどの程度知っていますか。
（○は各項目1つずつ）

【全体】

男女共同参画に関する項目についての認知度についてみると、「よく知っている」と「少しは中身を知っている」を合わせた『知っている』では「(サ) ジェンダー (社会的差別)」が最も割合が高く、次いで「(キ) 育児・介護休業法」、「(シ) ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)」、「(オ) 男女雇用機会均等法」の順となっています。

「まったく知らない」では、「(ク) 丸亀市男女共同参画推進条例」71.9%の割合が最も高く、次いで「(コ) ポジティブ・アクション (積極的改善処置)」71.1%、「(ケ) 男女共同参画都市宣言」65.8%の順となっています。

【 男女共同参画に関する項目についての認知度 】



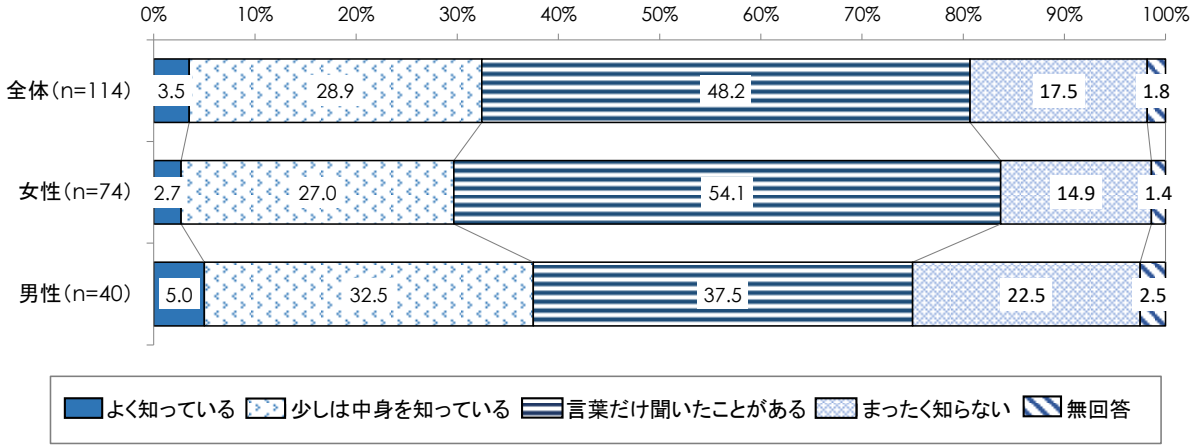
ア　男女共同参画社会

男女共同参画社会の認知度についてみると、「言葉だけ聞いたことがある」48.2%の割合が最も高く、次いで「少しは中身を知っている」28.9%、「まったく知らない」17.5%、「よく知っている」3.5%の順となっています。

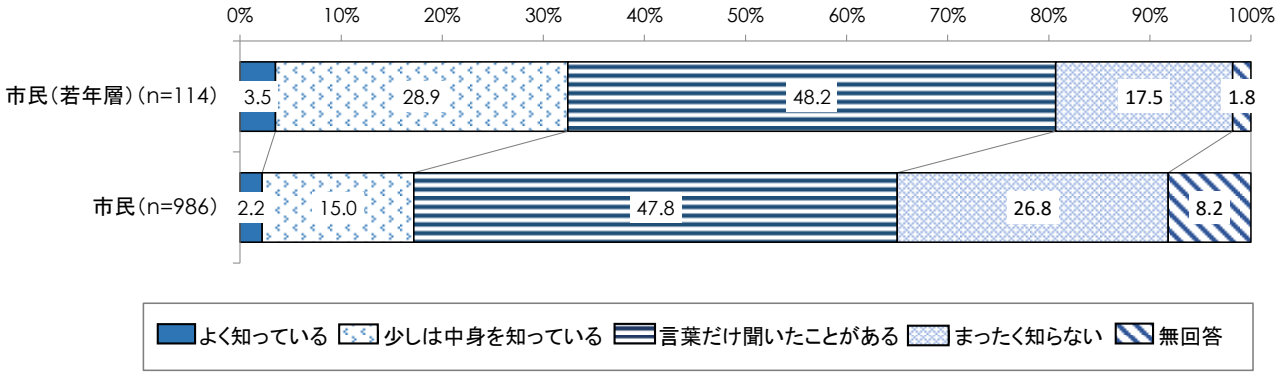
性別にみると、『知っている』は男性37.5%、女性29.7%となっており、男性が女性より7.8ポイント高くなっています。

市民調査と比較すると、市民（若年層）の『知っている』32.4%は市民の『知っている』17.2%より15.2ポイント高くなっています。

【 性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度（ア　男女共同参画社会）】



【 市民調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度（ア　男女共同参画社会）】



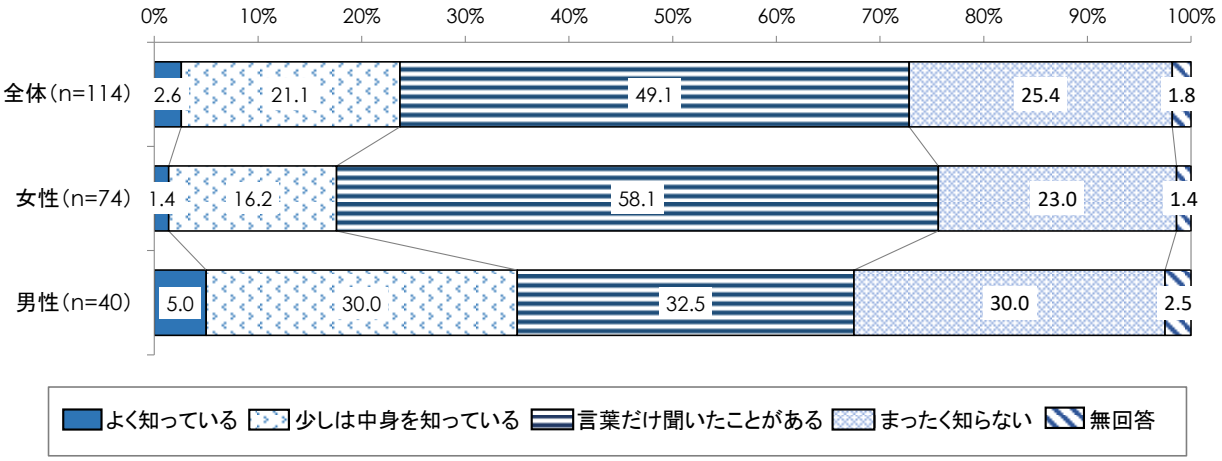
イ　男女共同参画社会基本法

男女共同参画社会基本法の認知度についてみると、「言葉だけ聞いたことがある」49.1%の割合が最も高く、次いで「まったく知らない」25.4%、「少しは中身を知っている」21.1%、「よく知っている」2.6%の順となっています。

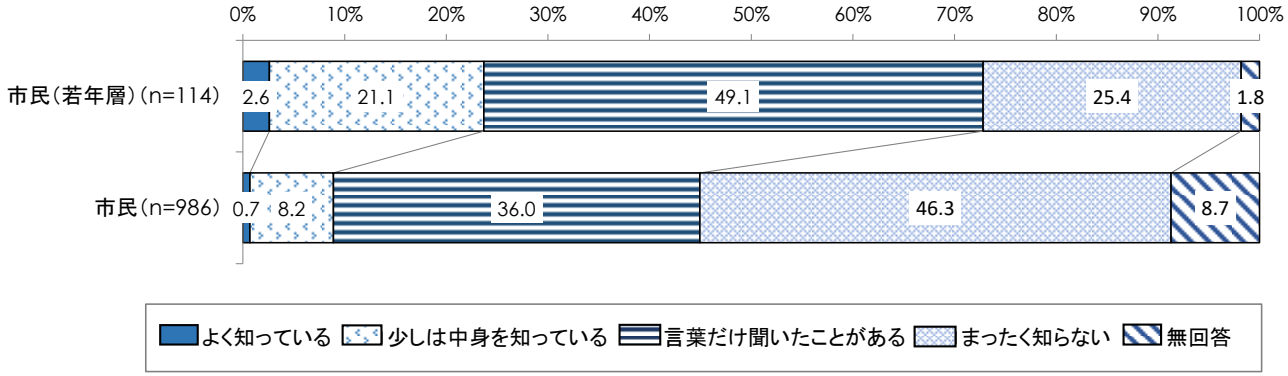
性別にみると、『知っている』は男性では35.0%、女性では17.6%となっており、男性が女性より17.4ポイント高くなっています。

市民調査と比較すると、市民（若年層）の『知っている』23.7%は市民の『知っている』8.9%より14.8ポイント高くなっています。

【 性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度（イ　男女共同参画社会基本法）】



【 市民調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度（イ　男女共同参画社会基本法）】



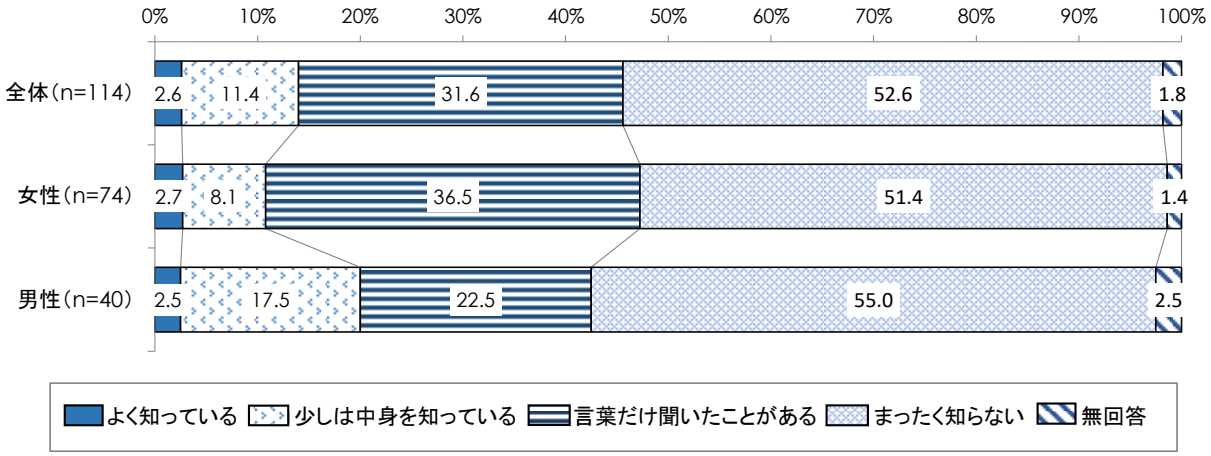
ウ　女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約（女子差別撤廃条約）

女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約（女子差別撤廃条約）の認知度についてみると、「まったく知らない」52.6%の割合が最も高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」31.6%、「少しは中身を知っている」11.4%、「よく知っている」2.6%の順となっています。

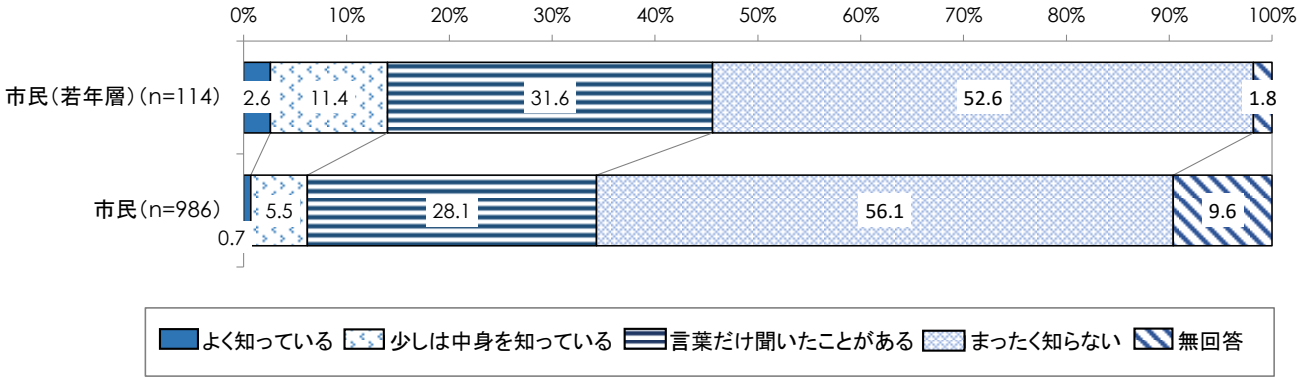
性別にみると、『知っている』は男性では20.0%、女性では10.8%となっており、男性が女性より9.2ポイント高くなっています。

市民調査と比較すると、市民（若年層）の『知っている』14.0%は市民の『知っている』6.2%より7.8ポイント高くなっています。

【 性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度（ウ 女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約（女子差別撤廃条約））】



【 市民調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度（ウ 女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約（女子差別撤廃条約））】



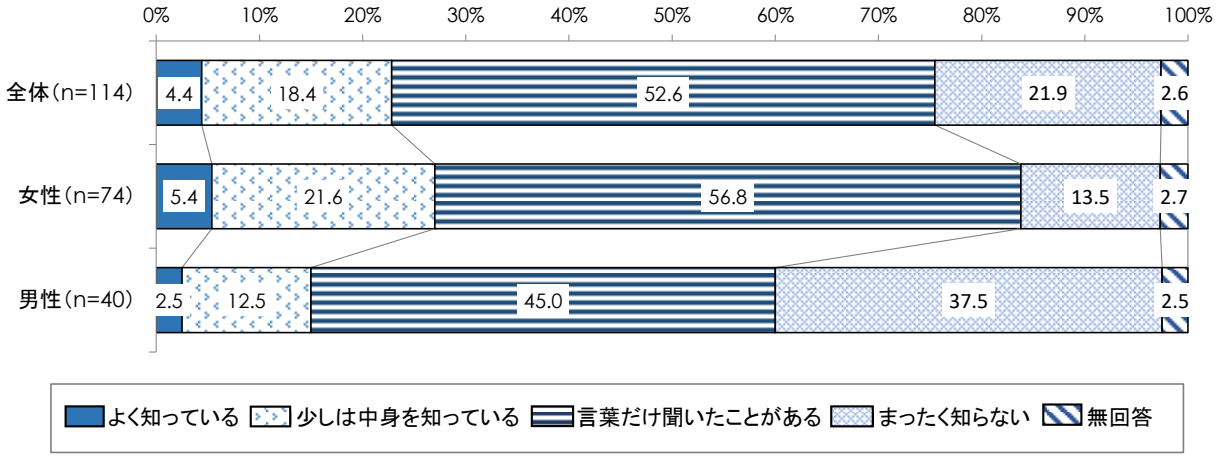
エ　配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（ＤＶ防止法）の認知度についてみると、「言葉だけ聞いたことがある」52.6%の割合が最も高く、次いで「まったく知らない」21.9%、「少しは中身を知っている」18.4%、「よく知っている」4.4%の順となっています。

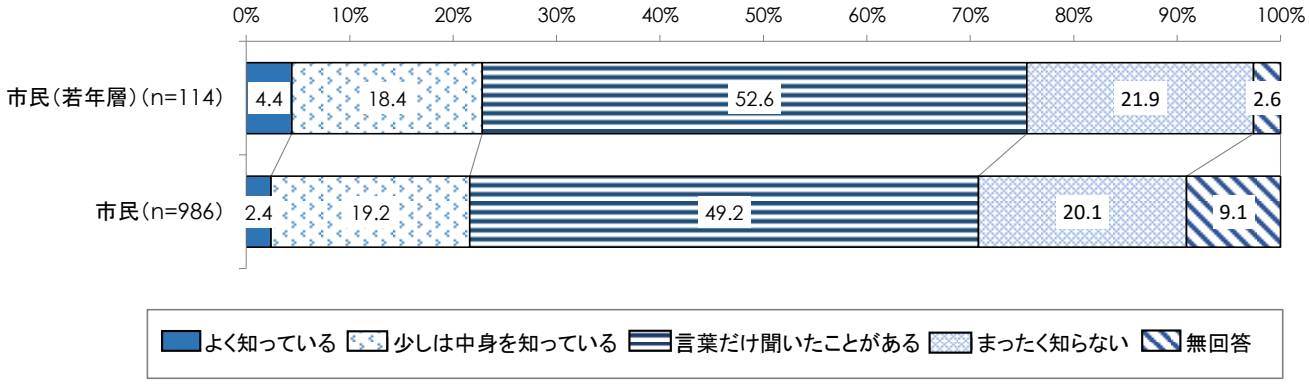
性別にみると、『知っている』は男性では 15.0%、女性では 27.0%となっており、女性が男性より 12 ポイント高くなっています。

市民調査と比較すると、市民（若年層）、市民の『知っている』はどちらも２割程度となっています。

【 性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度(エ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(ＤＶ防止法)）】



【 市民調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度(エ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(ＤＶ防止法)）】



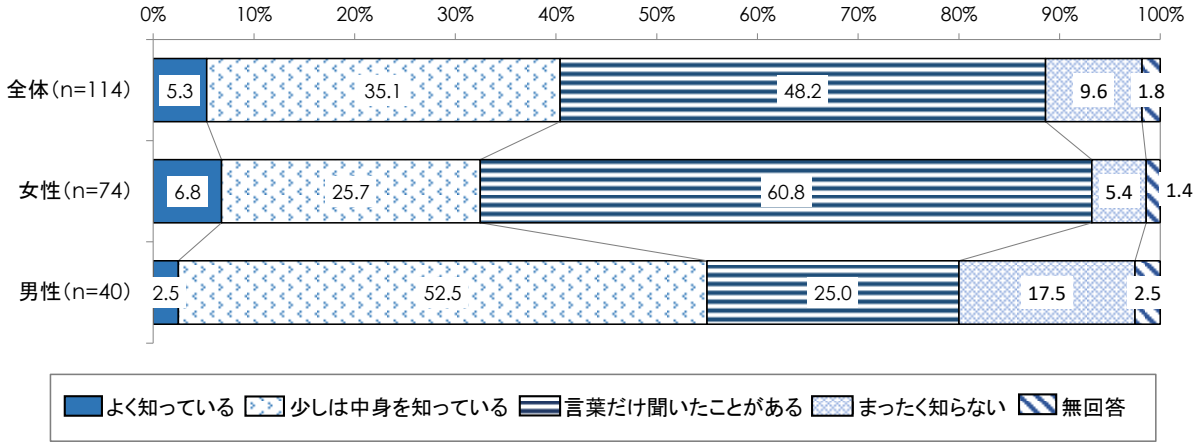
オ　男女雇用機会均等法

男女雇用機会均等法の認知度についてみると、「言葉だけ聞いたことがある」48.2%の割合が最も高く、次いで「少しは中身を知っている」35.1%、「まったく知らない」9.6%、「よく知っている」5.3%の順となっています。

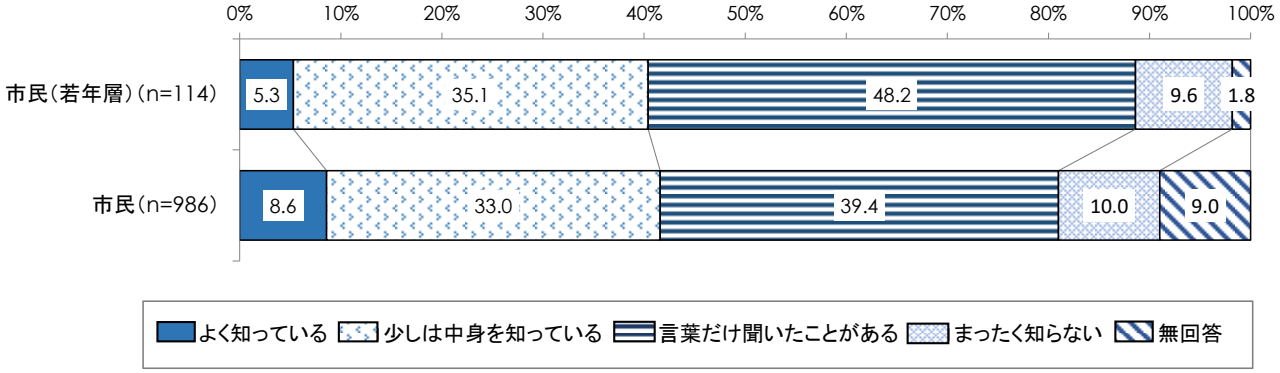
性別にみると、『知っている』は男性では55.0%、女性では32.5%となっており、男性が女性より22.5ポイント高くなっています。

市民調査と比較すると、市民（若年層）、市民の『知っている』はどちらも４割程度となっています。

【 性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度（オ 男女雇用機会均等法） 】



【 市民調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度（オ 男女雇用機会均等法） 】



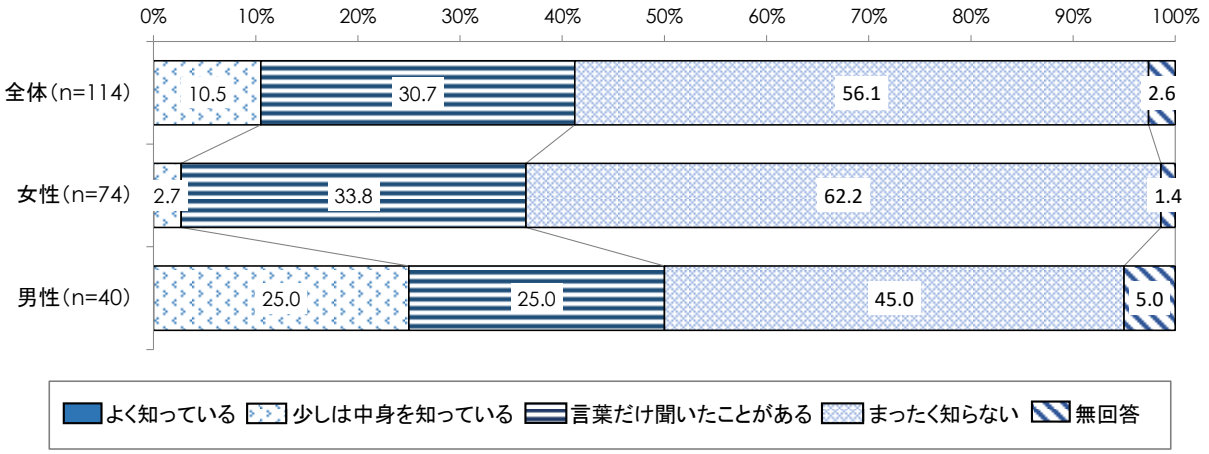
カ　政治分野における男女共同参画の推進に関する法律

政治分野における男女共同参画の推進に関する法律の認知度についてみると、「まったく知らない」56.1%が最も割合が高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」30.7%、「少しは中身を知っている」10.5%の順となっています。

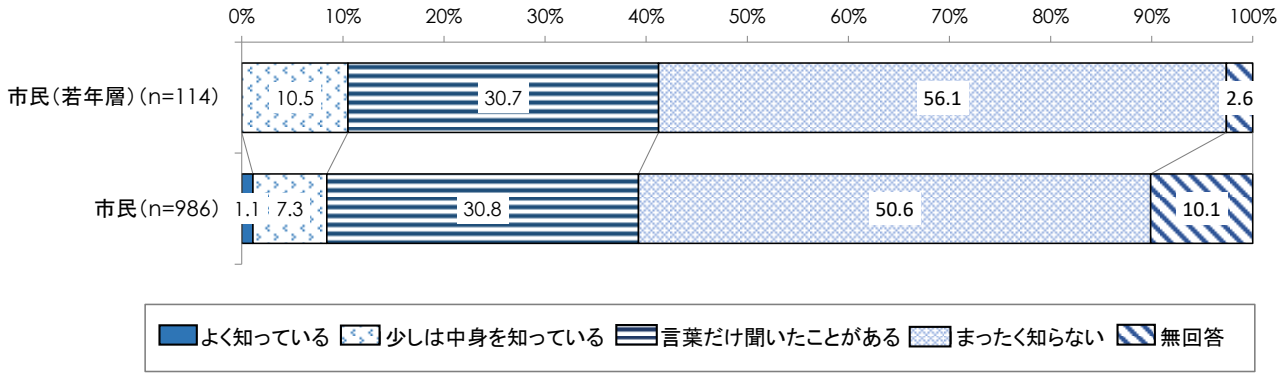
性別にみると、『知っている』は男性では25.0%、女性では2.7%となっており、男性が女性より22.3ポイント高くなっています。

市民調査と比較すると、市民（若年層）、市民の『知っている』はどちらも1割程度と、認知度が低くなっています。

【 性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度（カ　政治分野における男女共同参画の推進に関する法律）】



【 市民調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度（カ　政治分野における男女共同参画の推進に関する法律）】



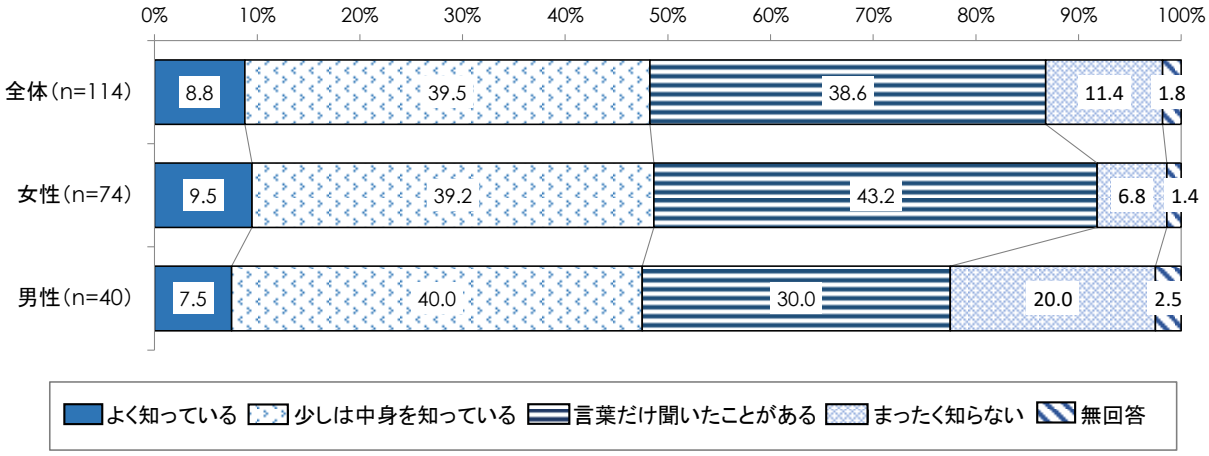
キ　育児･介護休業法

育児・介護休業法の認知度についてみると、「少しは中身を知っている」39.5%が最も割合が高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」38.6%、「まったく知らない」11.4%、「よく知っている」8.8%の順となっています。

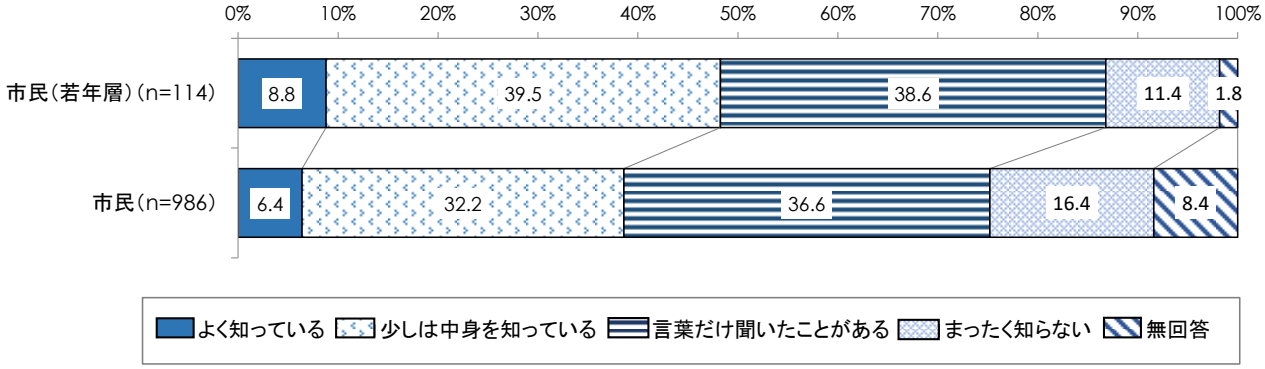
性別にみると、『知っている』は男性では47.5%、女性では48.7%となっています。

市民調査と比較すると、市民（若年層）の『知っている』48.3%は市民の『知っている』38.6%より9.7ポイント高くなっています。

【 性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度(キ　育児・介護休業法) 】



【 市民調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度(キ　育児・介護休業法) 】



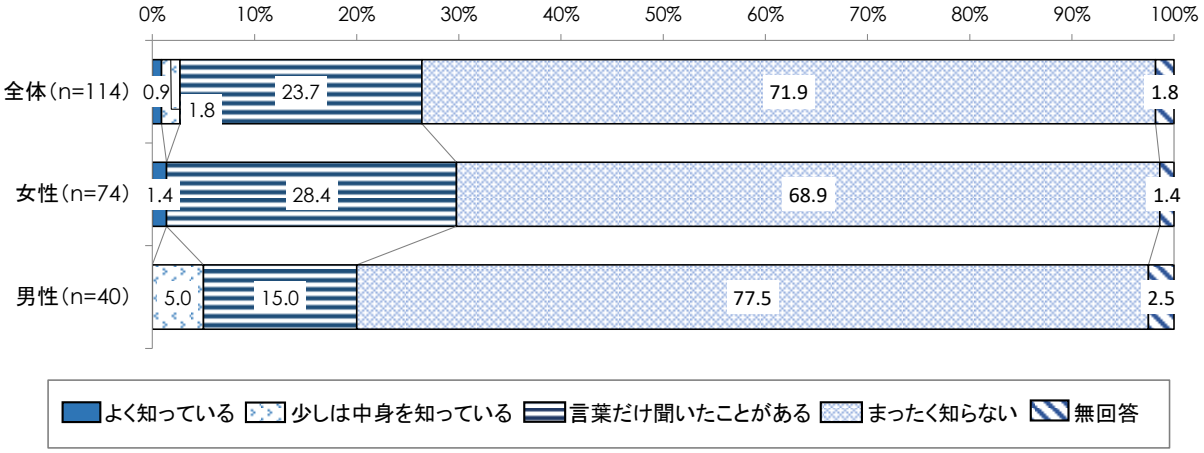
ク　丸亀市男女共同参画推進条例

丸亀市男女共同参画推進条例の認知度についてみると、「まったく知らない」71.9%が最も割合が高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」23.7%、「少しは中身を知っている」1.8%、「よく知っている」0.9%の順となっています。

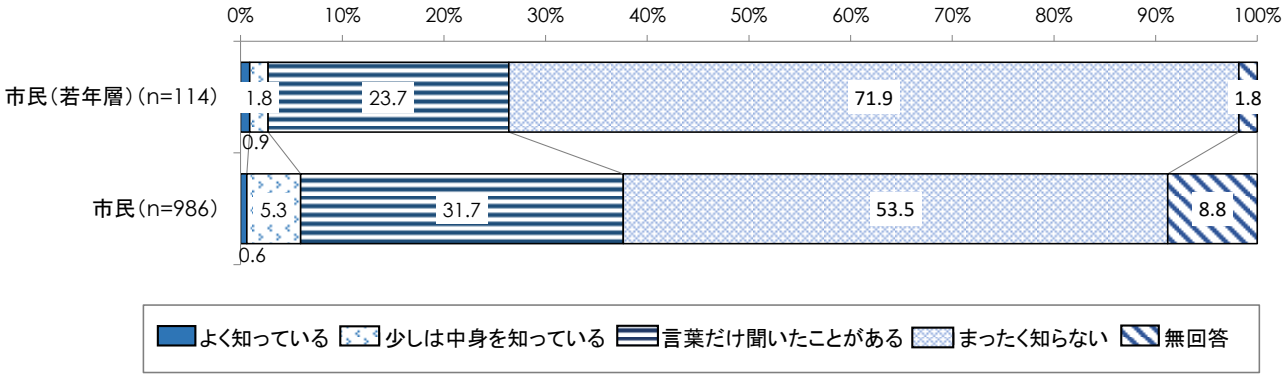
性別にみると、男女ともに『知っている』は1～5%程度と低く、女性では「言葉だけ聞いたことがある」は28.4%となっています。

市民調査と比較すると、市民（若年層）、市民の『知っている』はどちらも1割にも満たず、認知度が低くなっています。

【 性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度（ク　丸亀市男女共同参画推進条例） 】



【 市民調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度（ク　丸亀市男女共同参画推進条例） 】



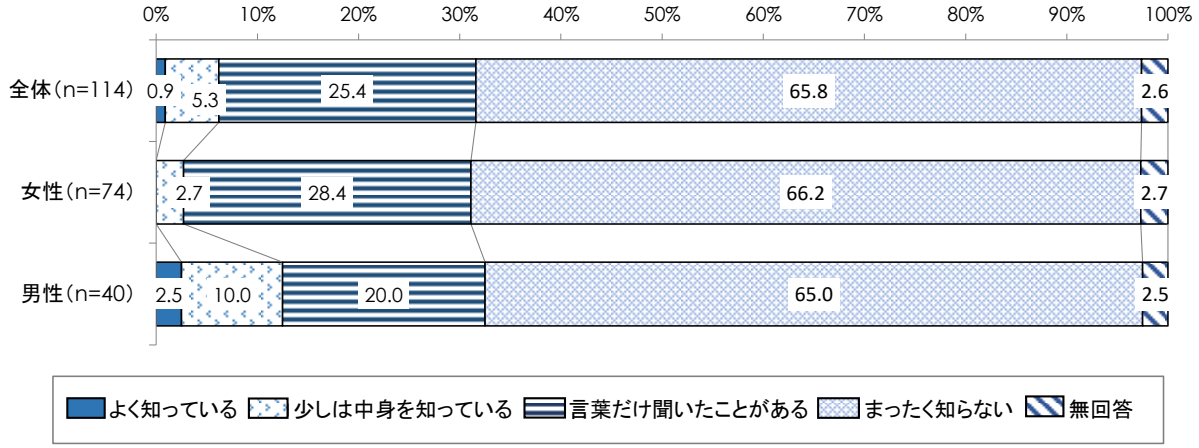
ケ　男女共同参画都市宣言

男女共同参画都市宣言の認知度についてみると、「まったく知らない」65.8%が最も割合が高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」25.4%、「少しは中身を知っている」5.3%、「よく知っている」0.9%の順となっています。

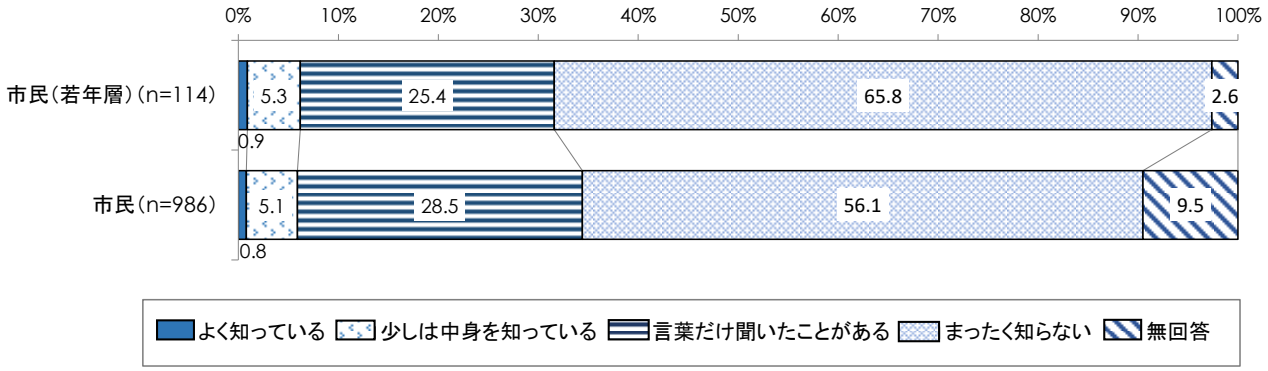
性別にみると、『知っている』は男性では 12.5%、女性では 2.7%となっており、男性が女性より 9.8 ポイント高くなっています。

市民調査と比較すると、市民（若年層）、市民の『知っている』はどちらも１割にも満たず、認知度が低くなっています。

【 性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度（ケ　男女共同参画都市宣言）】



【 市民調査と比較した別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度（ケ　男女共同参画都市宣言）】



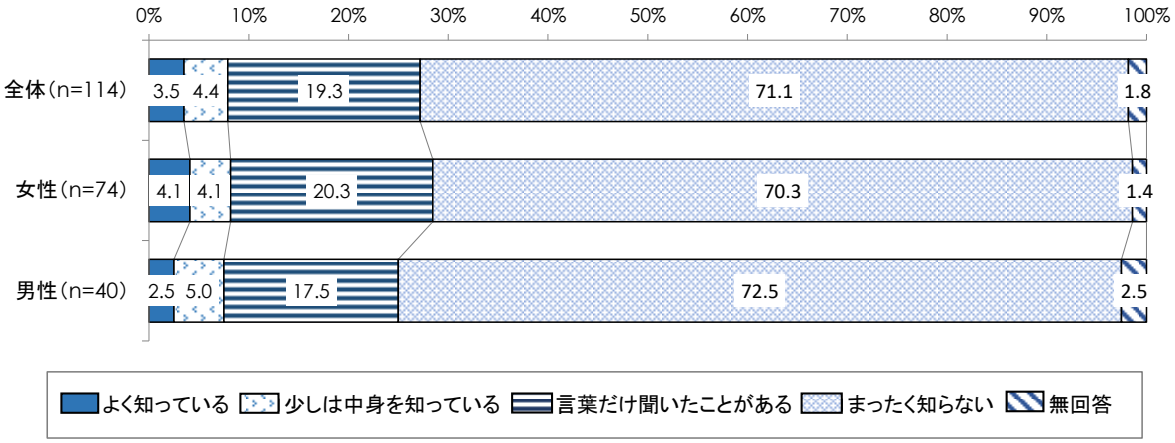
コ　ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

ポジティブ・アクション（積極的改善措置）の認知度についてみると、「まったく知らない」71.1%が最も割合が高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」19.3%、「少しは中身を知っている」4.4%、「よく知っている」3.5%の順となっています。

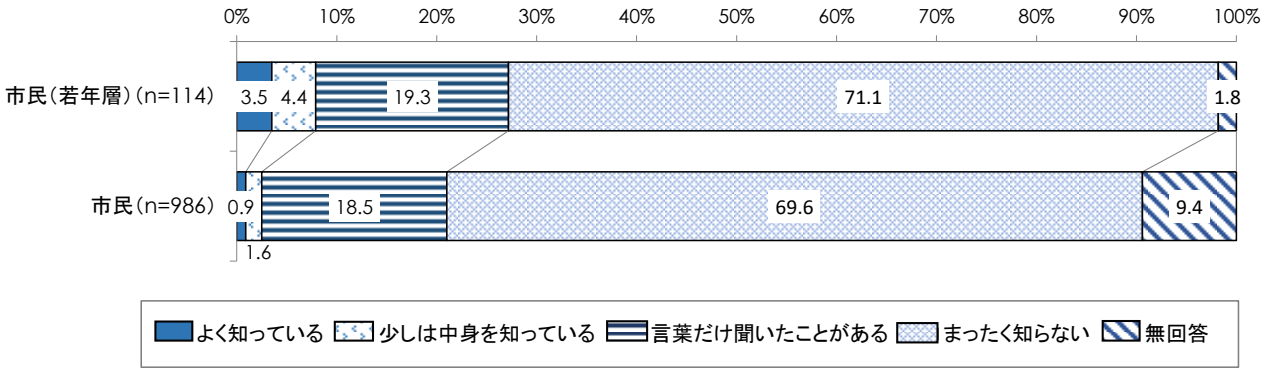
性別にみると、男女ともに『知っている』は7～8%程度と低く、「言葉だけ聞いたことがある」も17～20%程度となっています。

市民調査と比較すると、市民（若年層）、市民の『知っている』はどちらも1割にも満たず、認知度が低くなっています。

【 性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度
（コ　ポジティブ・アクション（積極的改善措置））】



【 市民調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度
（コ　ポジティブ・アクション（積極的改善措置））】



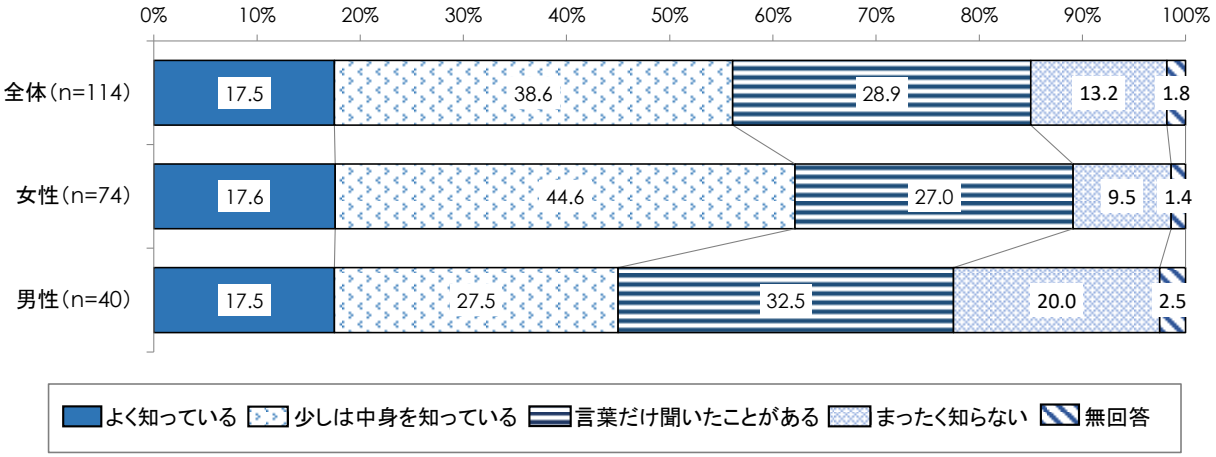
サ　ジェンダー（社会的性別）

ジェンダー（社会的性別）の認知度についてみると、「少しは中身を知っている」38.6%が最も割合が高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」28.9%、「よく知っている」17.5%、「まったく知らない」13.2%の順となっています。

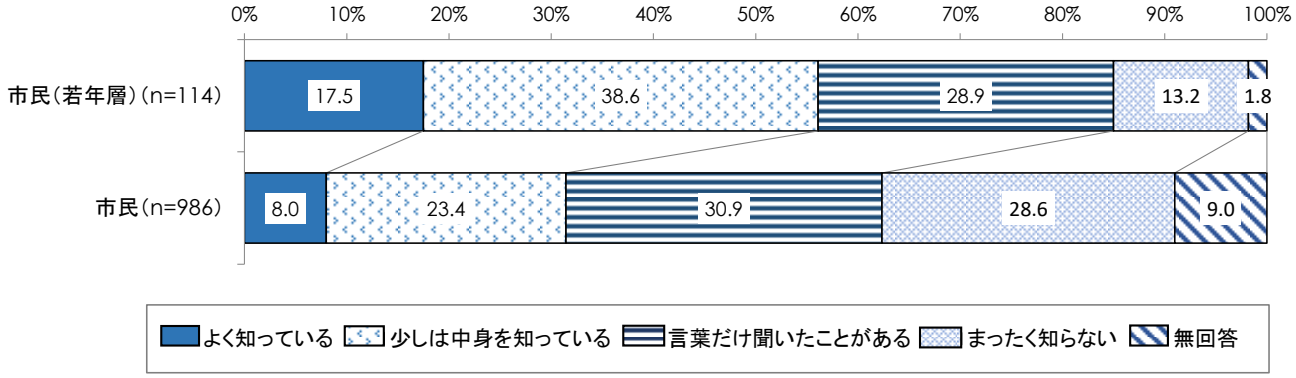
性別にみると、『知っている』は男性では45.0%、女性では62.2%となっており、女性が男性より17.2ポイント高くなっています。

市民調査と比較すると、市民（若年層）の『知っている』56.1%は市民の『知っている』31.4%より24.7ポイント高くなっています。

【 性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度（サ　ジェンダー（社会的性別））】



【 市民調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度（サ　ジェンダー（社会的性別））】



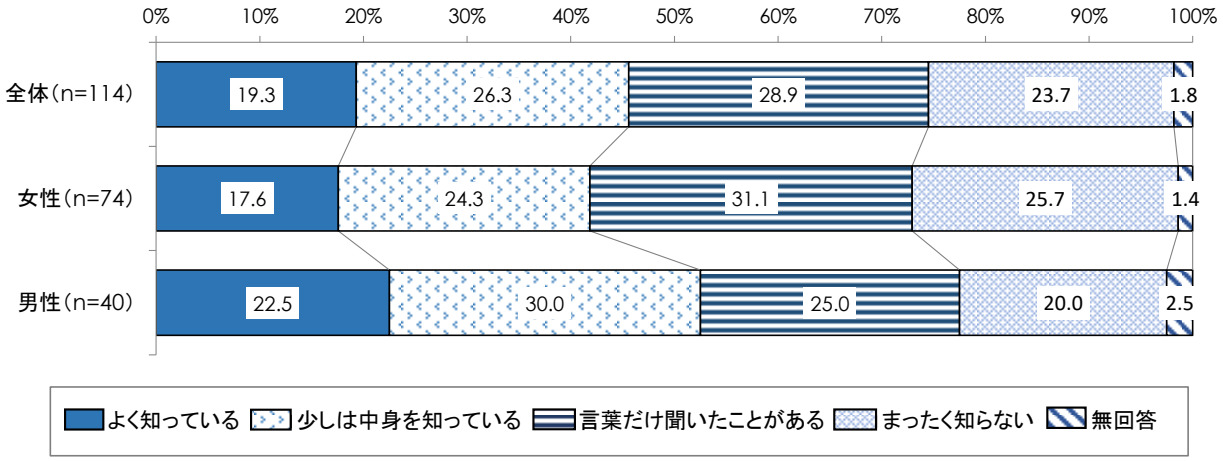
シ ワーク･ライフ･バランス（仕事と生活の調和）

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の認知度についてみると、「言葉だけ聞いたことがある」28.9%が最も割合が高く、次いで「少しは中身を知っている」26.3%、「まったく知らない」23.7%、「よく知っている」19.3%の順となっています。

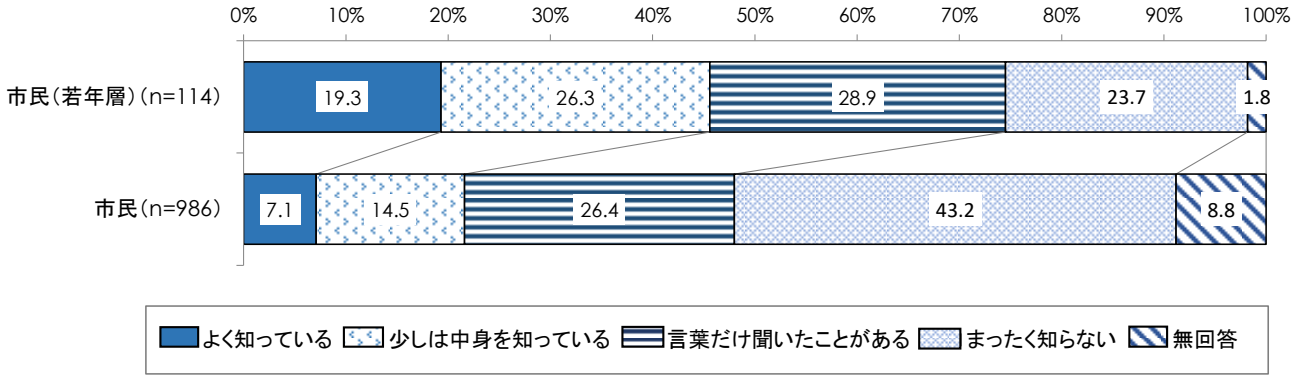
性別にみると、『知っている』は男性では52.5%、女性では41.9%となっており、男性が女性より10.6ポイント高くなっています。

市民調査と比較すると、市民（若年層）の『知っている』45.6%は市民の『知っている』21.6%より24.0ポイント高くなっています。

【 性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度
（シ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和））】



【 市民調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度
（シ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）） 】

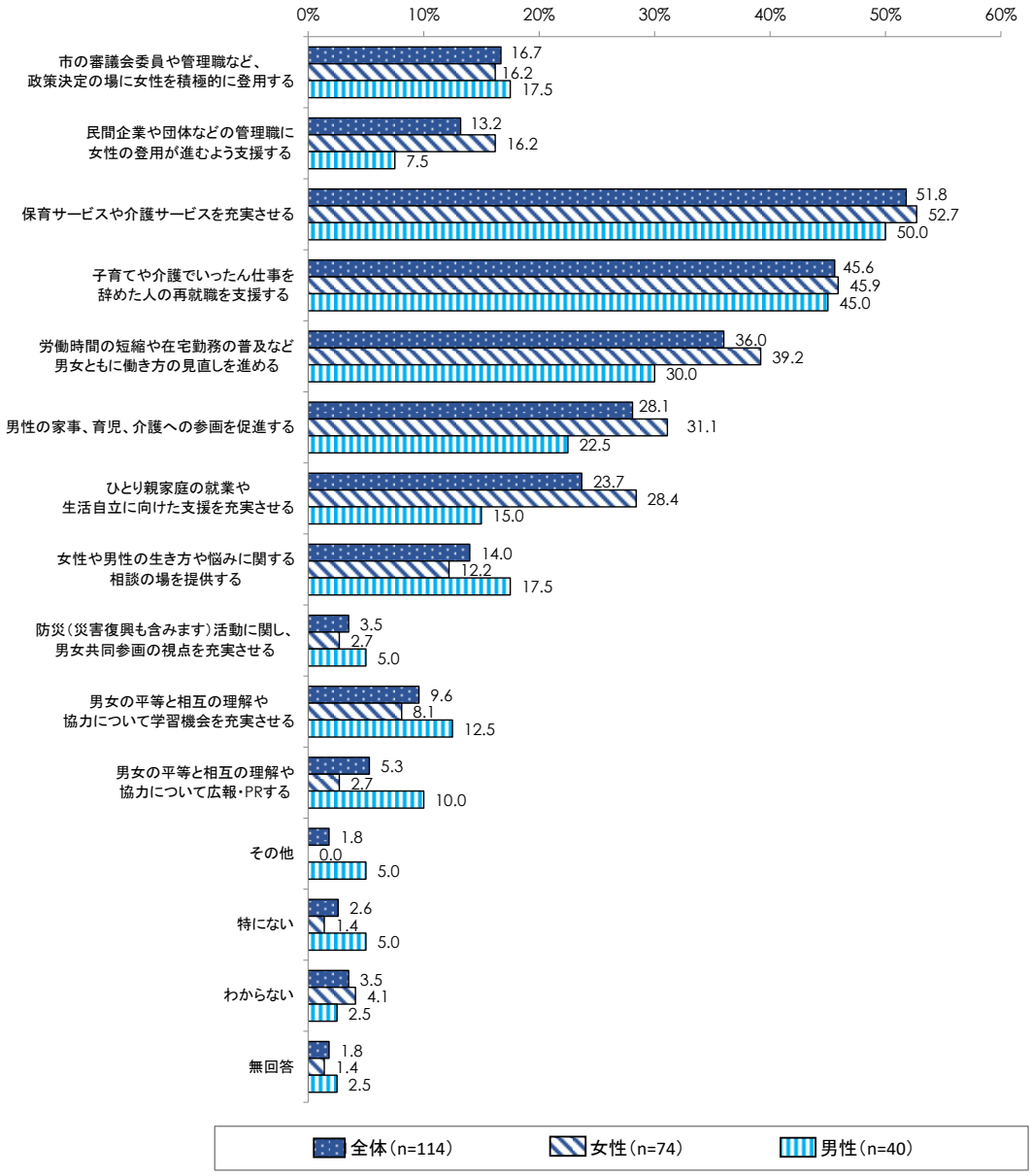


問 22. 男女共同参画社会を実現していくために、今後、丸亀市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（○は特に必要だと思うものを3つまで）

男女共同参画社会を実現していくために、丸亀市が力を入れていくべきことについてみると、「保育サービスや介護サービスを充実させる」51.8%が最も割合が高く、次いで「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」45.6%、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」36.0%の順となっています。

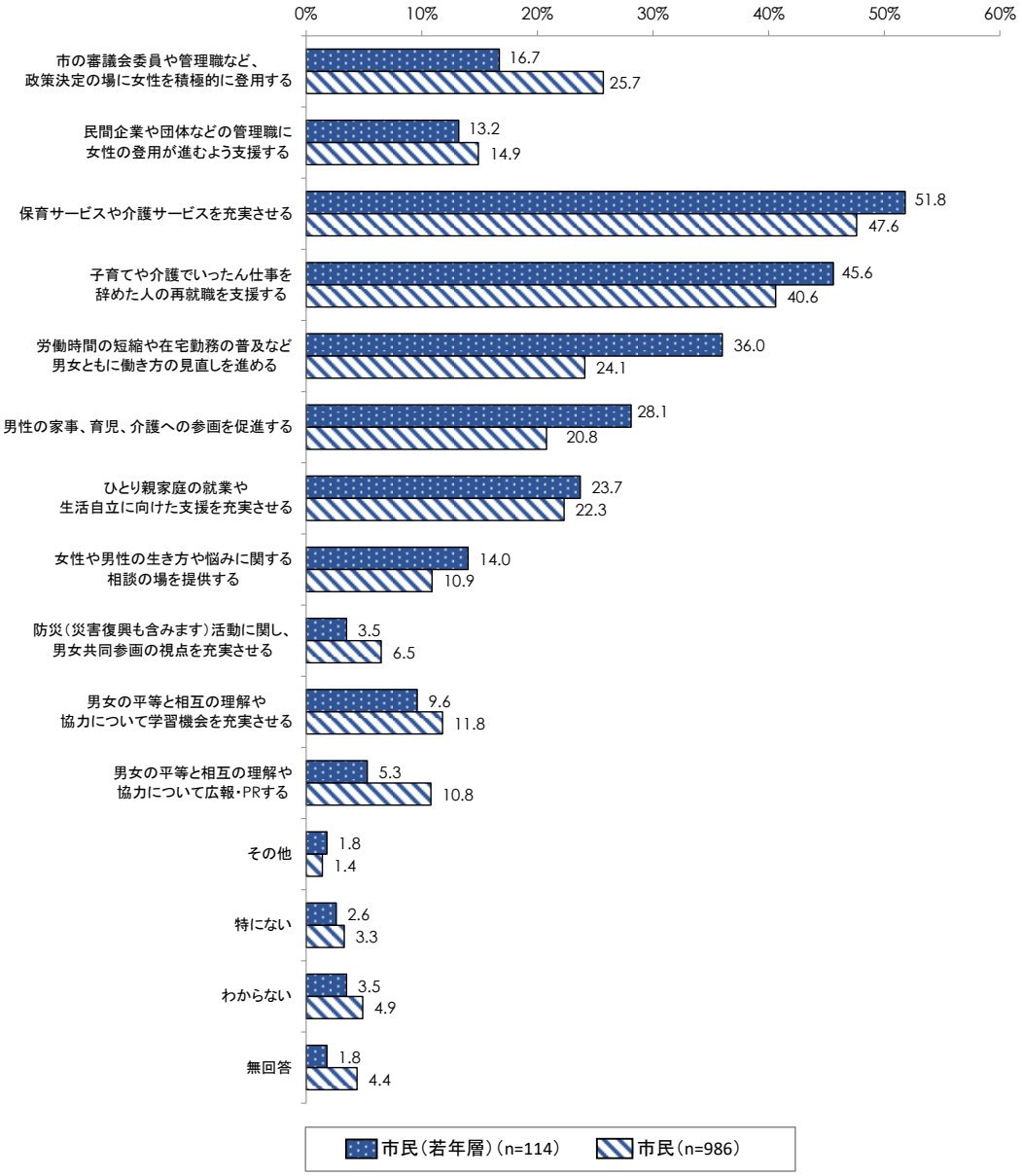
性別にみると、男女ともに「保育サービスや介護サービスを充実させる」が最も割合が高く、次いで「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」が続いています。

【 性別にみた丸亀市が力を入れていくべきことについて 】



市民調査と比較すると、市民（若年層）では「保育サービスや介護サービスを充実させる」、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」、「男性の家事、育児、介護への参画を促進する」、「ひとり親家庭の就業や生活自立に向けた支援を充実させる」、「女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する」の割合が市民より高くなっています。

【 市民調査と比較した丸亀市が力を入れていくべきことについて 】



問 23. 男女共同参画社会づくりについてご意見などがありましたらご記入ください。

（抜粋）

男女共同参画社会、リプロダクティブライツ、男性の育児休暇など、義務教育時代に正しい知識が欲しかったものばかりです。成年向けの啓発のみならず、小学生の年齢でも理解し、考えられるようなポスター、教育があればと思います。ジェンダー論については近年発展している文化であり、難しいこともあるとは思いますが、丸亀市の積極的な取り組みを期待しています。人権尊重都市、待っています！！（18～24 歳　女性）
市民アンケートの実施ありがとうございます。これからも丸亀市がより良い市になるように何か協力できることがあれば喜んで参加させて頂きます。よろしくお願いします。（25～29 歳　男性）
このアンケートを回答するにあたり、まず感じたことは「男女共同参画社会づくり」とは何だろうということです。そこで、私は「男女共同参画社会づくり」とは、何なのかを知ってもらう広告や出前授業（学生向け）を行うべきではないのかと考えました。その活動等を行うことにより、「男女共同参画社会づくり」とはどういうもので、「男女共同参画社会づくり」をしないとこういった問題が起こると理解が深まると思います。そして、やっと的を射た意見が出ると思います。（18～24 歳　男性）
女性の管理職を行うべき。市議会にて女性の発言を増やすべき。市から取り組む。（18～24 歳　男性）
女性も過剰な配慮を必要としている訳ではない。男女共に配慮が必要な方に対してのみ対応を行うべき。仕事をする上で、男性だから、育児の都合で休むより仕事をするべき、女性だから育児の都合で休んでも大目に見るというのがおかしい。上層部がいつまでもそのような考えだと、制度だけつくっても意味がない。（18～24 歳　女性）
男／女の区別だけでなく、単身／既婚／ひとり親家庭、年令別、等、様々な視点、区分で考えることが必要と考える。現時点では男／女の区別のみからしか議論されていないように感じる。税金の使い道について、若年層への配分が、高齢者向けに比べ少ないと感じる。全員が均等に働くためのインフラが整っていないように感じる（路線バス等）。（25～29 歳　男性）
雇用機会の創出を図ったとしても、女性は結婚→出産のプロセスでどうしても仕事を離れないといけない。そのために、女性は管理職に就きたいという意志があまりないと聞く。この解決のためには、２点必要。まず一つは民間企業や公の職場において、保育サービス、介護サービスの利用が男女共に「常識として」利用できること、二つ目は、職場のポジションに育休後も復帰できる、あるいは同給与水準のポジションに戻れる仕組みづくり。行政、特に国家主体で先導してもらうことで、下部組織の地方自治体も実践しやすい。排他的に海外事例を拒絶するのではなく、外国の良い事例も柔軟に取り入れて、多様性と受容性を兼ね備えた社会に、風通しの良い社会になってくれたら嬉しいです。（25～29 歳　男性）
今の社会は男女関係なくやりたいと思った事が出来る社会だと私は思っています。なので、性差による社会進出への違いは旧時代的な考えを持つ親や学校の先生等の教育による問題が大きいのではと思います。親世代や教育者への男女平等に関する学習機会の充実が、将来的で本質的な男女共同参画社会づくりになるではないでしょうか。（18～24 歳　男性）